

# 安城市の農業等に関するアンケート 調査結果報告書

令和4年3月

安 城 市



# 目次

<b>I 調査の概要</b> .....	1
1 調査の目的.....	1
1-1 調査の目的.....	1
1-2 調査の設計.....	1
1-3 回収結果.....	1
1-4 報告書の見方.....	2
<b>II 一般市民アンケート調査の結果</b> .....	3
1 回答者の属性.....	3
1-1 性別.....	3
1-2 年齢.....	3
1-3 職業.....	4
1-4 家族構成.....	4
1-5 18歳未満の子どもの有無.....	5
1-6 居住地区.....	5
1-7 市内居住歴.....	6
2 食料・食生活について.....	7
2-1 食生活で気になる点.....	7
2-2 家庭での料理の実施状況.....	9
2-3 朝食の摂取状況.....	10
2-4 朝食を食べない理由.....	11
2-5 一週間の食生活のパターン.....	13
2-6 家族や友人との共食の状況.....	18
2-7 栄養バランスへの配慮の実施状況.....	19
2-8 食育への関心度.....	21
2-9 食育について関心があること.....	23
2-10 産地直売施設の利用頻度.....	25
2-11 産地直売施設の農作物に求めるもの.....	27
2-12 産地直売施設に期待するサービス.....	28
2-13 地産地消の認知度.....	29
2-14 地産地消の推進に必要なこと.....	30
2-15 知っている市の特産品.....	31
2-16 安城産農産物の販売促進に必要な取組.....	32
2-17 食に関する取組の認知度.....	33
2-18 郷土料理や行事食への関心.....	34
2-19 地域の郷土料理の認知度.....	36

2-20	食品の安全性に対する不安の状況	38
2-21	食品の選択基準	42
2-22	産地を意識した農産物等購入の状況	43
2-23	環境にやさしい行動として心がけていること	44
2-24	食品ロス問題の認知度	45
2-25	食品ロス削減のために行っている取組	46
2-26	食品の廃棄や食べ残しの発生について「もったいない」と感じること	47
3	農業について	48
3-1	農業に期待すること	48
3-2	農業の多面的機能の認知度	49
3-3	知っている農業の多面的機能	51
3-4	農業の多面的機能の理解に有効な取組	52
3-5	市の農業の課題	53
3-6	市の農業の課題に必要な施策	55
4	交流について	56
4-1	食育に関する講座等への参加状況	56
4-2	参加経験のある講座等	57
4-3	食育に関する講座等への今後の参加意向	58
4-4	農作業や農業体験の実施状況	60
4-5	参加経験のある農作業の体験事業等	61
4-6	農作業の体験事業等への今後の参加意向	62
4-7	アグリライフ支援センターの認知度	64
5	農地や農村地域との関わりについて	65
5-1	農地の所有状況	65
5-2	所有農地の耕作者	66
5-3	市の農地の今後についての考え	67
5-4	市の農地の減少傾向に対する考え	67
5-5	農業・農村との関わり	68
5-6	今後の農村地域との関わり	69
5-7	地域づくり活動（耕作放棄地での農作業等）への参加意向	70
5-8	農村生活や農業体験の子どもへの教育上の意義	71
5-9	食料・農業・交流に関する意見等	72
<b>Ⅲ</b>	<b>農業者アンケート調査の結果</b>	<b>73</b>
1	回答者の属性	73
1-1	農業者区分	73
1-2	性別	73
1-3	年齢	74
1-4	家族構成	74
1-5	居住地区	75

1-6	農業従事年数	76
2	世帯及び農業経営の現状について	77
2-1	世帯（農家）の区分	77
2-2	農業従事家族の年齢構成	78
2-3	耕作農地面積及び所有農地面積	79
2-4	世帯で耕作している作目	81
2-5	農畜産物の販売方法	82
2-6	農畜産物の年間販売金額	83
2-7	農業経営にあたって重視していること	85
3	今後の農業経営について	86
3-1	農業経営の拡大・縮小の意向	86
3-2	農業を「縮小したい」または「やめたい」理由	87
3-3	耕作しなくなる農地の措置	88
3-4	農業経営上で感じている問題	89
3-5	農畜産物の販路の変更・拡大の希望	91
3-6	希望する新たな販路	93
3-7	スマート農業の導入意向	94
3-8	スマート農業の導入に必要な支援	95
3-9	後継者の有無	95
3-10	後継者の現在の職業	96
3-11	担い手の育成・確保に必要な取組	97
3-12	農福連携の実施意向	98
3-13	障害者を雇用したい（している）理由	99
3-14	障害者を雇用しない理由	100
4	安城市の農業振興について	101
4-1	市の農地の減少傾向に対する考え	101
4-2	市での農業継続に必要な支援策	102
4-3	農業の現状や支援に関する意見等	103
<b>IV</b>	<b>小中高生アンケート調査の結果</b>	<b>104</b>
1	回答者の属性	104
1-1	性別	104
1-2	家族構成	104
2	食生活について	105
2-1	食生活で気になる点	105
2-2	朝食の摂取状況	108
2-3	朝食の内容	109
2-4	朝食を一緒に食べる相手	112
2-5	朝食を食べない理由	113
2-6	夕食を食べる時間	114

2-7	夕食と一緒に食べる相手	116
2-8	一週間の食生活のパターン	117
2-9	起床時間と就寝時間	121
2-10	嫌いな食べ物	124
2-11	食事の時間は楽しいか	126
2-12	食事のあいさつの実施状況	127
3	食育について	129
3-1	食育への関心度	129
3-2	食育について関心があること	131
3-3	家でしている食に関する手伝い	132
3-4	家で教わった食事のマナー	134
4	農業について	136
4-1	農作業・農業体験の実施経験について	136
4-2	地産地消の認知度	147
4-3	知っている市の特産品	149
5	環境について	151
5-1	食品ロス問題の認知度	151
5-2	食べ残し等によるごみの発生について「もったいない」と感じること	152
6	郷土料理・伝統料理について	154
6-1	地域の郷土料理の認知度	154
6-2	家で行っている伝統食を伴う伝統行事	156
6-3	郷土料理・伝統食への関心	158
7	給食について	160
7-1	給食の時間は楽しいか	160
7-2	給食の時間が楽しい理由	161
7-3	給食の時間が楽しくない理由	162
7-4	給食を残す頻度	163
7-5	給食を残す理由	164
7-6	給食に安城市産の米や野菜が使われていることの認知度	165
7-7	好きな給食の献立	166
7-8	苦手な給食の献立	166
8	その他	167
8-1	食育や農業に関する意見	167

# I 調査の概要

## 1 調査の目的

### 1-1 調査の目的

この調査は、平成 29 年 3 月に策定した「第 2 次安城市食料・農業・交流基本計画」を見直すにあたり、市民の食料や食育、農業、交流に関する意識や取り組み状況等を把握し、新たな計画を策定するための基礎資料とすることを目的として実施しました。

### 1-2 調査の設計

この調査は、下記の 3 種類の調査を実施しました。

	一般市民アンケート	農業者アンケート	小中高生アンケート
調査地域	安城市全域		
調査対象	18 歳以上の市民	市内で農業を営営する a) 認定農業者及び b) 耕作者	市内小学校、中学校、高等学校の児童・生徒
標本サイズ・抽出方法	住民基本台帳より 2,000 人を 無作為抽出	a : 市所有名簿から 130 人 b : 農地台帳から耕作面積 が 1,000 m <sup>2</sup> 以上の人を 抽出し、その中から無 作為に 870 人を抽出 計 : 1,000 人	6 小学校 5 年生 425 人 8 中学校 2 年生 369 人 2 高等学校 2 年生 391 人 計 : 1,185 人
調査方法	郵送配布・郵送回収 及び Web 調査	郵送配布・郵送回収	学校での配布・回収
調査期間	令和 4 年 2 月 8 日～2 月 28 日		

### 1-3 回収結果

調査種別	配布数	回収数	有効	無効
一般市民	2,000 100.0%	850 <sup>※1</sup> 42.5%	850 <sup>※1</sup> 42.5%	0 0.0%
農業者	1,000 100.0%	531 53.1%	530 53.0%	1 <sup>※2</sup> 0.1%
認定農業者	130 100.0%	76 58.5%	76 58.5%	0 0.0%
耕作者	870 100.0%	455 52.3%	454 52.2%	1 <sup>※2</sup> 0.1%
小中高生	1,185 100.0%	1,185 100.0%	1,185 100.0%	0 0.0%
小学校	425 100.0%	425 100.0%	425 100.0%	0 0.0%
中学校	369 100.0%	369 100.0%	369 100.0%	0 0.0%
高等学校	391 100.0%	391 100.0%	391 100.0%	0 0.0%

※1 紙 679 票、Web171 票の合計。      ※2 白紙回答。

#### 1-4 報告書の見方

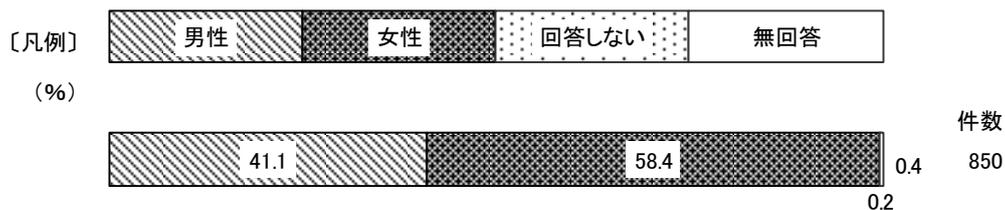
- (1) 比率を求める際の基数となるべき実数は、件数として掲載しました。したがって比率は、件数（「無回答」を除く。）を100%として算出しています。
- (2) 比率はすべて%で表し、小数点以下第2位を四捨五入して算出しました。そのため比率の合計が100.0%にならないことがあります。
- (3) 複数回答が可能な質問の場合は、その項目を選んだ人が、回答者全体のうち何%なのかという見方をします。そのため、各項目の比率の合計は通常100%を超えます。
- (4) 本報告書中の表、グラフ及び文章における回答選択肢は、本来の意味を損なわない程度に一部を省略して掲載している場合があります。
- (5) クロス集計分析において、件数が10件未満の層については、比率の誤差が大きいと考えられるため、比率についてのコメントを控えている場合があります。
- (6) 各設問（「回答者の属性」を除く。）の単純集計結果については、同様の調査設計で平成28年度に実施した「第2次安城市食料・農業・交流基本計画策定に係る市民アンケート調査」（以下、「前回調査」もしくは「H28調査」という。）及び同年度に実施した「安城市 食育に関するアンケート調査（市民、小学5年生、中学生・高校生）」（以下、「前回食育調査」もしくは「H28食育調査」という。）に同じ設問がある場合、5年間の経年比較を行っています。

## II 一般市民アンケート調査の結果

### 1 回答者の属性

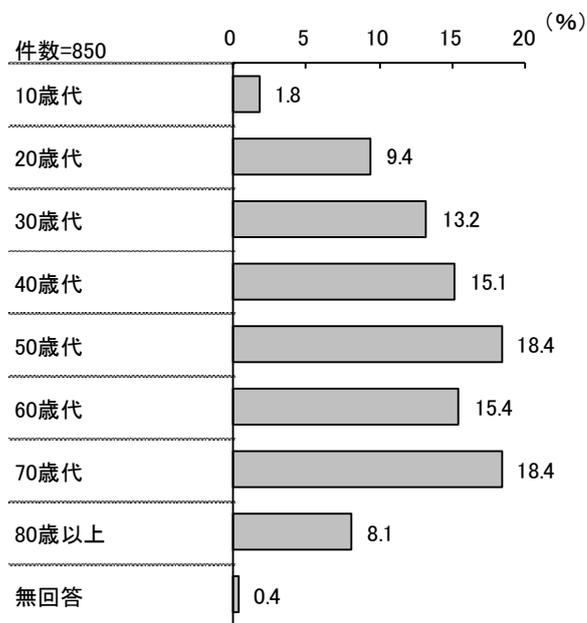
#### 1-1 性別

調査回答者の性別は、「男性」が41.1%、「女性」が58.4%となっています。



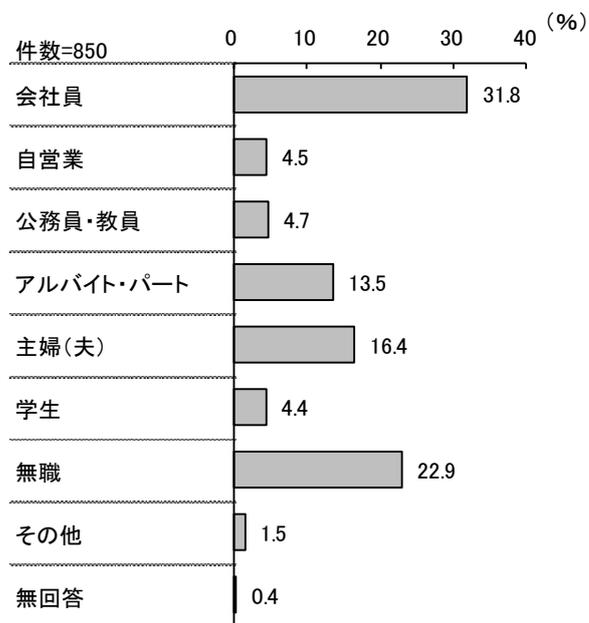
#### 1-2 年齢

年齢（令和4年1月1日現在）は、「50歳代」と「70歳代」（ともに18.4%）が最も高く、次いで「60歳代」（15.4%）が高くなっています。



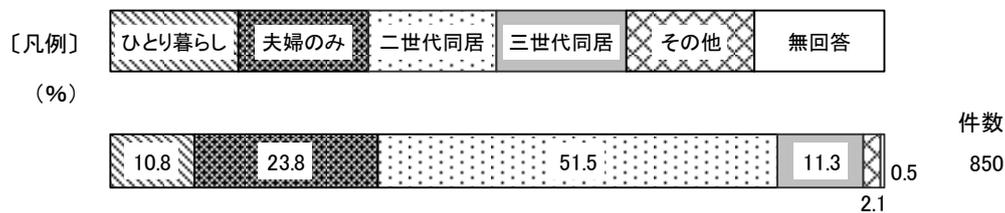
### 1-3 職業

職業は、「会社員」(31.8%)が最も高く、次いで「無職」(22.9%)、「主婦(夫)」(16.4%)、「アルバイト・パート」(13.5%)となっています。



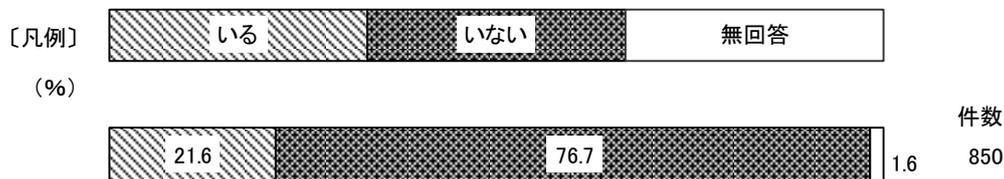
### 1-4 家族構成

家族構成は、「二世世代同居(親・子)」(51.5%)が最も高く、次いで「夫婦のみ」(23.8%)、「三世世代同居(親・子・孫)」(11.3%)、「ひとり暮らし」(10.8%)となっています。



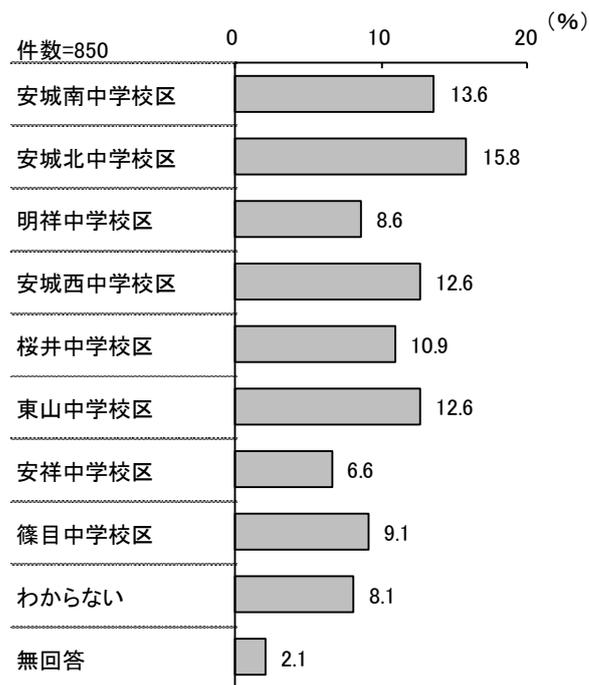
### 1-5 18歳未満の子どもの有無

18歳未満の子どもが「いる」人は21.6%となっています。



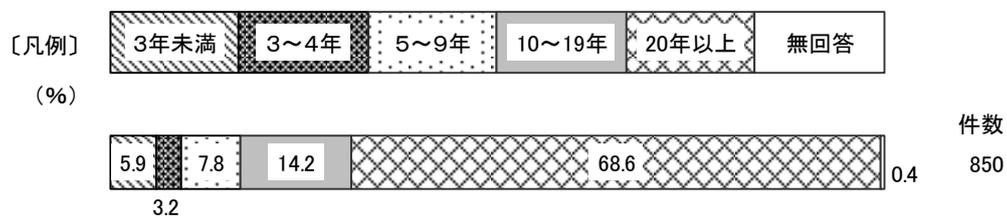
### 1-6 居住地区

居住地区（中学校区）は、「安城北中学校区」（15.8%）が最も高く、「安祥中学校区」（6.6%）が最も低くなっています。



### 1-7 市内居住歴

市内居住歴は、「20年以上」（68.6%）が約7割を占めて最も高く、次いで「10～19年」（14.2%）、「5～9年」（7.8%）となっています。



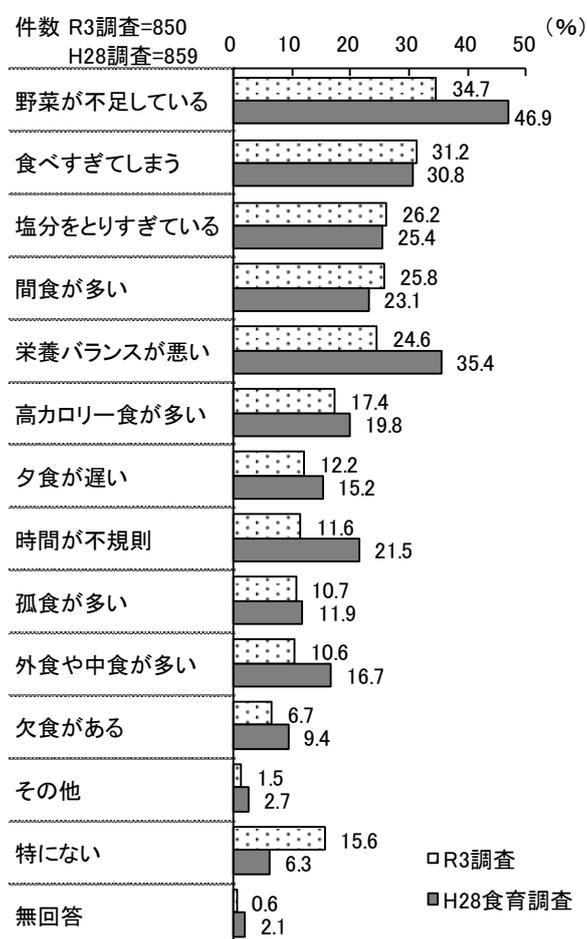
## 2 食料・食生活について

### 2-1 食生活で気になる点

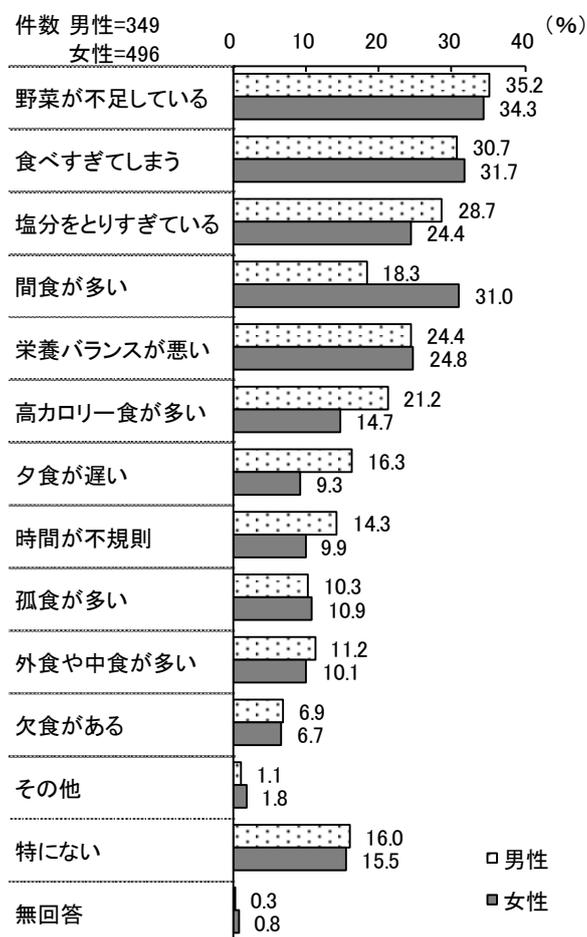
問8 あなたの食生活で気になる点はどのようなものがありますか。(○はいくつでも)

食生活で気になる点は、「野菜が不足している」(34.7%)が最も高く、次いで「食べすぎてしまう」(31.2%)、「塩分をとりすぎている」(26.2%)、「間食が多い」(25.8%)、「栄養バランスが悪い」(24.6%)となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「野菜が不足している」が最も高くなっていますが、「栄養バランスが悪い」が前回第2位から今回第5位へと順位を下げています。



性別でみると、男女ともに「野菜が不足している」が最も高く、次いで「食べすぎてしまう」が高くなっていますが、第3位は男性では「塩分をとりすぎている」（28.7%）、女性では「間食が多い」（31.0%）となっています。



年齢別でみると、「野菜が不足している」は20歳代・30歳代・50歳代・60歳代で最も高く、「食べすぎてしまう」は10歳代・40歳代で最も高くなっています。また、80歳以上では「特にない」が最も高くなっています。

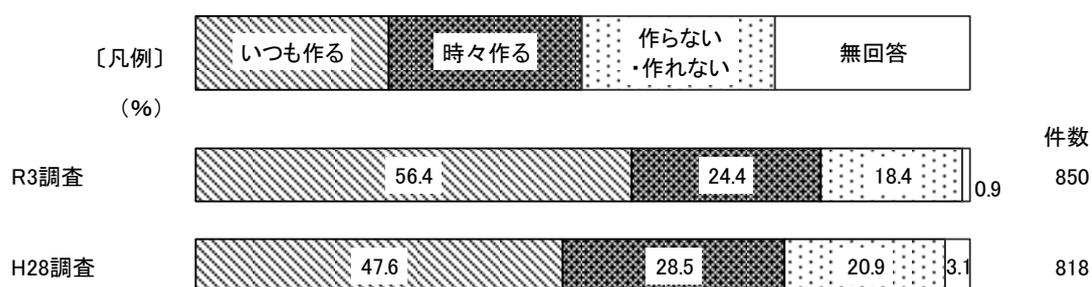
年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=15)	食べすぎてしまう、栄養バランスが悪い		間食が多い 孤食が多い
20歳代 (n=80)	野菜が不足している	栄養バランスが悪い	塩分をとりすぎている
30歳代 (n=112)	野菜が不足している	間食が多い	食べすぎてしまう
40歳代 (n=128)	食べすぎてしまう	野菜が不足している	間食が多い
50歳代 (n=156)	野菜が不足している	食べすぎてしまう	塩分をとりすぎている
60歳代 (n=131)	野菜が不足している	食べすぎてしまう	栄養バランスが悪い
70歳代 (n=156)	食べすぎてしまう	塩分をとりすぎている	野菜が不足している
80歳以上 (n=69)	特にない	野菜が不足している	塩分をとりすぎている 栄養バランスが悪い

## 2-2 家庭での料理の実施状況

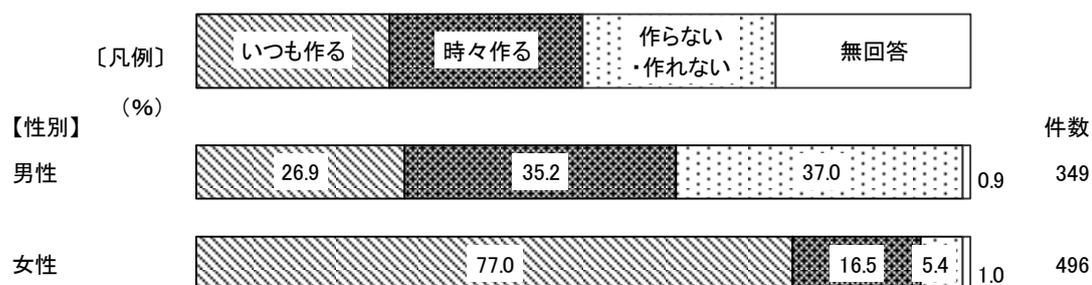
問9 ご家庭で料理をすることはありますか。(○は1つ)

家庭での料理の実施状況は、「いつも作る」(56.4%)が最も高く、次いで「時々作る」(24.4%)、「作らない・作れない」(18.4%)となっています。

前回調査と比べると、いずれも「いつも作る」が最も高く、前回調査では47.6%、今回調査では56.4%となっています。



性別で見ると、男性では「作らない・作れない」(37.0%)が最も高く、女性では「いつも作る」(77.0%)が最も高くなっています。

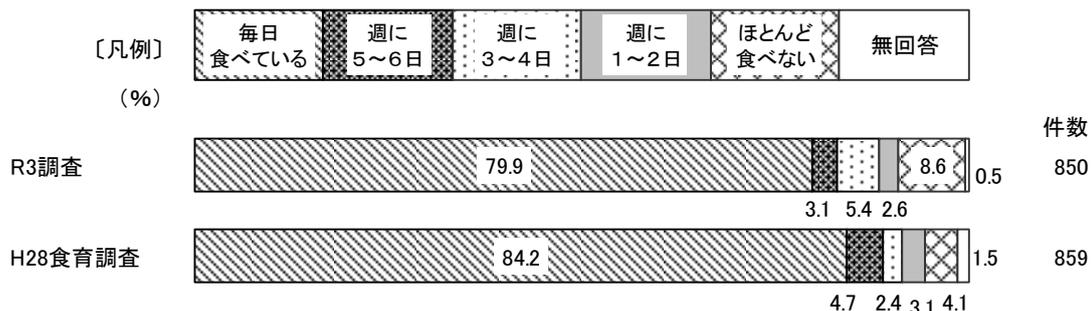


## 2-3 朝食の摂取状況

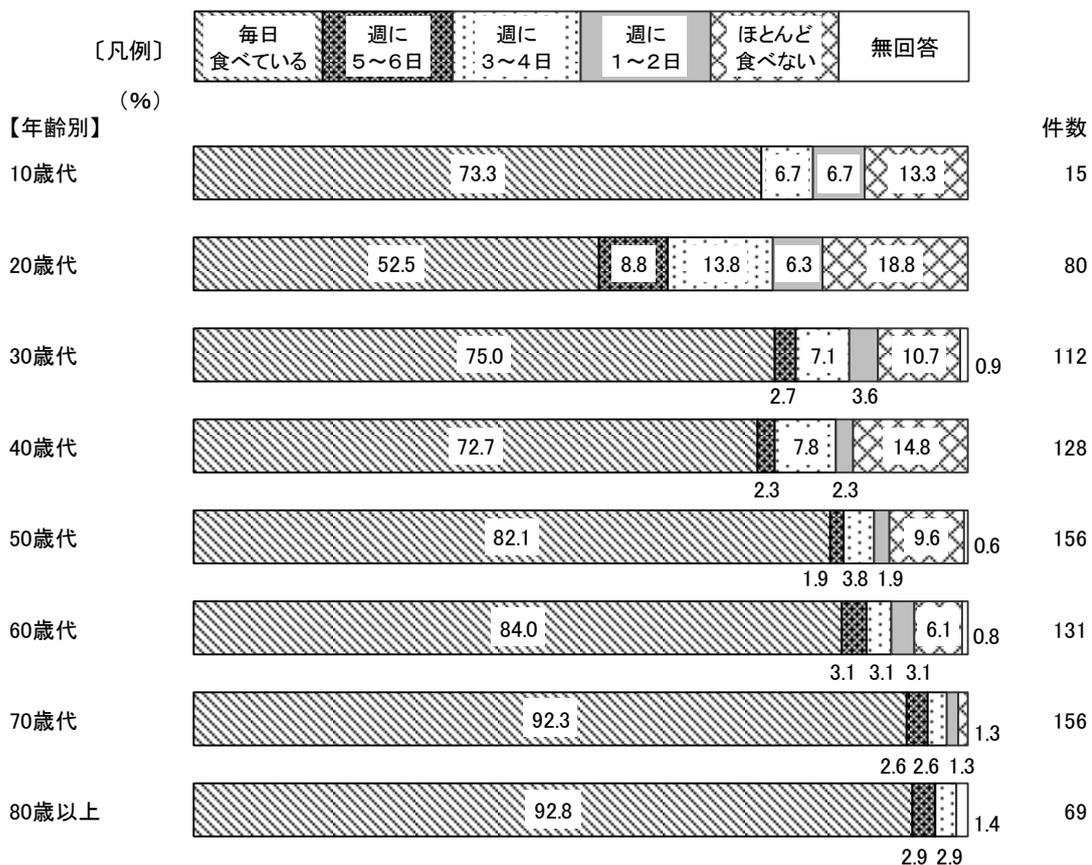
問 10 あなたは、ふだん朝食を食べていますか。(○は1つ)

朝食の摂取状況は、「毎日食べている」(79.9%)が最も高くなっています。一方、「ほとんど食べない」は8.6%となっています。

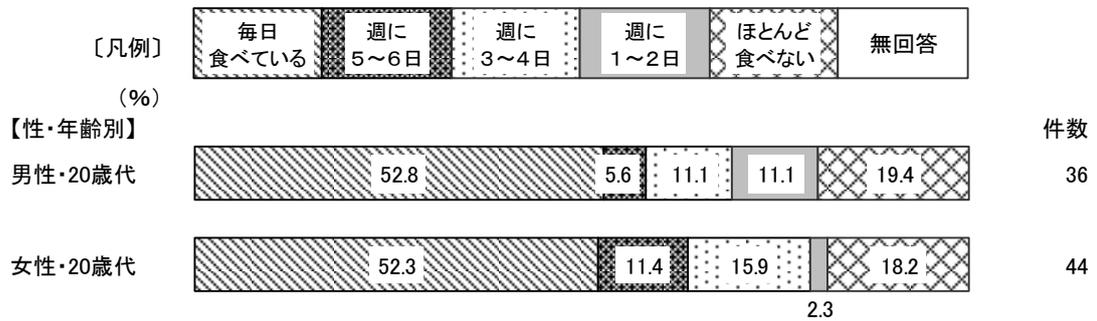
前回食育調査と比べると、いずれも「毎日食べている」が約8割を占めています。



年齢別で見ると、20歳代では「毎日食べている」(52.5%)が約5割、「ほとんど食べない」(18.8%)が約2割となっています。



20歳代について性別でみると、「ほとんど食べない」は男性・20歳代で19.4%、女性・20歳代で18.2%となっています。



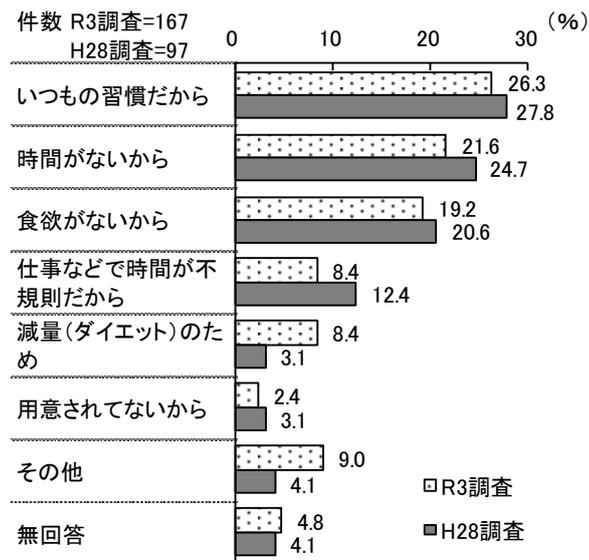
## 2-4 朝食を食べない理由

(問10で「毎日食べている」以外のいずれかに○をつけた方に)

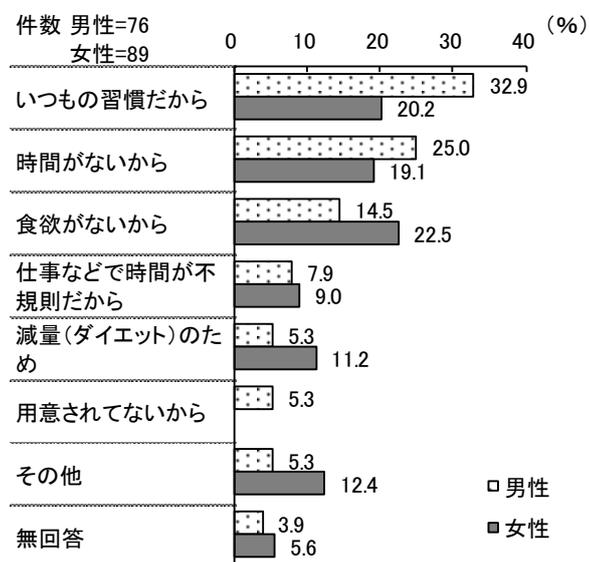
問10-1 朝食を食べない主な理由は何ですか。(○は1つ)

朝食を食べない理由は、「いつもの習慣だから」(26.3%)が最も高く、次いで「時間がないから」(21.6%)、「食欲がないから」(19.2%)となっています。

前回調査と比べると、いずれも「いつもの習慣だから」が最も高くなっています。



性別でみると、男性では「いつもの習慣だから」（32.9%）が最も高く、女性では「食欲がないから」（22.5%）が最も高くなっています。



年齢別でみると、20歳代では「食欲がないから」、30歳代では「時間がないから」がそれぞれ最も高く、40歳代から70歳代では「いつもの習慣だから」が最も高くなっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=4)	時間がないから	—	—
20歳代 (n=38)	食欲がないから	時間がないから	いつもの習慣だから
30歳代 (n=27)	時間がないから	いつもの習慣だから	食欲がないから
40歳代 (n=35)	いつもの習慣だから	時間がないから	食欲がないから
50歳代 (n=27)	いつもの習慣だから	減量のため	食欲がないから 時間が不規則だから
60歳代 (n=20)	いつもの習慣だから	時間が不規則だから	時間がないから 食欲がないから
70歳代 (n=12)	いつもの習慣だから	時間がないから	食欲がないから 減量のため
80歳以上 (n=4)	食欲がないから	減量のため	—

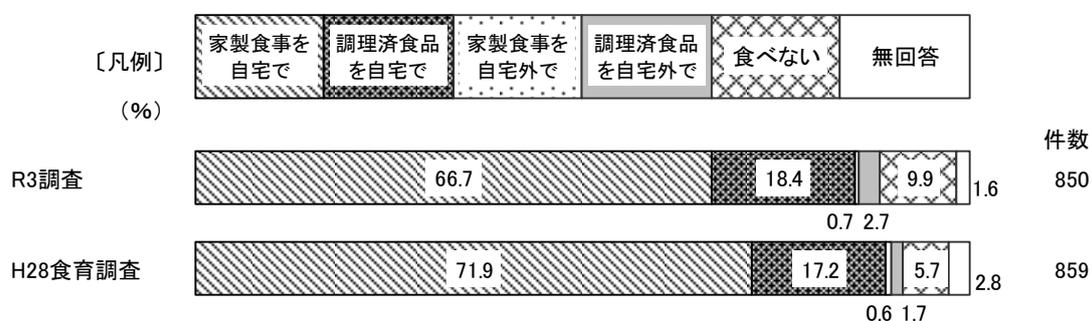
## 2-5 一週間の食生活のパターン

問 11 一週間の食生活は以下のどのようなパターンが多いですか。朝食・昼食・夕食別に最も多いパターンを1つずつ選んで○をつけてください。(○は1つずつ)

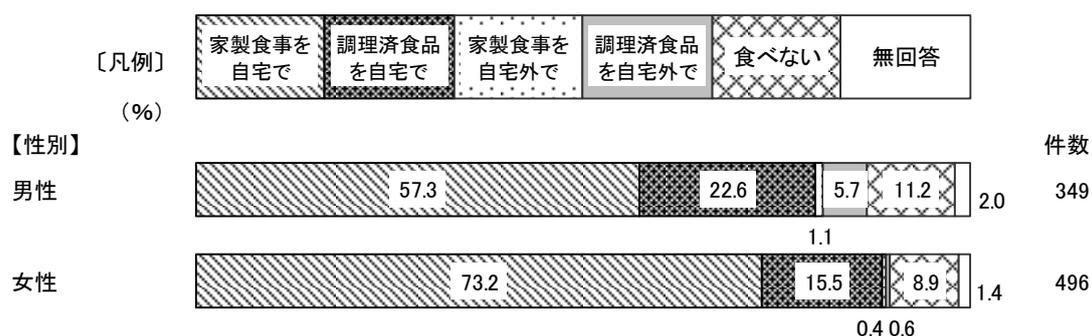
### <朝食>

一週間の食生活のパターンを朝食についてみると、「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」(66.7%)が最も高く、次いで「主に調理済み食品を自宅で食べる」(18.4%)となっています。また、「食べない」が9.9%となっています。

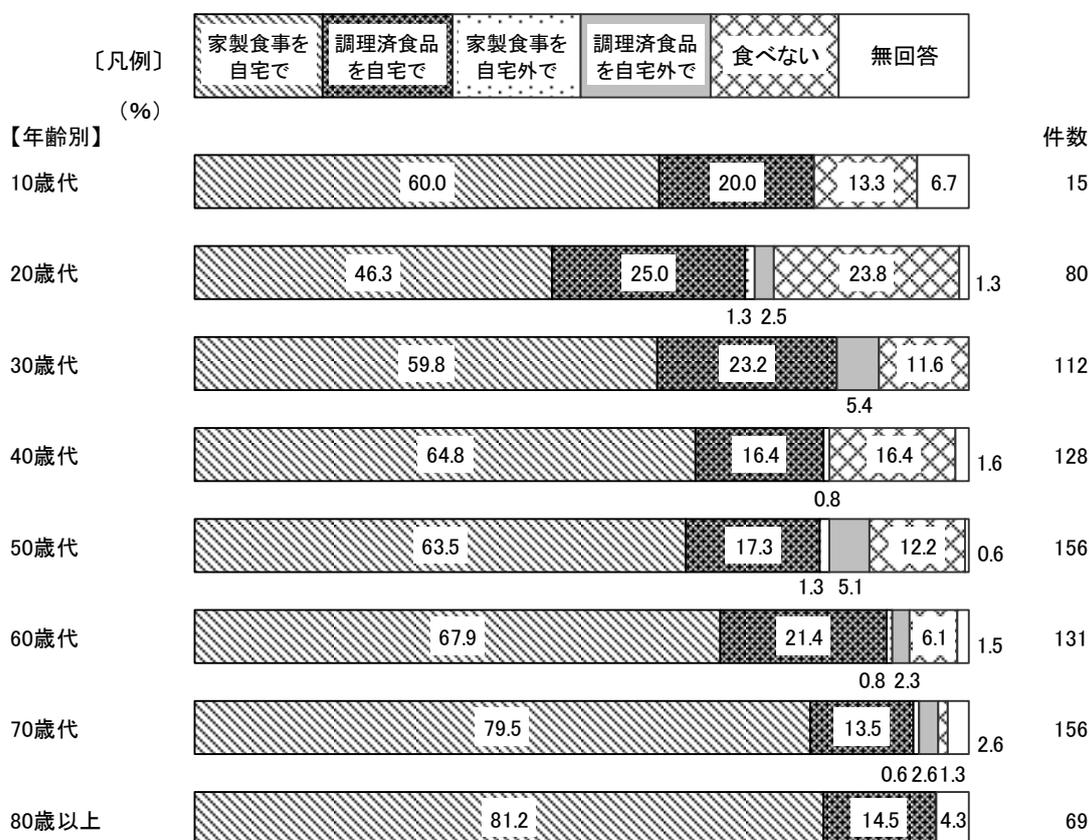
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」が約7割を占めています。



性別でみると、男女ともに「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」が最も高く、男性では57.3%、女性では73.2%となっています。



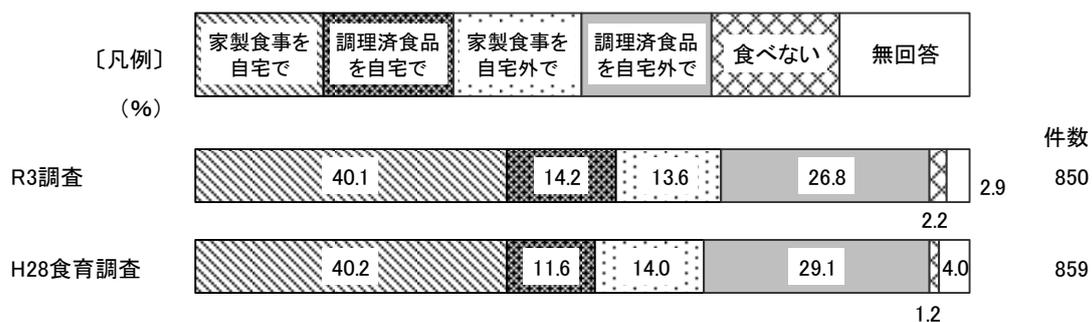
年齢別で見ると、20歳代では「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」（46.3%）が5割未満、「食べない」（23.8%）が2割以上となっています。



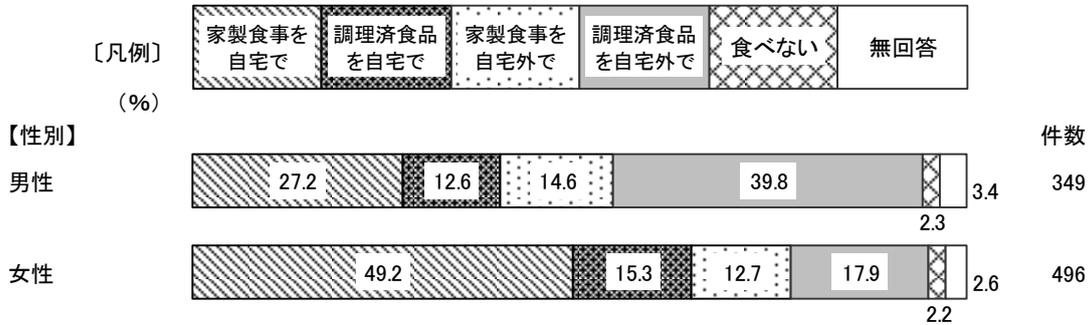
### <昼食>

一週間の食生活のパターンを昼食についてみると、「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」（40.1%）が最も高く、次いで「調理済み食品を自宅以外の場所で食べる（外食、給食を含む）」（26.8%）となっています。また、「食べない」が2.2%となっています。

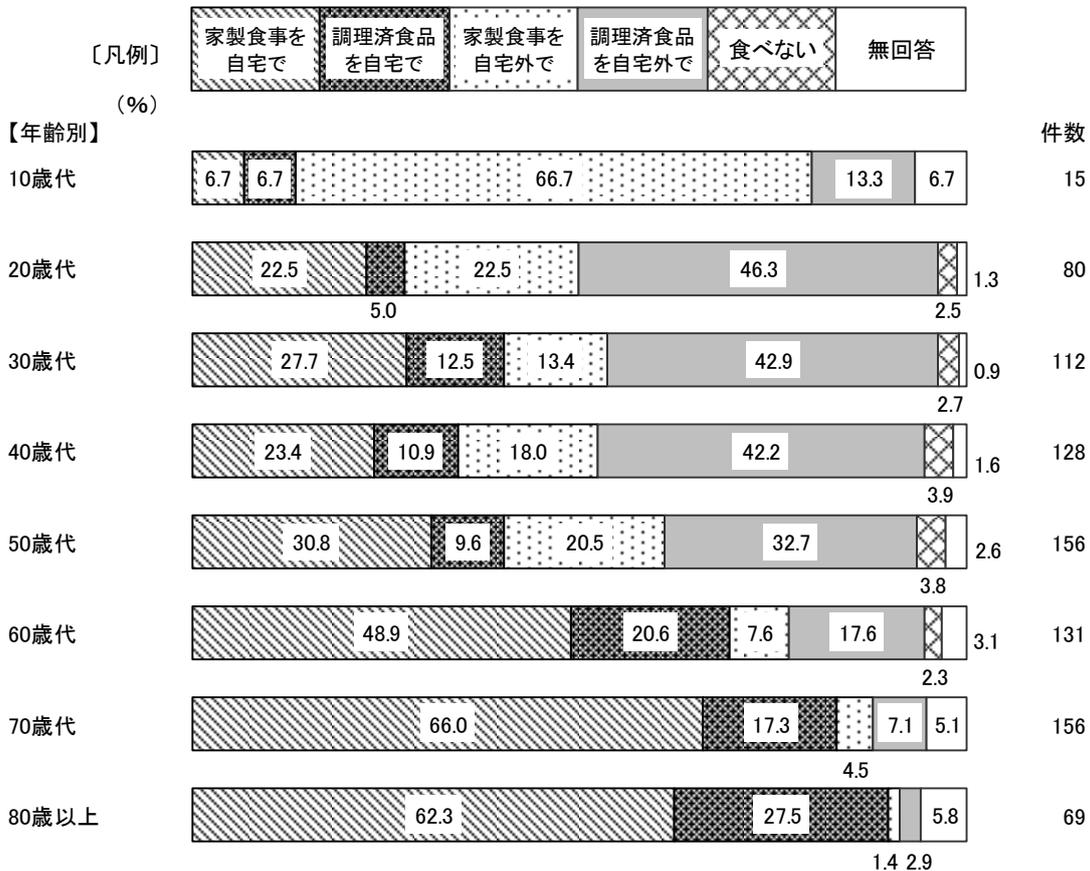
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



性別でみると、男性では「調理済み食品を自宅以外の場所で食べる（外食、給食を含む）」(39.8%)が最も高く、女性では「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」(49.2%)が最も高くなっています。



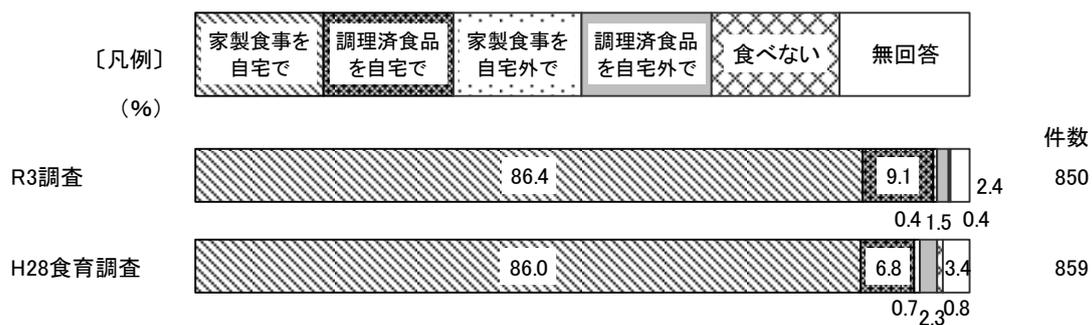
年齢別でみると、10歳代では「主に家庭で作った食事を自宅以外の場所で食べる（お弁当）」、20歳代から50歳代では「調理済み食品を自宅以外の場所で食べる（外食、給食を含む）」、60歳代以上では「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」がそれぞれ最も高くなっています。



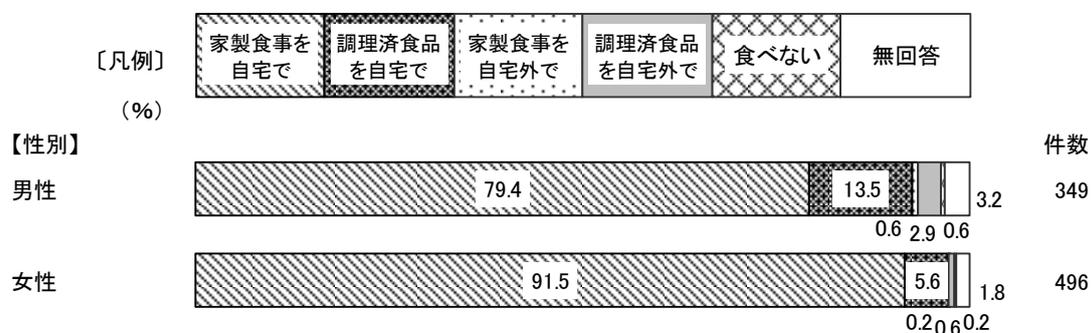
## <夕食>

一週間の食生活のパターンを夕食についてみると、「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」(86.4%)が最も高く、次いで「主に調理済み食品を自宅で食べる」(9.1%)となっています。また、「食べない」が0.4%となっています。

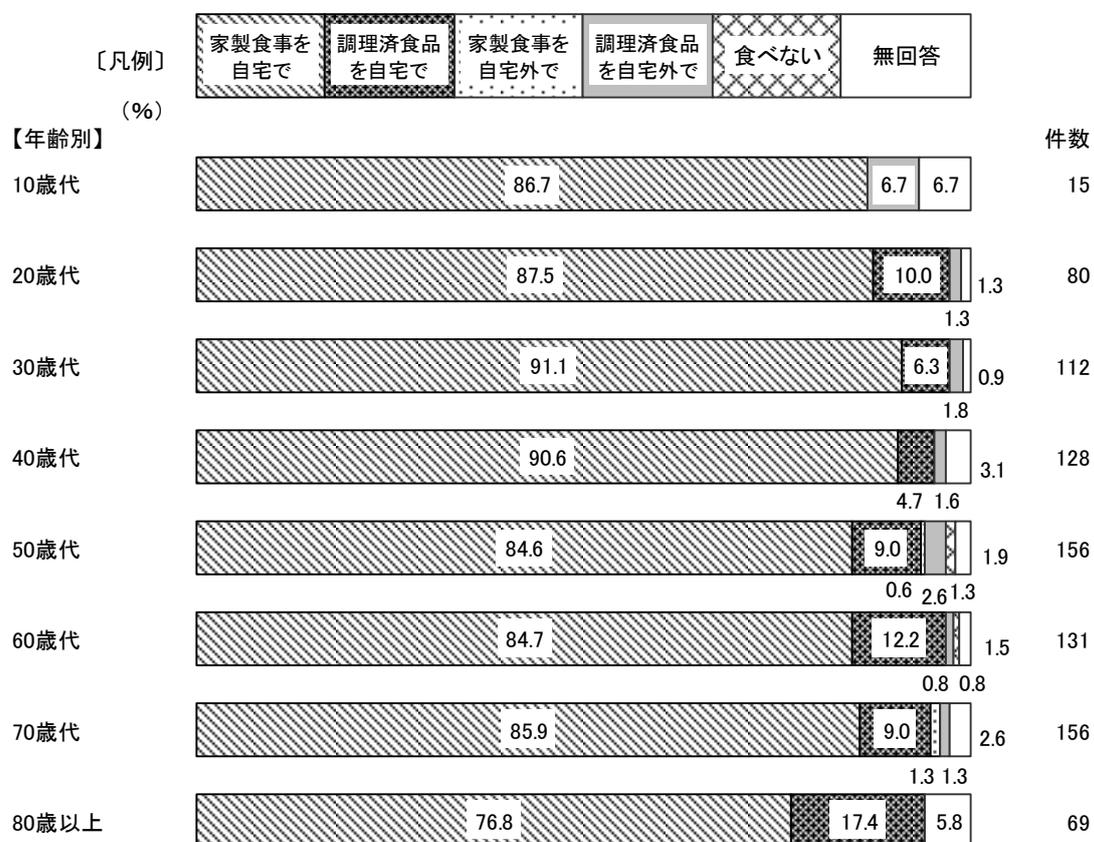
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」が8割以上を占めています。



性別で見ると、男女ともに「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」が最も高く、男性では79.4%、女性では91.5%となっています。



年齢別で見ると、いずれの年代でも「主に家庭で作った食事を自宅で食べる」が最も高く、約8割～9割を占めています。



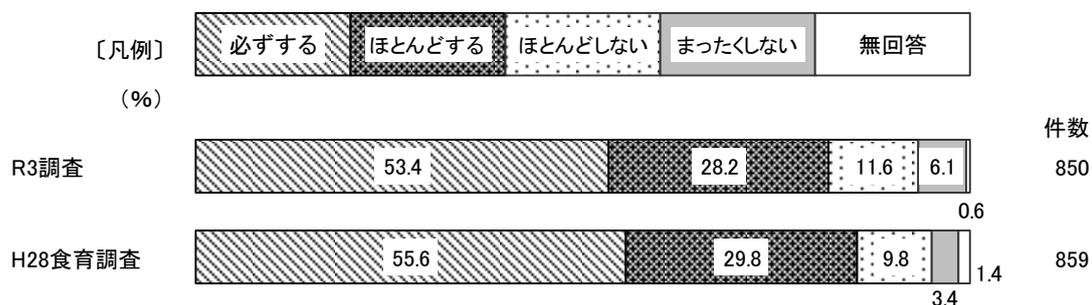
## 2-6 家族や友人との共食の状況

問 12 あなたは、1日に1回以上、家族や友人などと一緒に食事をしていますか。

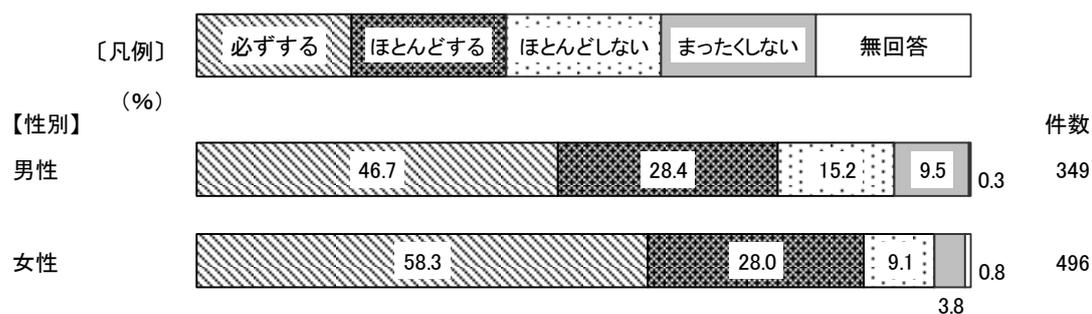
(○は1つ)

家族や友人との共食の状況は、「必ずする」(53.4%)が最も高く、「ほとんどする」(28.2%)と合わせた『共食する』は81.6%となっています。一方、『共食しない』(「まったくしない」と「ほとんどしない」の計)は17.7%となっています。

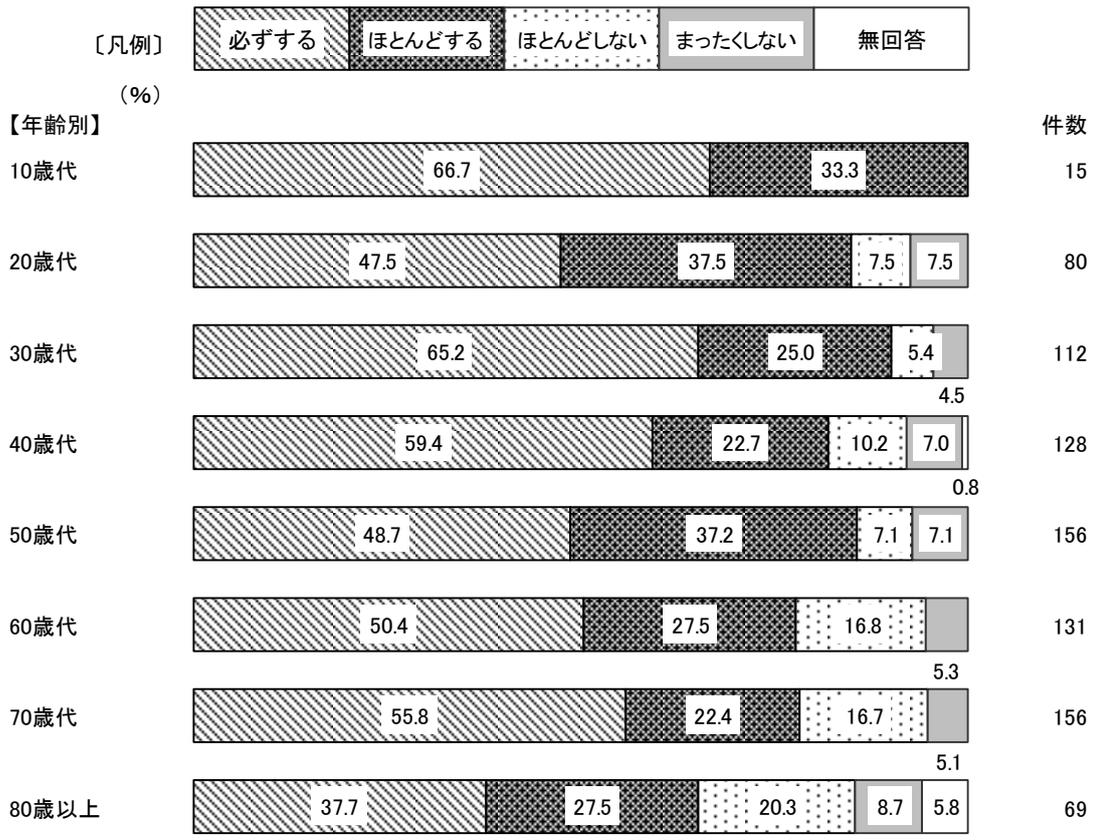
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



性別でみると、『共食する』は男性で75.1%、女性で86.3%となっています。



年齢別でみると、『共食する』は80歳以上では65.2%となっています。

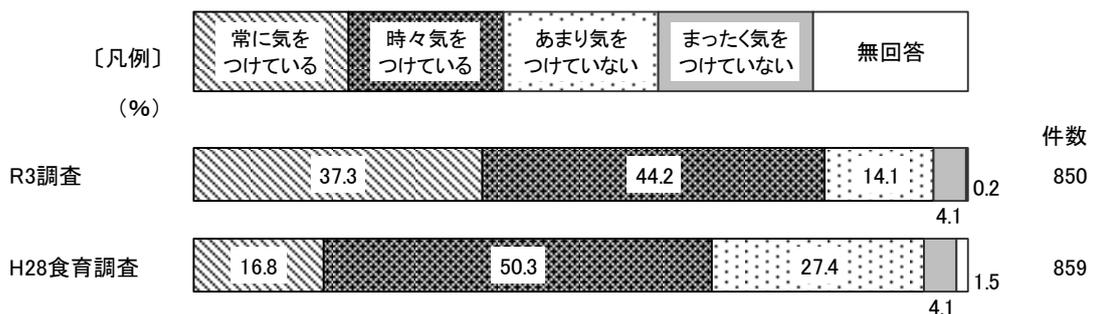


## 2-7 栄養バランスへの配慮の実施状況

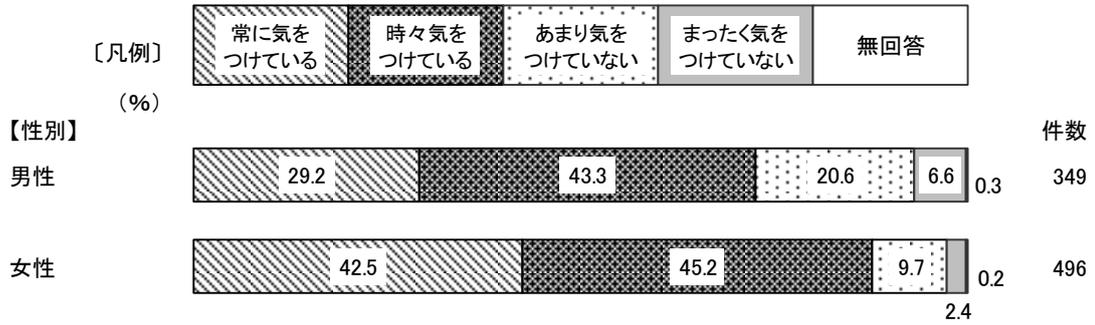
問 13 あなたは、野菜摂取量を増やす、油の多いものを控えるなど、栄養バランスに気を付けていますか。(○は1つ)

栄養バランスへの配慮の実施状況は、「時々気をつけている」(44.2%)が最も高く、「常に気をつけている」(37.3%)と合わせた『気をつけている』は81.5%となっています。また、『気をつけていない』(「まったく気をつけていない」と「あまり気をつけていない」の計)は18.2%となっています。

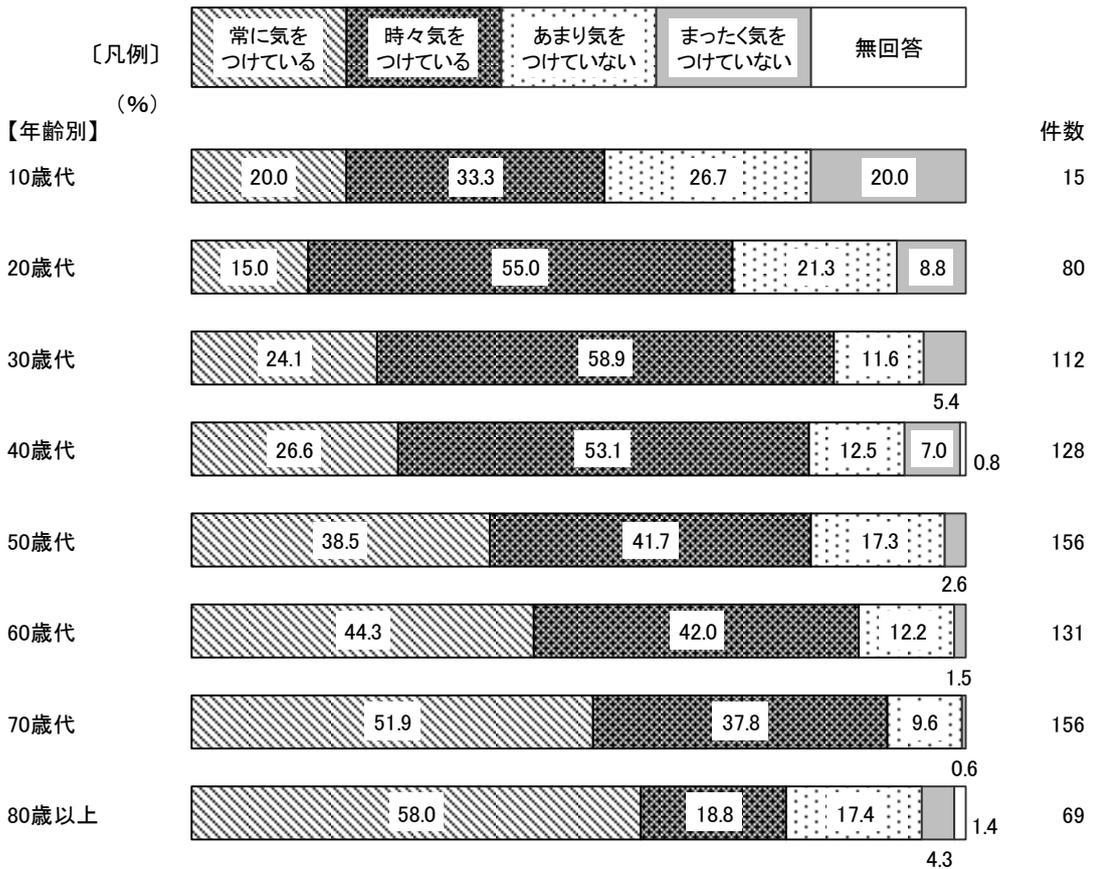
前回食育調査と比べると、いずれも「時々気をつけている」が最も高く、『気をつけている』は前回食育調査では67.1%、今回調査では81.5%となっています。



性別でみると、男女ともに「時々気をつけている」が最も高く、『気をつけている』は男性で72.5%、女性で87.7%となっています。



年齢別でみると、50歳代以下では「時々気をつけている」、60歳代以上では「常に気をつけている」がそれぞれ最も高くなっています。

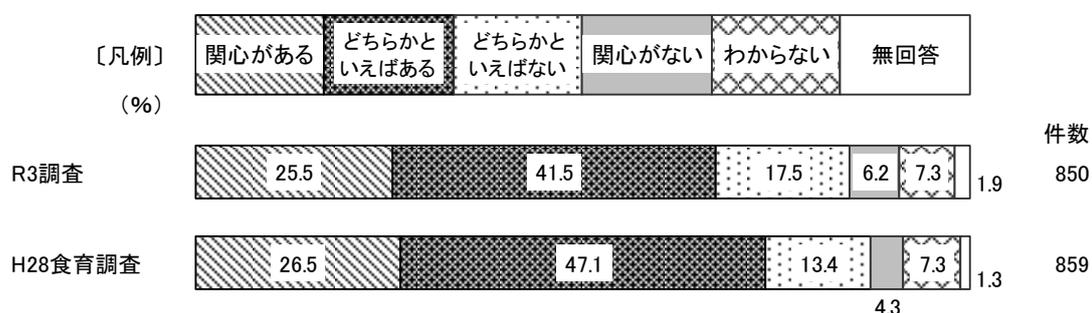


## 2-8 食育への関心度

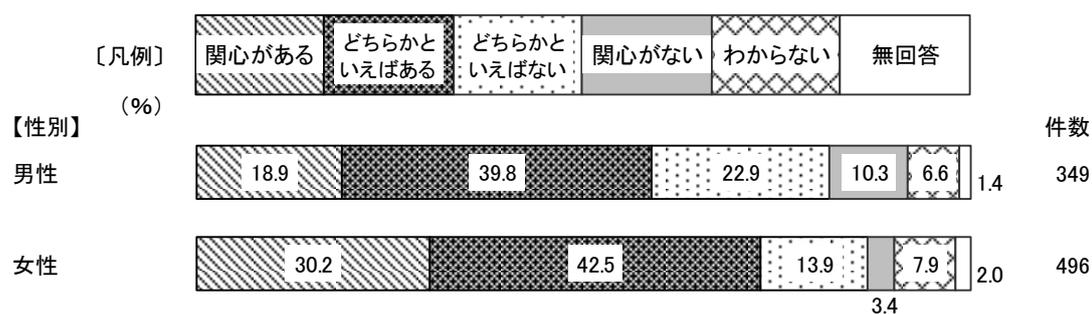
問 14 あなたは、「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」(41.5%)が最も高く、「関心がある」(25.5%)と合わせた『関心がある』は67.0%となっています。一方、『関心がない』(「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の計)は23.7%となっています。

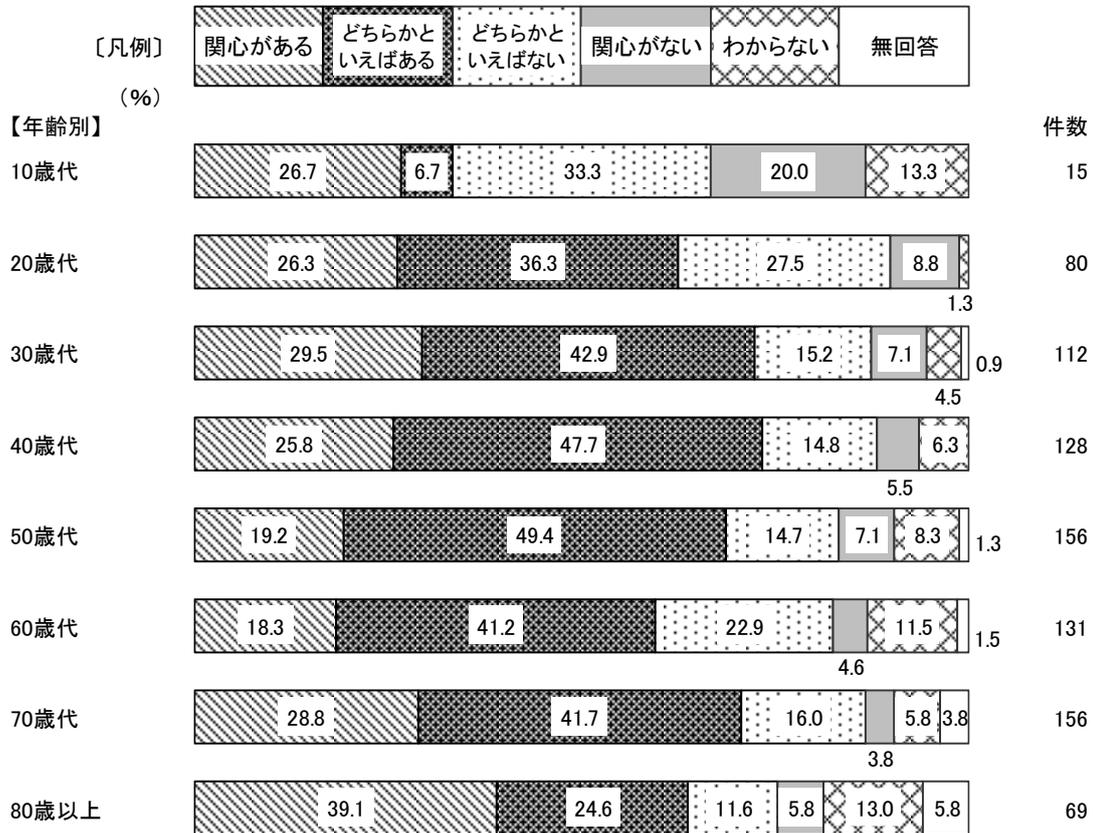
前回食育調査と比べると、いずれも「どちらかといえば関心がある」が最も高く、『関心がある』は前回食育調査では73.6%、今回調査では67.0%となっています。



性別でみると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高く、『関心がある』は男性で58.7%、女性で72.7%となっています。



年齢別で見ると、10歳代では「どちらかといえば関心がない」、80歳以上では「関心がある」が最も高く、その他の年代では「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっています。10歳代では『関心がある』（33.4%）が『関心がない』（53.3%）より低く、その他の年代では『関心がある』は『関心がない』より高くなっています。

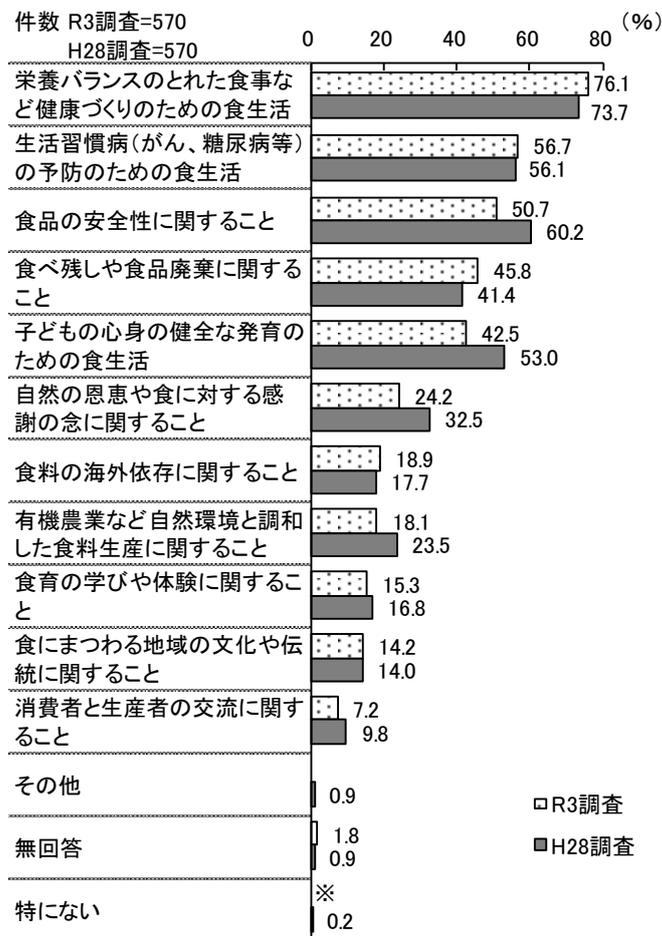


## 2-9 食育について関心があること

(問 14 で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」のいずれかに○をつけた方に)  
問 14-1 「食育」について、関心のあることはどれですか。(○はいくつでも)

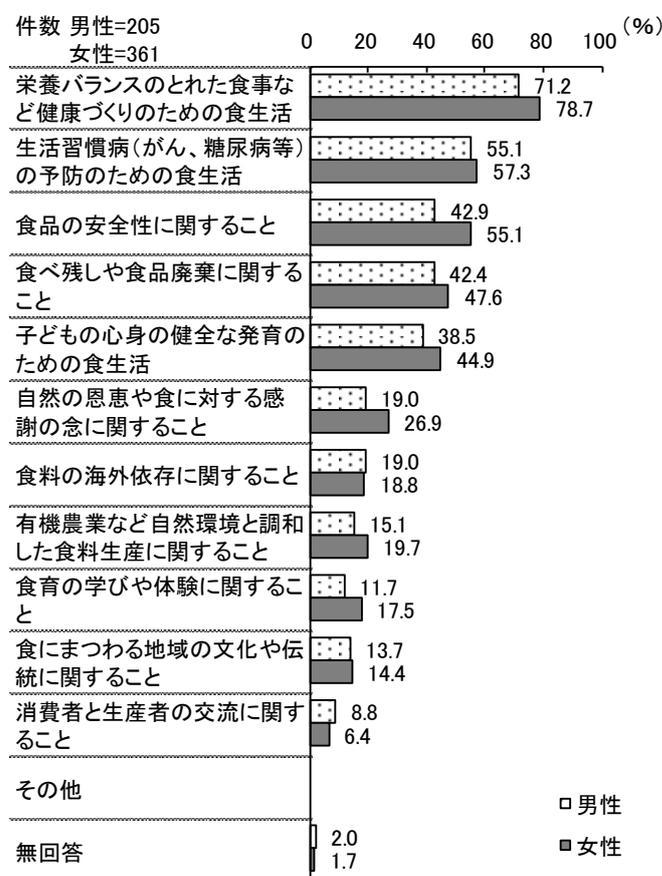
食育について関心があることは、「栄養バランスのとれた食事など健康づくりのための食生活」(76.1%)が最も高く、次いで「生活習慣病(がん、糖尿病等)の予防のための食生活」(56.7%)、「食品の安全性に関すること」(50.7%)、「食べ残しや食品廃棄に関すること」(45.8%)、「子どもの心身の健全な発育のための食生活」(42.5%)となっています。

前回調査と比べると、「食品の安全性に関すること」が前回2位から今回3位へ順位を下げ、代わって「生活習慣病の予防のための食生活」が前回3位から今回2位へ順位を上げています。



※「特になし」はH28調査のみ

性別でみると、男女ともに「栄養バランスのとれた食事など健康づくりのための食生活」が最も高くなっています。



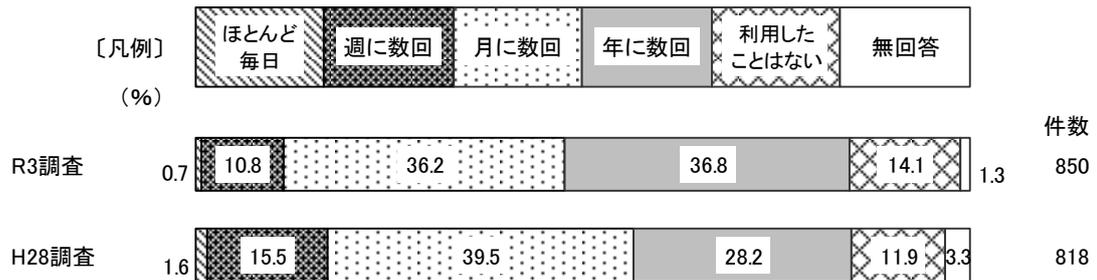
年齢別でみると、20歳代以上で「栄養バランスのとれた食事など健康づくりのための食生活」が最も高くなっています。また、30歳代・40歳代では「子どもの心身の健全な発育のための食生活」が第2位となっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=5)	食べ残しや食品廃棄	健康づくりの食生活、生活習慣病予防、食品の安全性	
20歳代 (n=50)	健康づくりの食生活	生活習慣病予防	食べ残しや食品廃棄
30歳代 (n=81)	健康づくりの食生活	子どもの健全な発育	生活習慣病予防
40歳代 (n=94)	健康づくりの食生活	子どもの健全な発育	食品の安全性
50歳代 (n=107)	健康づくりの食生活	生活習慣病予防	食品の安全性 食べ残しや食品廃棄
60歳代 (n=78)	健康づくりの食生活	生活習慣病予防	食品の安全性
70歳代 (n=110)	健康づくりの食生活	生活習慣病予防	食品の安全性
80歳以上 (n=44)	健康づくりの食生活	食品の安全性	生活習慣病予防

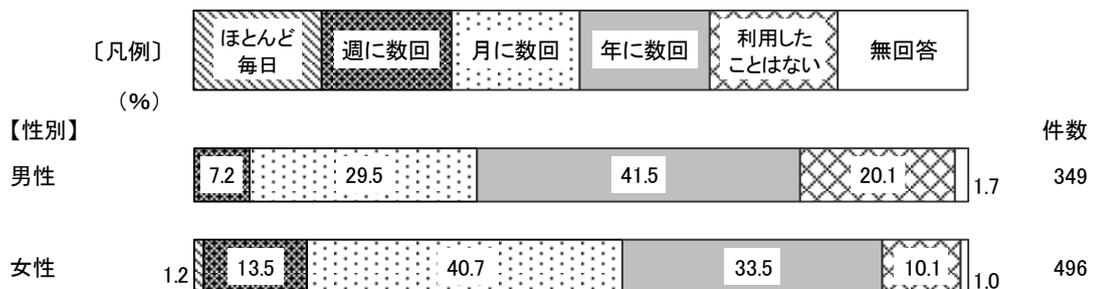
## 2-10 産地直売施設の利用頻度

問 15 あなたは、産地直売施設（産直市など）を利用したことがありますか。（○は1つ）

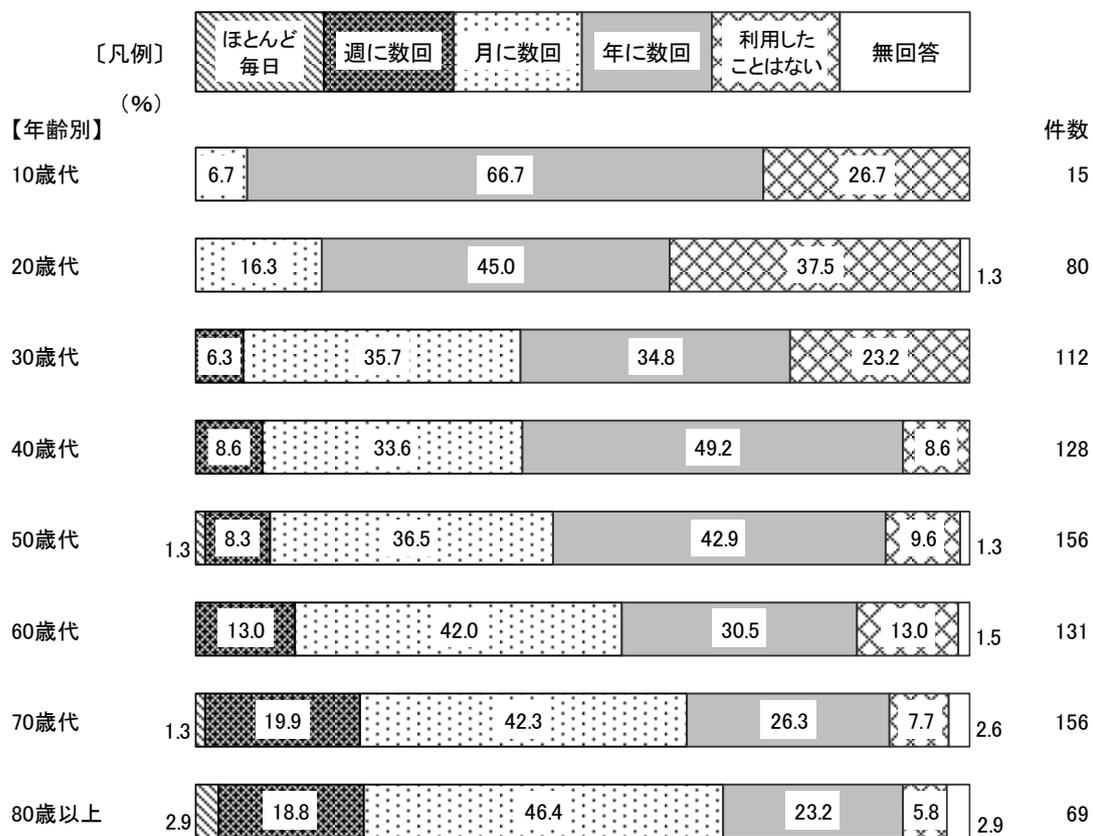
産地直売施設の利用頻度は、「年に数回」（36.8%）が最も高く、次いで「月に数回」（36.2%）となっています。また、「利用したことはない」は14.1%となっています。前回調査と比べると、前回調査では「月に数回」が最も高くなっています。



性別で見ると、男性では「年に数回」（41.5%）、女性では「月に数回」（40.7%）がそれぞれ最も高くなっています。また、「利用したことはない」は男性で20.1%、女性で10.1%となっています。



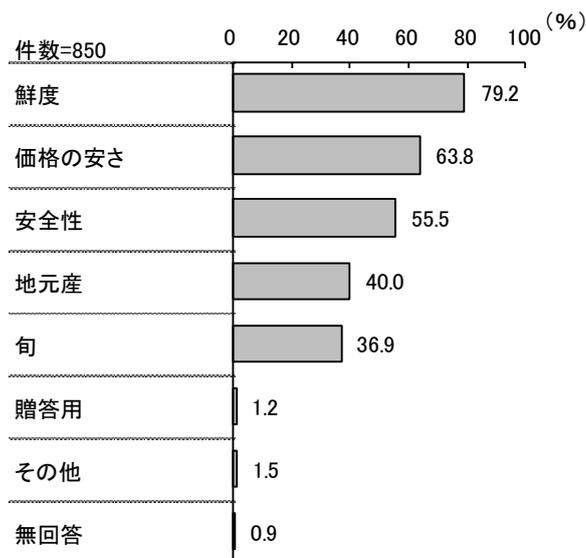
年齢別でみると、30歳代及び60歳代以上では「月に数回」が最も高く、その他の年代では「年に数回」が最も高くなっています。また、「利用したことはない」は20歳代で37.5%、10歳代・30歳代で2割以上となっています。



## 2-11 産地直売施設の農作物に求めるもの

問 16 産地直売施設（産直市など）の農作物に何を求めますか。（○はいくつでも）

産地直売施設の農作物に求めるものは、「鮮度」（79.2%）が最も高く、次いで「価格の安さ」（63.8%）、「安全性」（55.5%）、「地元産」（40.0%）、「旬」（36.9%）となっています。



年齢別で見ると、10歳代では「価格の安さ」が最も高く、20歳代以上では「鮮度」が最も高くなっています。また、70歳代以上では「安全性」が第2位となっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=15)	価格の安さ	鮮度	安全性
20歳代 (n=80)	鮮度	価格の安さ	安全性
30歳代 (n=112)	鮮度	価格の安さ	安全性
40歳代 (n=128)	鮮度	価格の安さ	安全性
50歳代 (n=156)	鮮度	価格の安さ	安全性
60歳代 (n=131)	鮮度	価格の安さ	安全性
70歳代 (n=156)	鮮度	安全性	価格の安さ
80歳以上 (n=69)	鮮度	安全性	価格の安さ

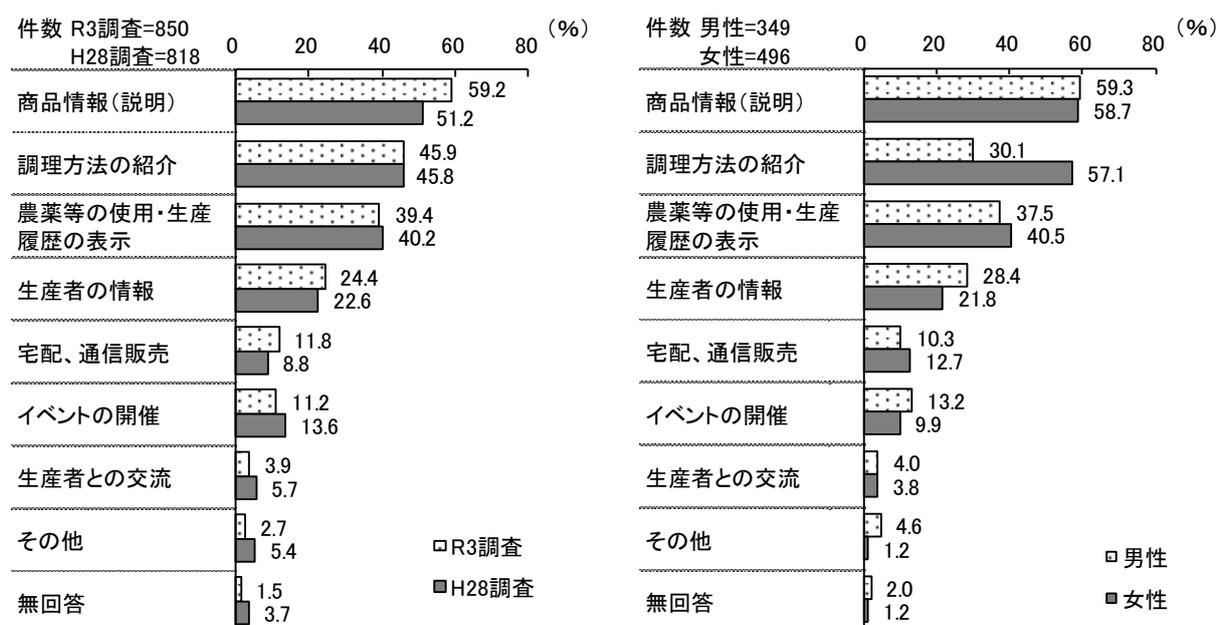
## 2-12 産地直売施設に期待するサービス

問 17 あなたは、産地直売施設（産直市など）にどんなサービスを期待しますか。（〇はいくつでも）

産地直売施設に期待するサービスは、「商品情報（説明）」（59.2%）が最も高く、次いで「調理方法の紹介」（45.9%）、「農薬等の使用・生産履歴の表示」（39.4%）、「生産者の情報」（24.4%）となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

性別でみると、男女ともに「商品情報」が最も高く、次いで男性では「農薬等の使用・生産履歴の表示」、女性では「調理方法の紹介」となっています。「調理方法の紹介」は男性で 30.1%、女性で 57.1%となっています。

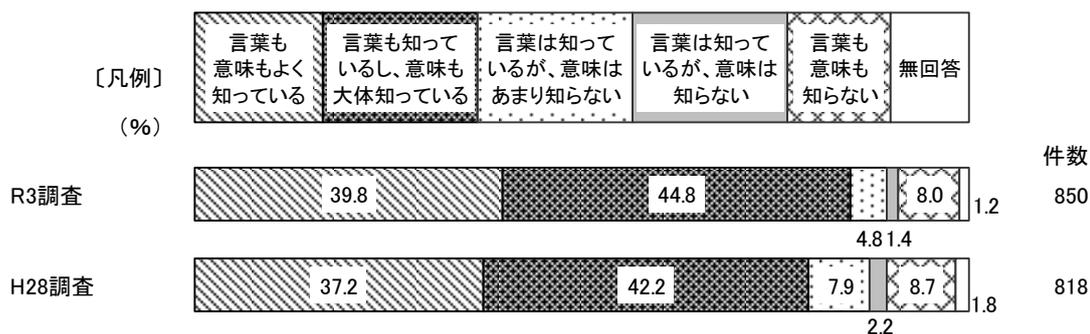


## 2-13 地産地消の認知度

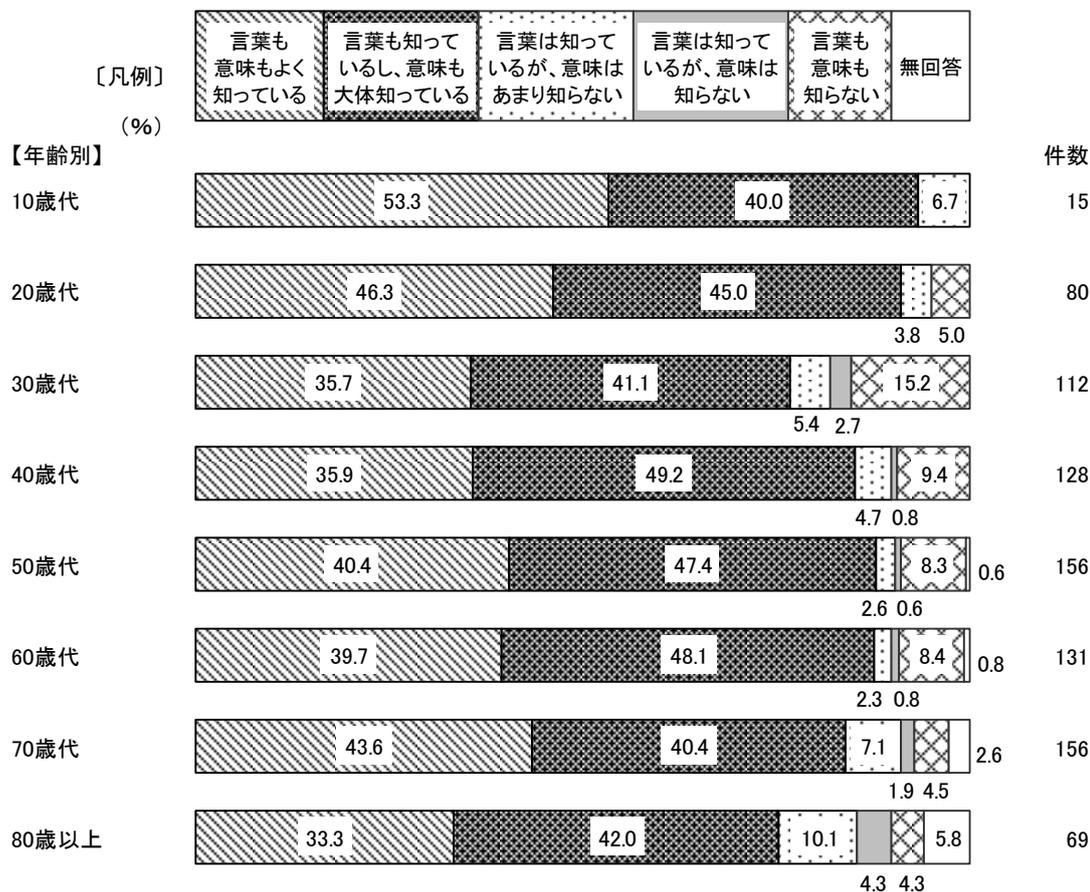
問 18 地産地消という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つ)

地産地消の認知度は、「言葉も知っているし、意味も大体知っている」(44.8%)が最も高く、「言葉も意味もよく知っている」(39.8%)を合わせた『理解している』は84.6%となっています。また、「言葉も意味も知らない」は8.0%となっています。

前回調査と比べると、いずれも「言葉も知っているし、意味も大体知っている」が最も高く、『理解している』は前回調査で79.4%、今回調査で84.6%となっています。



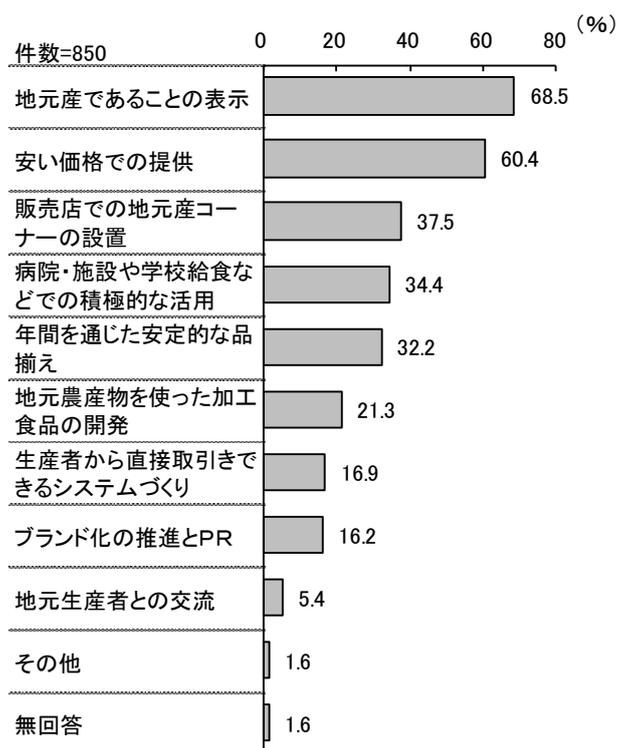
年齢別でみると、『理解している』は30歳代(76.8%)・80歳以上(75.3%)で8割未満となっており、30歳代では「言葉も意味も知らない」(15.2%)が1割以上となっています。



## 2-14 地産地消の推進に必要なこと

問 19 あなたが地産地消を推進する上で必要だと思うことは何ですか。（○はいくつでも）

地産地消の推進に必要なことは、「地元産であることの表示」（68.5%）が最も高く、次いで「安い価格での提供」（60.4%）、「販売店での地元産コーナーの設置」（37.5%）、「病院・施設や学校給食などでの積極的な活用」（34.4%）、「年間を通じた安定的な品揃え」（32.2%）となっています。

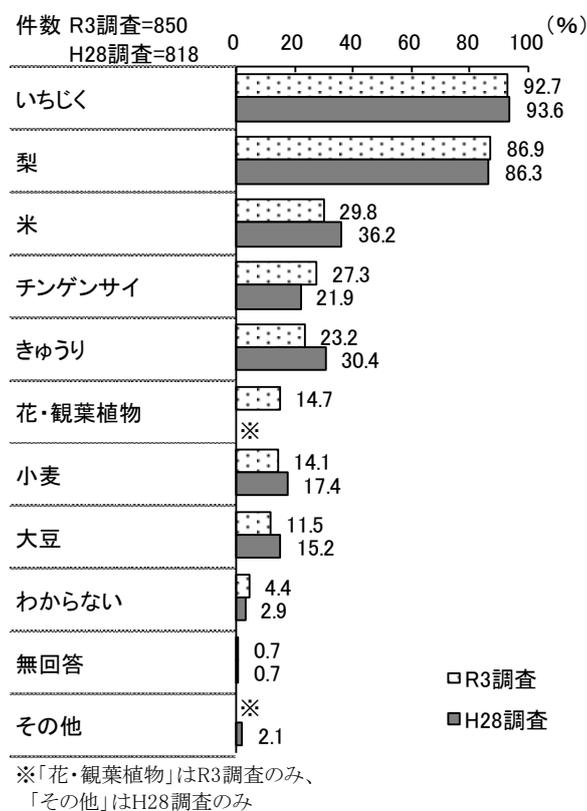


## 2-15 知っている市の特産品

問 20 市の特産品であることを知っているものは何ですか。（〇はいくつでも）

知っている市の特産品は、「いちじく」（92.7%）が最も高く、次いで「梨」（86.9%）、  
「米」（29.8%）、「チンゲンサイ」（27.3%）、「きゅうり」（23.2%）となっています。

前回調査と比べると、いずれも「いちじく」が最も高く、「チンゲンサイ」が前回5位から今回4位へと順位を上げています。



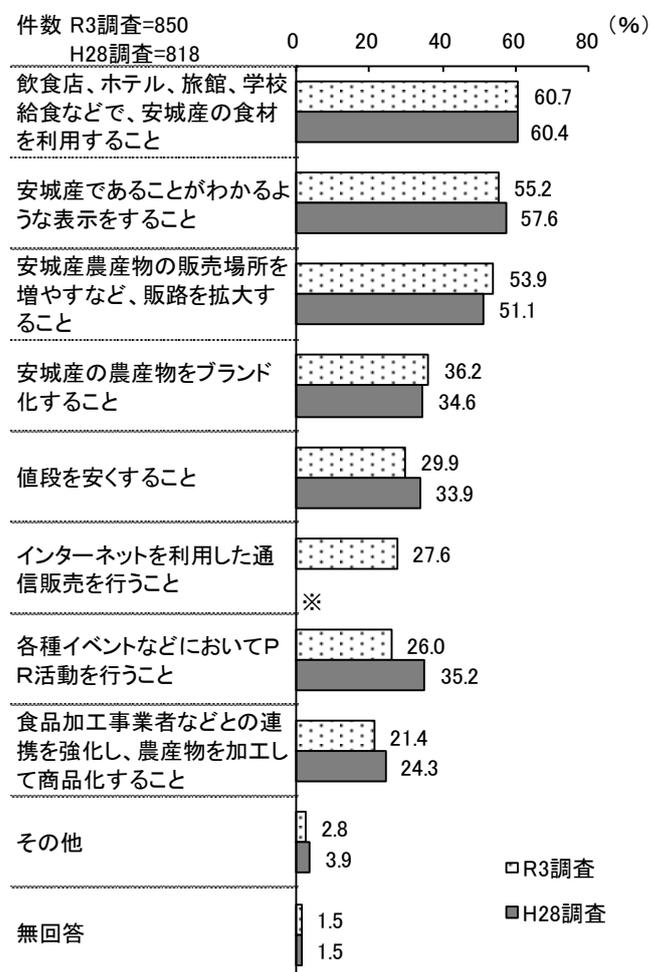
## 2-16 安城産農産物の販売促進に必要な取組

問 21 安城産農産物の販売を促進するために、どのような取組が必要だと思いますか。

(○はいくつでも)

安城産農産物の販売促進に必要な取組は、「飲食店、ホテル、旅館、学校給食などで、安城産の食材を利用すること」(60.7%)が最も高く、次いで「安城産であることがわかるような表示をすること」(55.2%)、「安城産農産物の販売場所を増やすなど、販路を拡大すること」(53.9%)、「安城産の農産物をブランド化すること」(36.2%)、「値段を安くすること」(29.9%)となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



※「インターネットを利用した通信販売を行うこと」はR3調査のみ

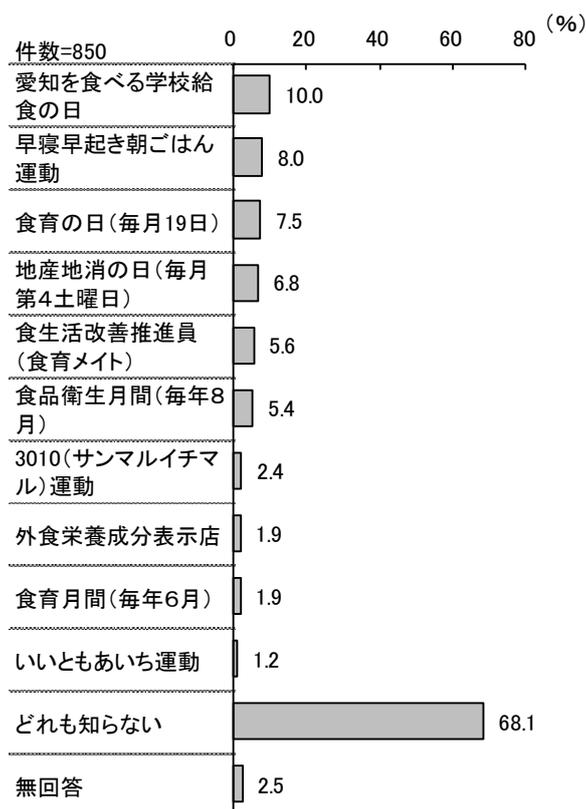
年齢別でみると、10歳代～40歳代では「飲食店、ホテル、旅館、学校給食などで、安城産の食材を利用すること」、50歳代・60歳代では「安城産農産物の販売場所を増やすなど、販路を拡大すること」、70歳代以上では「安城産であることがわかるような表示をすること」がそれぞれ最も高くなっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=15)	飲食店等での食材利用	農産物のブランド化	安城産とわかる表示
20歳代 (n=80)	飲食店等での食材利用	安城産とわかる表示	販路の拡大
30歳代 (n=112)	飲食店等での食材利用	安城産とわかる表示	販路の拡大
40歳代 (n=128)	飲食店等での食材利用	販路の拡大	安城産とわかる表示
50歳代 (n=156)	販路の拡大	飲食店等での食材利用	安城産とわかる表示
60歳代 (n=131)	販路の拡大	安城産とわかる表示	飲食店等での食材利用
70歳代 (n=156)	安城産とわかる表示	飲食店等での食材利用	販路の拡大
80歳以上 (n=69)	安城産とわかる表示	販路の拡大	飲食店等での食材利用

## 2-17 食に関する取組の認知度

問 22 あなたは、次の取り組みを知っていますか。（○はいくつでも）

食に関する取組の認知度は、「どれも知らない」が68.1%となっており、知っている取組は「愛知を食べる学校給食の日」（10.0%）が最も高く、次いで「早寝早起き朝ごはん運動」（8.0%）、「食育の日（毎月19日）」（7.5%）、「地産地消の日（毎月第4土曜日）」（6.8%）、「食生活改善推進員（食育メイト）」（5.6%）となっています。

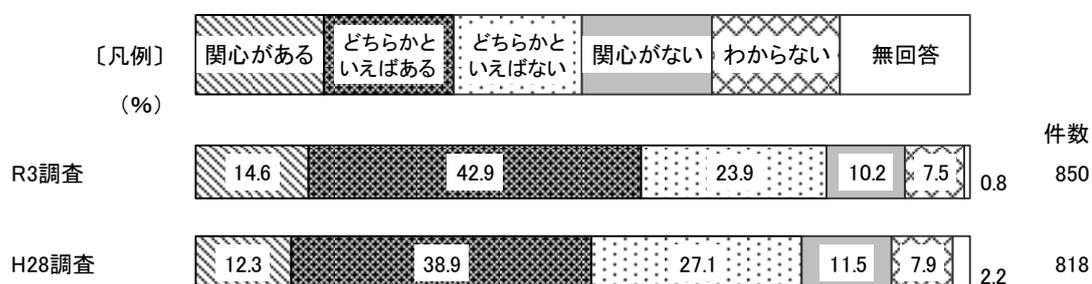


## 2-18 郷土料理や行事食への関心

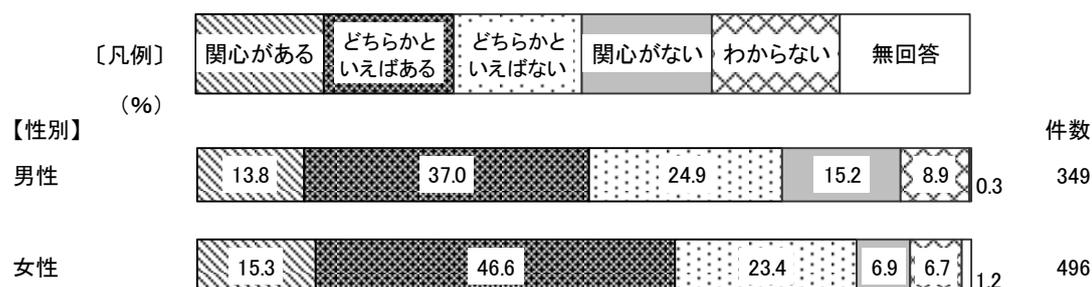
問 23 あなたは、郷土料理や行事食に関心がありますか。（○は1つ）

郷土料理や行事食への関心は、「どちらかといえば関心がある」（42.9%）が最も高く、「関心がある」（14.6%）と合わせた『関心がある』は57.5%となっています。一方、『関心がない』（「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の計）は34.1%となっています。

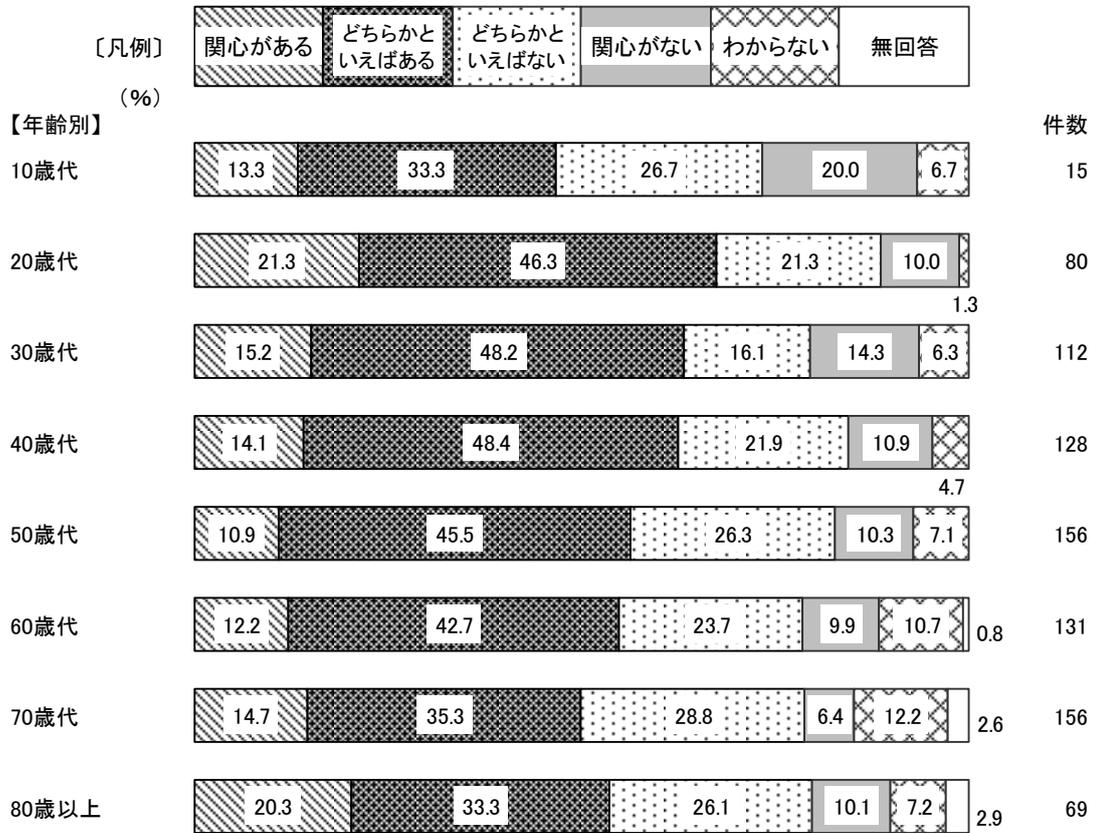
前回調査と比べると、いずれも「どちらかといえば関心がある」が最も高く、『関心がある』は前回調査では51.2%、今回調査では57.5%となっています。



性別で見ると、男女ともに「どちらかといえば関心がある」が最も高く、『関心がある』は男性で50.8%、女性で61.9%となっています。



年齢別でみると、いずれの年代でも「どちらかといえば関心がある」が最も高くなっています。10歳代では『関心がある』（46.6%）は5割未満となっています。



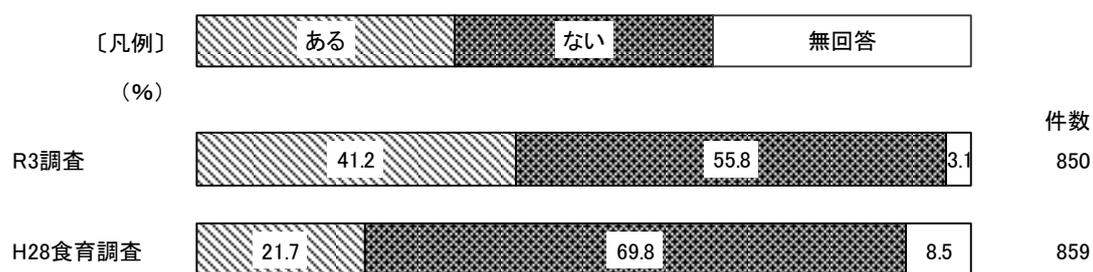
## 2-19 地域の郷土料理の認知度

問 24 地域（愛知県内や西三河）の郷土料理として、思い浮かぶものがありますか。

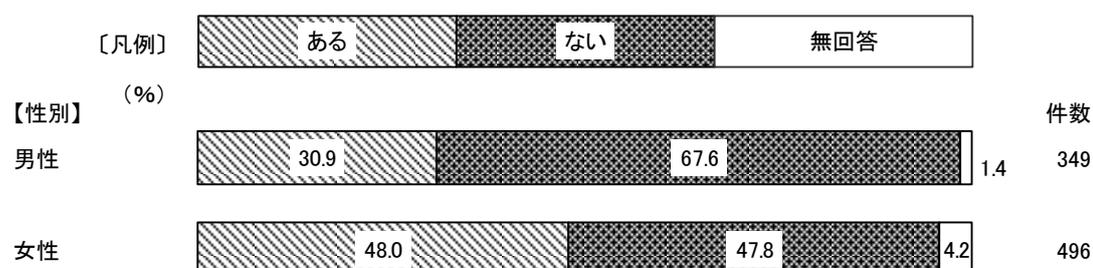
（○は1つ）

地域の郷土料理の認知度は、思い浮かぶものが「ある」が41.2%、「ない」が55.8%となっています。

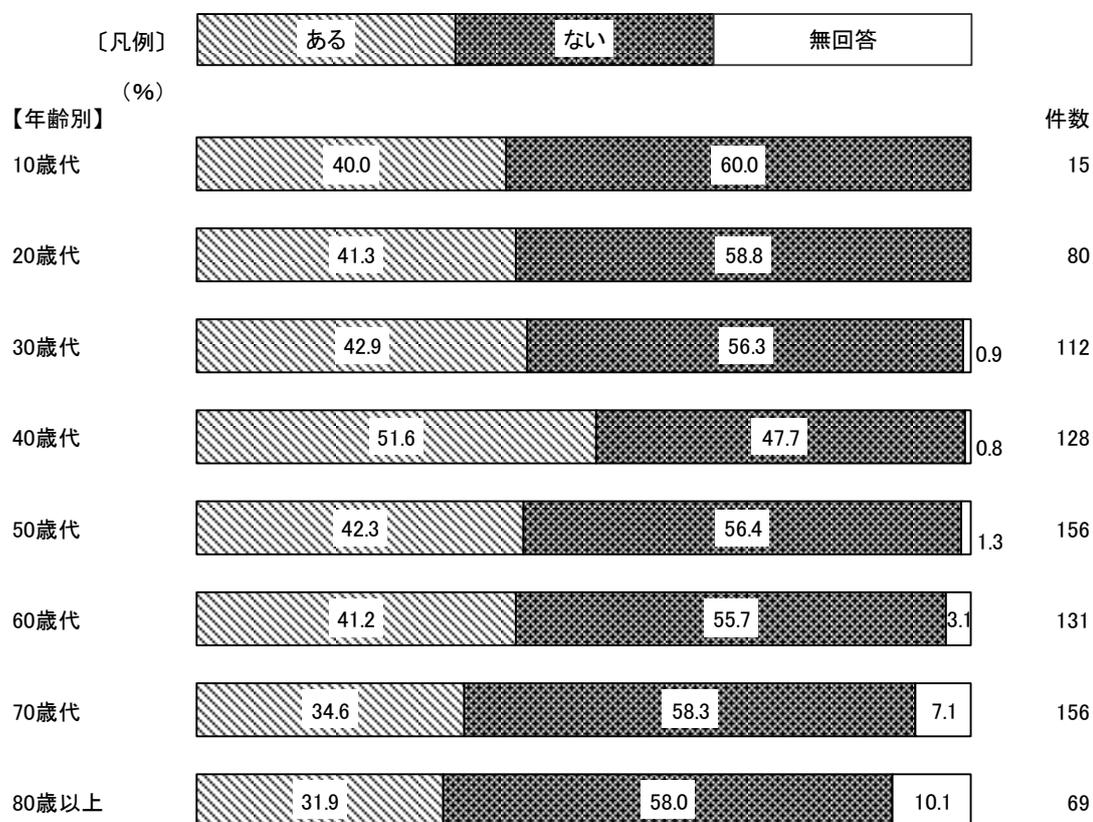
前回食育調査と比べると、「ある」は前回食育調査で21.7%、今回調査で41.2%となっています。



性別でみると、男性では「ない」（67.6%）が「ある」（30.9%）を大きく上回り、女性では「ある」（48.0%）と「ない」（47.8%）がほぼ同じ割合となっています。



年齢別でみると、40歳代においてのみ「ある」（51.6%）が「ない」（47.7%）を上回り、その他の年代では「ない」が「ある」より高くなっています。



郷土料理として思い浮かぶものの具体的な料理名には 561 件の回答があり、「味噌煮込みうどん」（84 件）が最も多く、次いで「箱寿司」（54 件）、「いがまんじゅう」「きしめん」「五平餅」（いずれも 38 件）、「味噌カツ」（29 件）等となっています。

順位	具体的料理名（上位 10 項目）	件数
1	味噌煮込みうどん	84
2	箱寿司	54
3	いがまんじゅう	各 38
	きしめん	
	五平餅	
6	味噌カツ	29
7	押し寿司	27
8	おこしもの	22
9	おにまんじゅう	21
10	とりめし	20

## 2-20 食品の安全性に対する不安の状況

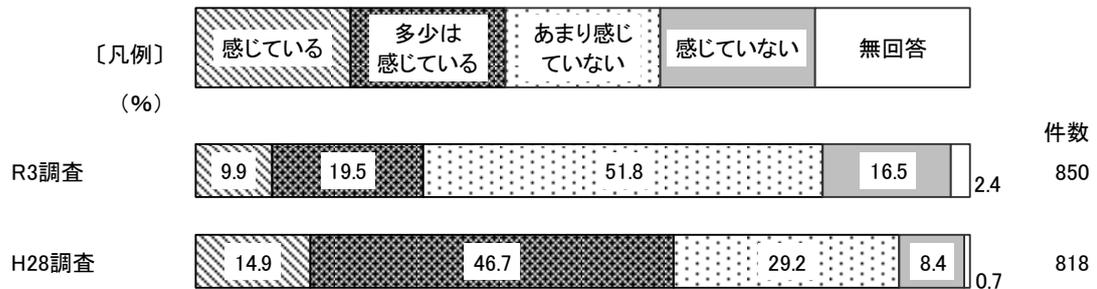
問 25 あなたは、現在の食品の安全性に不安を感じていますか。（○は1つ）

不安を感じている場合は、どのような不安を感じているかを具体的にご記入ください。

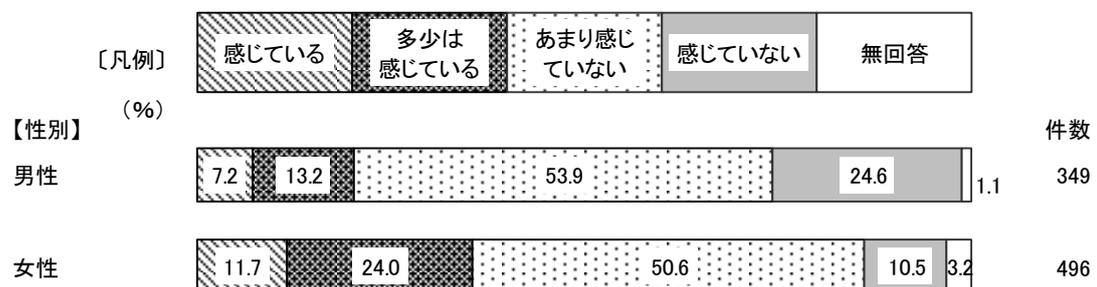
### ①国産品

食品(国産品)の安全性に対する不安の状況は、不安を「あまり感じていない」(51.8%)が最も高く、『感じている』（「感じている」と「多少は感じている」の計）は29.4%、『感じていない』（「感じていない」と「あまり感じていない」の計）は68.3%となっています。

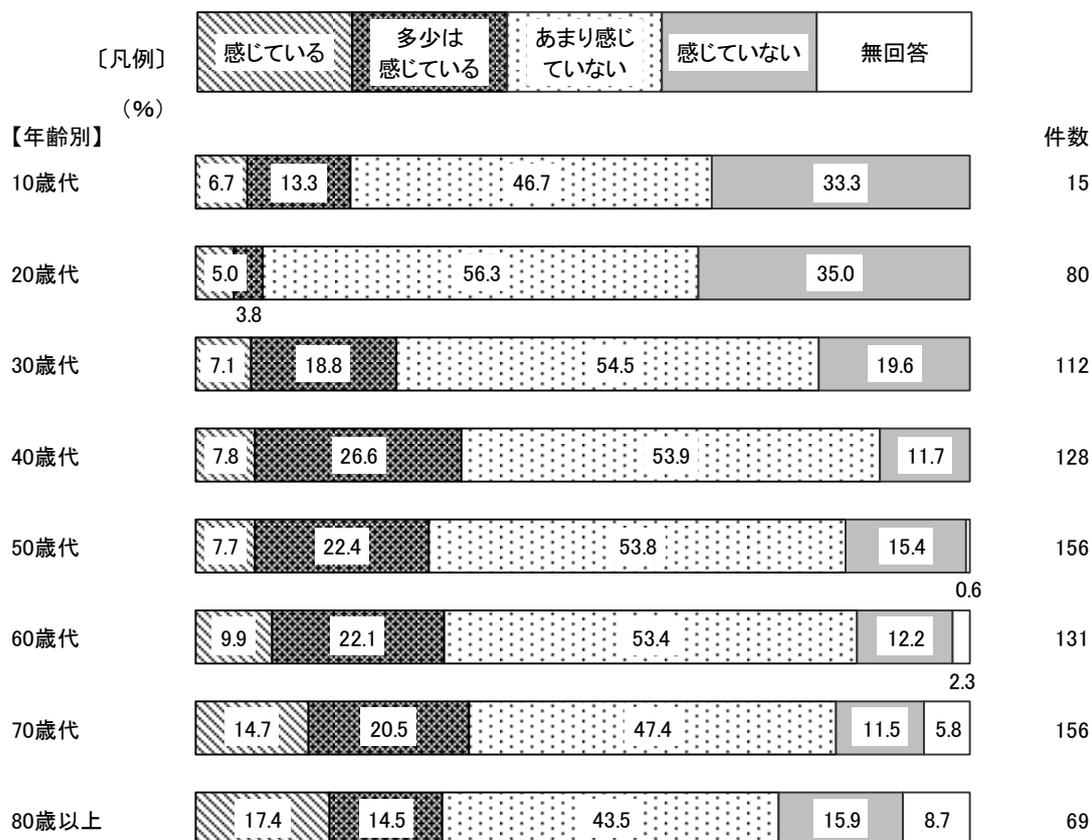
前回調査と比べると、前回調査では「多少は感じている」（46.7%）が最も高く、『感じている』は前回調査では61.6%、今回調査では29.4%となっています。



性別でみると、男女ともに「あまり感じていない」が最も高く、『感じている』は男性で20.4%、女性で35.7%となっています。



年齢別で見ると、いずれの年代でも「あまり感じていない」が最も高く、『感じている』は20歳代（8.8%）で1割未満となっています。



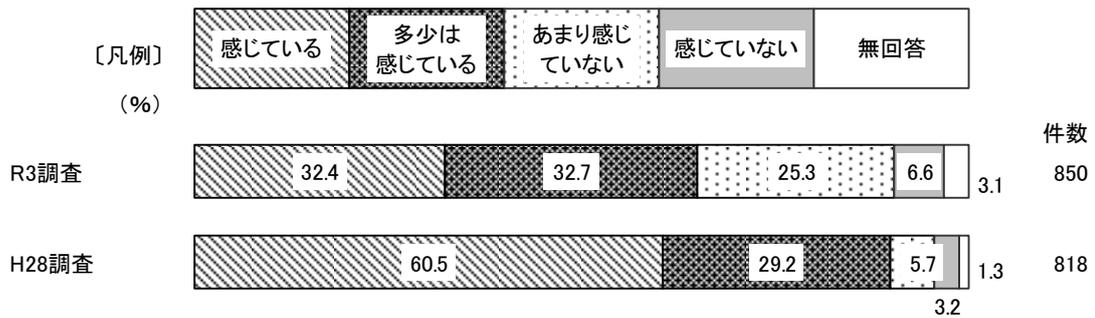
国産品に対する不安の具体的な内容には259件の回答があり、「農薬」（82件）が最も多く、次いで「産地偽装」（57件）、「食品添加物」（36件）、「表示内容」（11件）、「薬剤使用」（9件）、「安全性」「肥料」（ともに6件）等となっています。

順位	国産品に対する不安の具体的な内容（上位10項目）	件数
1	農薬	82
2	産地偽装	57
3	食品添加物	36
4	表示内容	11
5	薬剤使用	9
6	安全性	各6
	肥料	
8	生育・生産環境	5
9	安定供給	各3
	栄養の減少	
	消毒	
	化学物質	

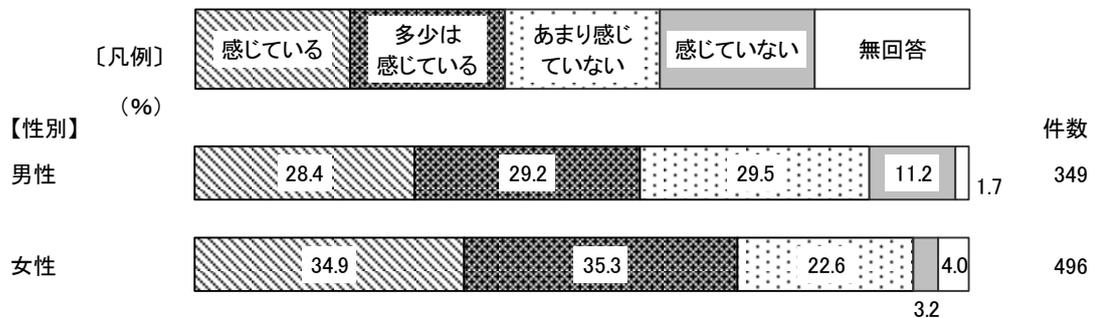
## ②輸入品

食品（輸入品）の安全性に対する不安の状況は、不安を「多少は感じている」（32.7%）が最も高く、『感じている』は65.1%、『感じていない』は31.9%となっています。

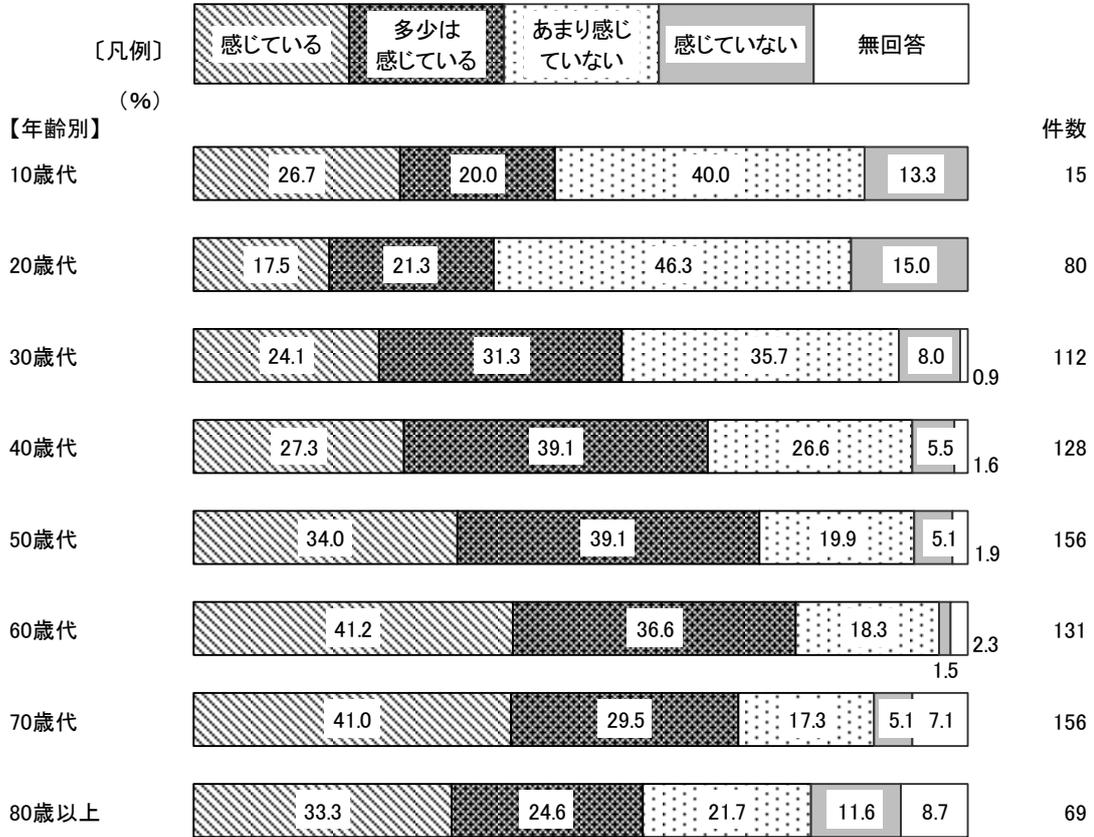
前回調査と比べると、前回調査では「感じている」（60.5%）が最も高く、『感じている』は前回調査では89.7%、今回調査では65.1%となっています。



性別でみると、男性では「あまり感じていない」（29.5%）、女性では「多少は感じている」（35.3%）がそれぞれ最も高く、『感じている』は男性で57.6%、女性で70.2%となっています。



年齢別でみると、30歳代以下では「あまり感じていない」、40歳代・50歳代では「多少は感じている」、60歳代以上では「感じている」がそれぞれ最も高く、『感じている』は20歳代（38.8%）で約4割、60歳代（77.8%）で約8割となっています。



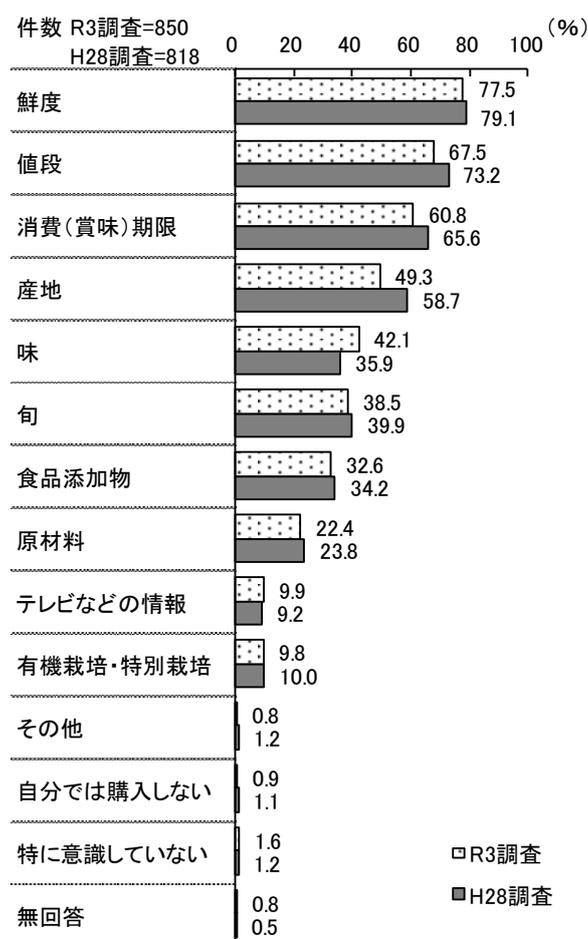
輸入品に対する不安の具体的な内容には601件の回答があり、「農薬」（201件）が最も多く、次いで「中国産だから」（50件）、「安全性」（49件）、「食品添加物」（41件）、「衛生面」（25件）、「化学物質」（23件）等となっています。

順位	輸入品に対する不安の具体的な内容（上位10項目）	件数
1	農薬	201
2	中国産だから	50
3	安全性	49
4	食品添加物	41
5	衛生面	25
6	化学物質	23
7	薬品	14
8	健康面	各12
	生育・生産環境	
10	品質	11

## 2-21 食品の選択基準

問 26 あなたが食品を選択する基準は何ですか。（○はいくつでも）

食品の選択基準は、「鮮度」（77.5%）が最も高く、次いで「値段」（67.5%）、「消費（賞味）期限」（60.8%）、「産地」（49.3%）、「味」（42.1%）となっています。前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



年齢別でみると、30歳代以下では「値段」、30歳代以上では「鮮度」がそれぞれ最も高くなっています。また、20歳代では「味」、80歳以上では「産地」がそれぞれ第2位となっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=15)	値段	鮮度、消費（賞味）期限	
20歳代 (n=80)	値段	味	鮮度
30歳代 (n=112)	鮮度、値段		消費（賞味）期限
40歳代 (n=128)	鮮度	値段	消費（賞味）期限
50歳代 (n=156)	鮮度	値段	消費（賞味）期限
60歳代 (n=131)	鮮度	消費（賞味）期限	値段
70歳代 (n=156)	鮮度	値段、消費（賞味）期限	
80歳以上 (n=69)	鮮度	産地	値段

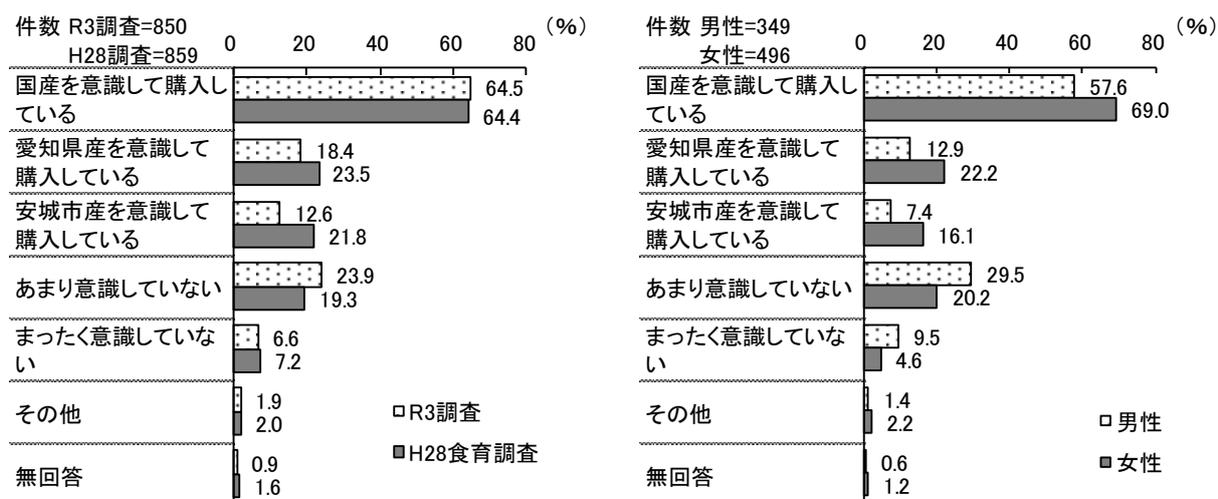
## 2-22 産地を意識した農産物等購入の状況

問 27 あなたは、農林水産物の産地を意識して購入していますか。(○はいくつでも)

産地を意識した農産物等購入の状況は、「国産を意識して購入している」(64.5%)が最も高く、次いで「あまり意識していない」(23.9%)、「愛知県産を意識して購入している」(18.4%)、「安城市産を意識して購入している」(12.6%)となっています。また、『意識していない』(「まったく意識していない」と「あまり意識していない」の計)は30.5%となっています。

前回食育調査と比べると、「愛知県産を意識して購入している」は前回食育調査で23.5%、今回調査で18.4%となっています。また、「安城市産を意識して購入している」は前回食育調査で21.8%、今回調査で12.6%となっています。

性別でみると、男女ともに「国産を意識して購入している」が最も高く、『意識していない』は男性で39.0%、女性で24.8%となっています。



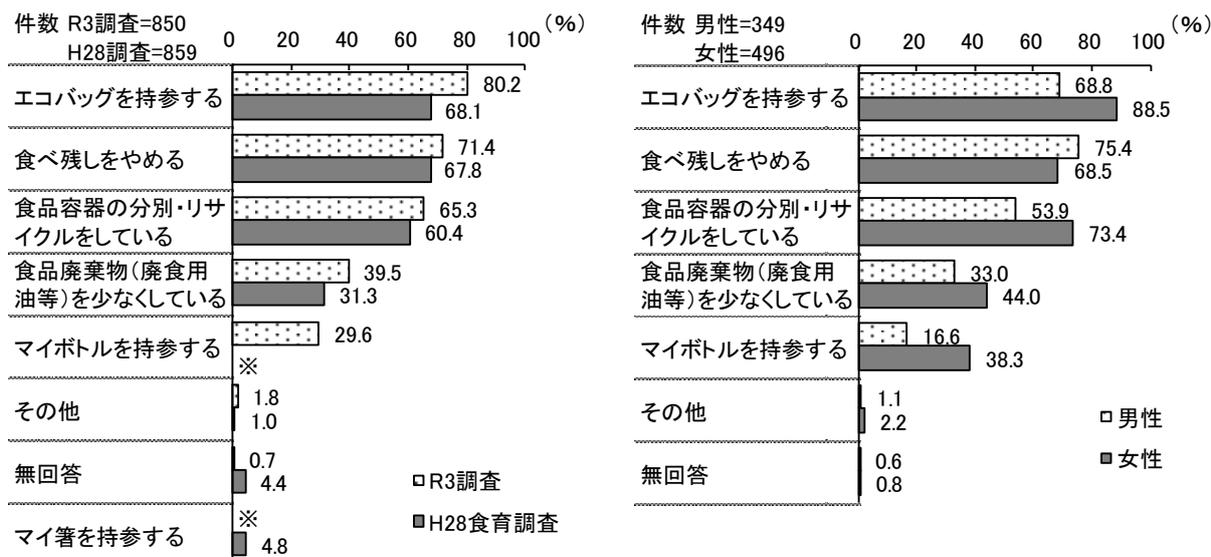
## 2-23 環境にやさしい行動として心がけていること

問 28 食生活に関わることで、環境にやさしい行動として、日頃心がけていることがありますか。(○はい/□いいえ/◇その他)

環境にやさしい行動として心がけていることは、「エコバッグを持参する」(80.2%)が最も高く、次いで「食べ残しをやめる」(71.4%)、「食品容器の分別・リサイクルをしている」(65.3%)、「食品廃棄物(廃食用油、調理くず等)を少なくしている」(39.5%)、「マイボトルを持参する」(29.6%)となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「エコバッグを持参する」が最も高く、「食べ残しをやめる」は前回食育調査で67.8%、今回調査で71.4%となっています。

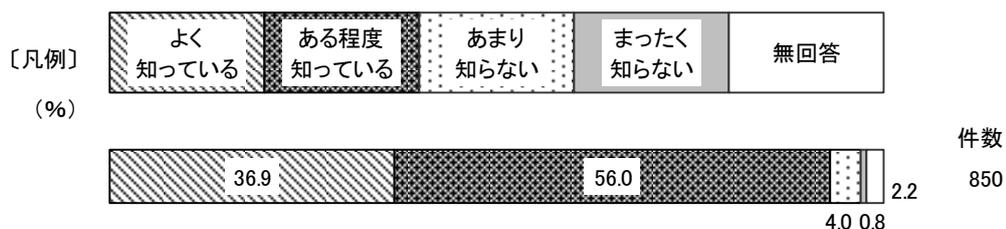
性別でみると、男性では「食べ残しをやめる」が最も高く、次いで「エコバッグを持参する」が高く、女性では「エコバッグを持参する」が最も高く、次いで「食品容器の分別・リサイクルをしている」が高くなっています。



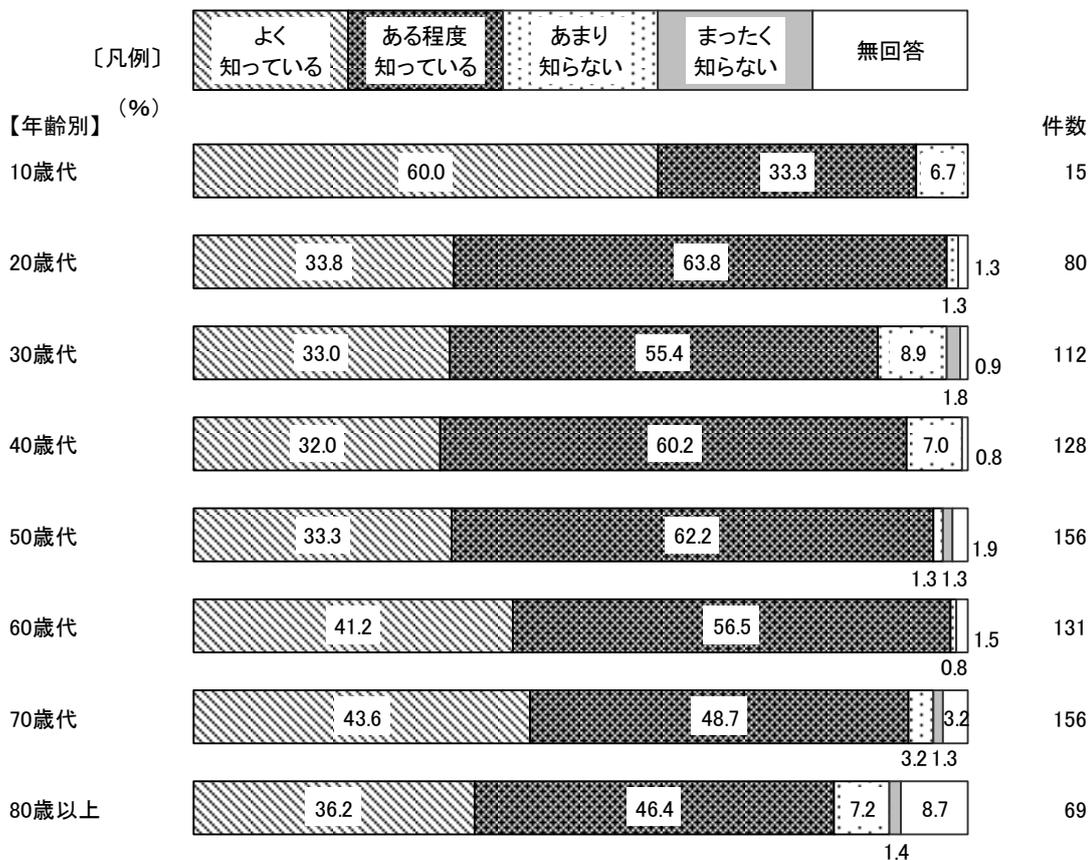
## 2-24 食品ロス問題の認知度

問 29 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。(○は1つ)

食品ロス問題の認知度は、「ある程度知っている」(56.0%)が最も高く、「よく知っている」(36.9%)と合わせた『知っている』は92.9%となっています。一方、『知らない』(「まったく知らない」と「あまり知らない」の計)は4.8%となっています。



年齢別でみると、10歳代では「よく知っている」(60.0%)が最も高く、その他の年代では「ある程度知っている」が最も高くなっており、いずれの年代でも『知っている』が8割以上となっています。

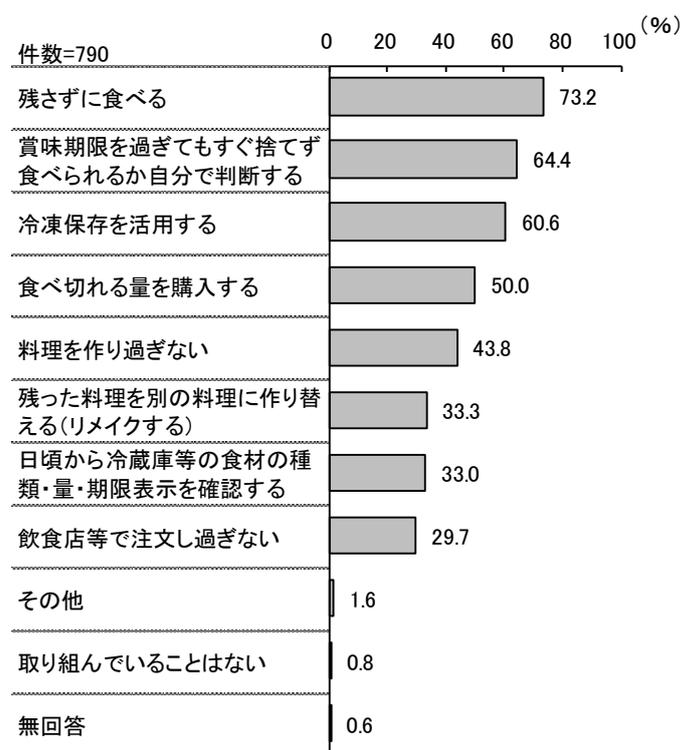


## 2-25 食品ロス削減のためにやっている取組

(問 29 で「よく知っている」「ある程度知っている」のいずれかに○をつけた方に)

問 29-1 「食品ロス」を減らすために取り組んでいることはありますか。(○はいくつでも)

食品ロス削減のためにやっている取組は、「残さずに食べる」(73.2%)が最も高く、次いで「賞味期限を過ぎてもすぐ捨てず食べられるか自分で判断する」(64.4%)、「冷凍保存を活用する」(60.6%)、「食べ切れる量を購入する」(50.0%)、「料理を作り過ぎない」(43.8%)となっています。

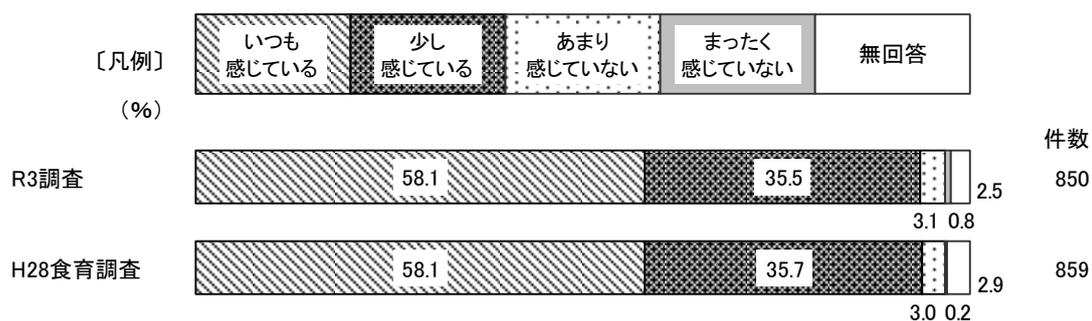


## 2-26 食品の廃棄や食べ残しの発生について「もったいない」と感じること

問 30 食品産業や家庭における食品の廃棄や食べ残しが発生していることに関して、日頃から「もったいない」と感じることはありますか。（○は1つ）

食品の廃棄や食べ残しの発生について「もったいない」と感じることは、「いつも感じている」（58.1%）が最も高く、「少し感じている」（35.5%）と合わせた『感じている』は93.6%となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



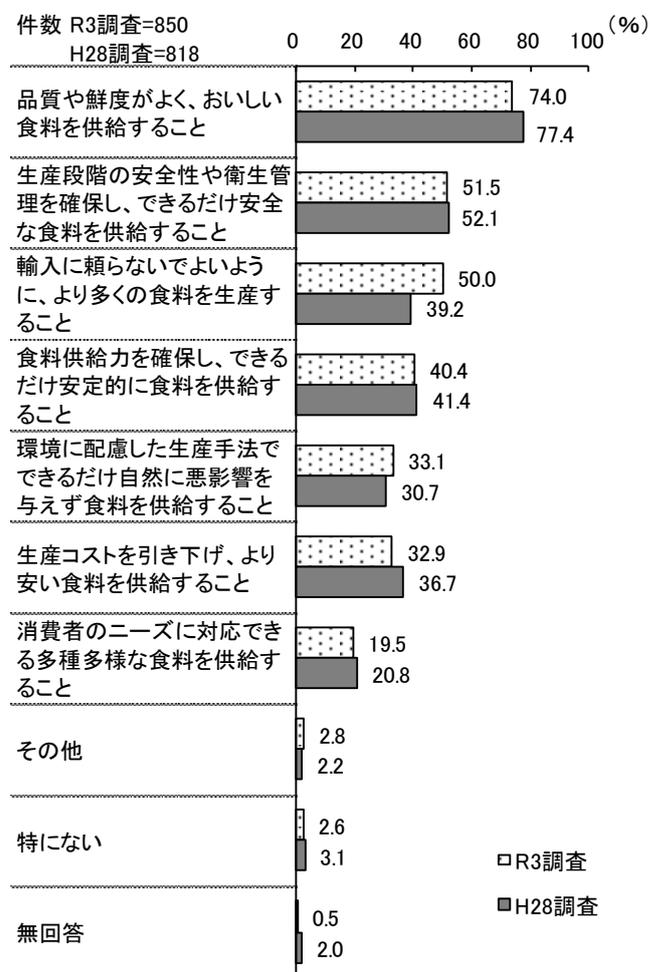
### 3 農業について

#### 3-1 農業に期待すること

問 31 あなたは、農業に対してどのようなことを期待しますか。（○はいくつでも）

農業に期待することは、「品質や鮮度がよく、おいしい食料を供給すること」（74.0%）が最も高く、次いで「生産段階の安全性や衛生管理を確保し、できるだけ安全な食料を供給すること」（51.5%）、「輸入に頼らないでよいように、より多くの食料を生産すること」（50.0%）、「食料供給力を確保し、できるだけ安定的に食料を供給すること」（40.4%）、「環境に配慮した生産手法により、できるだけ自然に悪影響を与えないで食料を供給すること」（33.1%）となっています。

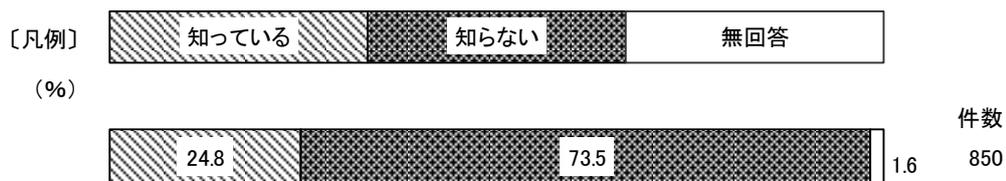
前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 3-2 農業の多面的機能の認知度

問 32 農業が持つ食料を作ること以外の役割を「農業の多面的機能」と呼んでいます。あなたは、農業の多面的機能を知っていますか。（○は1つ）

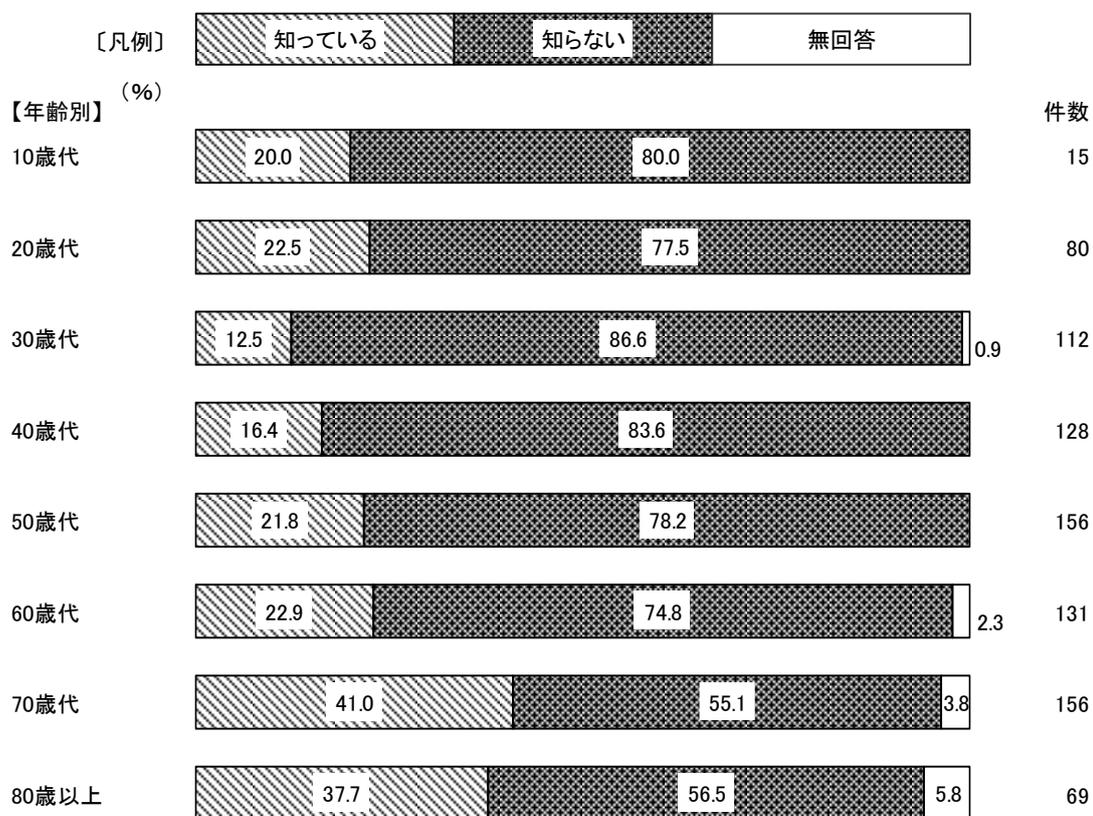
農業の多面的機能の認知度は、「知っている」が24.8%、「知らない」が73.5%となっています。



性別でみると、「知っている」は男性で31.5%、女性で20.2%となっています。



年齢別でみると、「知っている」は30歳代（12.5%）では約1割、70歳代（41.0%）では約4割となっています。

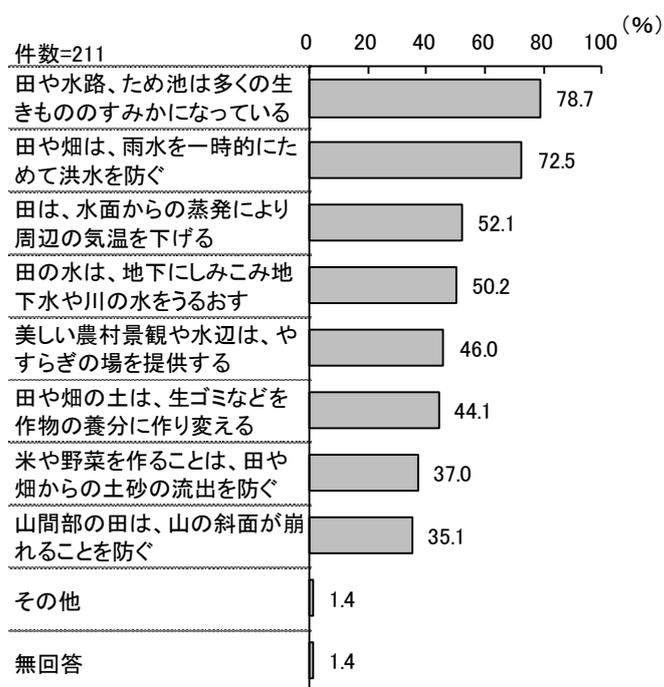


### 3-3 知っている農業の多面的機能

(問 32 で「知っている」に○をつけた方に)

問 32-1 農業の多面的機能について、あなたが知っているものをすべてあげてください。  
(○はいくつでも)

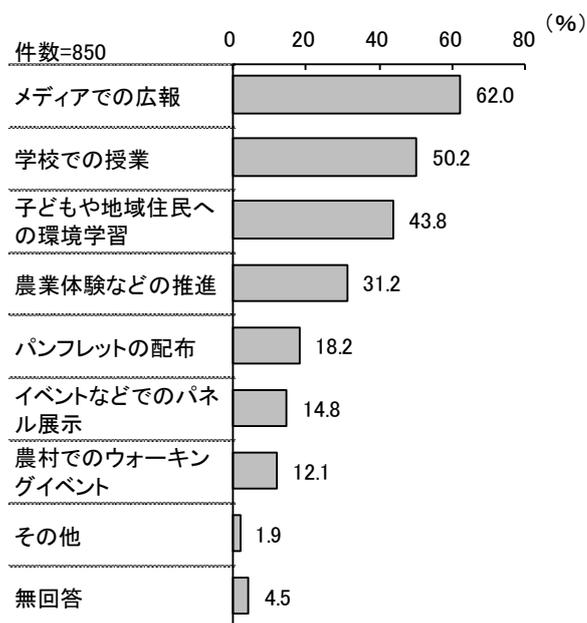
知っている農業の多面的機能は、「田や水路、ため池は多くの生きもののすみかになっている」(78.7%)が最も高く、次いで「田や畑は、雨水を一時的にためて洪水を防ぐ」(72.5%)、「田は、水面からの蒸発により周辺の気温を下げる」(52.1%)、「田の水は、地下にしみこみ地下水や川の水をうるおす」(50.2%)、「美しい農村景観や水辺は、やすらぎの場を提供する」(46.0%)となっています。



### 3-4 農業の多面的機能の理解に有効な取組

問 33 農業の多面的機能を理解していただくために、どのような取り組みが有効だと思いますか。（○はいくつでも）

農業の多面的機能の理解に有効な取組は、「メディアでの広報」（62.0%）が最も高く、次いで「学校での授業」（50.2%）、「子どもや地域住民への環境学習」（43.8%）、「農業体験などの推進」（31.2%）、「パンフレットの配布」（18.2%）となっています。

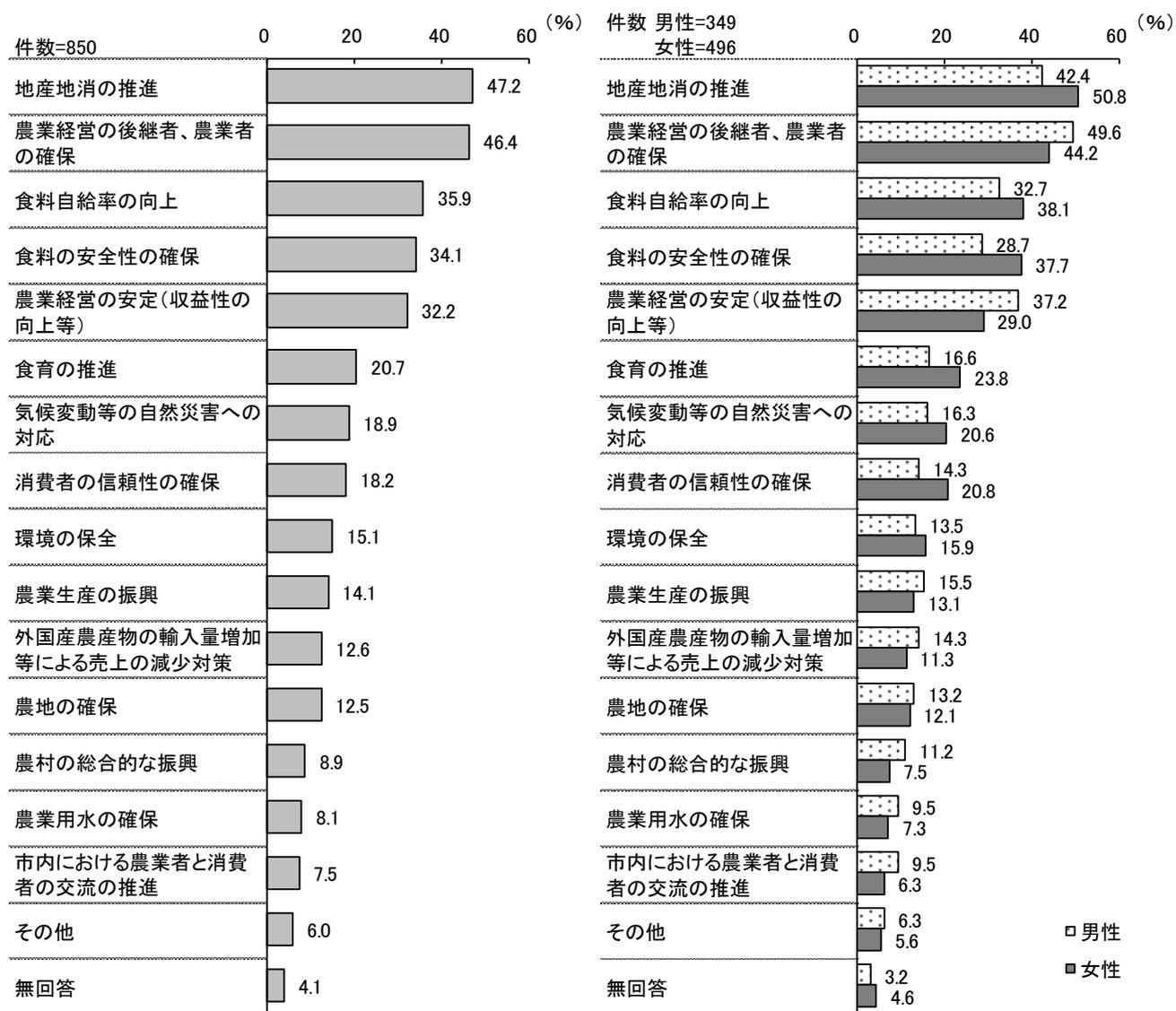


### 3-5 市の農業の課題

問 34 安城市の農業で、特に課題であると思うことは何ですか。（○はいくつでも）

市の農業の課題は、「地産地消の推進」（47.2%）が最も高く、次いで「農業経営の後継者、農業者の確保」（46.4%）、「食料自給率の向上」（35.9%）、「食料の安全性の確保」（34.1%）、「農業経営の安定（収益性の向上等）」（32.2%）となっています。

性別でみると、男性では「農業経営の後継者、農業者の確保」（49.6%）が最も高く、女性では「地産地消の推進」（50.8%）が最も高くなっています。



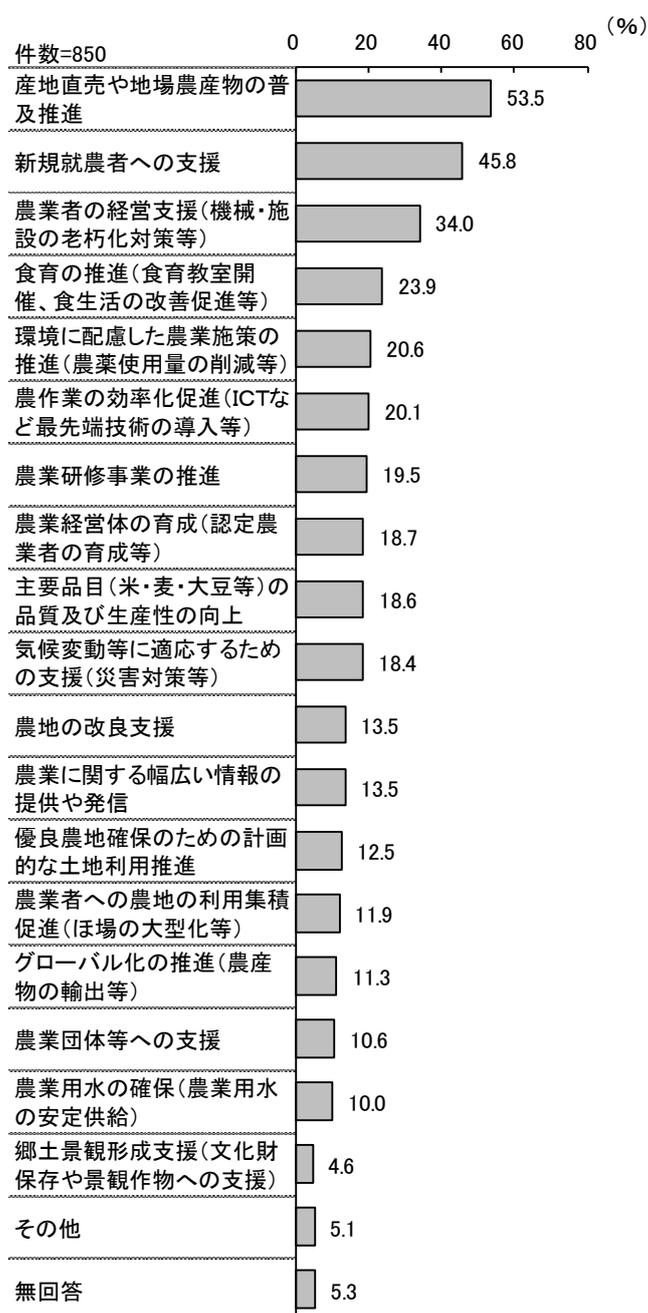
年齢別でみると、いずれの年代でも「地産地消の推進」が第2位までに入っており、20歳代～60歳代では「農業経営の後継者、農業者の確保」も第2位までに入っています。また、70歳代以上では「食料の安全性の確保」が最も高くなっています。

年齢	第1位	第2位	第3位
10歳代 (n=15)	地産地消の推進、食料自給率の向上		後継者・農業者の確保
20歳代 (n=80)	後継者・農業者の確保	地産地消の推進	農業経営の安定
30歳代 (n=112)	地産地消の推進	後継者・農業者の確保	食料自給率の向上
40歳代 (n=128)	後継者・農業者の確保	地産地消の推進	農業経営の安定
50歳代 (n=156)	地産地消の推進	後継者・農業者の確保	食料自給率の向上
60歳代 (n=131)	後継者・農業者の確保	地産地消の推進	食料自給率の向上
70歳代 (n=156)	食料の安全性の確保	地産地消の推進	後継者・農業者の確保
80歳以上 (n=69)	地産地消の推進、食料の安全性の確保		食料自給率の向上

### 3-6 市の農業の課題に必要な施策

問 35 安城市の農業の課題の対策として、特に必要であると思う施策や方針は何ですか。  
(○はいくつでも)

市の農業の課題に必要な施策は、「産地直売や地場農産物の普及推進」(53.5%)が最も高く、次いで「新規就農者への支援」(45.8%)、「農業者の経営支援(機械・施設の老朽化対策等)」(34.0%)、「食育の推進(食育教室開催、食生活の改善促進等)」(23.9%)、「環境に配慮した農業施策の推進(農薬使用量の削減等)」(20.6%)となっています。

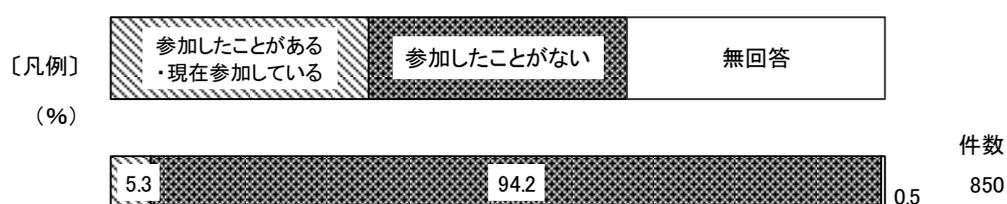


## 4 交流について

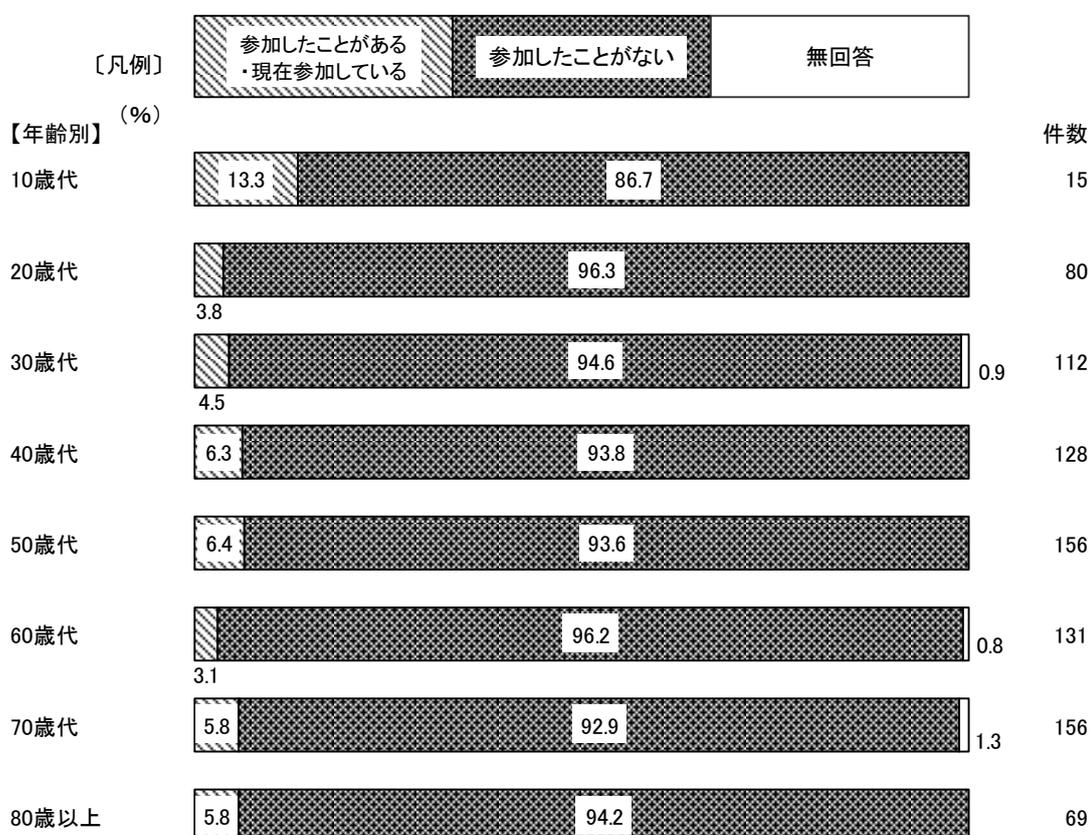
### 4-1 食育に関する講座等への参加状況

問 36 あなたは、食育に関する講座やイベント等に参加したことがありますか。(○は1つ)

食育に関する講座等への参加状況は、「参加したことがある・現在参加している」が5.3%、「参加したことがない」が94.2%となっています。



年齢別でみると、「参加したことがある・現在参加している」は10歳代(13.3%)で1割以上となっています。



## 4-2 参加経験のある講座等

(問 36 で「参加したことがある・現在参加している」に○をつけた方に)

問 36-1 食育に関する講座やイベント等のうち、あなたが参加したことがある・現在参加しているものとその場所(会場)を、具体的にお教えてください。(2つまで・自由記述)

参加経験のある講座等には 47 件の回答があり、具体的な講座・イベント名は、「料理教室」(5件)、「味噌づくり」(4件)、「食育」(3件)、「米づくり」(2件)等となっています。また、その場所は、「学校」「公民館」(ともに7件)が最も多く、次いで「JA」(5件)、「福祉センター」(3件)等となっています。

順位	参加経験のある食育関連講座等<講座・イベント名>	件数
1	料理教室	5
2	味噌づくり	4
3	食育	3
4	米づくり	2
5	JA安城まつり、JA碧南まつり、ウイナーづくり、親子給食づくり、公民館まつり、子どもと野菜の収穫、米の収穫体験、さつまいも掘り、シニア栄養教室、市の出前講座、等	各1

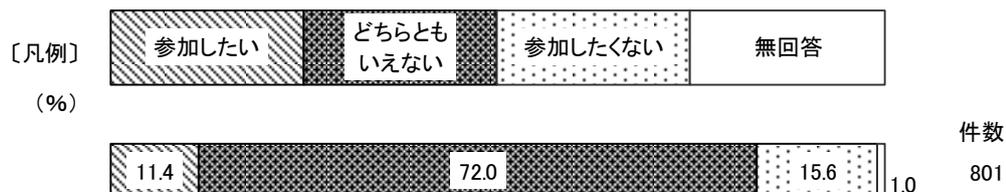
順位	参加経験のある食育関連講座等<場所(会場)>	件数
1	学校	各7
	公民館	
3	JA	5
4	福祉センター	3
5	アンフォーレ、産直センター、デンパーク、デンマート、幼稚園、田んぼ、市外、町内	各2
13	アグリライフ支援センター、交流センター、市民センター、市役所、水の駅、明治用水会館、青少年の家、農林梅林、畑	各1

### 4-3 食育に関する講座等への今後の参加意向

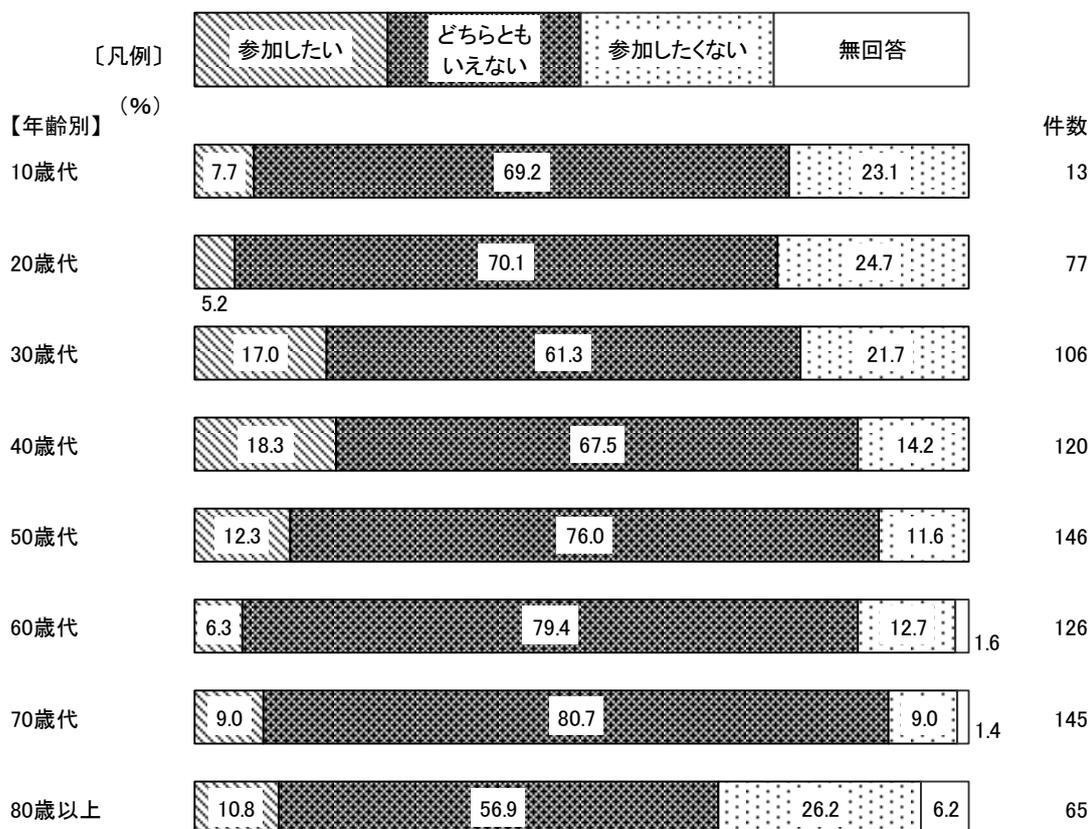
(問 36 で「参加したことがない」に○をつけた方に)

問 36-2 今後、食育に関する講座やイベントに参加したいと思いますか。(○は1つ)

食育に関する講座等への今後の参加意向は、「どちらともいえない」(72.0%)が最も高く、「参加したい」は11.4%、「参加したくない」は15.6%となっています。



年齢別でみると、いずれの年代でも「どちらともいえない」が最も高く、40歳代・50歳代においてのみ「参加したい」が「参加したくない」を上回っています。



問 36-3 食育に関するどのような講座やイベントがあれば参加したいと思いますか。自由にご記入ください。（自由記述）

参加したい食育関連講座等には 219 件の回答があり、「料理教室」（34 件）が最も多く、次いで「調理法・時短レシピ講座等」（15 件）、「野菜に関するイベント」（13 件）、「試食会」（11 件）、「体験型のもの」（9 件）等となっています。

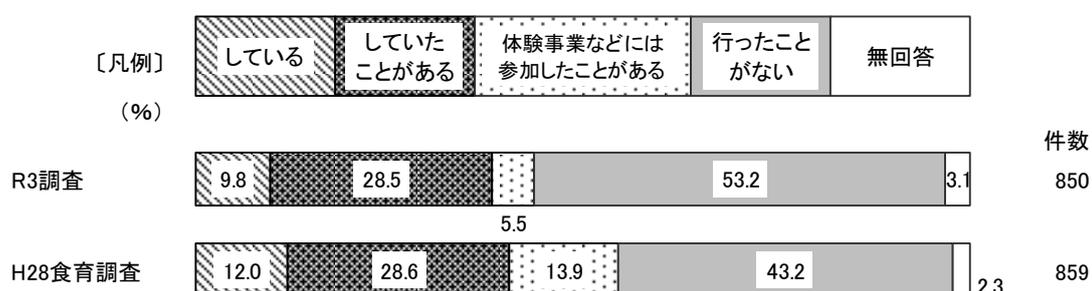
順位	参加したい食育関連講座等（上位 10 項目）	件数
1	料理教室	34
2	調理法・時短レシピ講座等	15
3	野菜に関するイベント	13
4	試食会	11
5	体験型のもの	9
6	親子で体験できるもの	各 8
	オンラインイベント	
8	食育	各 6
	栄養講座	
10	子ども向けのもの	各 5
	気軽に参加できるもの	

#### 4-4 農作業や農業体験の実施状況

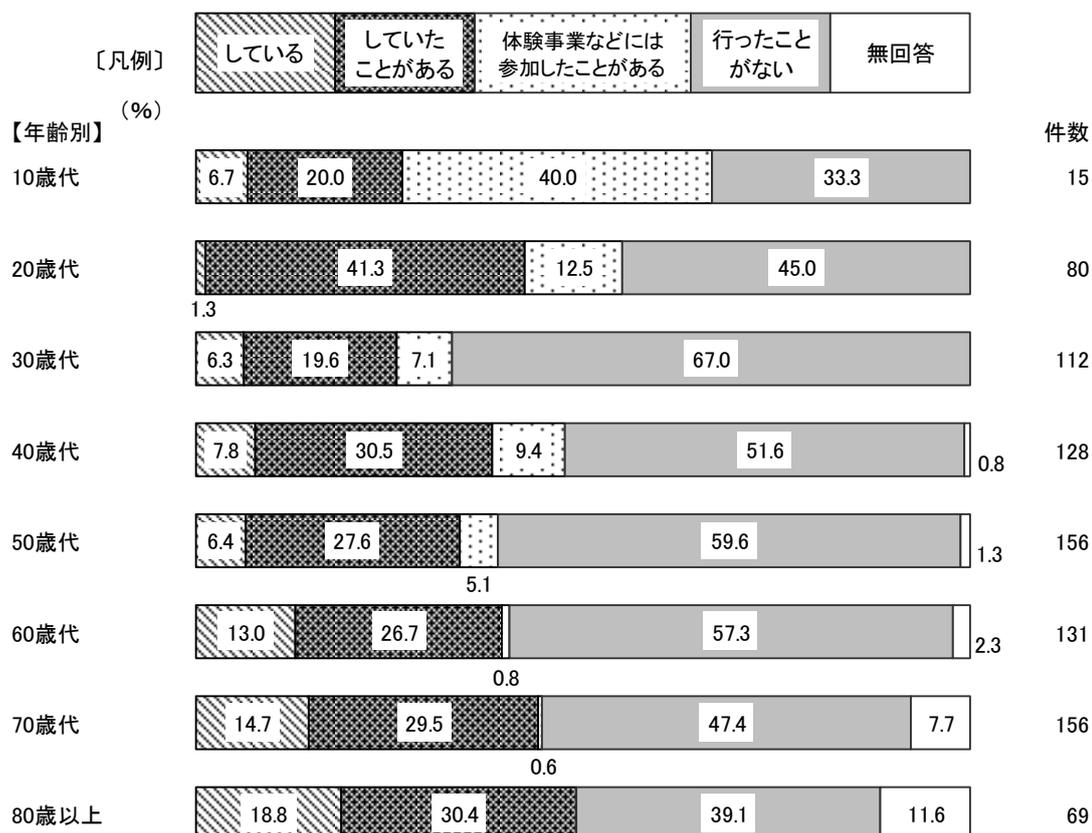
問 37 あなたは、農作業やその体験などを行ったことがありますか。(○は1つ)

農作業や農業体験の実施状況は、「行ったことがない」(53.2%)が最も高く、『行ったことがある』(「農作業やその手伝いなどを行っている」、「農作業やその手伝いなどをしてきたことがある」、「体験事業などには参加したことがある」の計)は43.8%となっています。

前回食育調査と比べると、『行ったことがある』は前回食育調査では54.5%、今回調査では43.8%となっています。



年齢別でみると、10歳代、20歳代、80歳以上では『行ったことがある』が「行ったことがない」を上回っています。



#### 4-5 参加経験のある農作業の体験事業等

(問 37 で「体験事業などには参加したことがある」に○をつけた方に)

問 37-1 農作業の体験事業等のうち、あなたが参加したことがあるものと、その場所(会場)を、具体的にお教えてください。(2つまで・自由記述)

参加経験のある農作業の体験事業等には 51 件の回答があり、具体的な事業・イベント名は「米づくり」(27 件)が最も多く、次いで「芋掘り・芋づくり」(9 件)、「野菜づくり」(4 件)、「茶摘み」(2 件)等となっています。また、その場所は「学校」(16 件)が最も多く、次いで「市外」(8 件)、「JA」「田んぼ」(ともに 5 件)等となっています。

順位	参加経験のある農作業の体験事業等<事業・イベント名>	件数
1	米づくり	27
2	芋掘り・芋づくり	9
3	野菜づくり	4
4	茶摘み	2
5	田んぼアート、りんご狩り、もぎ取り体験、ぶどう狩り、チンゲンサイ収穫、しいたけ採り、学校の授業、等	各 1

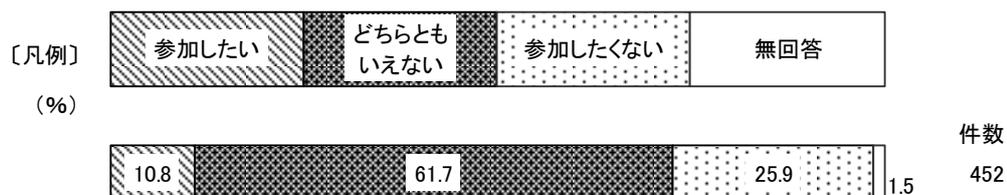
順位	参加経験のある農作業の体験事業等<場所(会場)>	件数
1	学校	16
2	市外	8
3	JA	各 5
	田んぼ	
5	市内	4
6	アグリライフ支援センター	各 2
	どろんこ村	
	幼稚園	
9	あおいパーク、アグリファーム、エコネット田んぼの学校、チンゲンサイハウス、畑、等	各 1

#### 4-6 農作業の体験事業等への今後の参加意向

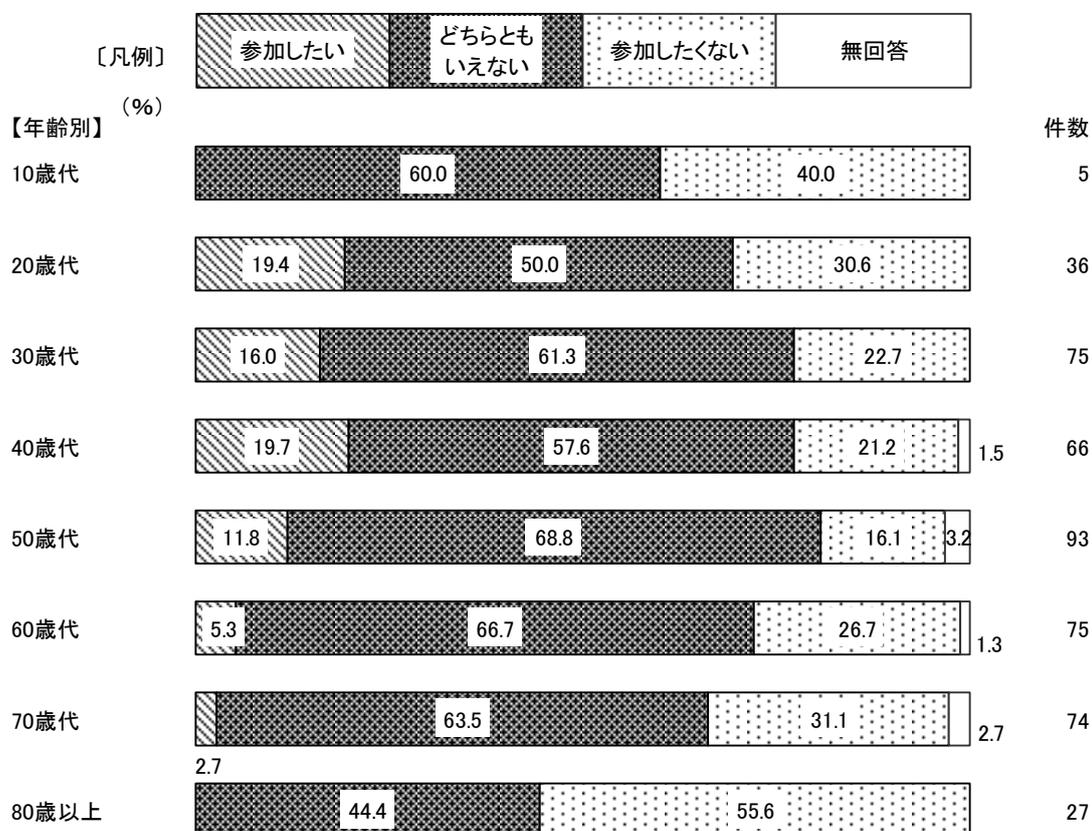
(問 37 で「行ったことがない」に○をつけた方に)

問 37-2 今後、農作業の体験事業に参加したいと思いますか。(○は1つ)

農作業の体験事業等への今後の参加意向は、「どちらともいえない」(61.7%)が最も高く、「参加したい」は10.8%、「参加したくない」は25.9%となっています。



年齢別でみると、80歳以上では「参加したくない」が最も高く、その他の年代では「どちらともいえない」が最も高くなっており、いずれの年代でも「参加したくない」が「参加したい」を上回っています。



問 37-3 どのような農作業の体験事業があれば参加したいと思いますか。自由にご記入ください。（自由記述）

参加したい農作業の体験事業には 104 件の回答があり、「収穫体験」（14 件）が最も多く、次いで「米づくり」（13 件）、「野菜づくり」「収穫から調理へ」「家庭菜園講習等」（いずれも 10 件）等となっています。

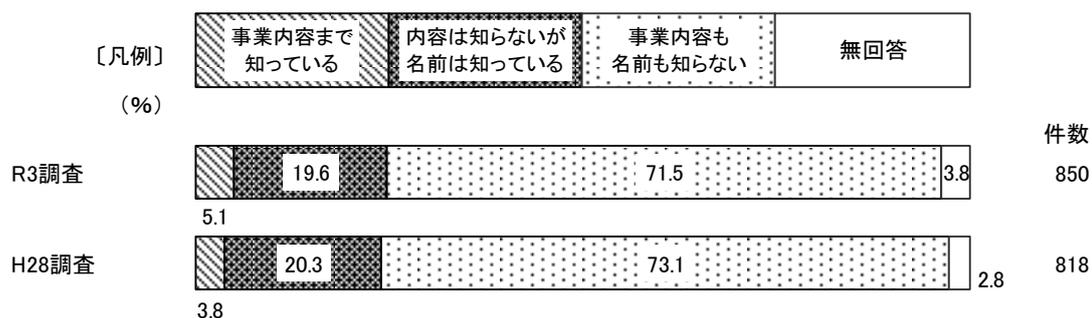
順位	参加したい農作業の体験事業（上位 10 項目）	件数
1	収穫体験	14
2	米づくり	13
3	野菜づくり	各 10
	収穫から調理へ	
	家庭菜園講習等	
6	農作業体験	6
7	子ども向けのもの	4
8	芋掘り	各 3
	お土産付きイベント	
10	料理体験、畑作業、子どもと参加できるもの、高齢者向けのもの、トラクター等の農機具を使ったもの	各 2

#### 4-7 アグリライフ支援センターの認知度

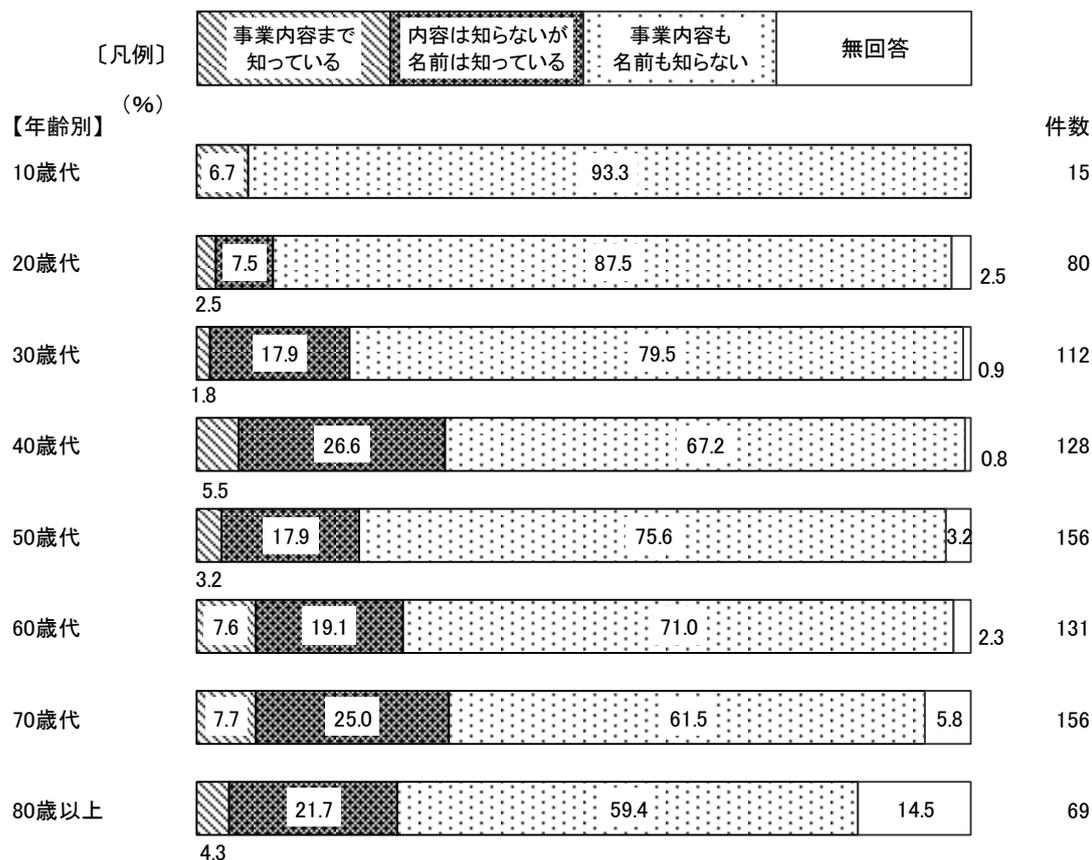
問 38 あなたは、アグリライフ支援センターを知っていますか。（○は1つ）

アグリライフ支援センターの認知度は、「事業内容も名前も知らない」（71.5%）が最も高く、「事業内容まで知っている」は5.1%、「事業内容は知らないが、名前は知っている」は19.6%となっています。「事業内容まで知っている」と「事業内容は知らないが、名前は知っている」を合わせた『知名度』は24.7%となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



年齢別でみると、いずれの年代でも「事業内容も名前も知らない」が最も高く、『知名度』は10歳代（6.7%）・20歳代（10.0%）で1割以下、40歳代（32.1%）・70歳代（32.7%）で3割以上となっています。

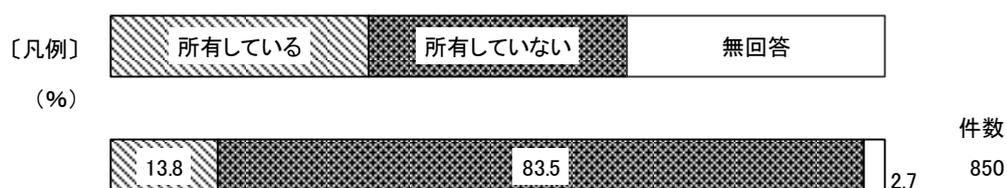


## 5 農地や農村地域との関わりについて

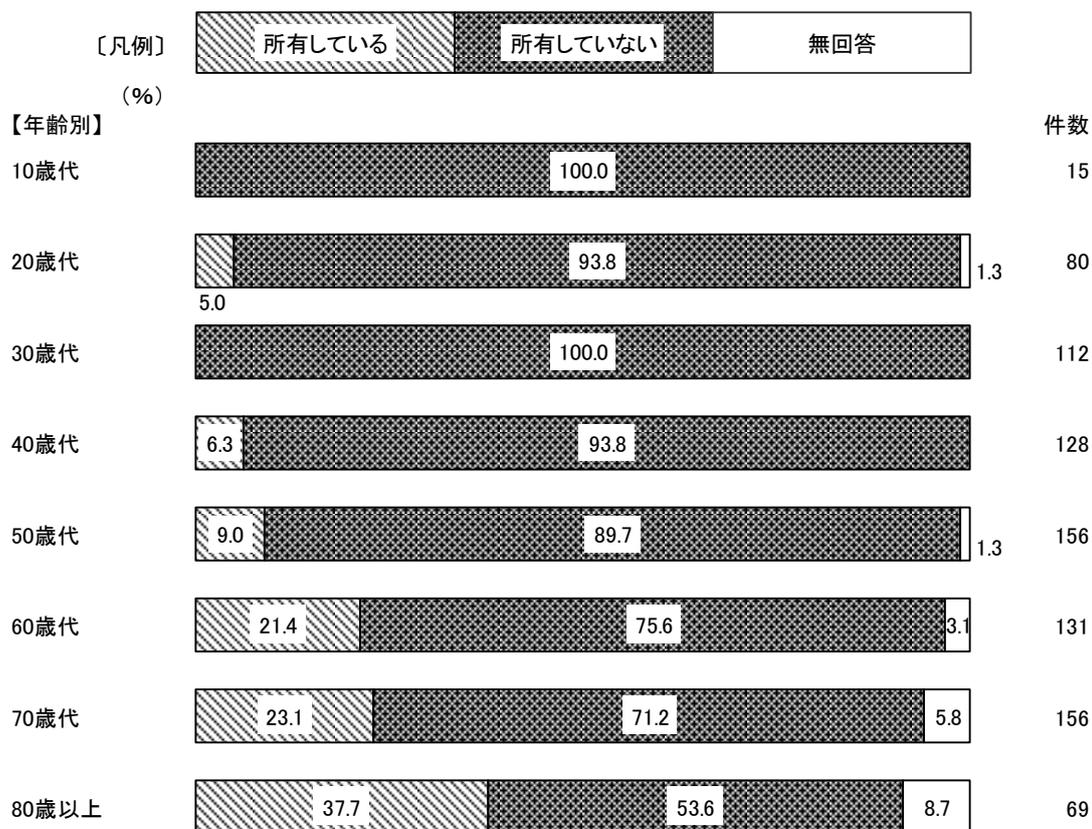
### 5-1 農地の所有状況

問 39 あなたは、現在、農地を所有していますか。（〇は1つ）

農地の所有状況は、「所有している」が13.8%、「所有していない」が83.5%となっています。



年齢別でみると、「所有している」は60歳代以上で2割以上となっています。

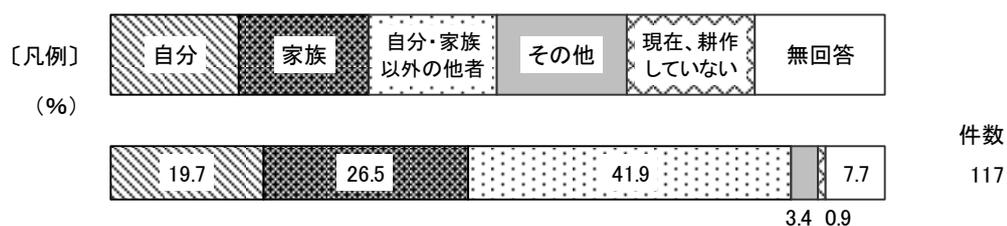


## 5-2 所有農地の耕作者

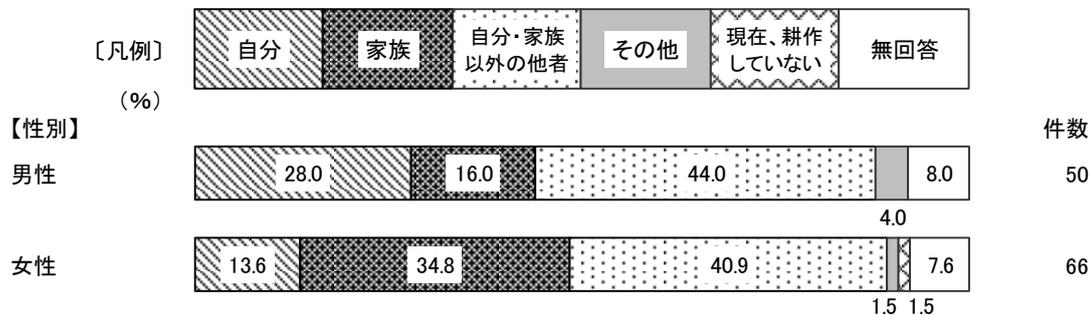
(問 39 で「所有している」に○をつけた方に)

問 39-1 あなたが所有している農地の耕作は、主にどなたが行っていますか。(○は1つ)

所有農地の耕作者は、「自分・家族以外の他者(作業委託先、等)」(41.9%)が最も高く、次いで「家族」(26.5%)、「自分」(19.7%)となっています。また、「現在、耕作していない」は0.9%となっています。



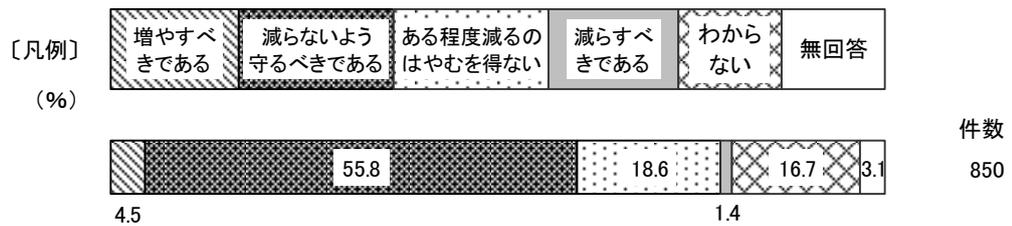
性別でみると、男女ともに「自分・家族以外の他者」が最も高く、次いで男性では「自分」(28.0%)、女性では「家族」(34.8%)が高くなっています。



### 5-3 市の農地の今後についての考え

問 40 あなたは、安城市の農地について、どのようにお考えですか。（○は1つ）

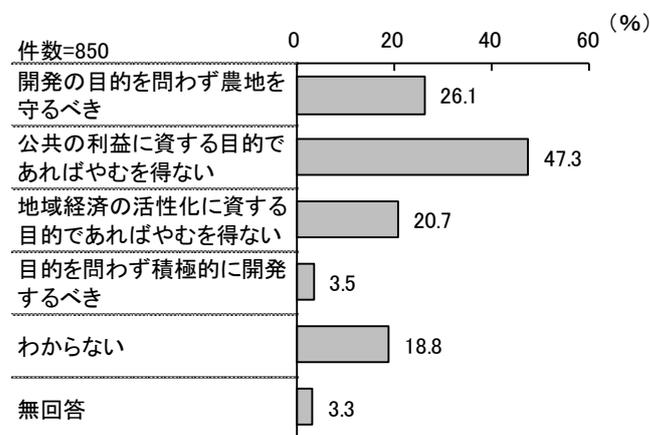
市の農地の今後についての考えは、「現在ある農地は残し、これ以上減らないよう農地を守るべきである」（55.8%）が最も高く、「農地がある程度減ることはやむを得ない」は18.6%、「農地は増やすべきである」は4.5%、「農地は減らすべきである」は1.4%となっています。また、「わからない」は16.7%となっています。



### 5-4 市の農地の減少傾向に対する考え

問 41 安城市の農地は年々減少傾向にあります。どのようにお考えですか。（○はいくつでも）

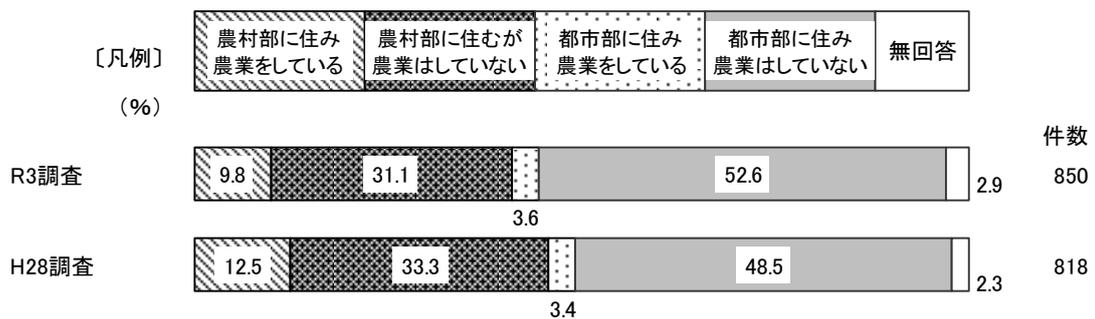
市の農地の減少傾向に対する考えは、「公共の利益に資する目的（福祉や保育施設の建設等）であればやむを得ない」（47.3%）が最も高く、次いで「開発の目的を問わず農地を守るべき」（26.1%）、「地域経済の活性化に資する目的であればやむを得ない」（20.7%）、「目的を問わず積極的に開発するべき」（3.5%）となっています。また、「わからない」は18.8%となっています。



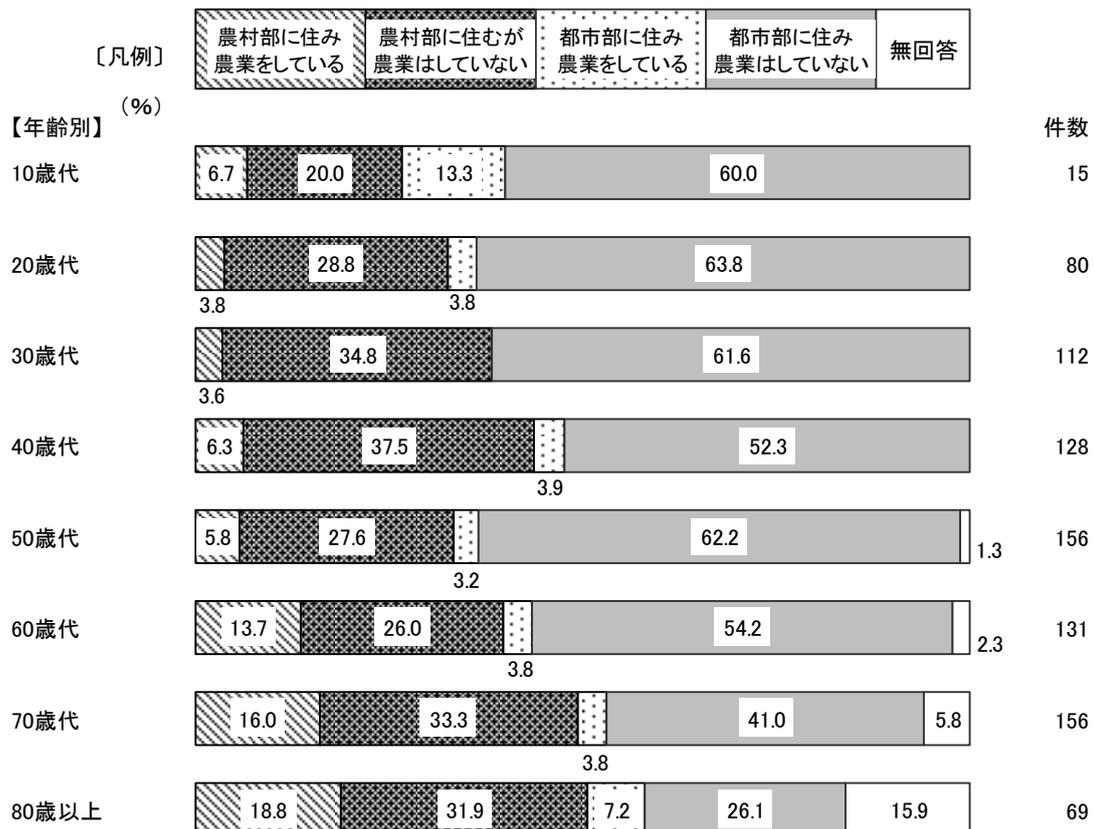
## 5-5 農業・農村との関わり

問 42 あなたと農業・農村との関わりを教えてください。(○は1つ)

農業・農村との関わりは、「都市部に住み農業はまったくしていない」(52.6%)が最も高く、次いで「農村部に住んでいるが農業はまったくしていない」(31.1%)、「農村部(農村がある地域)に住み農業(規模の大小は問わない)をしている」(9.8%)、「都市部に住み農業(規模の大小は問わない)をしている」(3.6%)となっています。前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



年齢別でみると、80歳以上では「農村部に住んでいるが農業はまったくしていない」(31.9%)が最も高く、その他の年代では「都市部に住み農業はまったくしていない」が最も高くなっています。

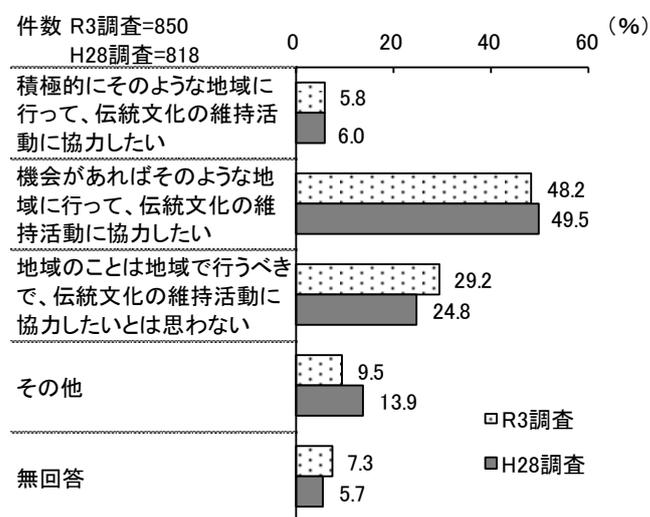


## 5-6 今後の農村地域との関わり

問 43 あなたは今後、農村地域に対して、どのように関わりたいですか。(○は1つ)

今後の農村地域との関わりは、「機会があればそのような地域（集落）に行って、農作業や環境保全活動・お祭りなどの伝統文化の維持活動に協力したい」（48.2%）が最も高く、次いで「地域のことは地域で行うべきであり、農作業や環境保全活動・お祭りなどの伝統文化の維持活動に協力したいとは思わない」（29.2%）、「積極的にそのような地域（集落）に行って、農作業や環境保全活動・お祭りなどの伝統文化の維持活動に協力したい」（5.8%）となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

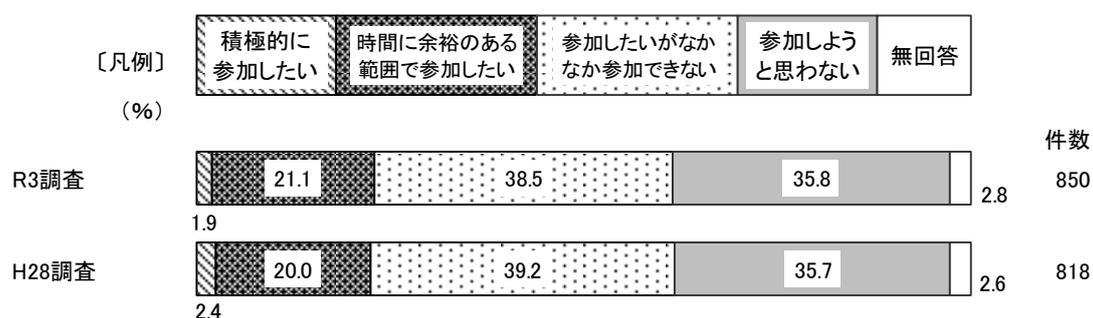


## 5-7 地域づくり活動（耕作放棄地での農作業等）への参加意向

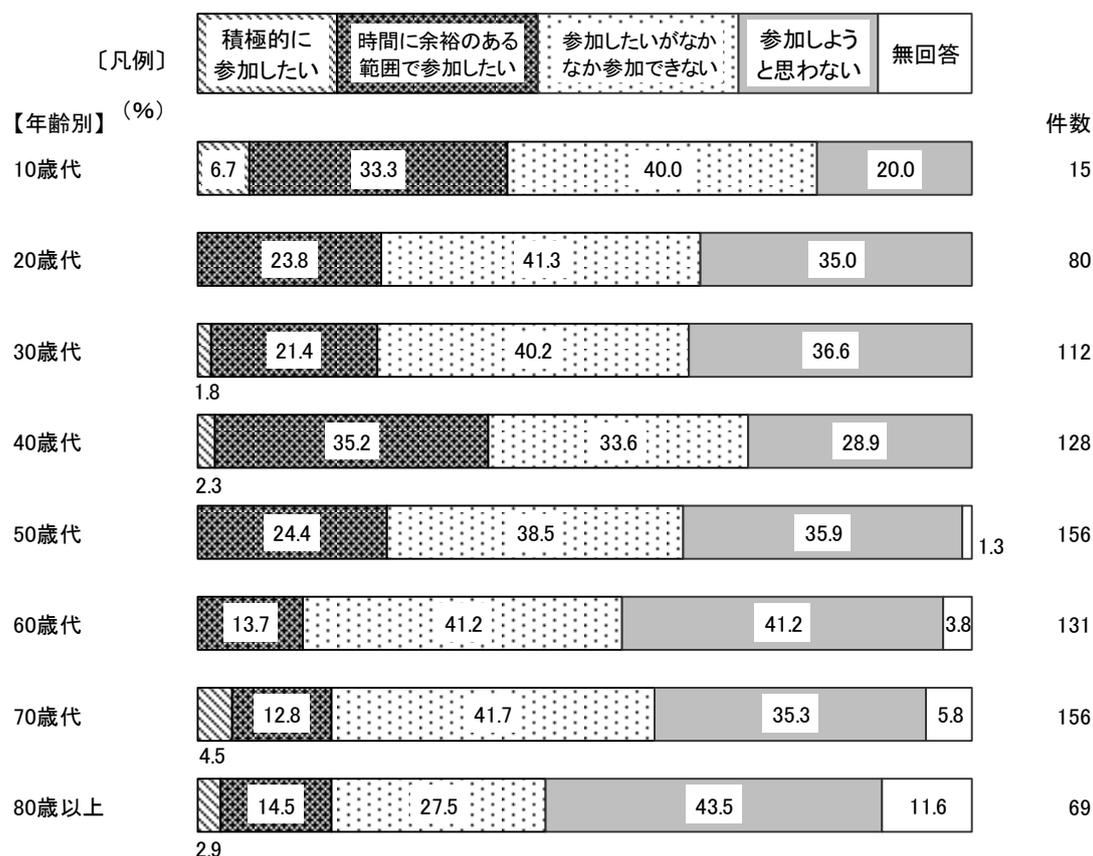
問 44 あなたは地域づくり活動（耕作放棄地での農作業、農業体験や研修等の都市・農村交流など）に参加したいですか。（○は1つ）

地域づくり活動（耕作放棄地での農作業等）への参加意向は、「参加したいが、実際にはなかなか参加できない」（38.5%）が最も高く、次いで「参加しようと思わない」（35.8%）、「関心がある活動については、時間に余裕のある範囲で参加したい」（21.1%）、「積極的に参加したい」（1.9%）となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



年齢別でみると、40歳代では「関心がある活動については、時間に余裕のある範囲で参加したい」（35.2%）、80歳以上では「参加しようと思わない」（43.5%）がそれぞれ最も高く、その他の年代では「参加したいが、実際にはなかなか参加できない」が最も高くなっています。

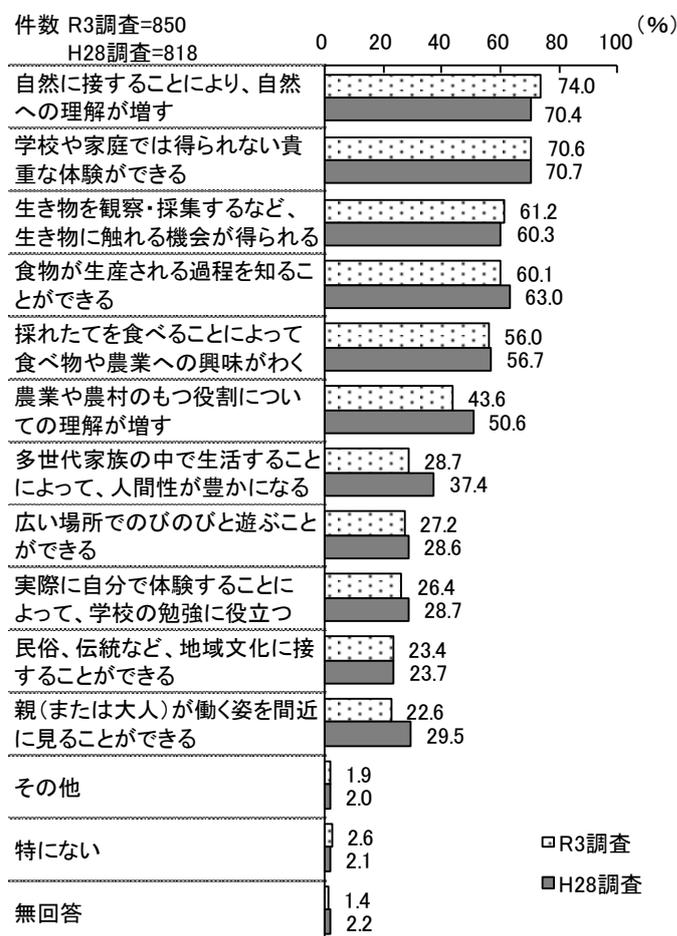


## 5-8 農村生活や農業体験の子どもの教育上の意義

問 45 あなたは、子どもの教育にとって、農村での生活や農業体験がどのような意味を持つと思いますか。（〇はいくつでも）

農村生活や農業体験の子どもの教育上の意義は、「自然に接することにより、自然への理解が増す」（74.0%）が最も高く、次いで「学校や家庭では得られない貴重な体験ができる」（70.6%）、「生き物を観察・採集するなど、生き物に触れる機会が得られる」（61.2%）、「食物が生産される過程を知ることができる」（60.1%）、「採れたての食べ物を食べることによって、食べ物や農業への興味がわく」（56.0%）となっています。

前回調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



## 5-9 食料・農業・交流に関する意見等

問 46 最後に、食料・農業・交流に関するあなたのご意見等を自由にご記入ください。  
(自由記述)

食料・農業・交流に関して、241 件のご意見をいただきました。  
内容別の件数は、下表のとおりです。

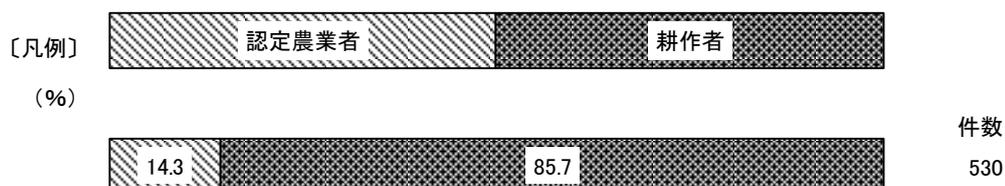
内容	件数
交流機会（イベント、学校での農業体験など）	33
農地の利用	20
農業経営体の支援、農業保護	18
就農支援	17
食育	15
食の安全	14
地産地消	13
特産品の P R	10
産直	10
生産振興	10
食料自給率	9
食に関する情報	8
担い手・後継者	7
農地の保全	6
農業への理解	6
農業の活性化	5
家庭菜園	5
食品ロス	4
市の農業振興ビジョン	4
6次産業化	3
給食	2
食文化	2
病虫害防除	1
その他	19
合計	241

### Ⅲ 農業者アンケート調査の結果

#### 1 回答者の属性

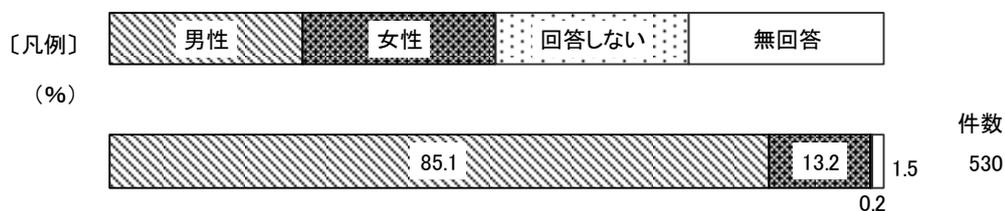
##### 1-1 農業者区分

調査回答者の農業者区分は、「認定農業者」が14.3%、「耕作者」が85.7%となっています。

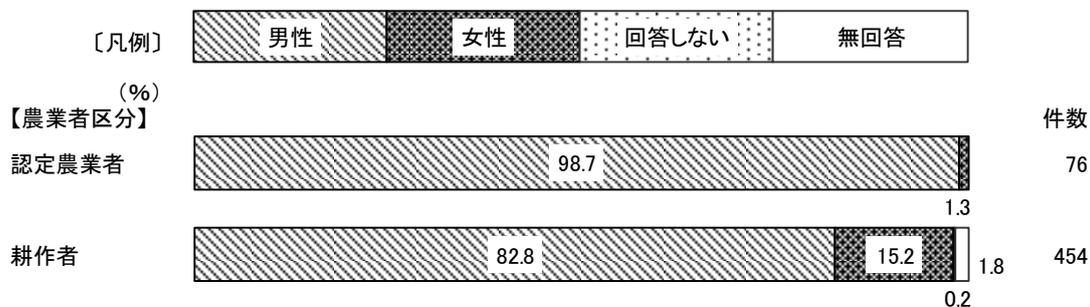


##### 1-2 性別

性別は、「男性」が85.1%、「女性」が13.2%となっています。

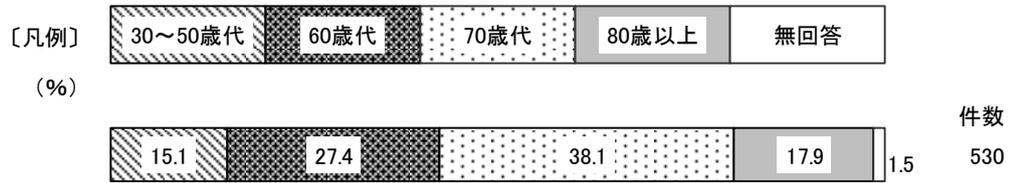


農業者区分別で見ると、認定農業者では「男性」が98.7%となっています。

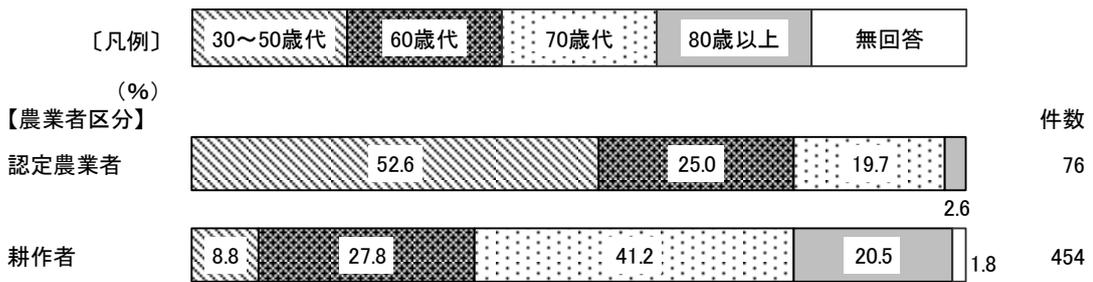


### 1-3 年齢

年齢（令和4年4月1日現在）は、「70歳代」（38.1%）が最も高く、次いで「60歳代」（27.4%）、「80歳以上」（17.9%）、「30～50歳代」（15.1%）となっています。



農業者区分別でみると、認定農業者では「30～50歳代」（52.6%）が最も高く、耕作者では「70歳代」（41.2%）が最も高くなっています。

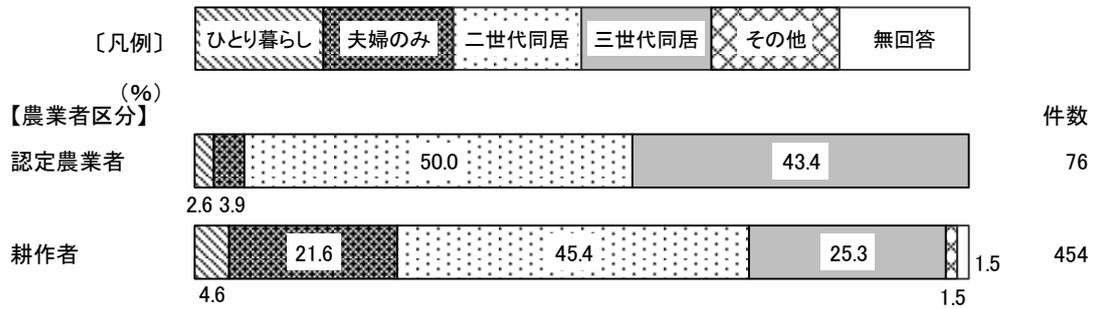


### 1-4 家族構成

家族構成は、「二世世代同居（親・子）」（46.0%）が最も高く、次いで「三世世代同居（親・子・孫）」（27.9%）、「夫婦のみ」（19.1%）、「ひとり暮らし」（4.3%）となっています。

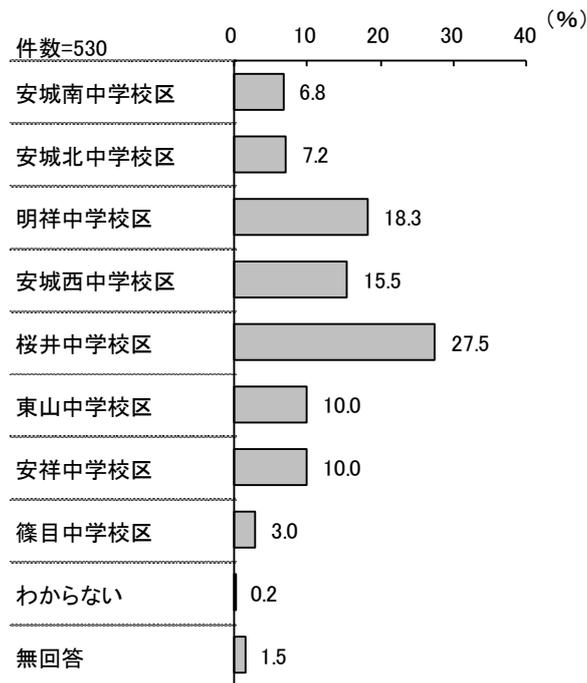


農業者区分別でみると、「二世世代同居」と「三世世代同居」の合計が認定農業者では93.4%、  
 耕作者では70.7%となっています。



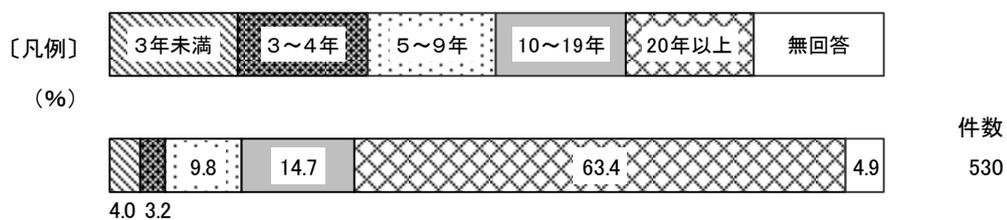
### 1-5 居住地区

居住地区（中学校区）は、「桜井中学校区」（27.5%）が最も高く、「篠目中学校区」（3.0%）が最も低くなっています。

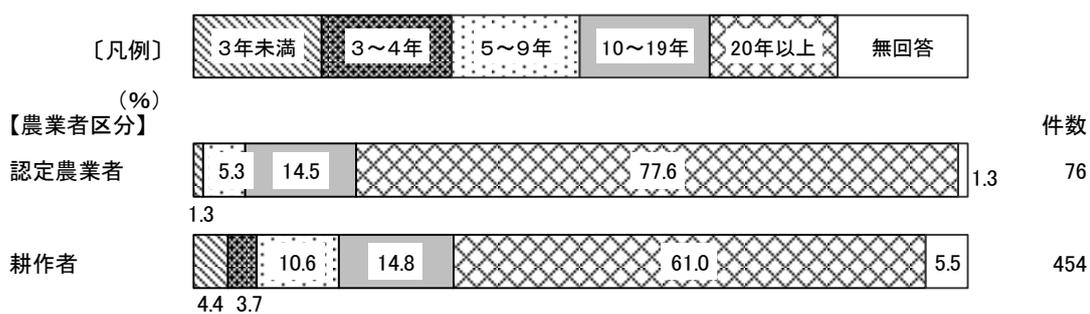


## 1-6 農業従事年数

農業従事年数は、「20年以上」(63.4%)が最も高く、次いで「10～19年」(14.7%)、「5～9年」(9.8%)となっています。



農業者区分別でみると、いずれも「20年以上」が過半数を占めて最も高く、認定農業者では77.6%、耕作者では61.0%となっています。

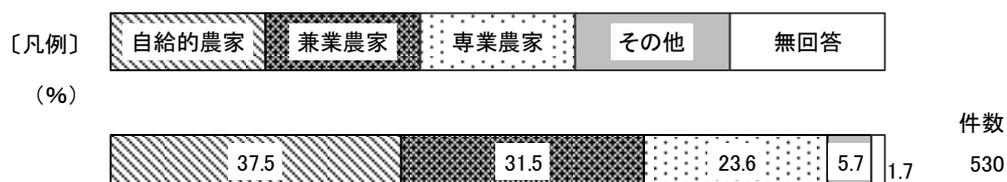


## 2 世帯及び農業経営の現状について

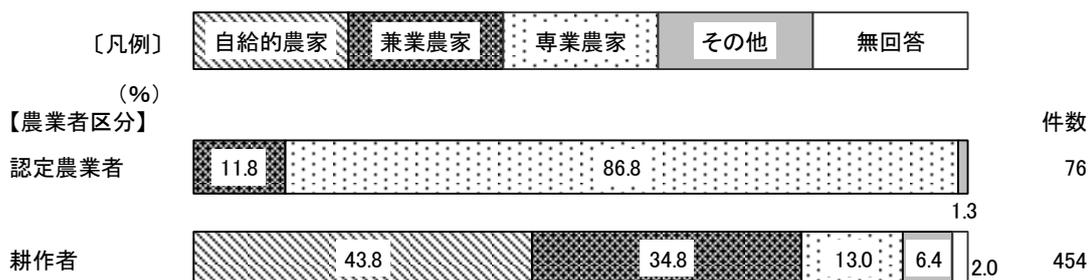
### 2-1 世帯（農家）の区分

問6 あなたの世帯は、次のどれにあてはまりますか。（○は1つ）

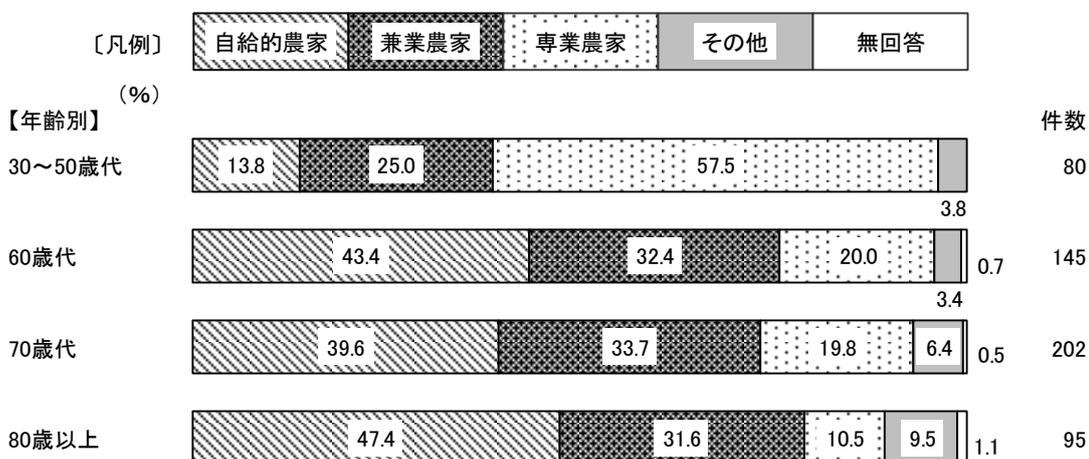
世帯（農家）の区分は、「自給的農家」が37.5%、「兼業農家」が31.5%、「専業農家」が23.6%となっています。



農業者区分別でみると、認定農業者では「専業農家」（86.8%）が9割弱を占め、耕作者では「自給的農家」（43.8%）が最も高くなっています。



年齢別でみると、30～50歳代では「専業農家」（57.5%）、その他の年代では「自給的農家」が最も高くなっています。

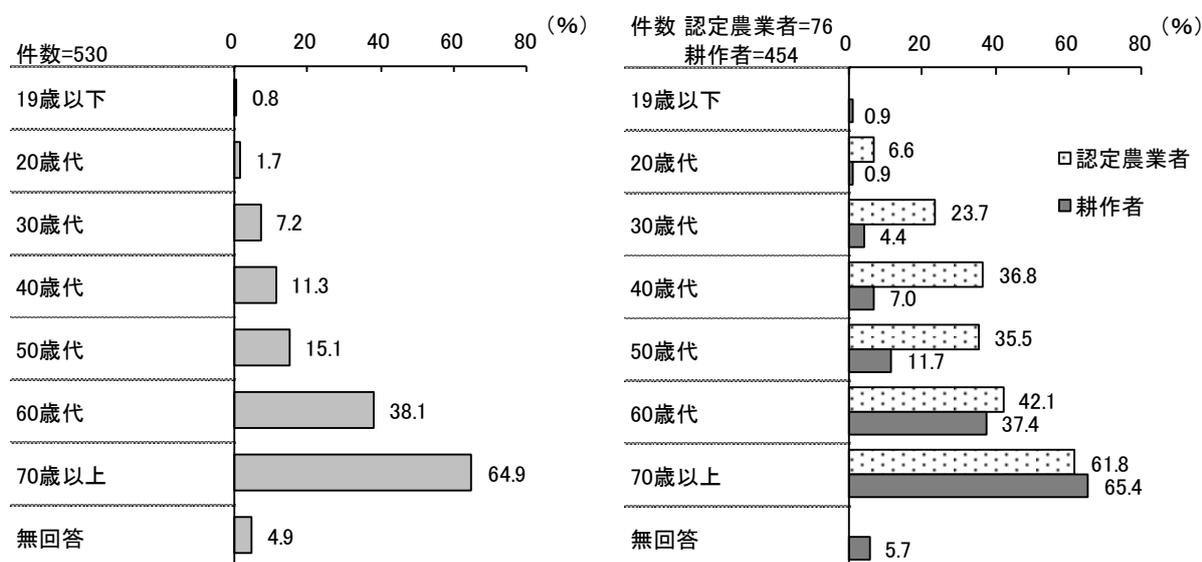


## 2-2 農業従事家族の年齢構成

問7 ご家庭のなかで農業に携わっている方の人数（あなた自身を含めた数）を年齢別にお書きください。（それぞれ数字を記入）

農業従事家族の年齢構成は、年齢が高いほど割合が高く、「70歳以上」が64.9%となっています。

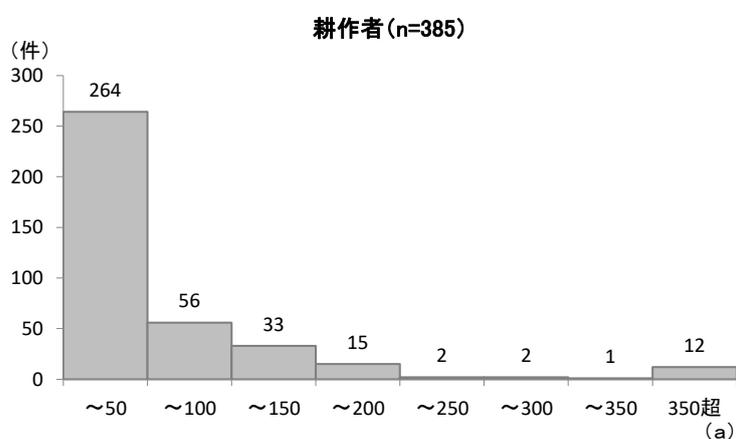
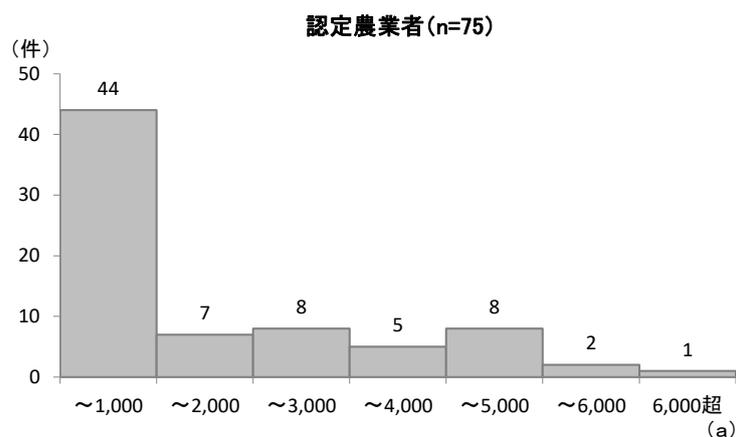
農業者区分別で見ると、「30歳代」～「50歳代」の割合が、認定農業者では3割前後、耕作者では1割前後となっています。



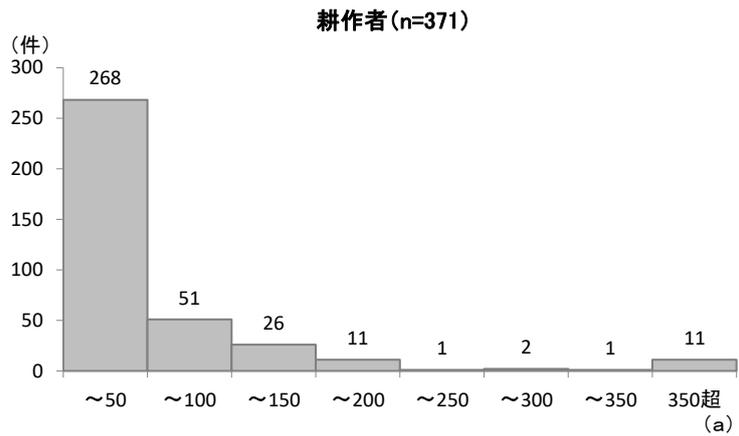
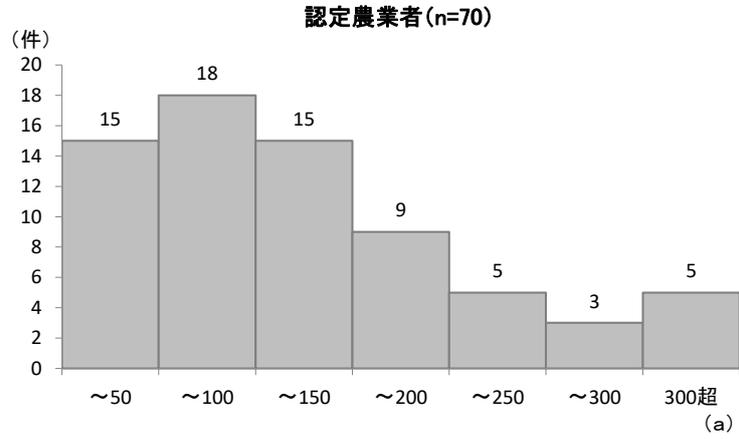
## 2-3 耕作農地面積及び所有農地面積

問8 あなたの世帯は、どのくらいの農地を耕作していますか。また、そのうち所有している農地はどのくらいですか。( )内に数値をお書きください。(それぞれ数字を記入)

耕作農地面積について農業者区分別でみると、認定農業者では1,000a以下が最も多く、平均面積は1,622aとなっています。耕作者では50a以下が最も多く、平均面積は93aとなっています。



耕作農地のうち所有農地面積について農業者区別で見ると、認定農業者では50a超100a以下が最も多く、平均面積は268aとなっています。耕作者では50a以下が最も多く、平均面積は100aとなっています。

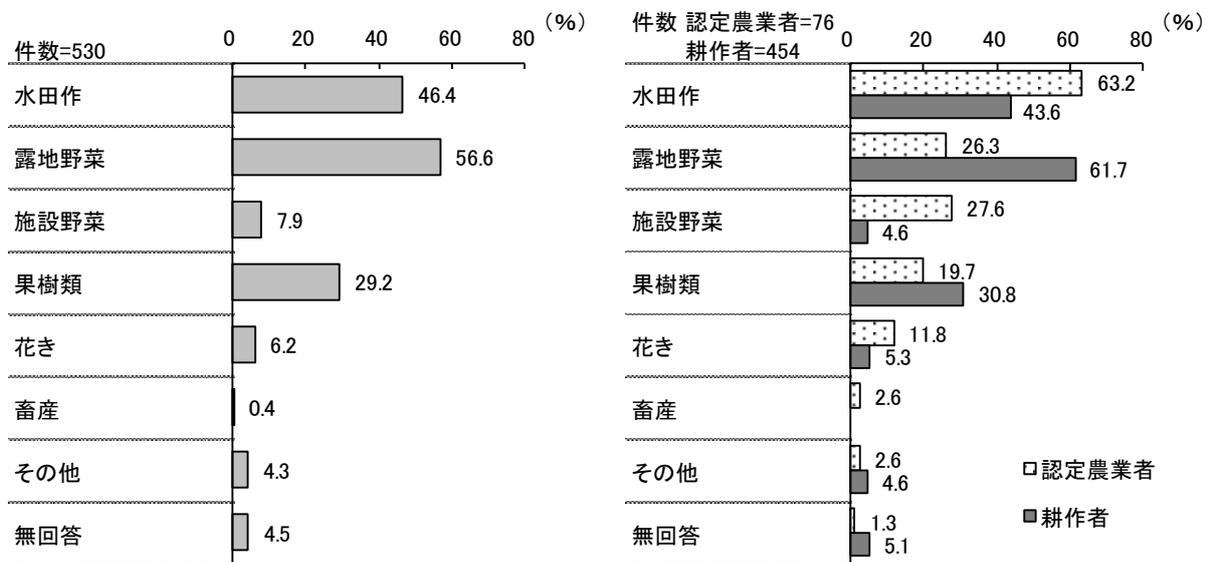


## 2-4 世帯で耕作している作目

問9 あなたの世帯で耕作している作目は何ですか。(○はいくつでも)

また、代表的な作物名または畜種を種類別にお書きください。(自由記述)

世帯で耕作している作物について農業者区分別でみると、認定農業者では「水田作」(63.2%)が最も高く、次いで「施設野菜」(27.6%)、「露地野菜」(26.3%)となっています。耕作者では「露地野菜」(61.7%)が最も高く、次いで「水田作」(43.6%)、「果樹類」(30.8%)となっています。



代表的な作物名または畜種の上位回答は、下表のとおりです。

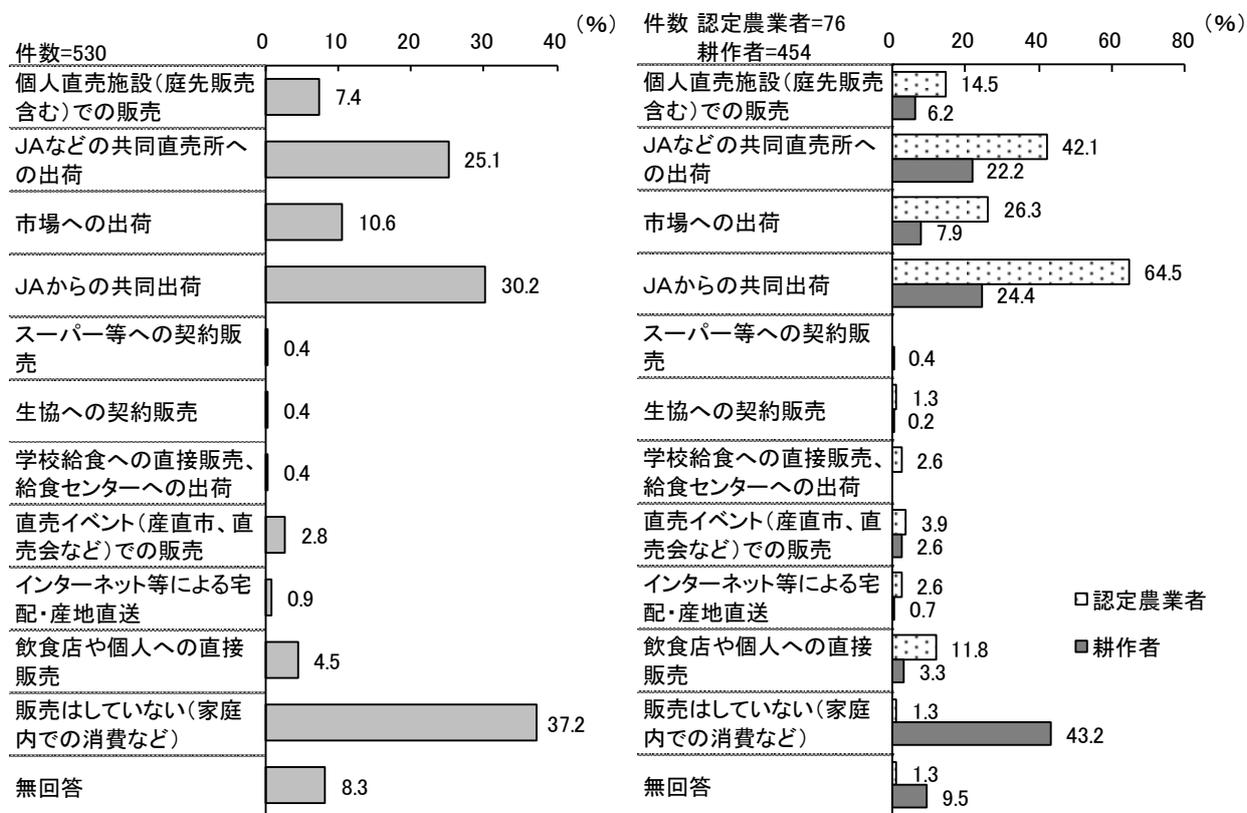
	水田作		露地野菜		施設野菜	
1	稲、水稻、米	149	大根	103	きゅうり	14
2	麦	46	白菜	75	ほうれん草	9
3	大豆	37	なす	51	いちご、チンゲンサイ	各 6
4	あいちのかおり	29	キャベツ	50		
5	コシヒカリ	12	じゃがいも	47	小松菜、大根、トマト	各 2
総数		301		757		52

	果樹類		花き		畜産		その他	
1	いちじく	41	菊	10	酪農、養鶏	各 1	茶、自給野菜	各 5
2	柿、みかん	各 37	観葉植物	4				
3			ストック、	各 2	-	-	営農等へ委託	4
4	梨	29	キンセンカ、		-	-	貸付	2
5	ぶどう	15	花木		-	-	花種子、等	各 1
総数		214		44		2		20

## 2-5 農畜産物の販売方法

問 10 農畜産物はどのような方法で販売されていますか。(〇はいくつでも)

農畜産物の販売方法について農業者区分別でみると、「販売はしていない(家庭内での消費など)」を除いていずれも「JAからの共同出荷」が最も高く、次いで「JAなどの共同直売所への出荷」、「市場への出荷」、「個人直売施設(庭先販売含む)での販売」となっています。「販売はしていない」は認定農業者で1.3%、耕作者で43.2%となっています。

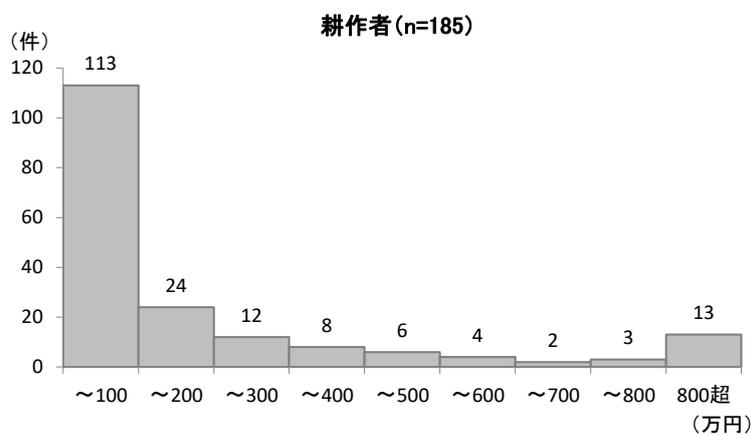
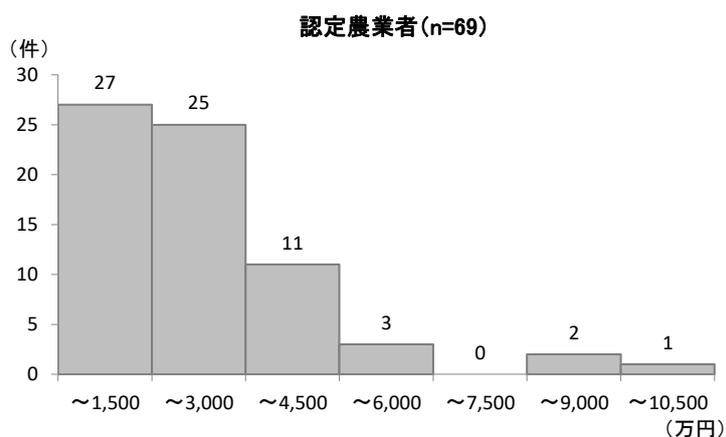


## 2-6 農畜産物の年間販売金額

(問 10 で「販売はしていない」以外のいずれかに○をつけた方に)

問 10-1 昨年の農畜産物の年間販売金額はどのくらいですか。(数字を記入)

農畜産物の年間販売金額について農業者区分別で見ると、認定農業者では 1,500 以下及び 1,500 万超 3,000 万円以下が多く、平均金額は 2,446 万円となっています。耕作者では 100 万円以下が最も多く、平均金額は 226 万円となっています。



平均年間販売金額についてさらに農家区分別でみると、専業農家で1,765万円、兼業農家で155万円、自給的農家で31万円となっています。

また、年齢別でみると、30～50歳代で2,204万円、60歳代で721万円、70歳代で365万円、80歳以上で146万円となっています。

		件数	(平均 万円)	(最大 円値)
全体		254	829	10,000
農 業 者 区 分	認定農業者	69	2,446	10,000
	耕作者	185	226	3,000
農 家 区 分	自給的農家	38	31	100
	兼業農家	102	155	1,637
	専業農家	109	1,765	10,000
	その他	4	292	900
年 齢	30～50歳代	55	2,204	10,000
	60歳代	67	721	5,000
	70歳代	99	365	4,000
	80歳以上	33	146	900

平均年間販売金額について農畜産物の販売方法（問10）別でみると、「飲食店や個人への直接販売」との回答者で1,349万円、「市場への出荷」で1,185万円、「JAからの共同出荷」で1,072万円、「個人直売施設での販売」で838万円、「直売イベントでの販売」で779万円、「JAなどの共同直売所への出荷」で700万円となっています。

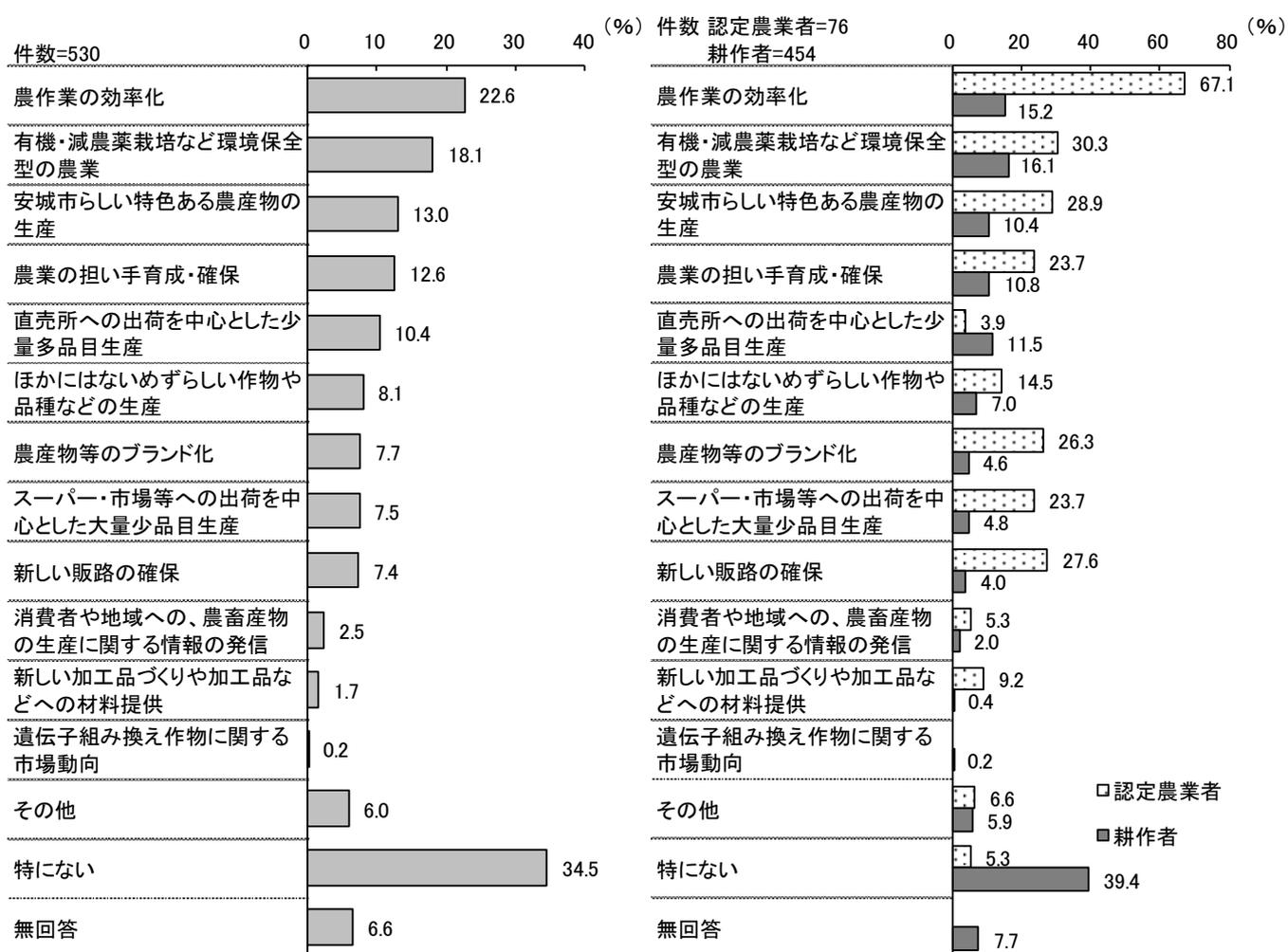
		件数	(平均 万円)	(最大 円値)
全体		254	829	10,000
農 畜 産 物 の 販 売 方 法	個人直売施設での販売	36	838	4,500
	JAなどの共同直売所への出荷	119	700	5,000
	市場への出荷	48	1,185	10,000
	JAからの共同出荷	142	1,072	10,000
	スーパー等への契約販売	2	975	1,900
	生協への契約販売	2	2,350	4,000
	学校給食への直接販売、給食センターへの出荷	1	3,000	3,000
	直売イベントでの販売	14	779	4,100
	インターネット等による宅配・産地直送	5	1,352	4,000
	飲食店や個人への直接販売	23	1,349	4,400

## 2-7 農業経営にあたって重視していること

問 11 現在、農業経営にあたってあなたが重視していることは次のうちどれですか。現在も  
行っている場合も含めてお答えください。（○はいくつでも）

農業経営にあたって重視していることは、「農作業の効率化」（22.6%）が最も高く、  
次いで「有機・減農薬栽培など環境保全型の農業」（18.1%）、「安城市らしい特色あ  
る農産物の生産」（13.0%）、「農業の担い手育成・確保」（12.6%）、「直売所への  
出荷を中心とした少量多品目生産」（10.4%）となっています。

農業者区分別で見ると、認定農業者では「新しい販路の確保」（27.6%）が第4位（耕  
作者では第9位）と高く、耕作者では「特にない」（39.4%）が約4割となっています。

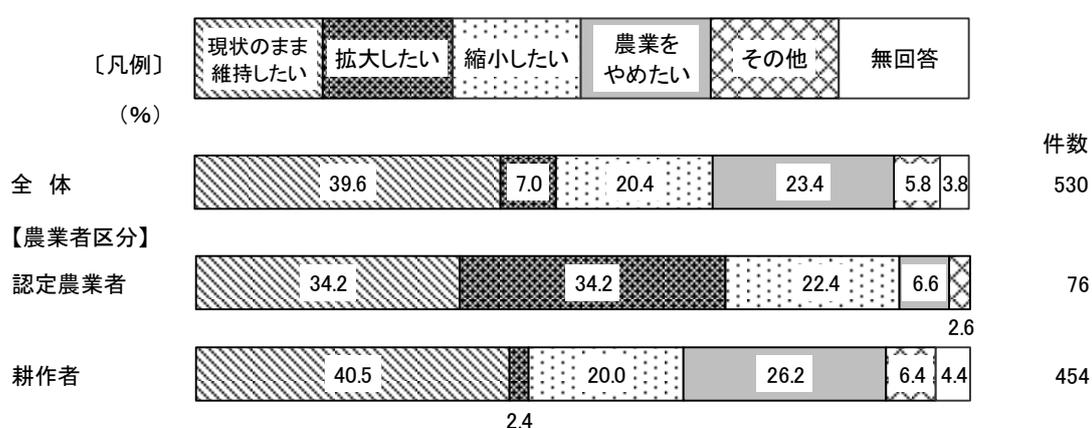


### 3 今後の農業経営について

#### 3-1 農業経営の拡大・縮小の意向

問 12 あなたの世帯のおよそ 10 年後の農業経営について、どのようにお考えですか。  
 (○は1つ)

農業経営の拡大・縮小の意向について農業者区分別でみると、認定農業者では「現状のまま維持したい」と「拡大したい」が最も高く、次いで「縮小したい」(22.4%)が高くなっています。耕作者では「現状のまま維持したい」(40.5%)が最も高く、次いで「農業をやめたい」(26.2%)が高くなっています。



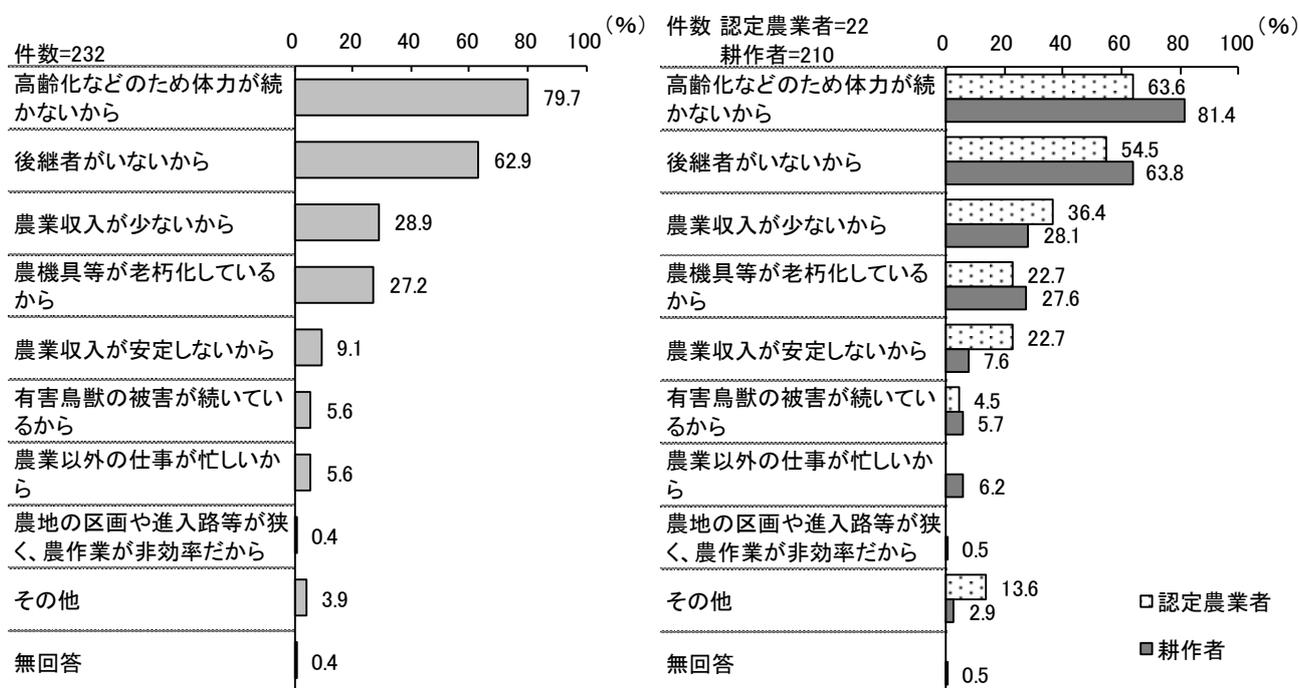
### 3-2 農業を「縮小したい」または「やめたい」理由

(問 12 で「縮小したい」「農業をやめたい」のいずれかに○をつけた方に)

問 12-1 農業を「縮小したい」または「やめたい」理由は何ですか。(○はいくつでも)

農業を「縮小したい」または「やめたい」理由は、「高齢化などのため体力が続かないから」(79.7%)が最も高く、次いで「後継者がいないから」(62.9%)、「農業収入が少ないから」(28.9%)、「農機具等が老朽化しているから」(27.2%)、「農業収入が安定しないから」(9.1%)となっています。

農業者区分別でみると、いずれも「高齢化などのため体力が続かないから」が最も高く、認定農業者では63.6%、耕作者では81.4%となっています。



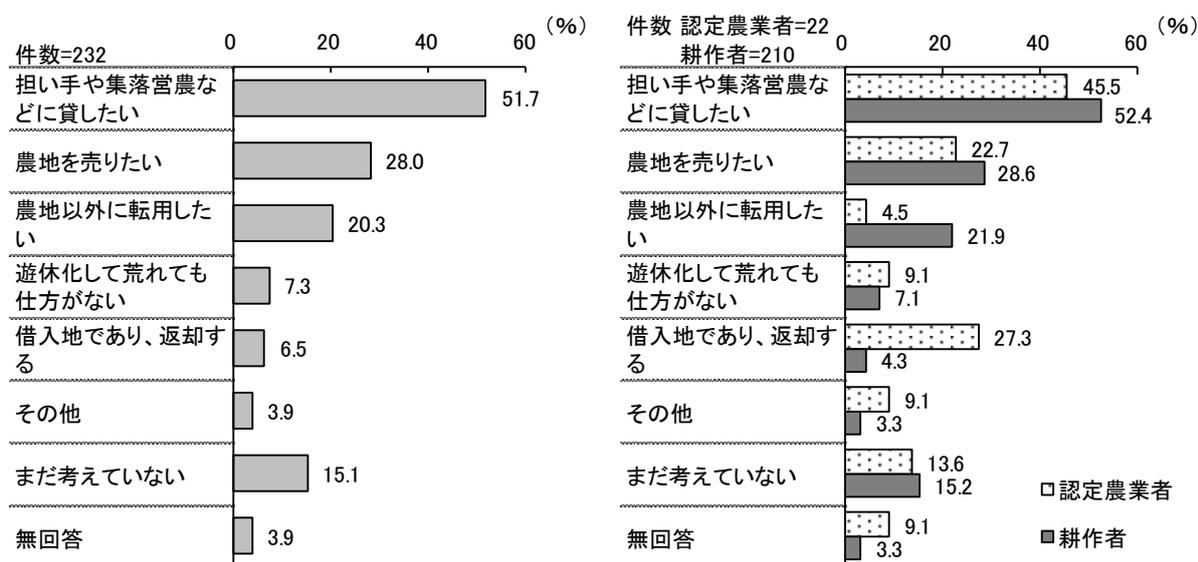
### 3-3 耕作しなくなる農地の措置

(問 12 で「縮小したい」「農業をやめたい」のいずれかに○をつけた方に)

問 12-2 耕作しなくなる農地をどのようにしようと考えていますか。(○はいくつでも)

耕作しなくなる農地の措置は、「担い手や集落営農などに貸したい」(51.7%)が最も高く、次いで「農地を売りたい」(28.0%)、「農地以外に転用したい」(20.3%)、「遊休化して荒れても仕方がない」(7.3%)、「借入地であり、返却する」(6.5%)となっています。また、「まだ考えていない」は15.1%となっています。

農業者区分別でみると、「借入地であり、返却する」は認定農業者で第2位(耕作者では第5位)、「農地以外に転用したい」は耕作者で第3位(認定農業者では第6位)とそれぞれ順位が高くなっています。

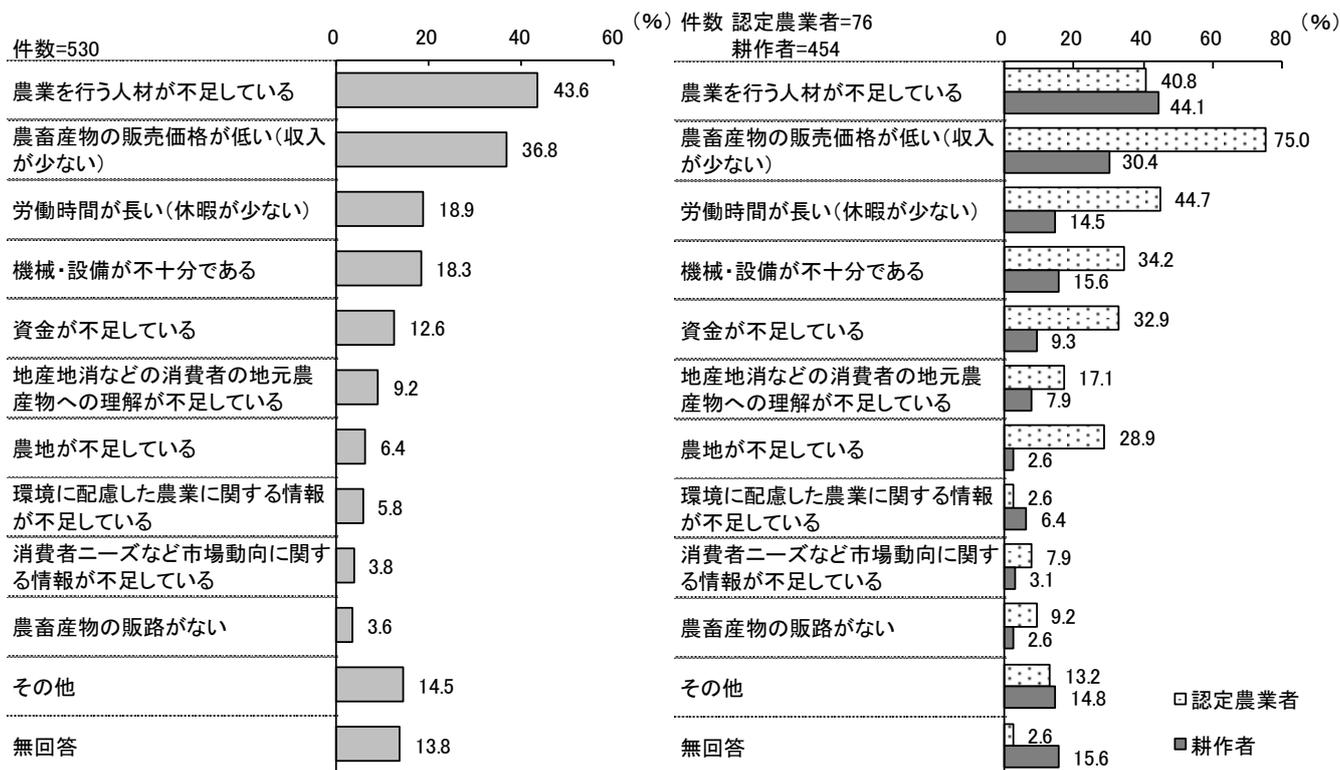


### 3-4 農業経営上で感じている問題

問 13 あなたが農業経営を行う上で感じている問題はどのようなことですか。(〇はいくつでも)

農業経営上で感じている問題は、「農業を行う人材が不足している」(43.6%)が最も高く、次いで「農畜産物の販売価格が低い(収入が少ない)」(36.8%)、「労働時間が長い(休暇が少ない)」(18.9%)、「機械・設備が不十分である」(18.3%)、「資金が不足している」(12.6%)となっています。

農業者区分別で見ると、認定農業者では「農畜産物の販売価格が低い」(75.0%)が最も高く、次いで「労働時間が長い」(44.7%)が高くなっています。耕作者では「農業を行う人材が不足している」(44.1%)が最も高く、次いで「農畜産物の販売価格が低い」(30.4%)が高くなっています。



農畜産物の販売方法（問 10）別でみると、「販売はしていない」との回答者では「農業を行う人材が不足している」（44.2%）が最も高く、その他の選択肢の各回答者では「農畜産物の販売価格が低い」が最も高くなっています。

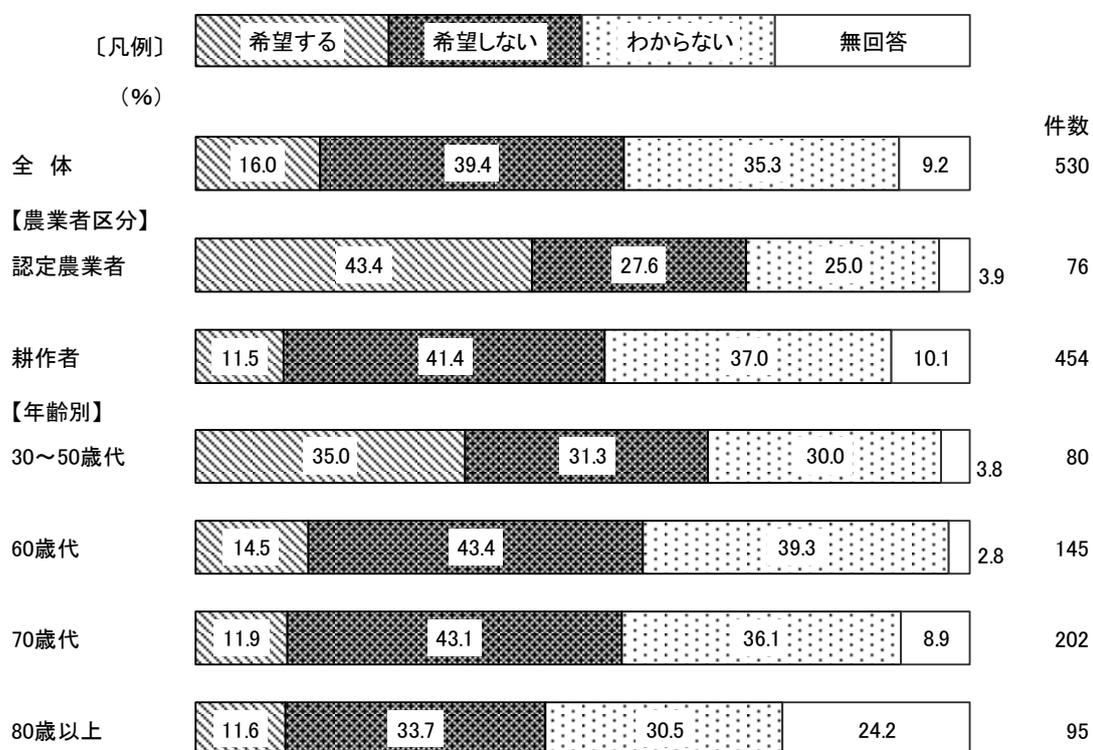
	件数	て農業 を行う 人材が 不足し ている	い農畜 産物の 販売 価格が 低い	労働 時間が 長い	る機 械・ 設備 が不 十分 であ る	資金 が不 足し てい る	理消 費者 の地 元農 産物 への 理解 が不 足し てい る	農地 が不 足し てい る	環 境に 配慮 した 農業 に関 する 情報 が不 足し てい る	市 場動 向に 関す る情 報が 不足 して いる	農畜 産物 の販 路が ない	そ の 他	無 回 答	
全 体	530	43.6	36.8	18.9	18.3	12.6	9.2	6.4	5.8	3.8	3.6	14.5	13.8	
農畜 産物 の 販 売 方 法	個人直売施設での販売	39	41.0	43.6	25.6	17.9	15.4	12.8	10.3	7.7	5.1	7.7	15.4	
	JAなどの共同直売所への出荷	133	43.6	52.6	27.8	22.6	17.3	15.0	9.8	6.8	6.0	12.8	7.5	
	市場への出荷	56	46.4	67.9	37.5	28.6	19.6	14.3	7.1	1.8	8.9	3.6	5.4	7.1
	JAからの共同出荷	160	49.4	56.9	29.4	24.4	18.8	13.8	13.8	7.5	4.4	5.0	9.4	5.0
	スーパー等への契約販売	2	-	50.0	100.0	-	-	-	-	-	-	-	-	-
	生協への契約販売	2	50.0	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	50.0	-	50.0	-
	学校給食への直接販売、給食センターへの出荷	2	50.0	50.0	-	-	-	50.0	-	-	-	-	-	50.0
	直売イベントでの販売	15	46.7	60.0	20.0	33.3	33.3	33.3	-	20.0	20.0	-	6.7	-
	インターネット等による宅配・産地直送	5	60.0	60.0	40.0	20.0	40.0	20.0	-	-	40.0	-	20.0	-
	飲食店や個人への直接販売	24	37.5	50.0	33.3	20.8	25.0	8.3	20.8	4.2	8.3	-	8.3	4.2
販売はしていない	197	44.2	14.7	9.1	12.7	6.1	2.5	1.5	4.1	1.5	3.6	20.8	20.3	

### 3-5 農畜産物の販路の変更・拡大の希望

問 14 今後、農畜産物の販路の変更や拡大を希望しますか。(○は1つ)

農畜産物の販路の変更・拡大の希望について農業者区分別でみると、認定農業者では「希望する」(43.4%)が「希望しない」(27.6%)より高く、耕作者では「希望しない」(41.4%)が「希望する」(11.5%)より高くなっています。また、「わからない」は認定農業者で25.0%、耕作者で37.0%となっています。

年齢別でみると、30～50歳代では「希望する」(35.0%)が「希望しない」(31.3%)より高く、60歳代以上では「希望しない」が「希望する」より高くなっています。



農畜産物の販売方法（問 10）別でみると、「飲食店や個人への直接販売」「直売イベントでの販売」との回答者では「希望する」が「希望しない」より高く、その他の選択肢の各回答者では「希望しない」が「希望する」より高くなっています。

	件数	希望する	希望しない	わからない	無回答	
全体	530	16.0	39.4	35.3	9.2	
農畜産物の販売方法	個人直売施設での販売	39	25.6	46.2	23.1	5.1
	JAなどの共同直売所への出荷	133	30.1	36.8	27.8	5.3
	市場への出荷	56	17.9	44.6	28.6	8.9
	JAからの共同出荷	160	30.6	33.1	32.5	3.8
	スーパー等への契約販売	2	-	50.0	50.0	-
	生協への契約販売	2	50.0	50.0	-	-
	学校給食への直接販売、給食センターへの出荷	2	-	-	-	100.0
	直売イベントでの販売	15	53.3	40.0	6.7	-
	インターネット等による宅配・産地直送	5	100.0	-	-	-
	飲食店や個人への直接販売	24	50.0	29.2	20.8	-
販売はしていない	197	3.0	42.1	44.7	10.2	

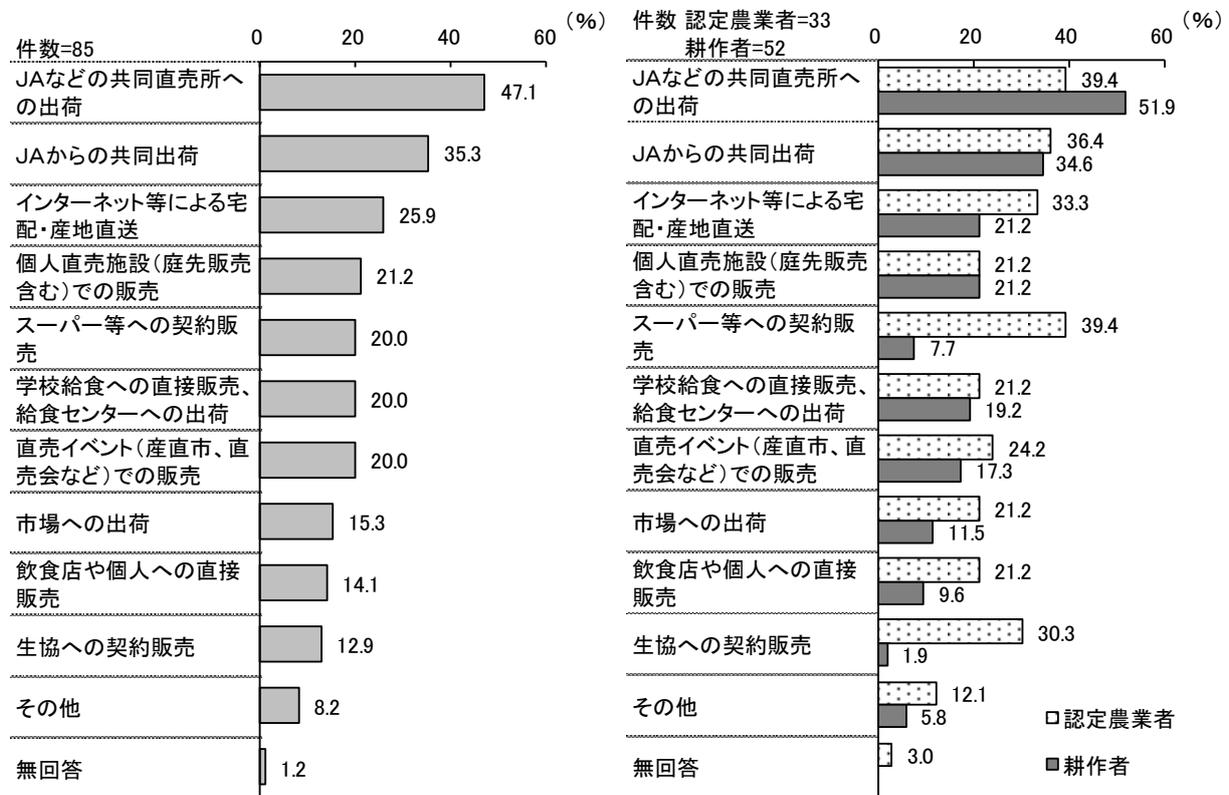
### 3-6 希望する新たな販路

(問 14 で「希望する」に○をつけた方に)

問 14-1 新たにどのような販路を希望していますか。(○はいくつでも)

希望する新たな販路は、「JAなどの共同直売所への出荷」(47.1%)が最も高く、次いで「JAからの共同出荷」(35.3%)、「インターネット等による宅配・産地直送」(25.9%)となっています。

農業者区分別でみると、認定農業者では「スーパー等への契約販売」(39.4%)が同率第1位(耕作者では第9位)、「生協への契約販売」(30.3%)が第5位(耕作者では第10位)とそれぞれ順位が高くなっています。

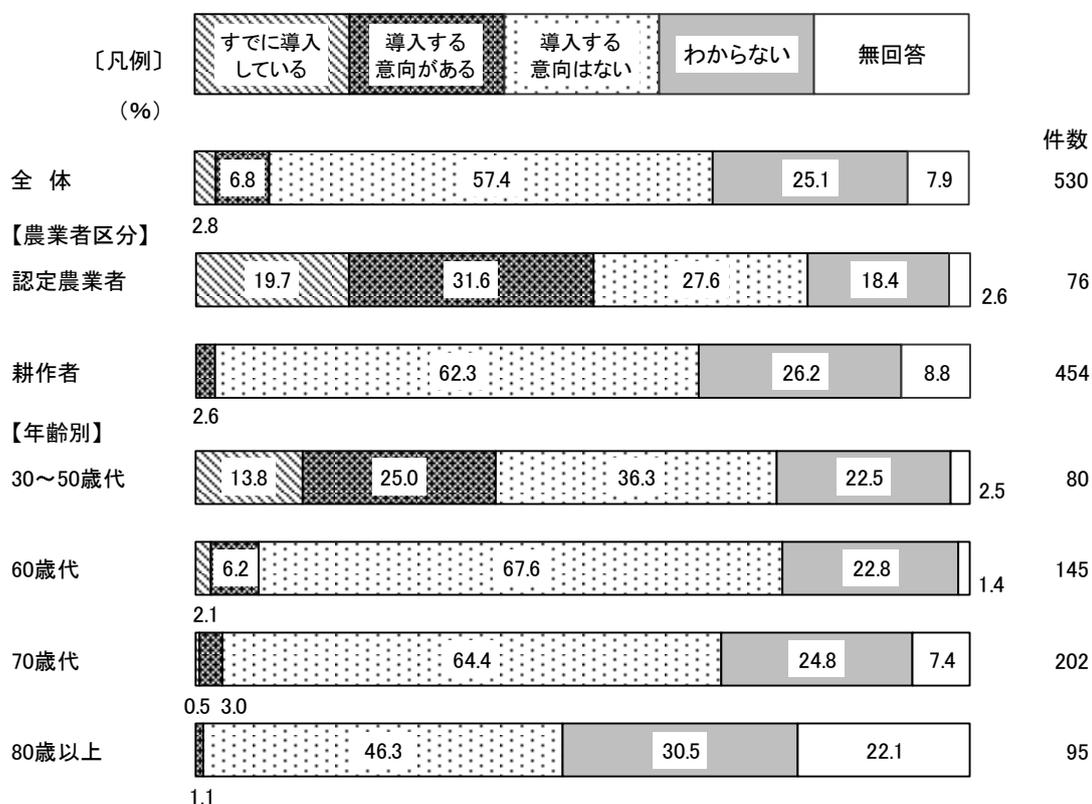


### 3-7 スマート農業の導入意向

問 15 今後、農作業等の効率化のためにICTやロボット技術等のスマート農業を導入する意向はありますか。（○は1つ）

スマート農業の導入意向について農業者区分別でみると、認定農業者では「導入する意向がある」（31.6%）が最も高く、「すでに導入している」（19.7%）と合わせた『導入意向がある』は51.3%となっています。耕作者では「導入する意向はない」（62.3%）が最も高く、『導入意向がある』は2.6%となっています（「すでに導入している」の回答はありませんでした）。

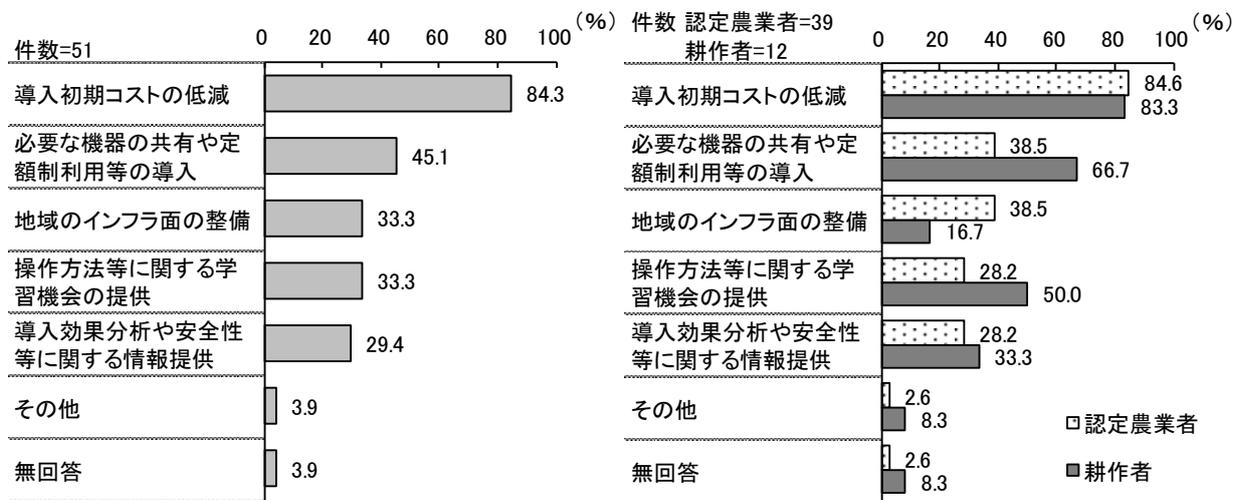
年齢別でみると、30～50歳代では『導入意向がある』が38.8%となっています。



### 3-8 スマート農業の導入に必要な支援

(問 15で「すでに導入している」「導入する意向がある」のいずれかに○をつけた方に)  
 問 15-1 あなたの農業経営にスマート農業を導入する場合、どのような支援が必要だと思いますか。(○はいくつでも)

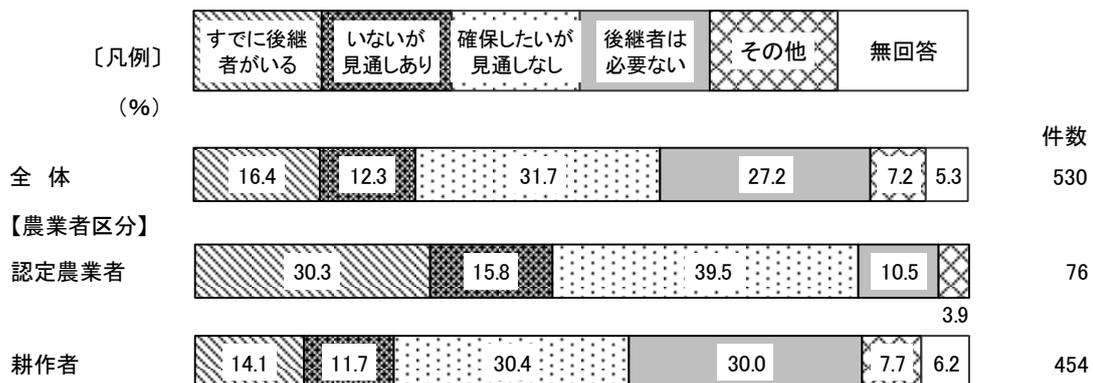
スマート農業の導入に必要な支援について農業者区分別でみると、認定農業者では「地域のインフラ面での整備」(38.5%)が同率第2位(耕作者では第5位)と順位が高くなっています。



### 3-9 後継者の有無

問 16 あなたには、農業の後継者がいますか。(○は1つ)

後継者の有無について農業者区分別でみると、いずれも「後継者を確保したいが見通しが立っていない」が最も高く、「すでに後継者がいる」は認定農業者で30.3%、耕作者で14.1%となっています。

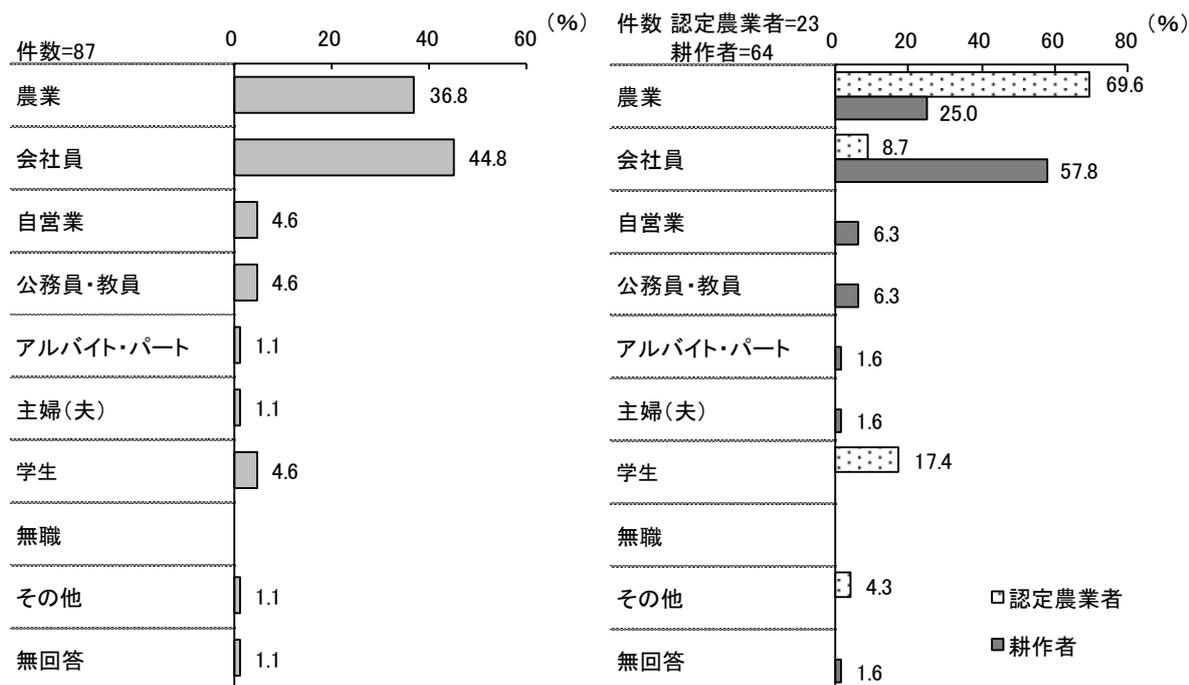


### 3-10 後継者の現在の職業

(問 16 で「すでに後継者がいる」に○をつけた方に)

問 16-1 後継者となる方の現在の職業は何ですか。(○は1つ)

後継者の現在の職業について農業者区分別で見ると、認定農業者では「農業」(69.6%)が最も高く、耕作者では「会社員」(57.8%)が最も高くなっています。

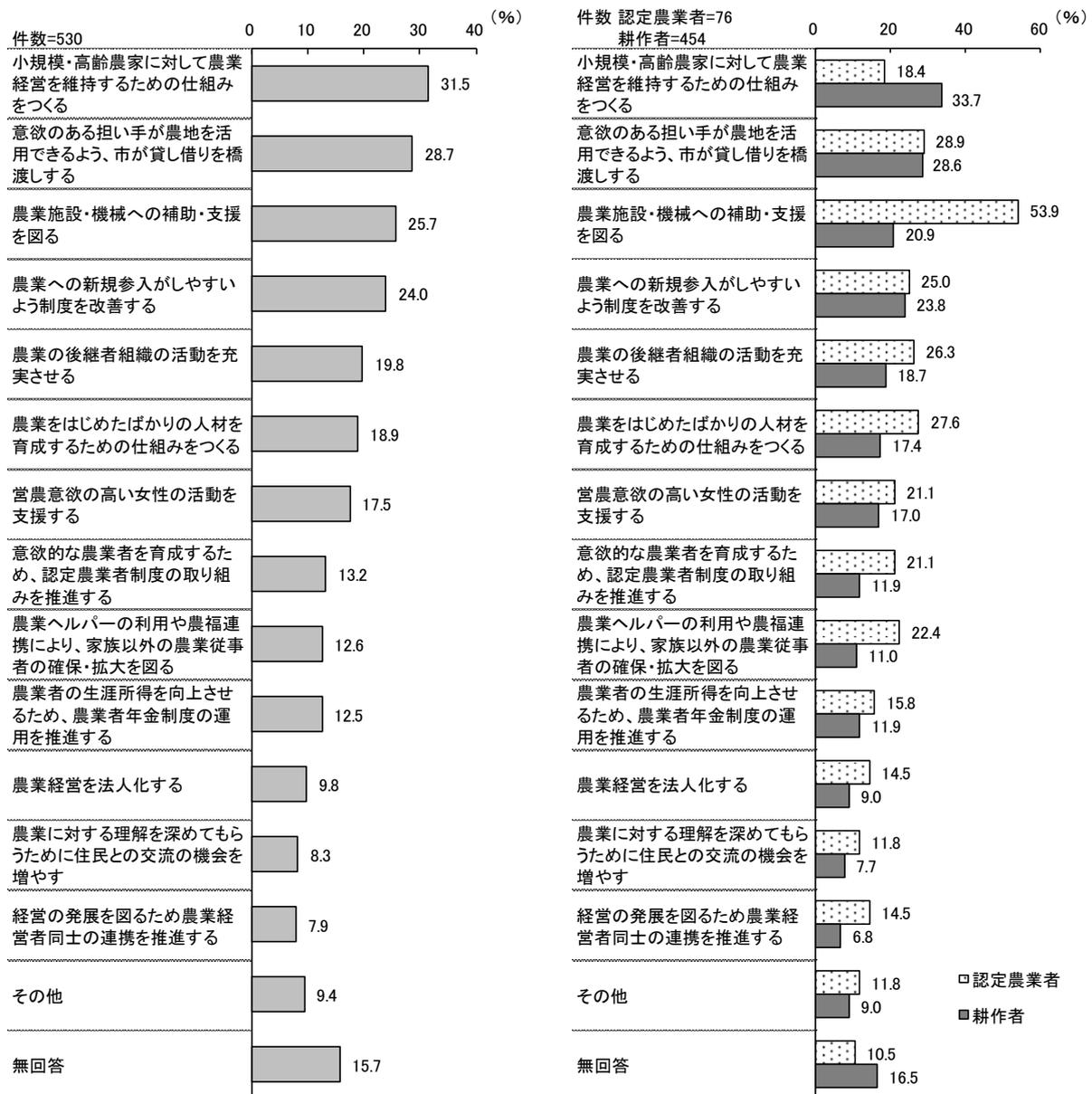


### 3-11 担い手の育成・確保に必要な取組

問 17 農業の担い手育成・確保のために、どのような取り組みが必要だと思いますか。  
(○はいくつでも)

担い手の育成・確保に必要な取組は、「小規模・高齢農家に対して農業経営を維持するための仕組みをつくる」(31.5%)が最も高く、次いで「意欲のある担い手が農地を活用できるよう、市が貸し借りを橋渡しする」(28.7%)、「農業施設・機械への補助・支援を図る」(25.7%)、「農業への新規参入がしやすいよう制度を改善する」(24.0%)、「農業の後継者組織の活動を充実させる」(19.8%)となっています。

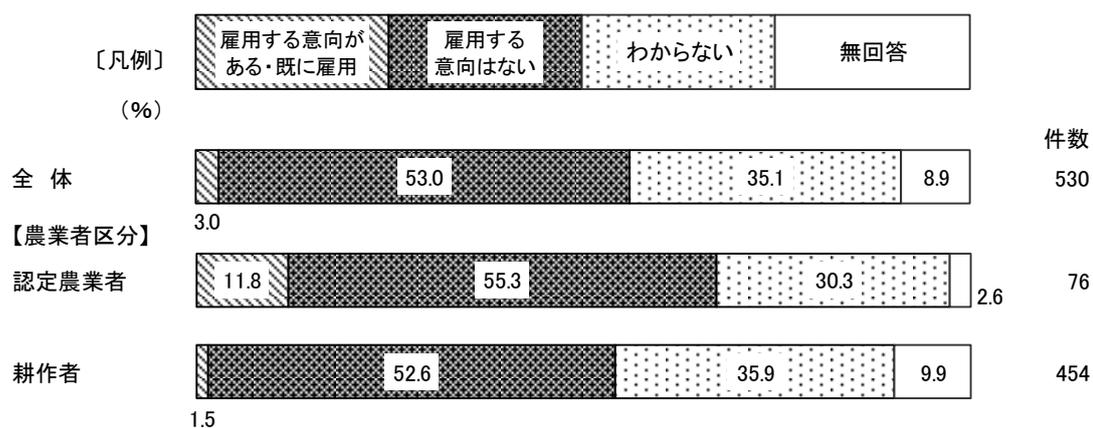
農業者区分別でみると、認定農業者では「農業施設・機械への補助・支援を図る」(53.9%)が最も高く、耕作者では「小規模・高齢農家に対して農業経営を維持するための仕組みをつくる」(33.7%)が最も高くなっています。



### 3-12 農福連携の実施意向

問 18 農福連携（障害者の雇用）についてお聞きします。今後、あなたは障害者を雇用する意向がありますか。（○は1つ）

農福連携の実施意向について農業者区分別で見ると、いずれも「雇用する意向はない」が最も高く、「雇用する意向がある・既に雇用」は認定農業者で 11.8%、耕作者で 1.5%となっています。また、いずれも「わからない」が3割以上となっています。



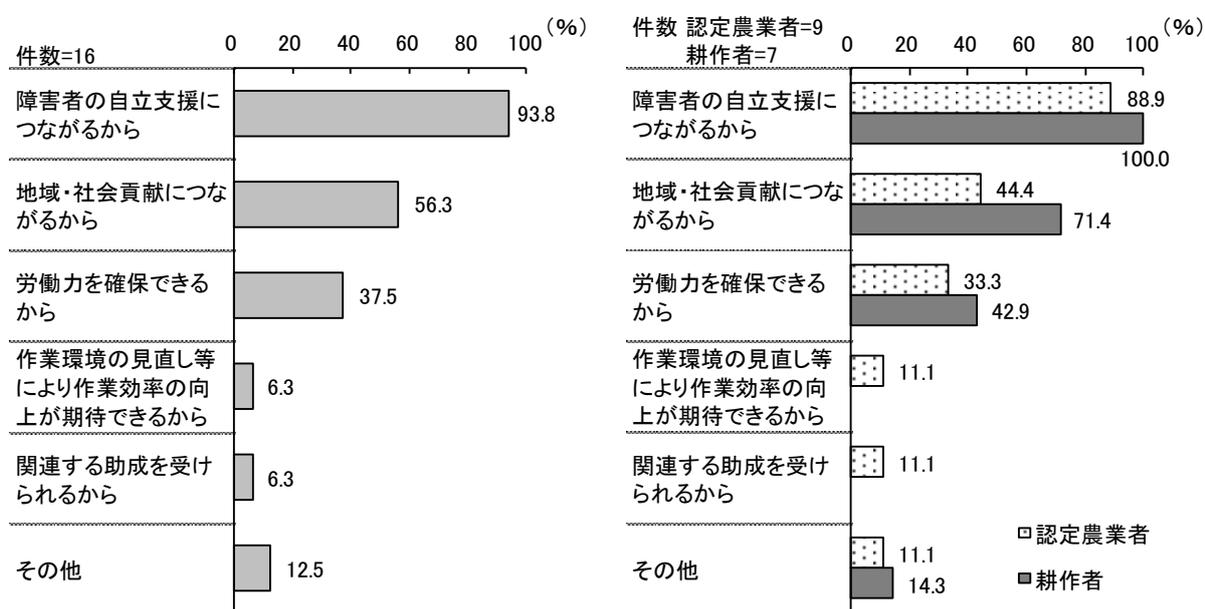
### 3-13 障害者を雇用したい(している)理由

(問 18 で「雇用する意向がある・既に雇用している」に○をつけた方に)

問 18-1 障害者を雇用したい(している)理由は何ですか。(○はいくつでも)

障害者を雇用したい(している)理由は、「障害者の自立支援につながるから」(93.8%)が最も高く、次いで「地域・社会貢献につながるから」(56.3%)、「労働力を確保できるから」(37.5%)となっています。

農業者区分別でみると、いずれも「障害者の自立支援につながるから」が最も高く、次いで「地域・社会貢献につながるから」が高くなっています。

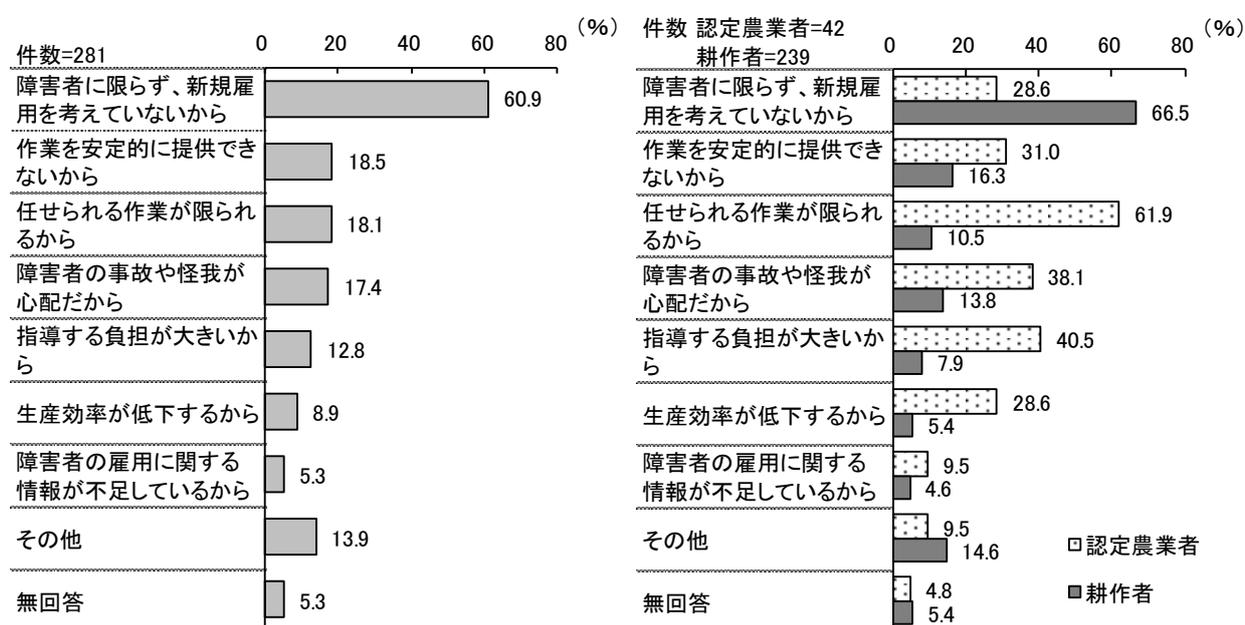


### 3-14 障害者を雇用しない理由

(問 18 で「雇用する意向はない」に○をつけた方に)

問 18-2 障害者を雇用しない理由は何ですか。(○はいくつでも)

障害者を雇用しない理由について農業者区分別でみると、認定農業者では「任せられる作業が限られるから」(61.9%)が最も高く、次いで「指導する負担が大きいから」(40.5%)が高くなっています。耕作者では「障害者に限らず、新規雇用を考えていないから」(66.5%)が最も高く、次いで「作業を安定的に提供できないから」(16.3%)が高くなっています。



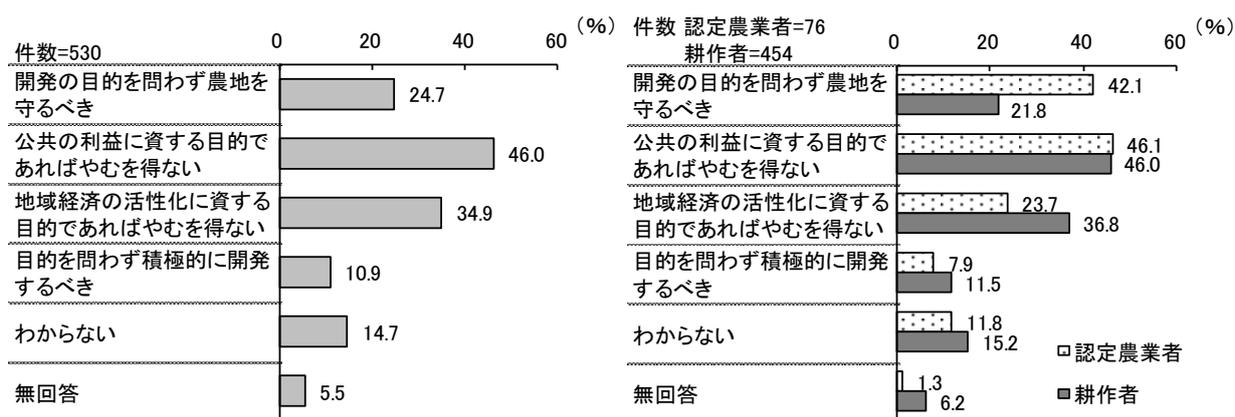
## 4 安城市の農業振興について

### 4-1 市の農地の減少傾向に対する考え

問 19 安城市の農地は年々減少傾向にあります。どのようにお考えですか。(〇はいくつでも)

市の農地の減少傾向に対する考えは、「公共の利益に資する目的（福祉や保育施設の建設等）であればやむを得ない」（46.0%）が最も高く、次いで「地域経済の活性化に資する目的（工場の建設等）であればやむを得ない」（34.9%）、「開発の目的を問わず農地を守るべき」（24.7%）、「目的を問わず積極的に開発するべき」（10.9%）となっています。また、「わからない」は14.7%となっています。

農業者区分別でみると、いずれも「公共の利益に資する目的であればやむを得ない」が最も高く、次いで認定農業者では「開発の目的を問わず農地を守るべき」（42.1%）、耕作者では「地域経済の活性化に資する目的であればやむを得ない」（36.8%）がそれぞれ高くなっています。

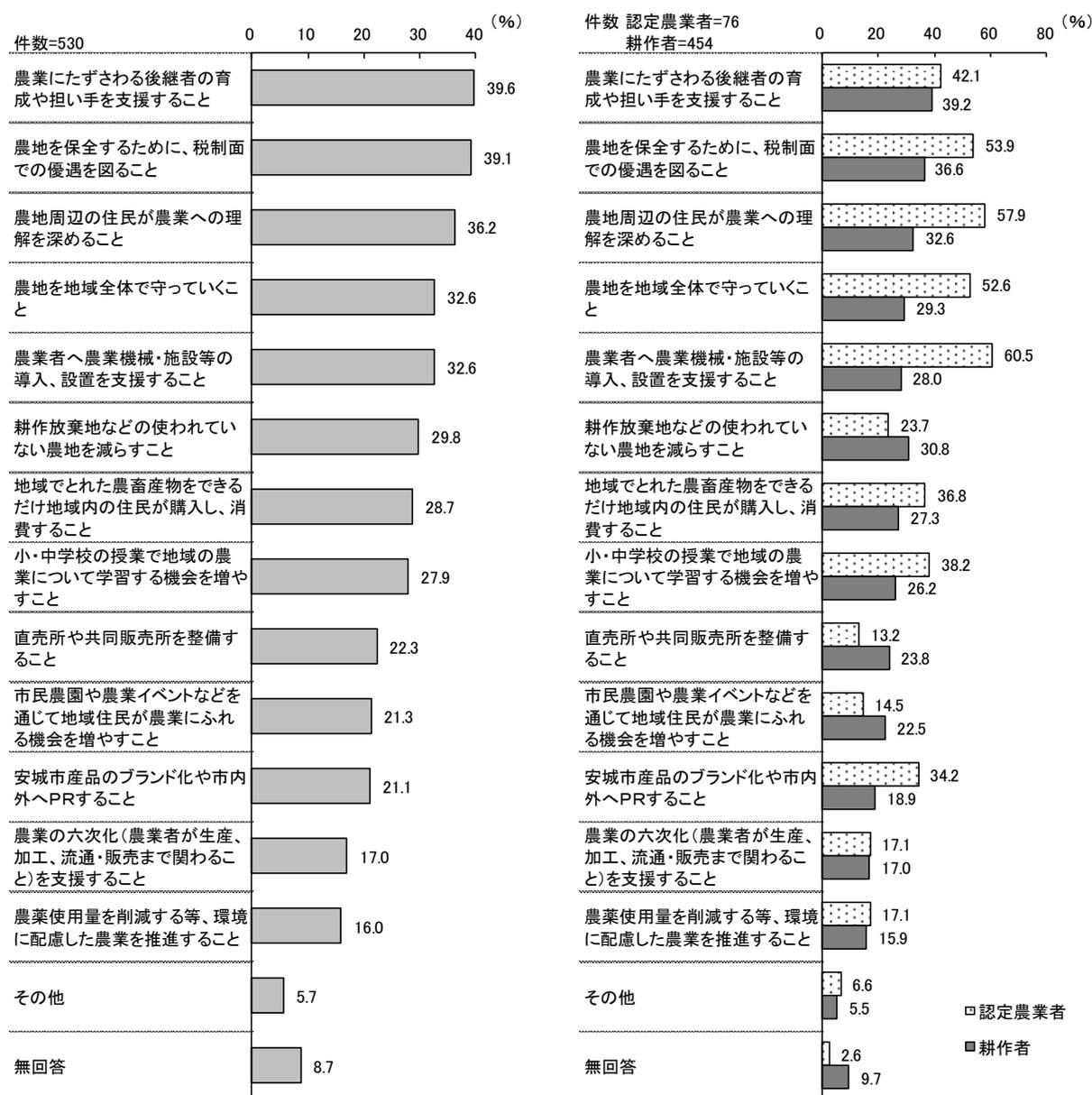


## 4-2 市での農業継続に必要な支援策

問 20 安城市で農業を続けていくために必要な支援策はどのようなことだと思いますか。  
(○はいくつでも)

市での農業継続に必要な支援策は、「農業にたずさわる後継者の育成や担い手を支援すること」(39.6%)が最も高く、次いで「農地を保全するために、税制面での優遇を図ること」(39.1%)、「農地周辺の住民が農業への理解を深めること」(36.2%)となっています。

農業者区分別でみると、認定農業者では「農業者へ農業機械・施設等の導入、設置を支援すること」(60.5%)、耕作者では「農業にたずさわる後継者の育成や担い手を支援すること」(39.2%)がそれぞれ最も高くなっています。



### 4-3 農業の現状や支援に関する意見等

問 21 最後に、安城市の農業の現状や支援に関するあなたのご意見等を自由にご記入ください。（自由記述）

市の農業の現状や支援に関して、138 件のご意見をいただきました。  
内容別の件数は、下表のとおりです。

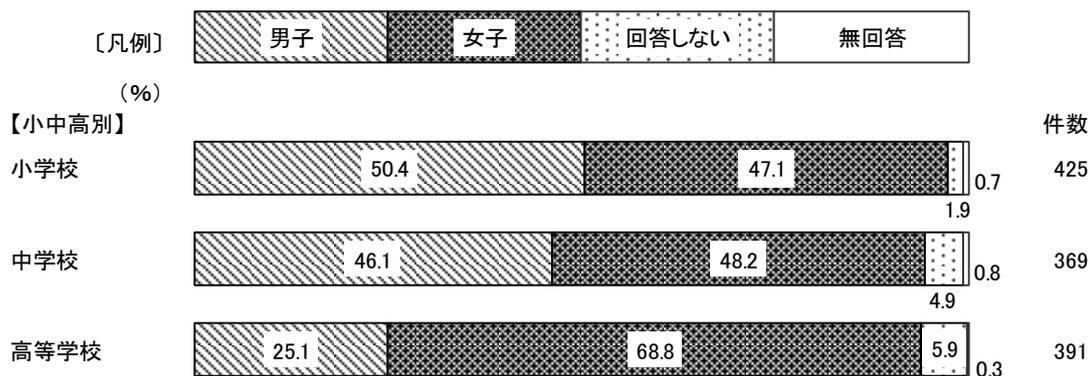
内容	件数
農業経営体の支援（経済的支援、専業農家支援等）	28
農地の保全	18
農地の利用・転用	15
近隣との関係	11
インフラ等の整備	7
就農支援	7
農業団体等への支援、連携	6
農業保護	5
環境保全（除草剤、廃材処理等）	5
食料自給率の向上	4
農業廃業の意向	4
市の農業振興ビジョン	3
担い手・後継者	3
農福連携	3
特産品のPR	2
行政との対話	2
その他	15
合計	138

## IV 小中高生アンケート調査の結果

### 1 回答者の属性

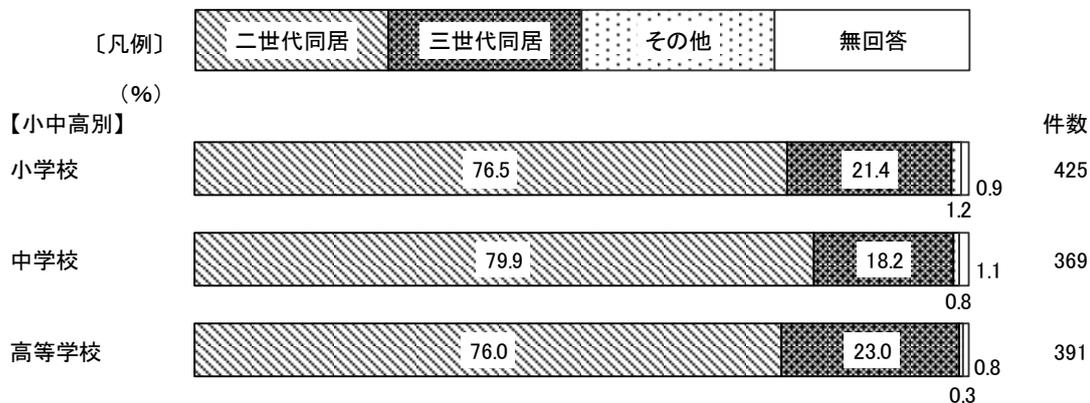
#### 1-1 性別

回答者の性別は、小学校では「男子」が 50.4%、「女子」が 47.1%、中学校では「男子」が 46.1%、「女子」が 48.2%、高等学校では「男子」が 25.1%、「女子」が 68.8% となっています。



#### 1-2 家族構成

家族構成は、小・中・高校のいずれも「二世帯同居（親・子）」が7割以上で最も高くなっています。



## 2 食生活について

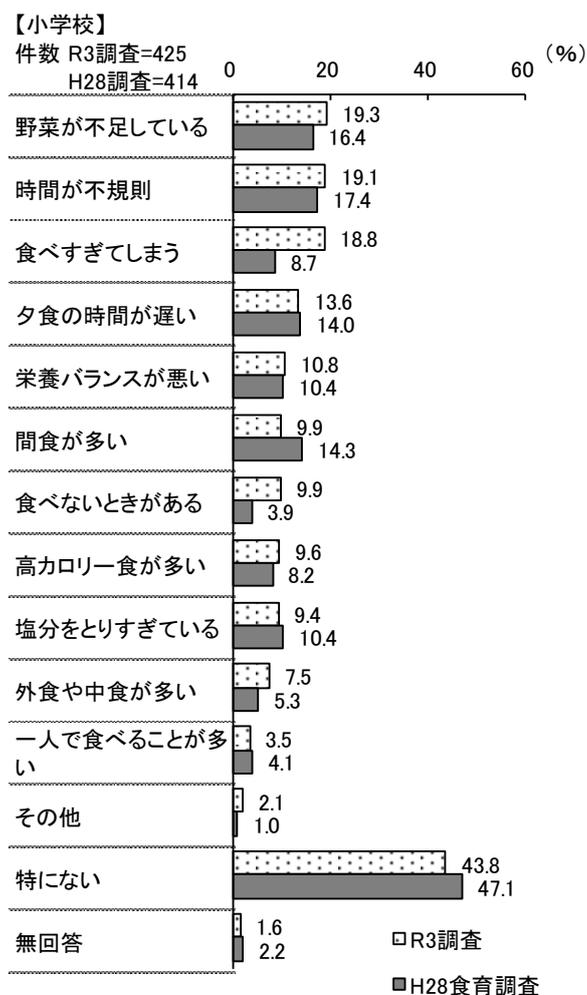
### 2-1 食生活で気になる点

問3 あなたの食生活で気になる点はどのようなものがありますか。(○はいくつでも)

#### 【小学校】

食生活で気になる点は、「野菜が不足している」(19.3%)が最も高く、次いで「時間が不規則」(19.1%)、「食べすぎてしまう」(18.8%)、「夕食の時間が遅い」(13.6%)、「栄養バランスが悪い」(10.8%)となっています。また、「特にない」が43.8%となっています。

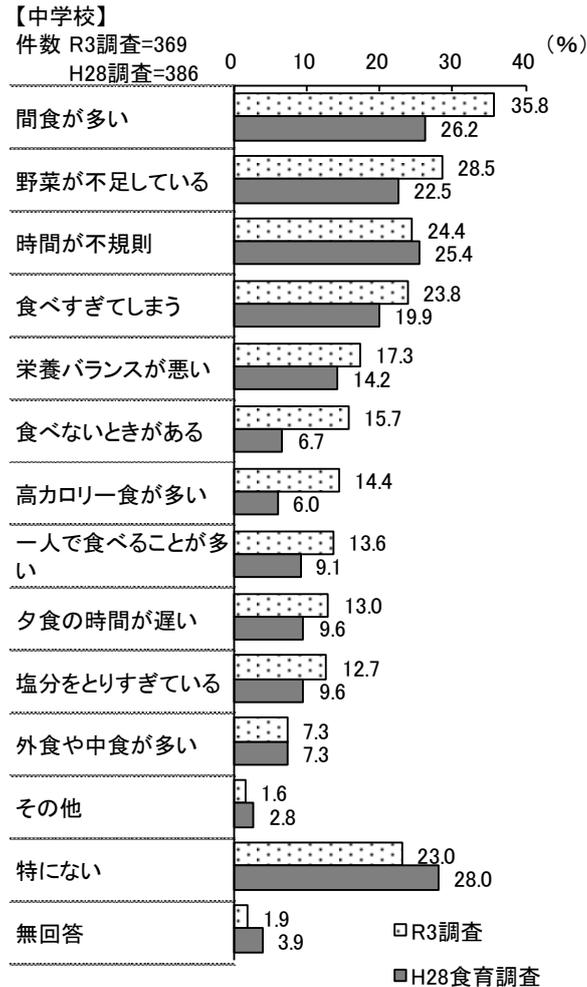
前回食育調査と比べると、前回食育調査では「時間が不規則」(17.4%)が最も高くなっています。また、「食べすぎてしまう」が前回第7位から今回第3位へと順位を上げています。



**【中学校】**

食生活で気になる点は、「間食が多い」（35.8%）が最も高く、次いで「野菜が不足している」（28.5%）、「時間が不規則」（24.4%）、「食べすぎてしまう」（23.8%）、「栄養バランスが悪い」（17.3%）となっています。また、「特にない」が23.0%となっています。

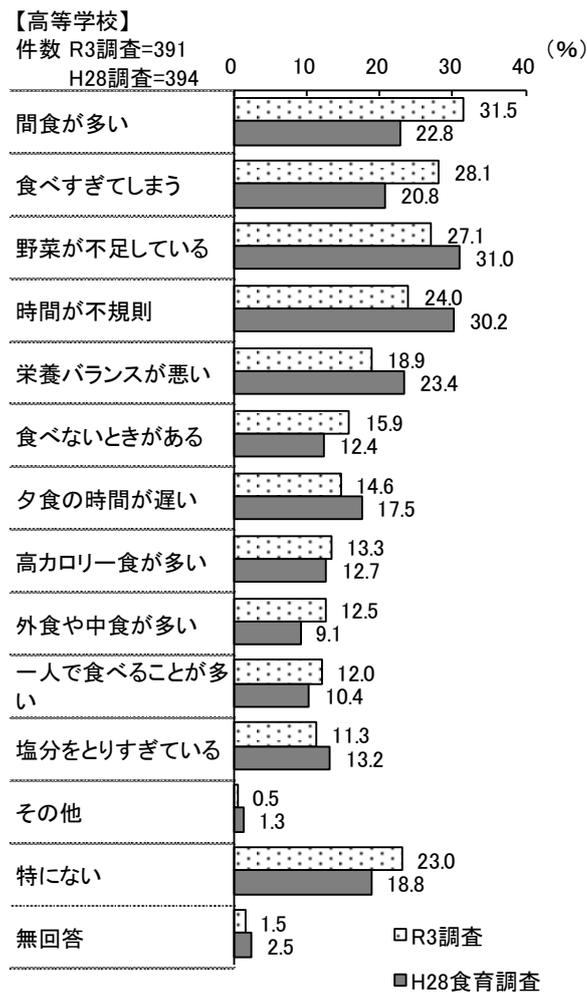
前回食育調査と比べると、いずれも「間食が多い」が最も高く、前回食育調査では26.2%、今回調査では35.8%となっています。



## 【高等学校】

食生活で気になる点は、「間食が多い」(31.5%)が最も高く、次いで「食べすぎてしまう」(28.1%)、「野菜が不足している」(27.1%)、「時間が不規則」(24.0%)、「栄養バランスが悪い」(18.9%)となっています。また、「特にない」が23.0%となっています。

前回食育調査と比べると、前回食育調査では「野菜が不足している」(31.0%)が最も高くなっています。また、「間食が多い」が前回第4位から今回第1位へ、「食べすぎてしまう」が前回第5位から今回第2位へとそれぞれ順位を上げています。



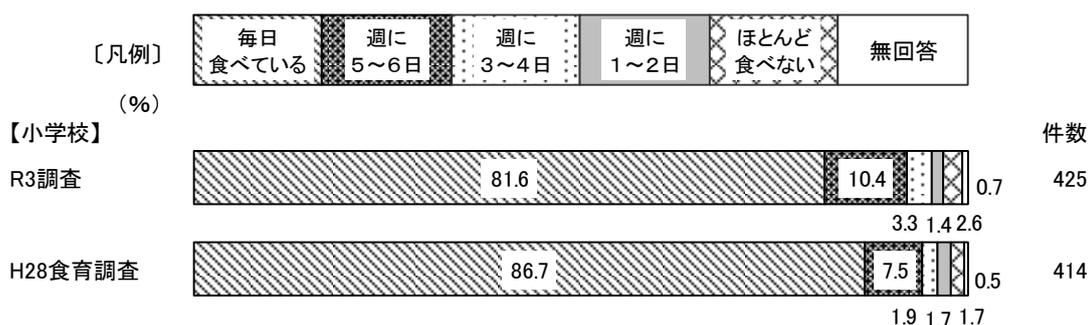
## 2-2 朝食の摂取状況

問4 あなたは、ふだん朝食を食べていますか。(○は1つ)

### 【小学校】

朝食の摂取状況は、「毎日食べている」(81.6%)が最も高くなっています。また、「ほとんど食べない」は2.6%となっています。

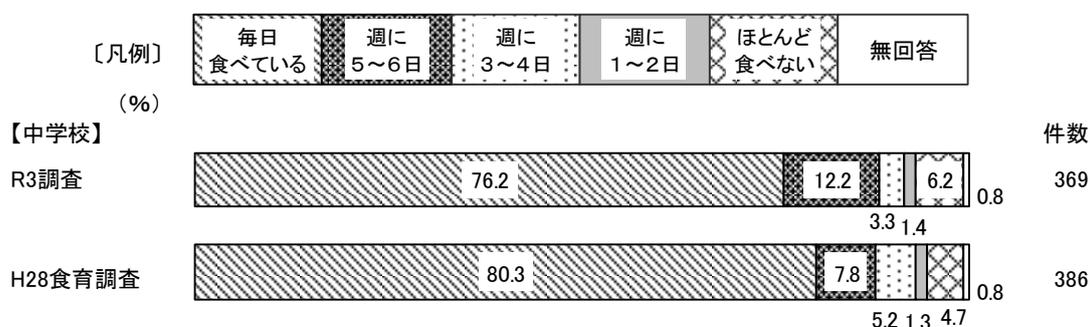
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 【中学校】

朝食の摂取状況は、「毎日食べている」(76.2%)が最も高くなっています。また、「ほとんど食べない」は6.2%となっています。

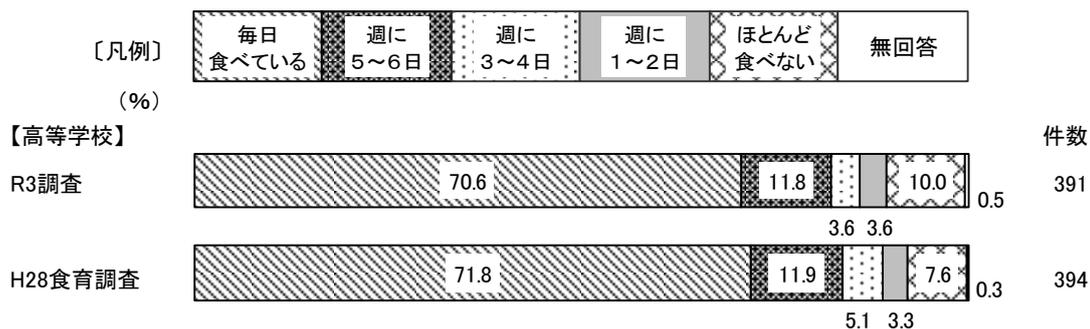
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 【高等学校】

朝食の摂取状況は、「毎日食べている」(70.6%)が最も高くなっています。また、「ほとんど食べない」は10.0%となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



## 2-3 朝食の内容

(問4で「ほとんど食べない」以外のいずれかに○をつけた方に)

問4-1 あなたは主にどのような朝食を食べますか。(○はいくつでも)

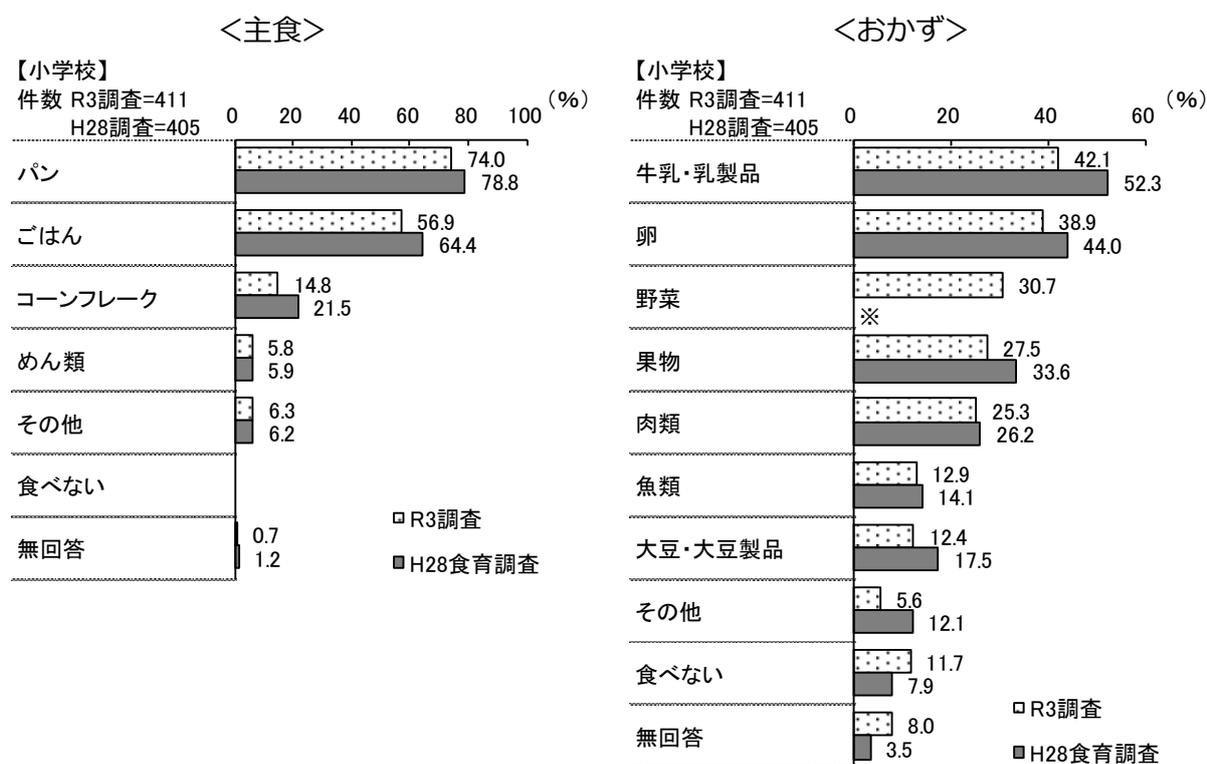
### 【小学校】

朝食の主食の内容は、「パン」(74.0%)が最も高く、次いで「ごはん」(56.9%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

朝食のおかずの内容は、「牛乳・乳製品」(42.1%)が最も高く、次いで「卵」(38.9%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



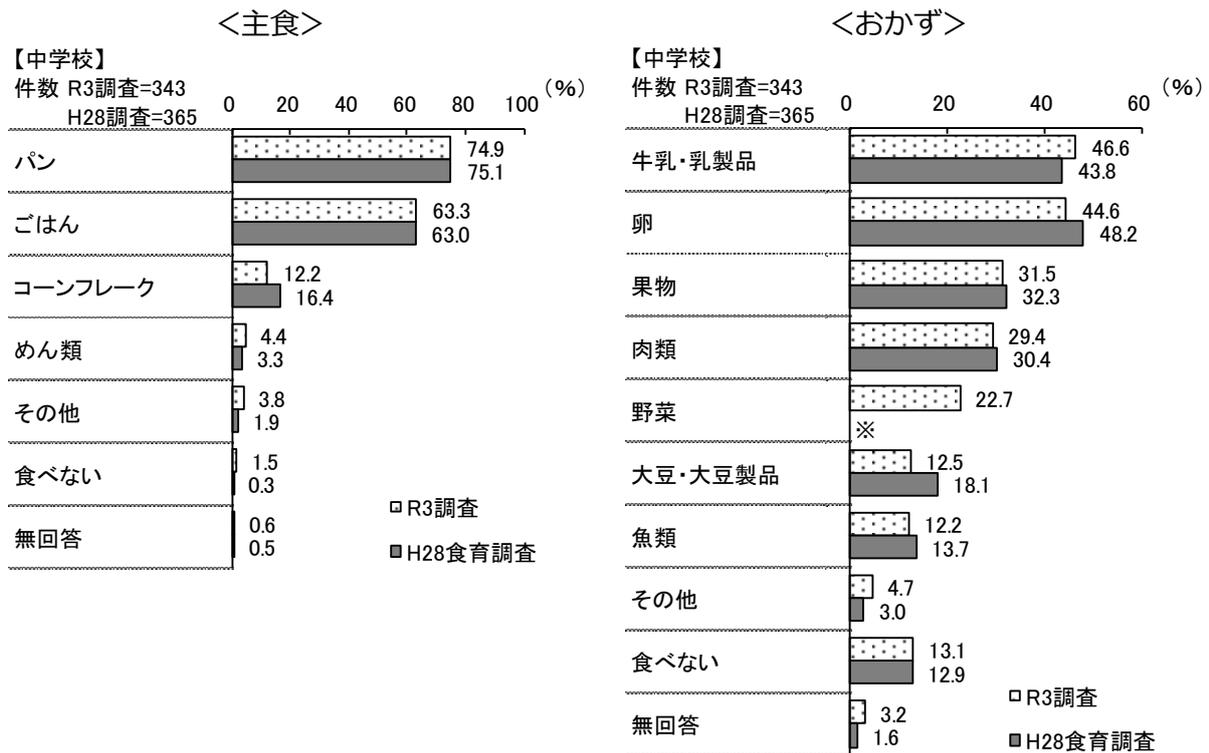
【中学校】

朝食の主食の内容は、「パン」(74.9%)が最も高く、次いで「ごはん」(63.3%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

朝食のおかずの内容は、「牛乳・乳製品」(46.6%)が最も高く、次いで「卵」(44.6%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



※H28 食育調査では「緑黄色野菜」(21.9%)と「淡色野菜」(18.6%)

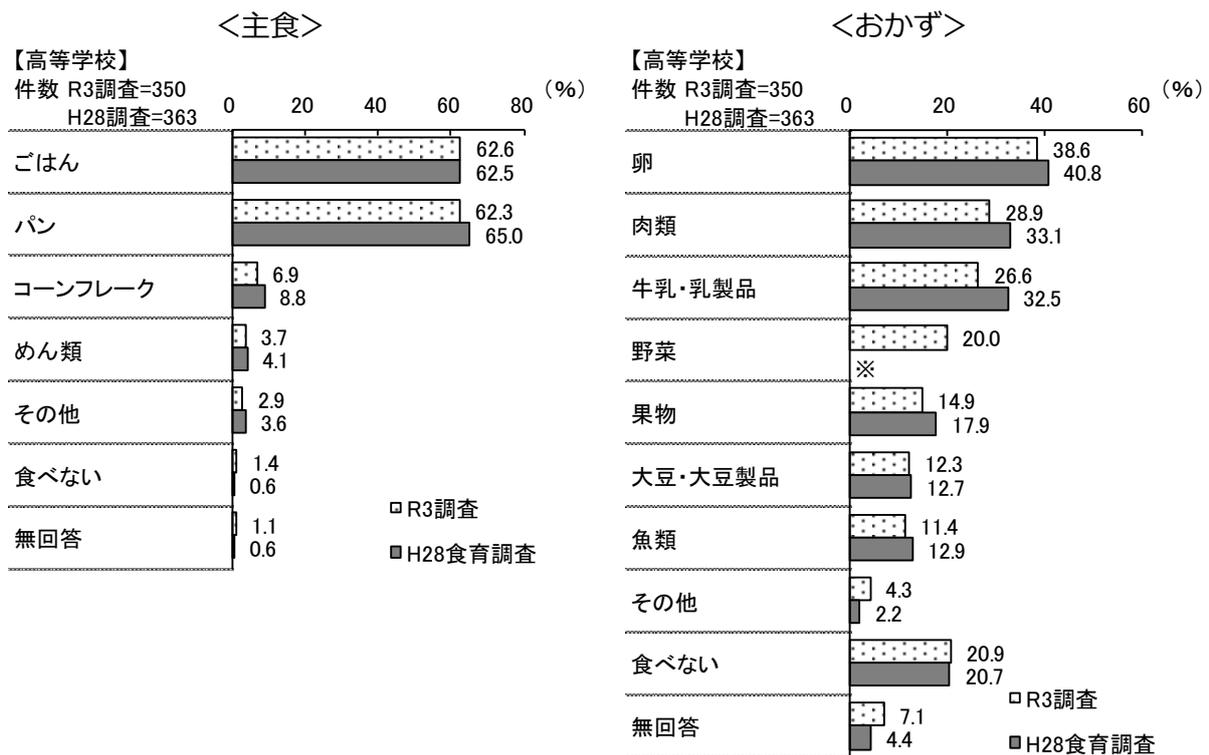
**【高等学校】**

朝食の主食の内容は、「ごはん」(62.6%)が最も高く、次いで「パン」(62.3%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

朝食のおかずの内容は、「卵」(38.6%)が最も高く、次いで「肉類」(28.9%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



※H28 食育調査では「緑黄色野菜」(11.3%)と「淡色野菜」(16.0%)

## 2-4 朝食を一緒に食べる相手

(問4で「ほとんど食べない」以外のいずれかに○をつけた方に)

問4-2 あなたは、ふだん朝食を誰と食べますか。(○はいくつでも)

### 【小学校】

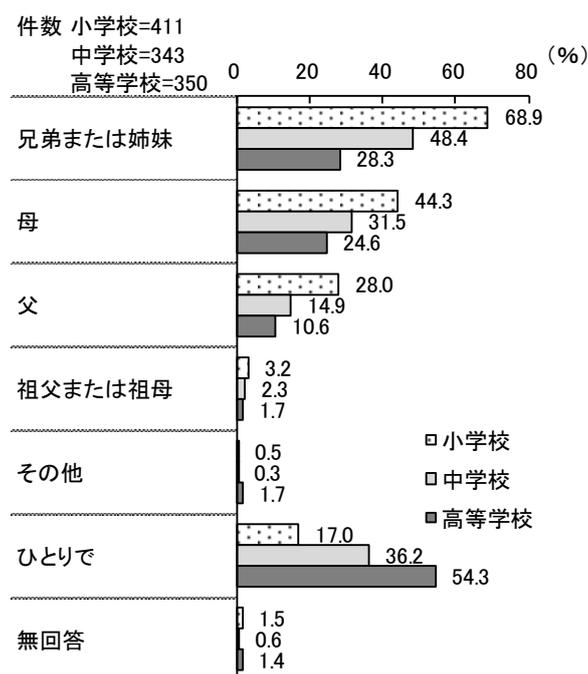
朝食を一緒に食べる相手は、「兄弟または姉妹」(68.9%)が最も高く、次いで「母」(44.3%)が高くなっています。また、「ひとりで」は17.0%となっています。

### 【中学校】

「兄弟または姉妹」(48.4%)が最も高く、次いで「ひとりで」(36.2%)が高くなっています。

### 【高等学校】

「ひとりで」(54.3%)が最も高く、次いで「兄弟または姉妹」(28.3%)が高くなっています。



## 2-5 朝食を食べない理由

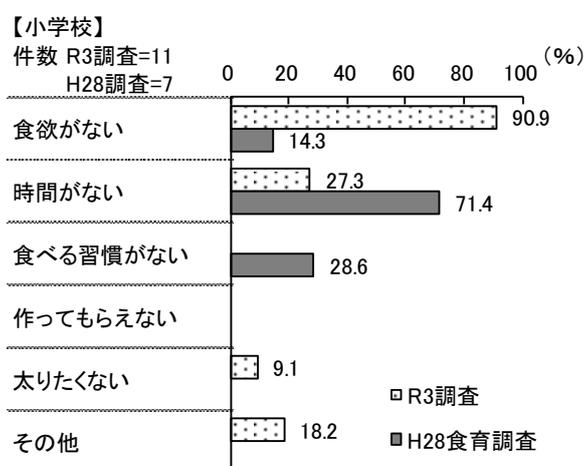
(問4で「ほとんど食べない」に○をつけた方に)

問4-3 あなたが朝食を食べない理由は何ですか。(○はいくつでも)

### 【小学校】

朝食を食べない理由は、「食欲がない」(90.9%)が最も高く、次いで「時間がない」(27.3%)が高くなっています。

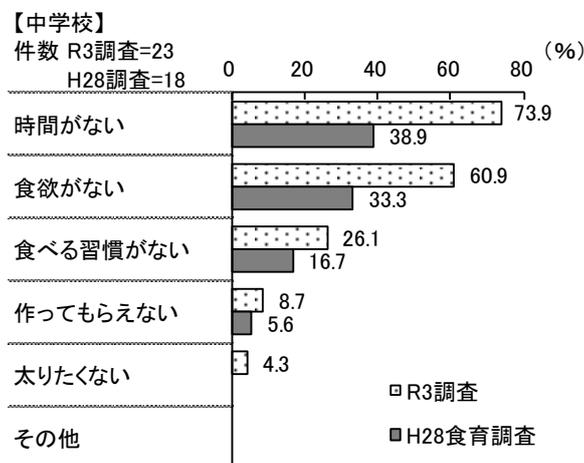
前回食育調査と比べると、前回食育調査では「時間がない」(71.4%)が最も高くなっています。



### 【中学校】

朝食を食べない理由は、「時間がない」(73.9%)が最も高く、次いで「食欲がない」(60.9%)が高くなっています。

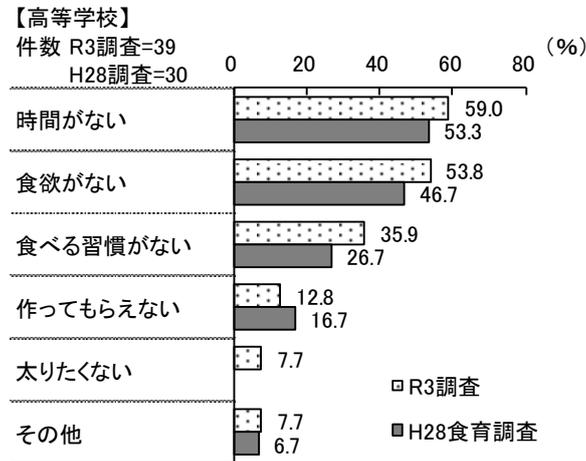
前回食育調査と比べると、いずれも「時間がない」が最も高く、前回食育調査では38.9%、今回調査では73.9%となっています。



**【高等学校】**

朝食を食べない理由は、「時間がない」(59.0%)が最も高く、次いで「食欲がない」(53.8%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



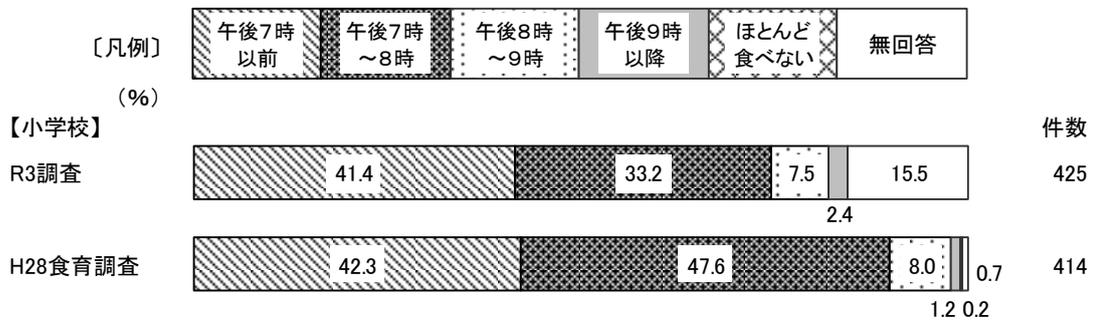
**2-6 夕食を食べる時間**

問5 あなたは、ふだん夕食を何時ごろに食べていますか。(○は1つ)

**【小学校】**

夕食を食べる時間は、「午後7時以前」(41.4%)が最も高く、次いで「午後7時～8時」(33.2%)が高くなっています。

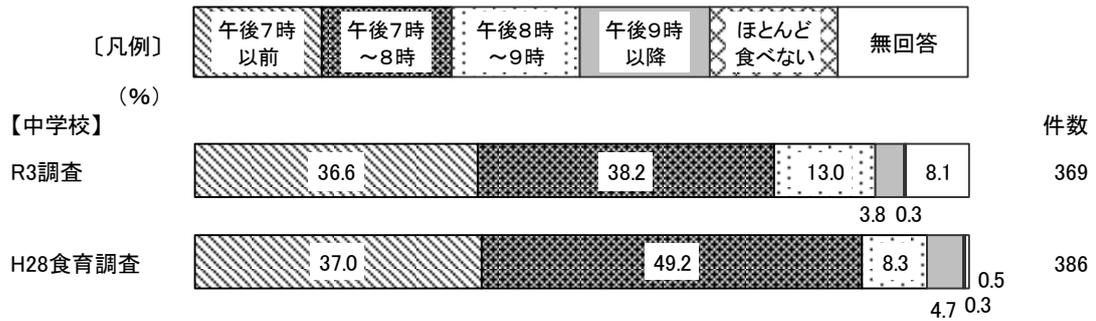
前回食育調査と比べると、前回食育調査では「午後7時～8時」(47.6%)が最も高くなっています。



**【中学校】**

夕食を食べる時間は、「午後7時～8時」（38.2%）が最も高く、次いで「午後7時以前」（36.6%）が高くなっています。

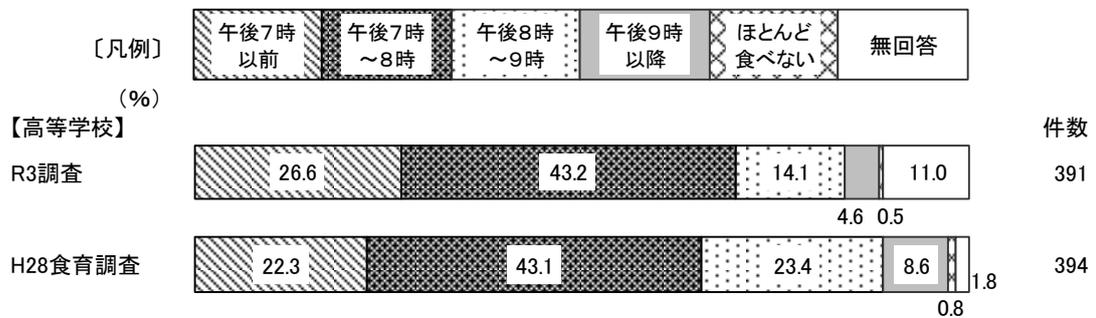
前回食育調査と比べると、いずれも「午後7時～8時」が最も高く、前回食育調査では49.2%、今回調査では38.2%となっています。



**【高等学校】**

夕食を食べる時間は、「午後7時～8時」（43.2%）が最も高く、次いで「午後7時以前」（26.6%）が高くなっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「午後7時～8時」が最も高くなっています。



## 2-7 夕食を一緒に食べる相手

(問5で「ほとんど食べない」以外のいずれかに○をつけた方に)

問5-1 あなたは、ふだん夕食を誰と食べますか。(○はいくつでも)

### 【小学校】

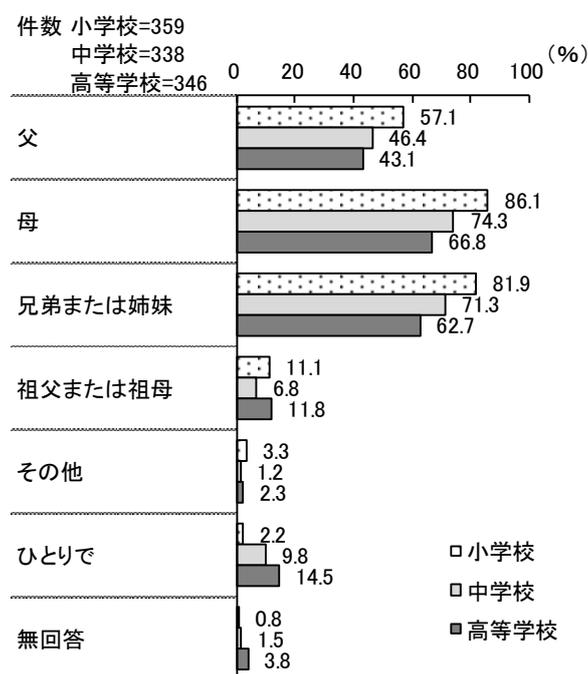
夕食を一緒に食べる相手は、「母」(86.1%)が最も高く、次いで「兄弟または姉妹」(81.9%)が高くなっています。また、「ひとりで」は2.2%となっています。

### 【中学校】

「母」(74.3%)が最も高く、次いで「兄弟または姉妹」(71.3%)が高くなっています。また、「ひとりで」は9.8%となっています。

### 【高等学校】

「母」(66.8%)が最も高く、次いで「兄弟または姉妹」(62.7%)が高くなっています。また、「ひとりで」は14.5%となっています。



## 2-8 一週間の食生活のパターン

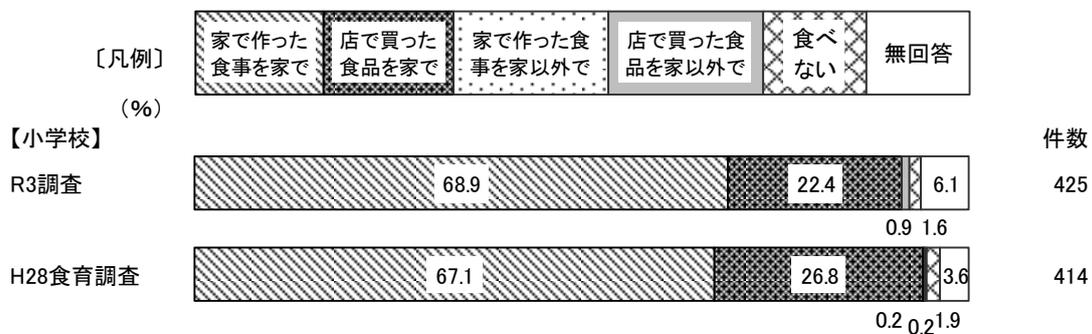
問6 一週間の食生活は以下のどのようなパターンが多いですか。朝食・昼食・夕食別に最も多いパターンを1つずつ選んで○をつけてください。(○は1つずつ)

### <朝食>

#### 【小学校】

一週間の食生活のパターンを朝食についてみると、「主に家で作った食事を家で食べる」(68.9%)が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」(22.4%)が高くなっています。また、「食べない」が1.6%となっています。

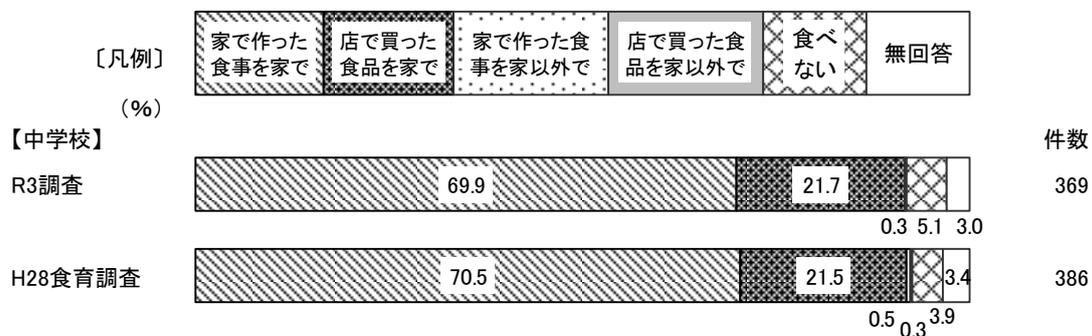
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が約7割を占めています。



#### 【中学校】

「主に家で作った食事を家で食べる」(69.9%)が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」(21.7%)が高くなっています。また、「食べない」が5.1%となっています。

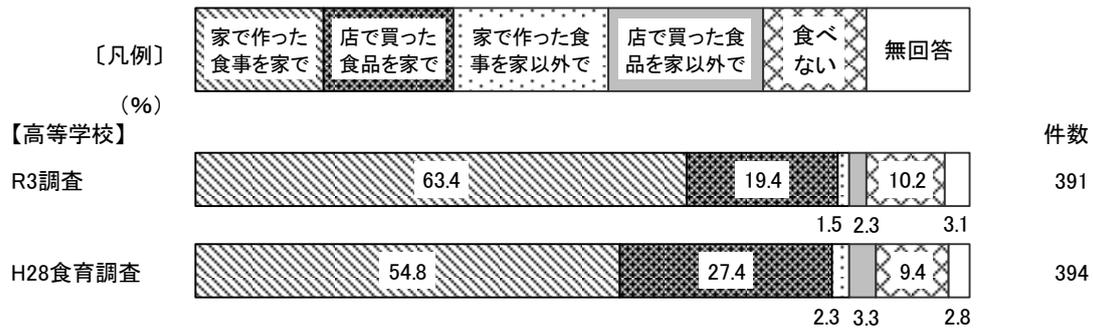
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が約7割を占めています。



### 【高等学校】

「主に家で作った食事を家で食べる」(63.4%)が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」(19.4%)が高くなっています。また、「食べない」が10.2%となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が最も高く、前回食育調査では54.8%、今回調査では63.4%となっています。

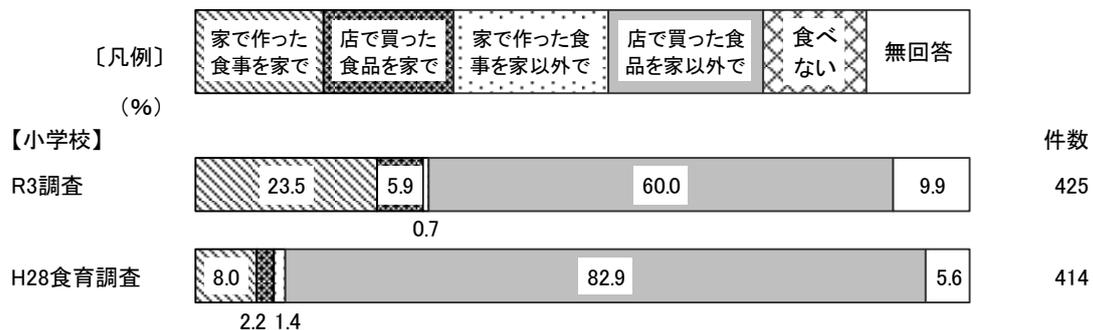


### <昼食>

#### 【小学校】

一週間の食生活のパターンを昼食についてみると、「店で買った食品を家以外の場所で食べる(外食、給食を含む)」(60.0%)が最も高く、次いで「主に家で作った食事を家で食べる」(23.5%)が高くなっています。

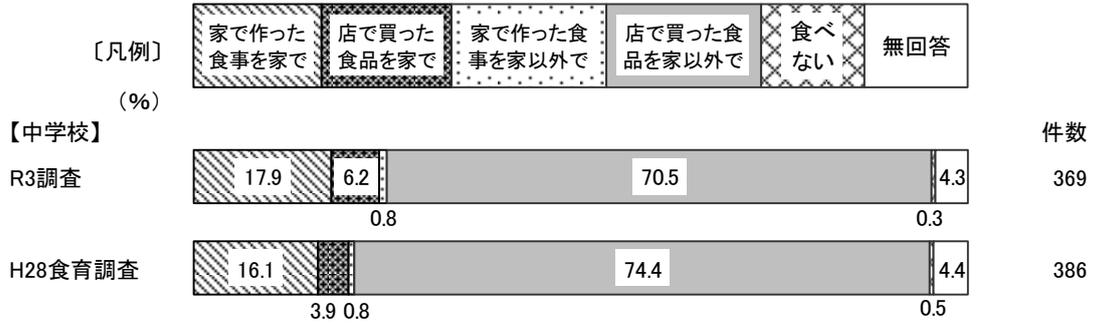
前回食育調査と比べると、いずれも「店で買った食品を家以外の場所で食べる」が最も高く、前回食育調査では82.9%、今回調査では60.0%となっています。



### 【中学校】

「店で買った食品を家以外の場所で食べる（外食、給食を含む）」（70.5%）が最も高く、次いで「主に家で作った食事を家で食べる」（17.9%）が高くなっています。

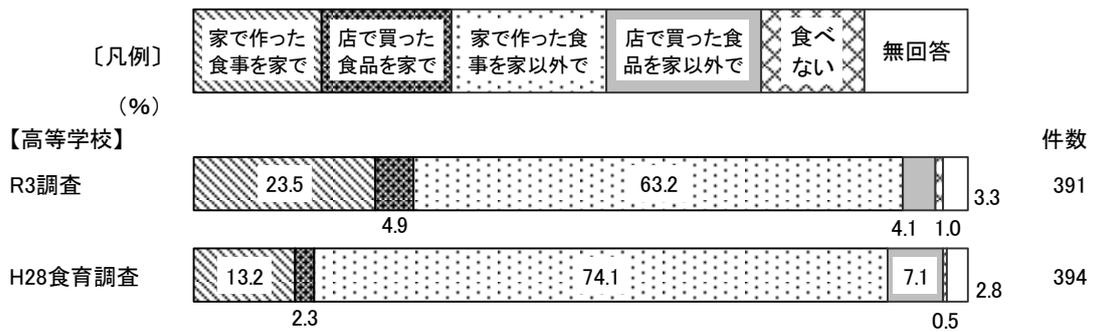
前回食育調査と比べると、いずれも「店で買った食品を家以外の場所で食べる」が7割以上で最も高くなっています。



### 【高等学校】

「主に家で作った食事を家以外の場所で食べる（お弁当）」（63.2%）が最も高く、次いで「主に家で作った食事を家で食べる」（23.5%）が高くなっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家以外の場所で食べる（お弁当）」が最も高く、前回食育調査では74.1%、今回調査では63.2%となっています。

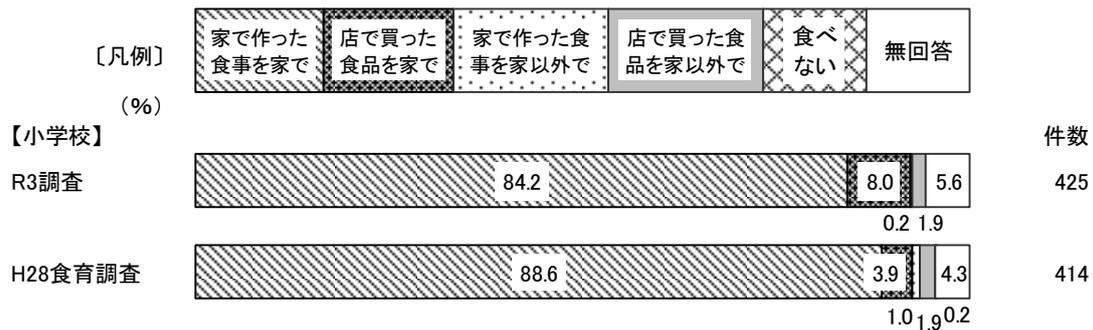


## <夕食>

### 【小学校】

一週間の食生活のパターンを夕食についてみると、「主に家で作った食事を家で食べる」（84.2%）が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」（8.0%）が高くなっています。

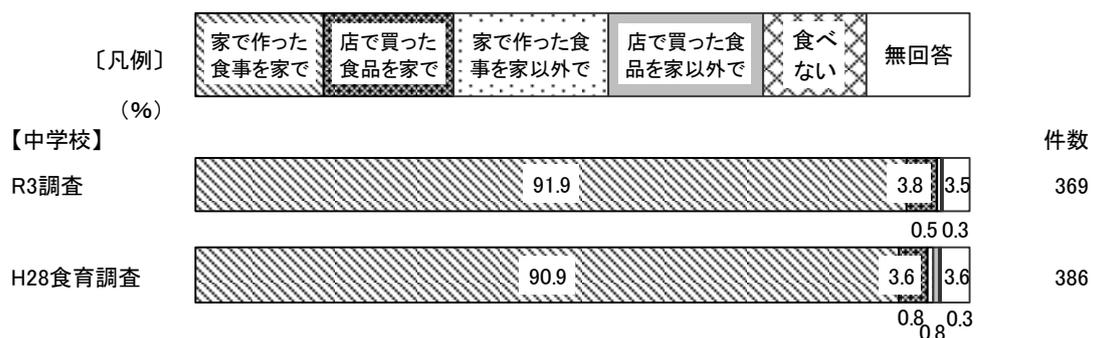
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が8割以上を占めています。



### 【中学校】

「主に家で作った食事を家で食べる」（91.9%）が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」（3.8%）が高くなっています。

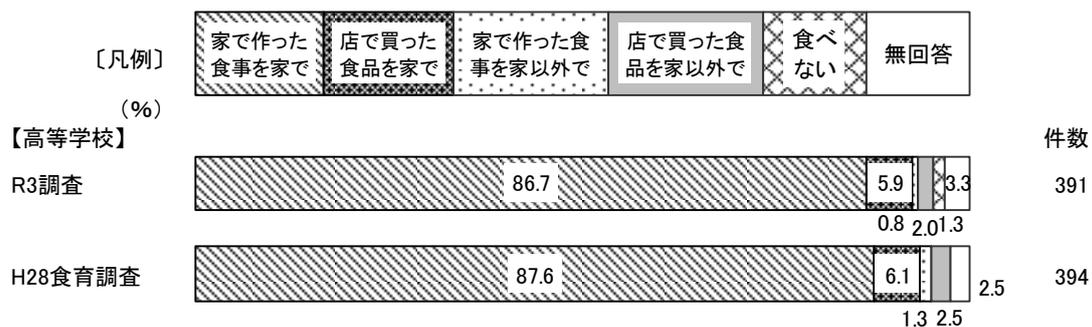
前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が約9割を占めています。



### 【高等学校】

「主に家で作った食事を家で食べる」（86.7%）が最も高く、次いで「主に店で買った食品を家で食べる」（5.9%）が高くなっています。また、「食べない」が1.3%となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「主に家で作った食事を家で食べる」が8割以上を占めています。



## 2-9 起床時間と就寝時間

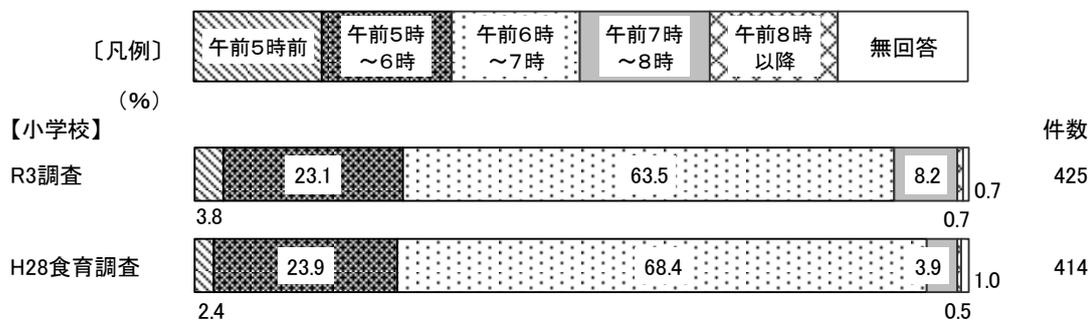
問7 あなたは、朝何時ごろ起きて、夜何時ごろ寝ていますか。（○は1つずつ）

### <起床時間>

#### 【小学校】

起床時間は、「午前6時～7時」（63.5%）が最も高く、次いで「午前5時～6時」（23.1%）が高くなっています。

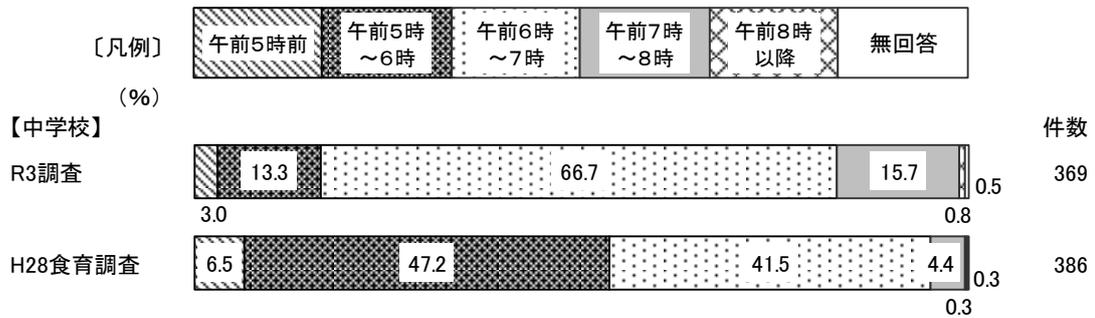
前回食育調査と比べると、いずれも「午前6時～7時」が最も高くなっています。



### 【中学校】

起床時間は、「午前6時～7時」（66.7%）が最も高く、次いで「午前7時～8時」（15.7%）が高くなっています。

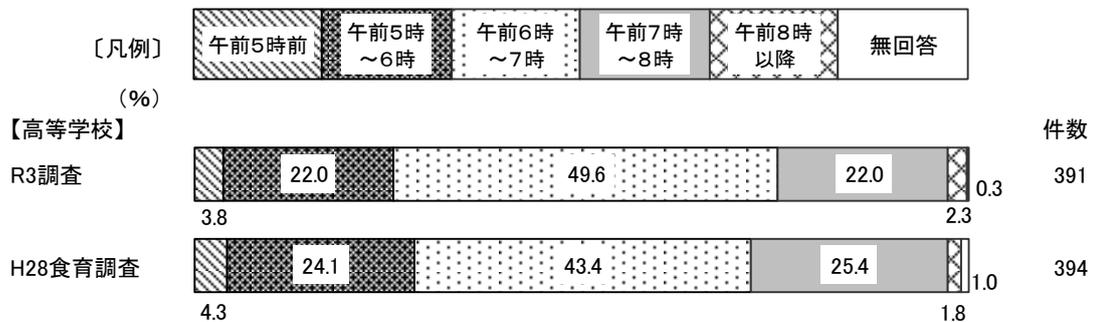
前回食育調査と比べると、前回食育調査では「午前5時～6時」（47.2%）が最も高くなっています。



### 【高等学校】

起床時間は、「午前6時～7時」（49.6%）が最も高く、次いで「午前5時～6時」「午前7時～8時」（ともに22.0%）が高くなっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「午前6時～7時」が最も高くなっています。

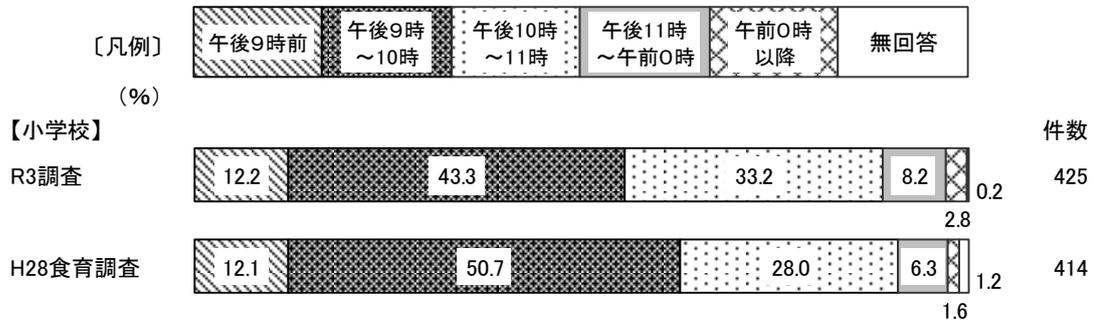


<就寝時間>

【小学校】

就寝時間は、「午後9時～10時」(43.3%)が最も高く、次いで「午後10時～11時」(33.2%)が高くなっています。

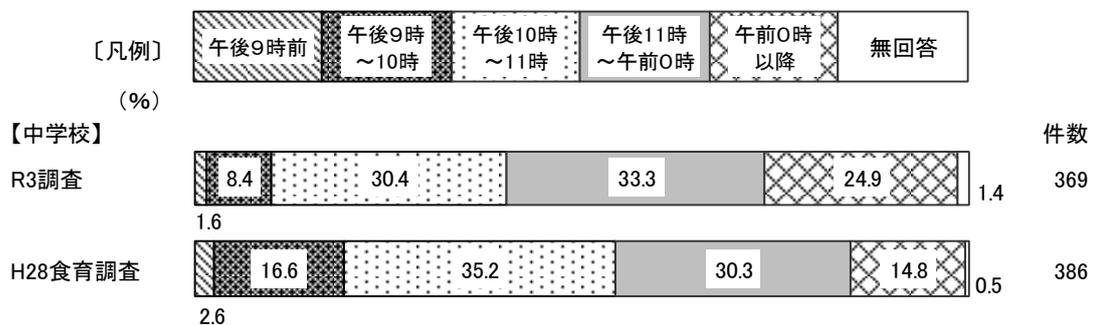
前回食育調査と比べると、いずれも「午後9時～10時」が最も高くなっています。



【中学校】

就寝時間は、「午後11時～午前0時」(33.3%)が最も高く、次いで「午後10時～11時」(30.4%)が高くなっています。

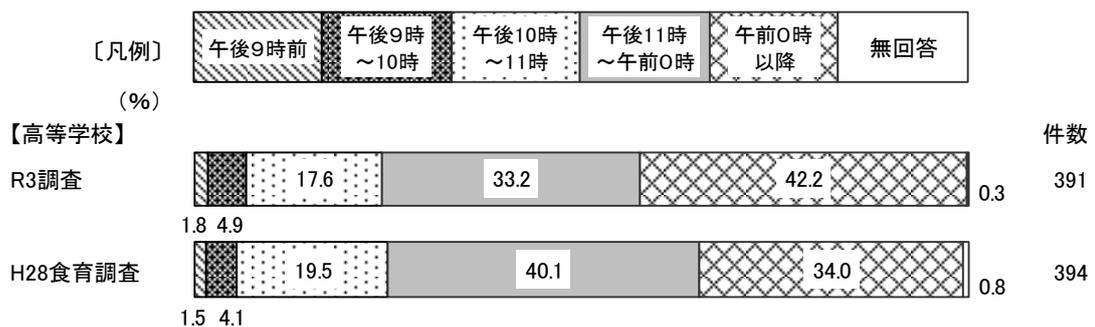
前回食育調査と比べると、前回食育調査では「午後10時～11時」(35.2%)が最も高くなっています。



【高等学校】

就寝時間は、「午前0時以降」(42.2%)が最も高く、次いで「午後11時～午前0時」(33.3%)が高くなっています。

前回食育調査と比べると、前回食育調査では「午後11時～午前0時」(40.1%)が最も高くなっています。



## 2-10 嫌いな食べ物

問8 次の食べ物のうち、嫌いなものがありますか。(○はいくつでも)

### 【小学校】

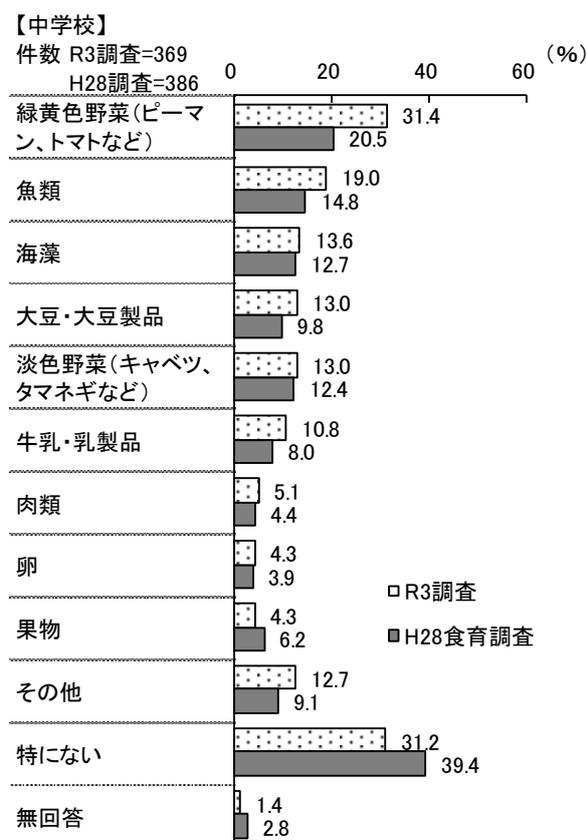
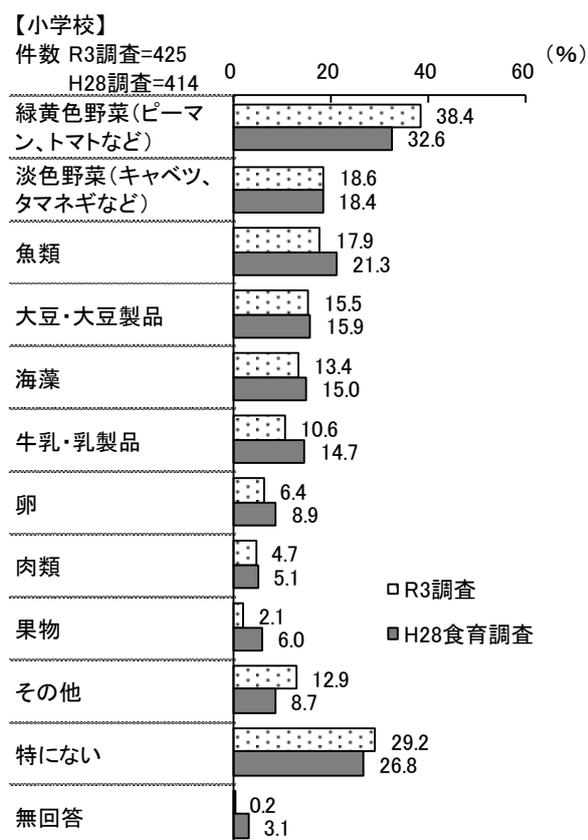
嫌いな食べ物は、「緑黄色野菜（ピーマン、トマトなど）」（38.4%）が最も高く、次いで「淡色野菜（キャベツ、タマネギなど）」（18.6%）、「魚類」（17.9%）、「大豆・大豆製品」（15.5%）、「海藻」（13.4%）となっています。また、「特にない」は29.2%となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

### 【中学校】

嫌いな食べ物は、「緑黄色野菜（ピーマン、トマトなど）」（31.4%）が最も高く、次いで「魚類」（19.0%）、「海藻」（13.6%）、「大豆・大豆製品」「淡色野菜（キャベツ、タマネギなど）」（ともに13.0%）となっています。また、「特にない」は31.2%となっています。

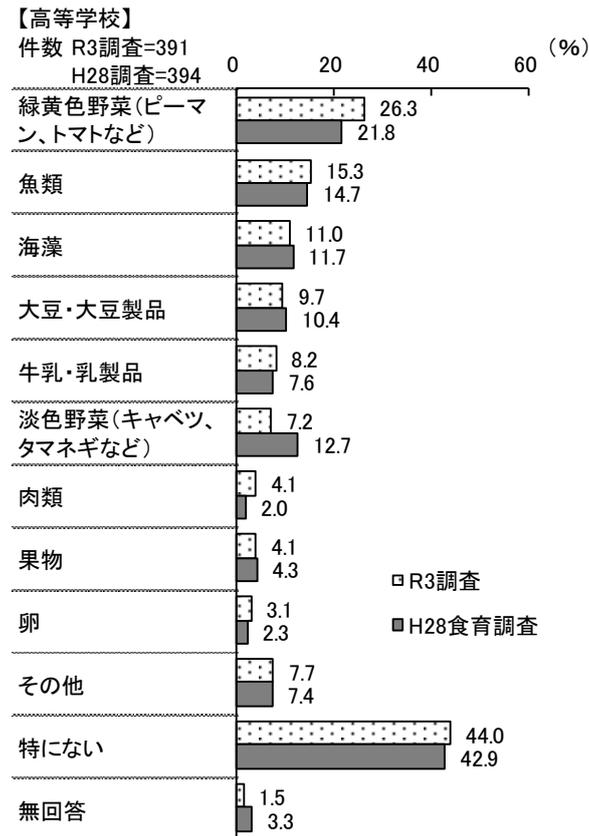
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



**【高等学校】**

嫌いな食べ物は、「緑黄色野菜（ピーマン、トマトなど）」（26.3%）が最も高く、次いで「魚類」（15.3%）、「海藻」（11.0%）、「大豆・大豆製品」（9.7%）、「牛乳・乳製品」（8.2%）となっています。また、「特にない」は44.0%となっています。

前回食育調査と比べると、「淡色野菜（キャベツ、タマネギなど）」が前回食育調査では第3位、今回調査では第6位と順位を下げています。



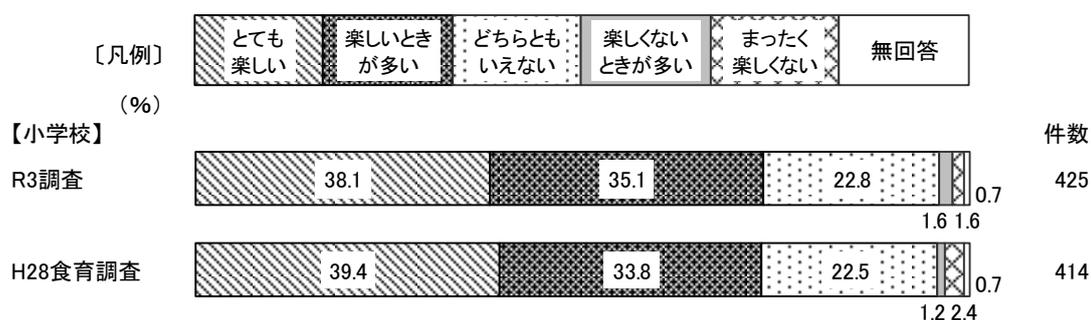
## 2-11 食事の時間は楽しいか

問9 毎日の食事の時間は楽しいですか。(○は1つ)

### 【小学校】

毎日の食事の時間は、「とても楽しい」(38.1%)が最も高く、「楽しいときが多い」(35.1%)と合わせた『楽しい』は73.2%となっています。一方、『楽しくない』(「まったく楽しくない」と「楽しくないときが多い」の計)は3.2%となっています。

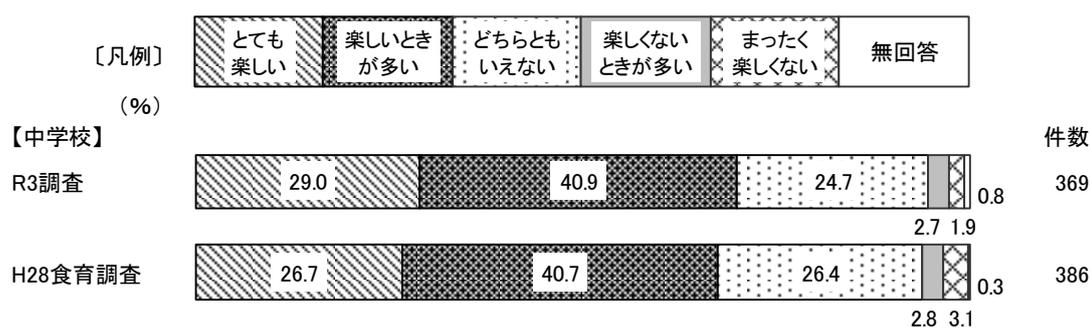
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 【中学校】

毎日の食事の時間は、「楽しいときが多い」(40.9%)が最も高く、『楽しい』は69.9%となっています。一方、『楽しくない』は4.6%となっています。

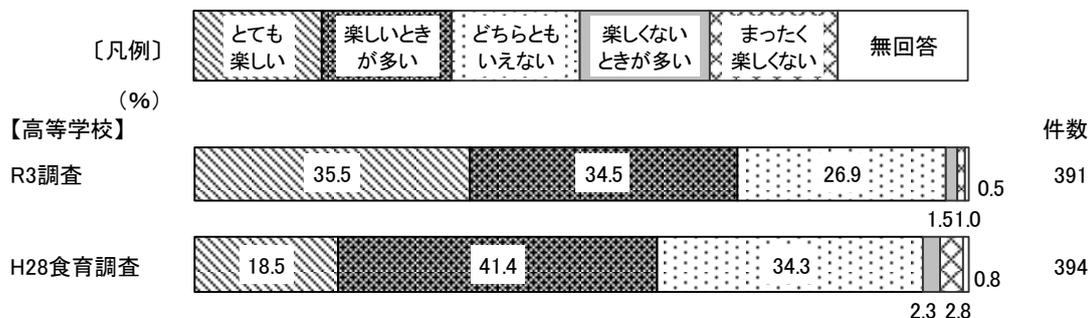
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 【高等学校】

毎日の食事の時間は、「とても楽しい」（35.5%）が最も高く、『楽しい』は70.0%となっています。一方、『楽しくない』は2.5%となっています。

前回食育調査と比べると、前回食育調査では「楽しいときが多い」が最も高く、『楽しい』は前回食育調査で59.9%、今回調査で70.0%となっています。



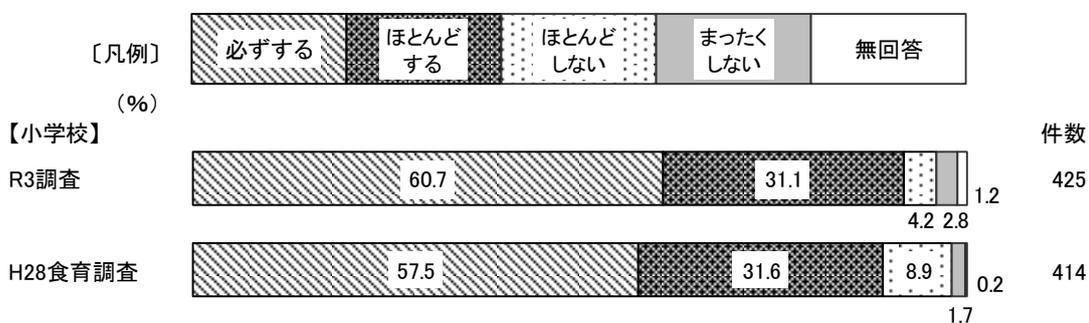
## 2-12 食事のあいさつの実施状況

問 10 あなたは食事の際に、「いただきます」「ごちそうさま」のあいさつをしていますか。  
(○は1つ)

### 【小学校】

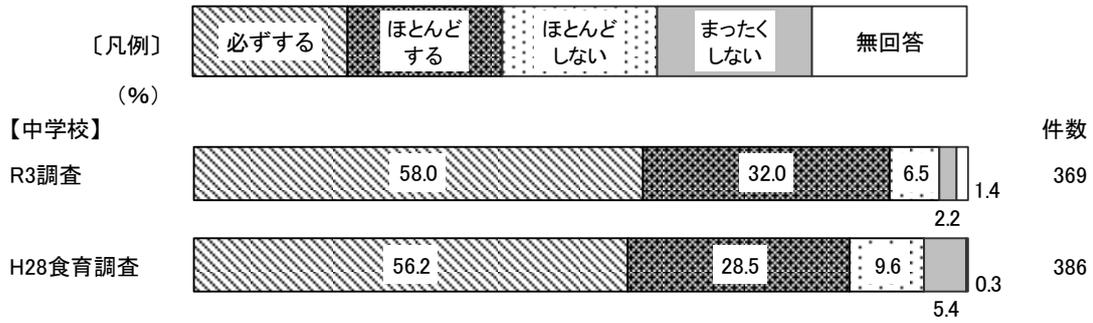
食事のあいさつの実施状況は、「必ずする」（60.7%）が最も高く、「ほとんどする」（31.1%）と合わせた『あいさつをする』は91.8%となっています。一方、『あいさつをしない』（「まったくしない」と「ほとんどしない」の計）は7.0%となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



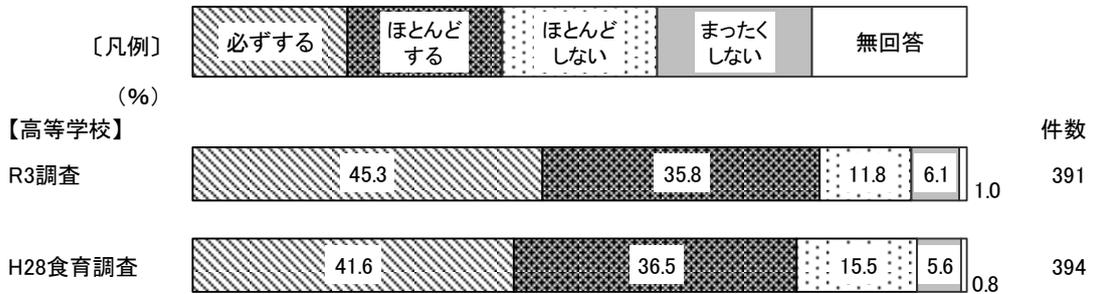
### 【中学校】

食事のあいさつの実施状況は、「必ずする」(58.0%)が最も高く、『あいさつをする』は90.0%となっています。一方、『あいさつをしない』は8.7%となっています。前回食育調査と比べると、『あいさつをしない』は前回食育調査で15.0%、今回調査で8.7%となっています。



### 【高等学校】

食事のあいさつの実施状況は、「必ずする」(45.3%)が最も高く、『あいさつをする』は81.1%となっています。一方、『あいさつをしない』は17.9%となっています。前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



### 3 食育について

#### 3-1 食育への関心度

問 11 あなたは、「食育」に関心がありますか。(○は1つ)

##### 【小学校】

食育への関心度は、「どちらかといえば関心がある」(42.6%)が最も高く、「関心がある」(22.4%)と合わせた『関心がある』は65.0%となっています。一方、『関心がない』(「関心がない」と「どちらかといえば関心がない」の計)は16.3%となっています。また、「わからない」が17.2%となっています。

前回食育調査と比べると、『関心がある』は前回食育調査で49.3%、今回調査で65.0%となっています。また、「わからない」が前回食育調査で31.2%、今回調査で17.2%となっています。



##### 【中学校】

「どちらかといえば関心がある」(37.4%)が最も高く、『関心がある』は54.2%となっています。一方、『関心がない』は28.7%となっています。また、「わからない」が15.4%となっています。

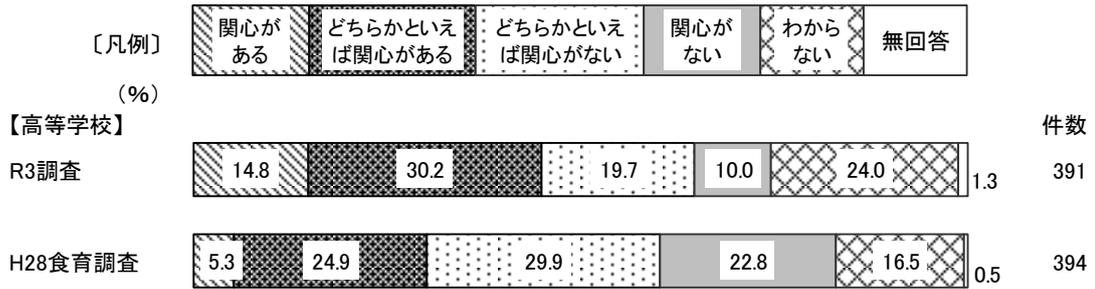
前回食育調査と比べると、『関心がある』は前回食育調査で34.7%、今回調査で54.2%となっています。また、「わからない」が前回食育調査で26.9%、今回調査で15.4%となっています。



**【高等学校】**

「どちらかといえば関心がある」(30.2%)が最も高く、『関心がある』は45.0%となっています。一方、『関心がない』は29.7%となっています。また、「わからない」が24.0%となっています。

前回食育調査と比べると、『関心がある』は前回食育調査で30.2%、今回調査で45.0%となっています。また、「わからない」が前回食育調査で16.5%、今回調査で24.0%となっています。



### 3-2 食育について関心があること

(問 11 で「関心がある」「どちらかといえば関心がある」のいずれかに○をつけた方に)  
 問 11-1 「食育」について関心のあることはどれですか。(○はいくつでも)

#### 【小学校】

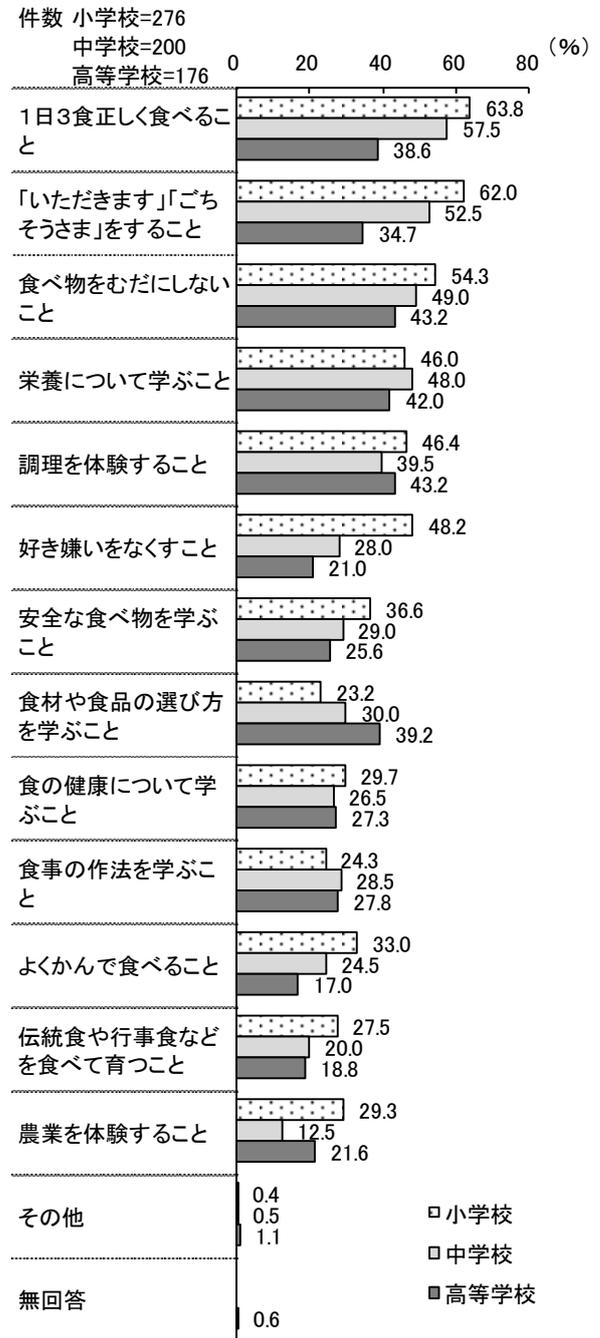
食育について関心があることは、「1日3食正しく食べること」(63.8%)が最も高く、次いで「「いただきます」「ごちそうさま」をすること」(62.0%)、「食べ物をむだにしないこと」(54.3%)、「好き嫌いをなくすこと」(48.2%)、「調理を体験すること」(46.4%)となっています。

#### 【中学校】

「1日3食正しく食べること」(57.5%)が最も高く、次いで「「いただきます」「ごちそうさま」をすること」(52.5%)、「食べ物をむだにしないこと」(49.0%)、「栄養について学ぶこと」(48.0%)、「調理を体験すること」(39.5%)となっています。

#### 【高等学校】

「食べ物をむだにしないこと」「調理を体験すること」(ともに43.2%)が最も高く、次いで「栄養について学ぶこと」(42.0%)、「食材や食品の選び方を学ぶこと」(39.2%)、「1日3食正しく食べること」(38.6%)となっています。



### 3-3 家でしている食に関する手伝い

問 12 あなたは、家で食に関するどのような手伝いをしていますか。（○はいくつでも）

#### 【小学校】

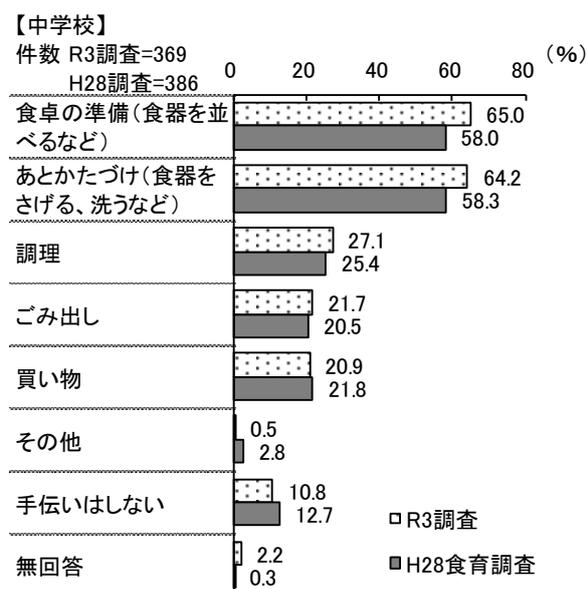
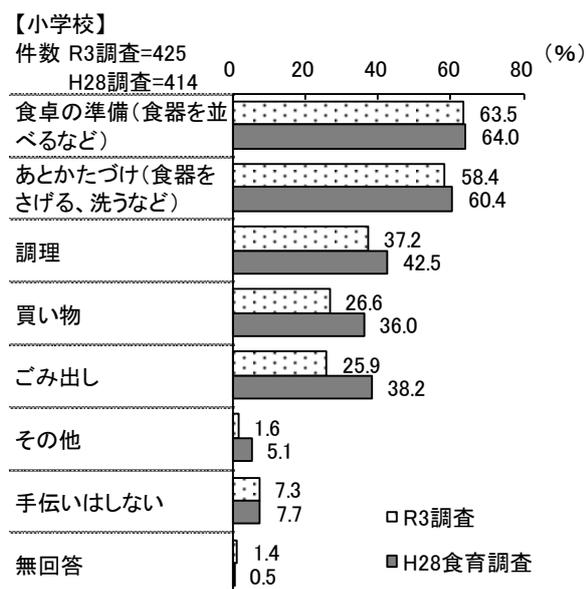
家でしている食に関する手伝いは、「食卓の準備（食器を並べるなど）」（63.5%）が最も高く、次いで「あとかたづけ（食器をさげる、洗うなど）」（58.4%）、「調理」（37.2%）となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「食卓の準備」と「あとかたづけ」が高くなっています。

#### 【中学校】

「食卓の準備」（65.0%）が最も高く、次いで「あとかたづけ」（64.2%）、「調理」（27.1%）となっています。

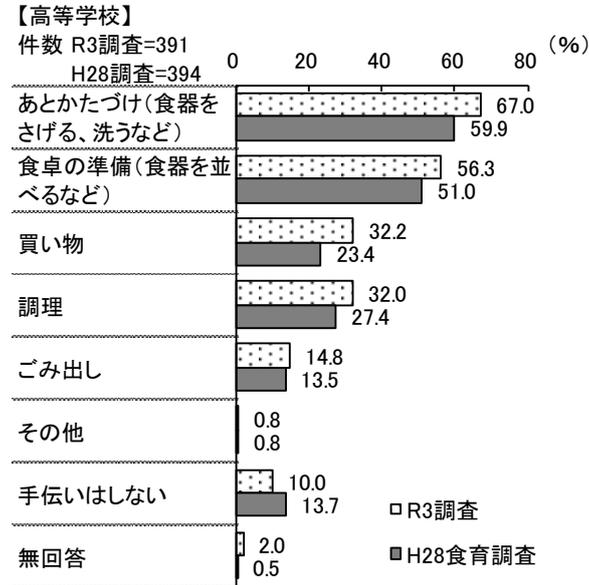
前回食育調査と比べると、いずれも「食卓の準備」と「あとかたづけ」が高くなっています。



### 【高等学校】

「あとかたづけ」（67.0%）が最も高く、次いで「食卓の準備」（56.3%）、「買い物」（32.2%）となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「あとかたづけ」が最も高くなっています。



### 3-4 家で教わった食事のマナー

問 13 食事のマナーについて、家で教わったことはどんなことですか。（○はいくつでも）

#### 【小学校】

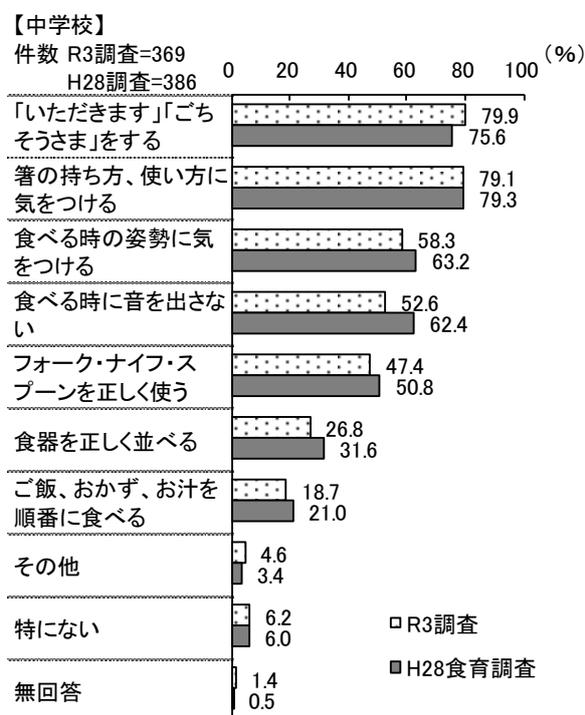
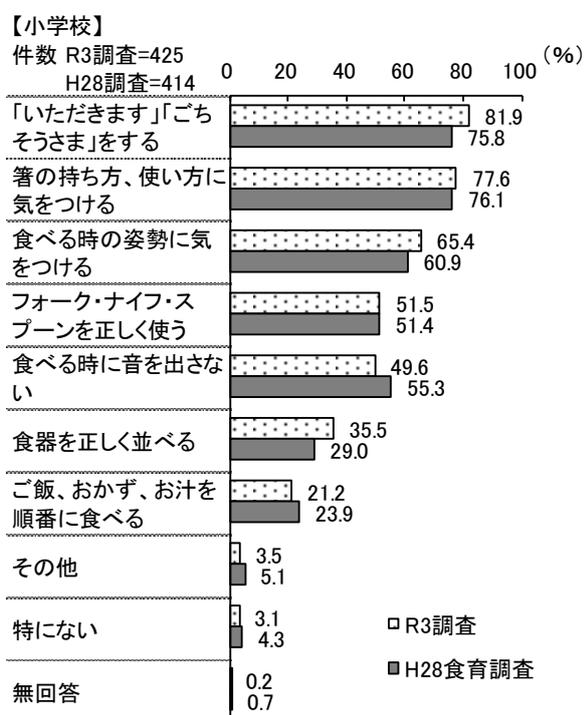
家で教わった食事のマナーは、「いただきます」「ごちそうさま」をする（81.9%）が最も高く、次いで「箸の持ち方、使い方に気をつける」（77.6%）、「食べる時の姿勢に気をつける」（65.4%）となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「いただきます」「ごちそうさま」をする」が最も高くなっています。

#### 【中学校】

「いただきます」「ごちそうさま」をする（79.9%）が最も高く、次いで「箸の持ち方、使い方に気をつける」（79.1%）、「食べる時の姿勢に気をつける」（58.3%）となっています。

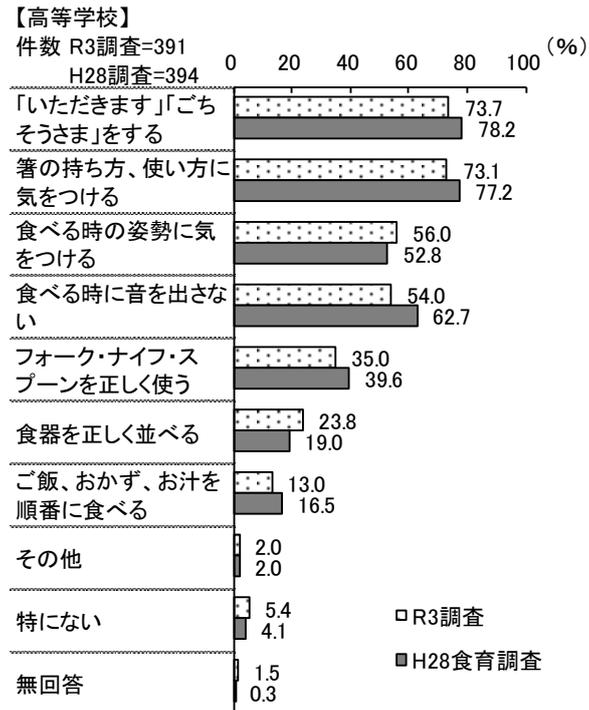
前回食育調査と比べると、いずれも「いただきます」「ごちそうさま」をする」が最も高くなっています。



## 【高等学校】

「「いただきます」「ごちそうさま」をする」（73.7%）が最も高く、次いで「箸の持ち方、使い方に気をつける」（73.1%）、「食べる時の姿勢に気をつける」（56.0%）となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「「いただきます」「ごちそうさま」をする」が最も高くなっています。



## 4 農業について

### 4-1 農作業・農業体験の実施経験について

問 14 あなたは、以下の農作業（手伝いを含む）や農業体験をしたことがありますか。したことがある人は、それをどこでしましたか。

また、それをこれからもしたいですか、もしくは新たにしてみたいですか。

①米づくり（田植え、稲刈りなど）

【したことがありますか】（○は1つ）

（「ある」に○をつけた方に）【どこでしましたか】（○はいくつでも）

【これからもしたいですか／新たにしてみたいですか】（○は1つ）

<経験の有無>

#### 【小学校】

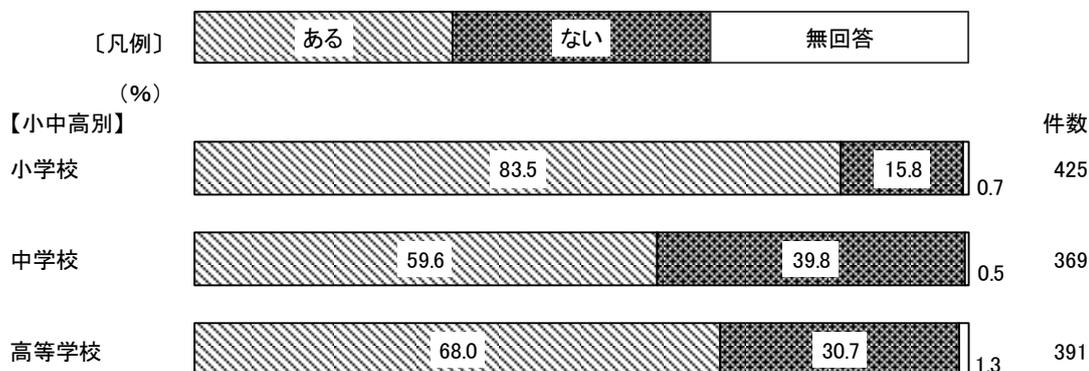
米づくりの経験の有無は、「ある」が83.5%、「ない」が15.8%となっています。

#### 【中学校】

「ある」が59.6%、「ない」が39.8%となっています。

#### 【高等学校】

「ある」が68.0%、「ない」が30.7%となっています。



<経験した場所>

**【小学校】**

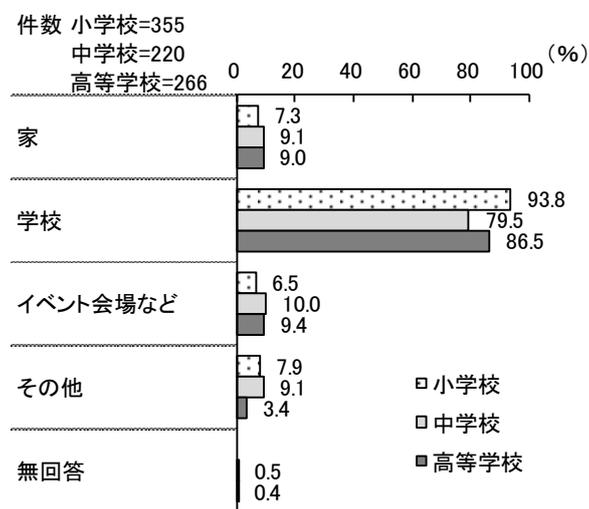
米づくりを経験した場所は、「学校」(93.8%)が最も高く、次いで「その他」(7.9%)が高くなっています。

**【中学校】**

「学校」(79.5%)が最も高く、次いで「イベント会場など」(10.0%)が高くなっています。

**【高等学校】**

「学校」(86.5%)が最も高く、次いで「イベント会場など」(9.4%)が高くなっています。



<今後の実施意向>

**【小学校】**

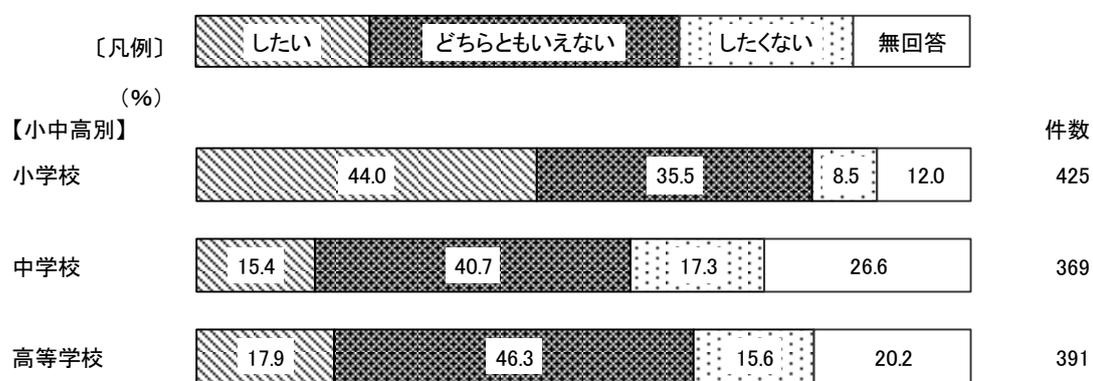
米づくりの今後の実施意向は、「したい」が44.0%、「したくない」が8.5%となっています。

**【中学校】**

「したい」が15.4%、「したくない」が17.3%となっています。

**【高等学校】**

「したい」が17.9%、「したくない」が15.6%となっています。



②野菜づくり（植え付け、いもほりなど）

【したことがありますか】（○は1つ）

（「ある」に○をつけた方に）【どこでしましたか】（○はいくつでも）

【これからもしたいですか／新たにしてみたいですか】（○は1つ）

<経験の有無>

【小学校】

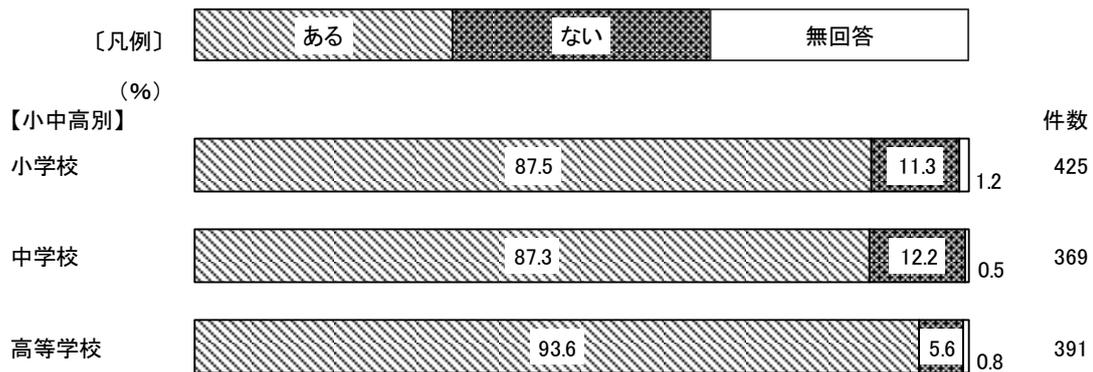
野菜づくりの経験の有無は、「ある」が87.5%、「ない」が11.3%となっています。

【中学校】

「ある」が87.3%、「ない」が12.2%となっています。

【高等学校】

「ある」が93.6%、「ない」が5.6%となっています。



<経験した場所>

**【小学校】**

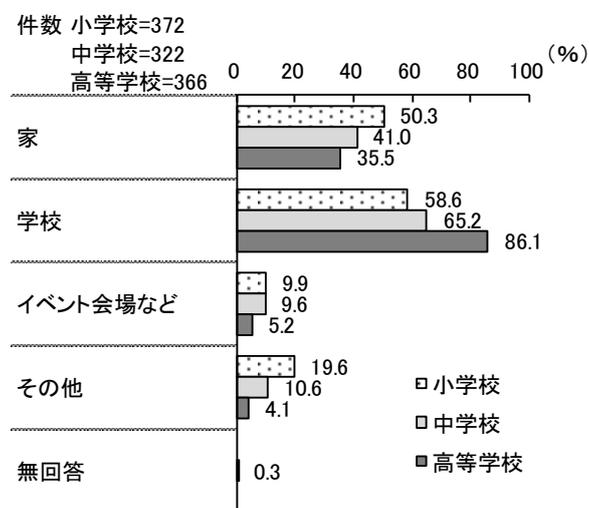
野菜づくりを経験した場所は、「学校」(58.6%)が最も高く、次いで「家」(50.3%)が高くなっています。

**【中学校】**

「学校」(65.2%)が最も高く、次いで「家」(41.0%)が高くなっています。

**【高等学校】**

「学校」(86.1%)が最も高く、次いで「家」(35.5%)が高くなっています。



<今後の実施意向>

**【小学校】**

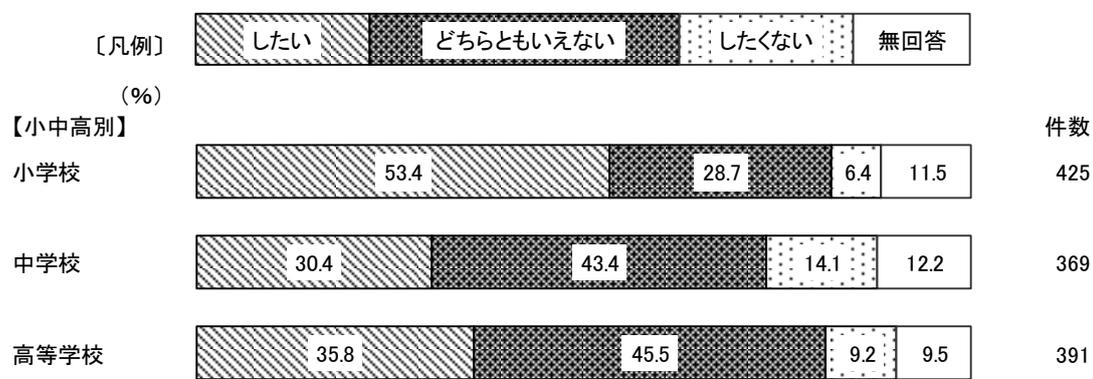
野菜づくりの今後の実施意向は、「したい」が53.4%、「したくない」が6.4%となっています。

**【中学校】**

「したい」が30.4%、「したくない」が14.1%となっています。

**【高等学校】**

「したい」が35.8%、「したくない」が9.2%となっています。



③果物づくり（収穫体験など）

【したことがありますか】（○は1つ）

（「ある」に○をつけた方に）【どこでしましたか】（○はいくつでも）

【これからもしたいですか／新たにしてみたいですか】（○は1つ）

<経験の有無>

【小学校】

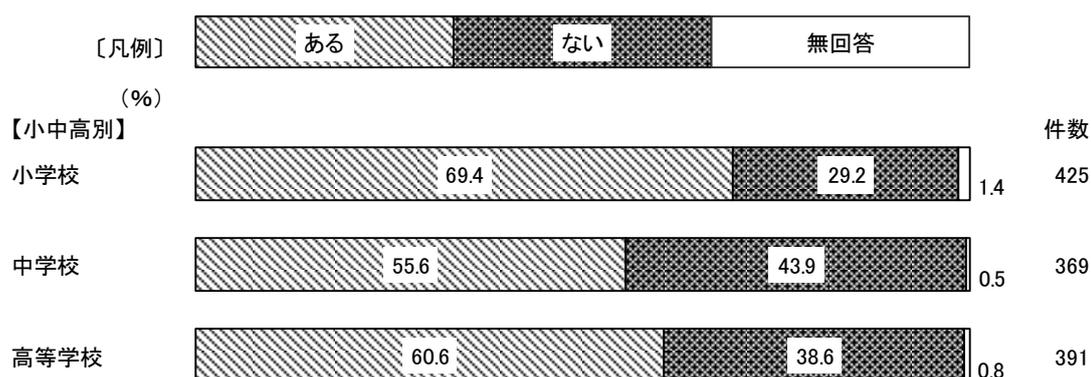
果物づくりの経験の有無は、「ある」が69.4%、「ない」が29.2%となっています。

【中学校】

「ある」が55.6%、「ない」が43.9%となっています。

【高等学校】

「ある」が60.6%、「ない」が38.6%となっています。



<経験した場所>

**【小学校】**

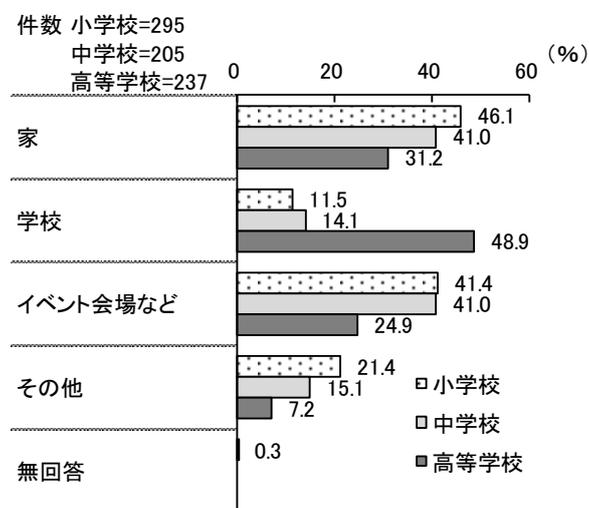
果物づくりを経験した場所は、「家」（46.1%）が最も高く、次いで「イベント会場など」（41.4%）が高くなっています。

**【中学校】**

「家」と「イベント会場など」（ともに41.0%）が最も高くなっています。

**【高等学校】**

「学校」（48.9%）が最も高く、次いで「家」（31.2%）が高くなっています。



<今後の実施意向>

**【小学校】**

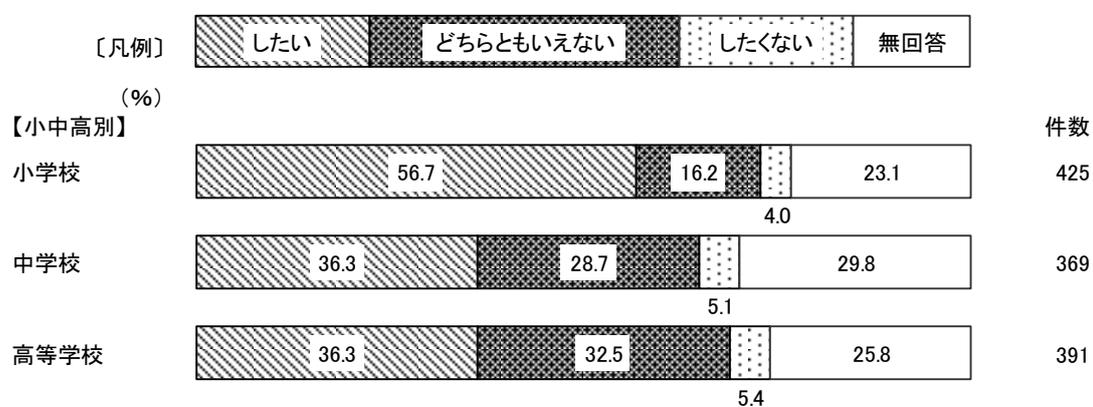
果物づくりの今後の実施意向は、「したい」が56.7%、「したくない」が4.0%となっています。

**【中学校】**

「したい」が36.3%、「したくない」が5.1%となっています。

**【高等学校】**

「したい」が36.3%、「したくない」が5.4%となっています。



④加工食品づくり（ソーセージ、パンづくりなど）

【したことがありますか】（○は1つ）

（「ある」に○をつけた方に）【どこでしましたか】（○はいくつでも）

【これからもしたいですか／新たにしてみたいですか】（○は1つ）

<経験の有無>

【小学校】

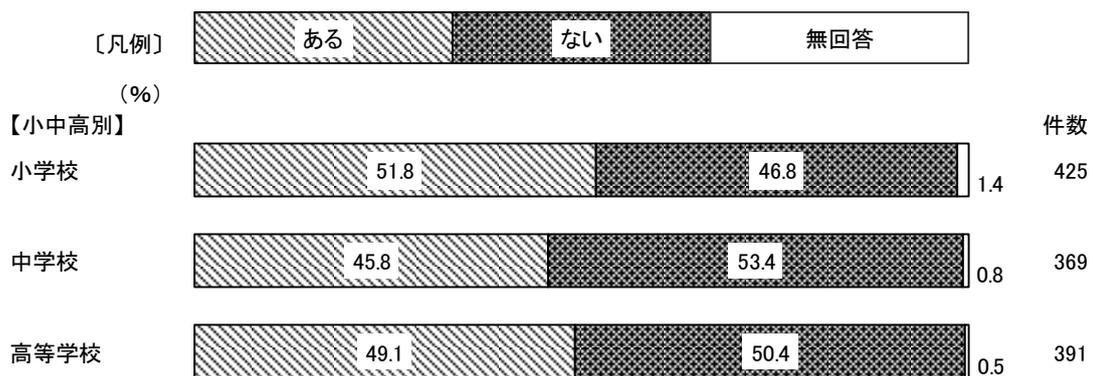
加工食品づくりの経験の有無は、「ある」が51.8%、「ない」が46.8%となっています。

【中学校】

「ある」が45.8%、「ない」が53.4%となっています。

【高等学校】

「ある」が49.1%、「ない」が50.4%となっています。



<経験した場所>

**【小学校】**

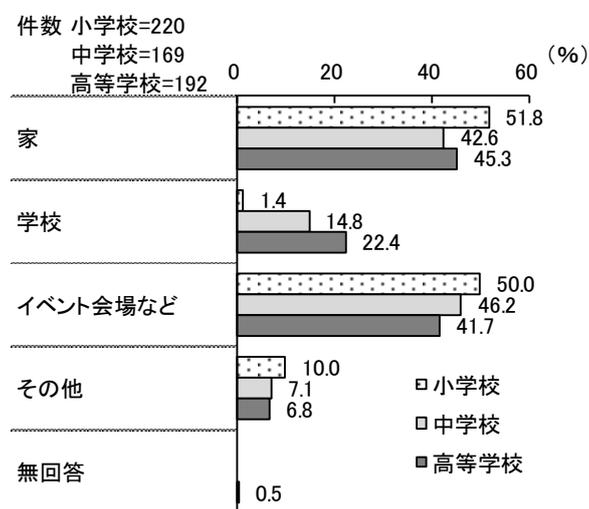
加工食品づくりを経験した場所は、「家」（51.8%）が最も高く、次いで「イベント会場など」（50.0%）が高くなっています。

**【中学校】**

「イベント会場など」（46.2%）が最も高く、次いで「家」（42.6%）が高くなっています。

**【高等学校】**

「家」（45.3%）が最も高く、次いで「イベント会場など」（41.7%）が高くなっています。



<今後の実施意向>

【小学校】

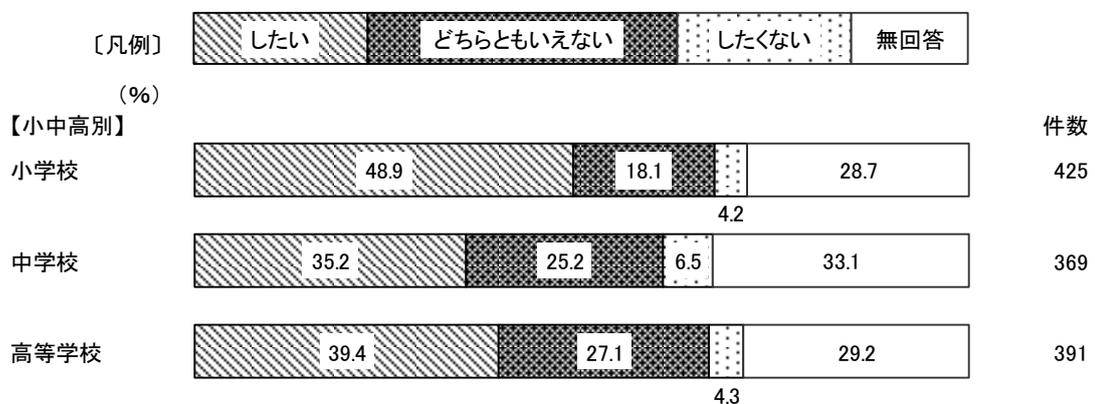
加工食品づくりの今後の実施意向は、「したい」が48.9%、「したくない」が4.2%となっています。

【中学校】

「したい」が35.2%、「したくない」が6.5%となっています。

【高等学校】

「したい」が39.4%、「したくない」が4.3%となっています。



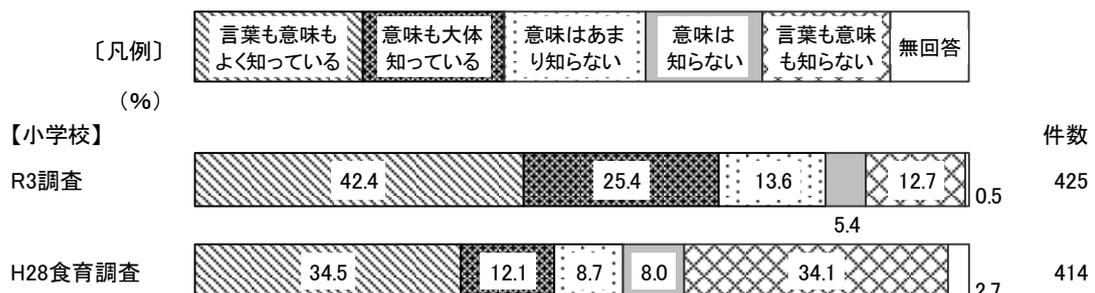
4-2 地産地消の認知度

問 15 地産地消という言葉やその意味を知っていますか。(○は1つ)

【小学校】

地産地消の認知度は、「言葉も意味もよく知っている」(42.4%)が最も高く、「言葉も知っているし、意味も大体知っている」(25.4%)と合わせた『理解している』は67.8%となっています。また、「言葉も意味も知らない」は12.7%となっています。

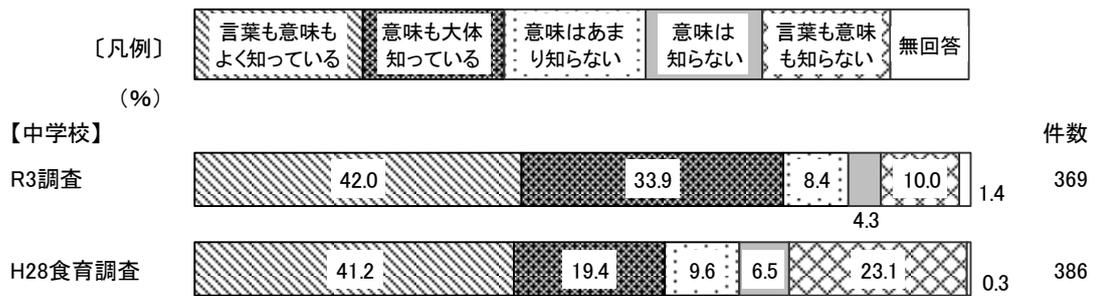
前回食育調査と比べると、『理解している』は前回食育調査で46.6%、今回調査で67.8%となっています。また、「言葉も意味も知らない」が前回食育調査で34.1%、今回調査で12.7%となっています。



### 【中学校】

「言葉も意味もよく知っている」(42.0%)が最も高く、『理解している』は75.9%となっています。また、「言葉も意味も知らない」は10.0%となっています。

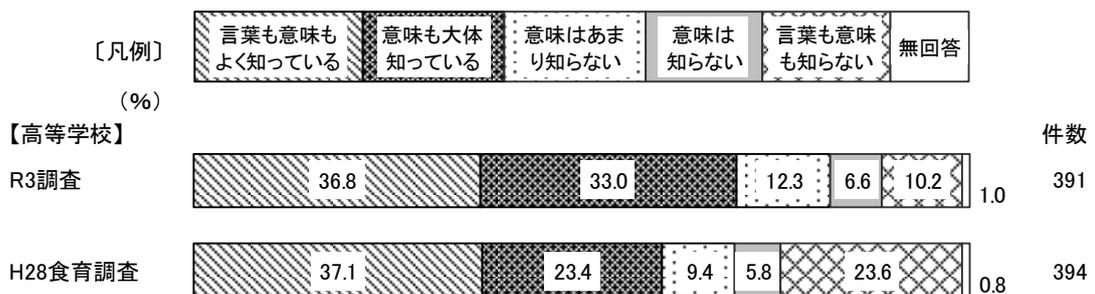
前回食育調査と比べると、『理解している』は前回食育調査で60.6%、今回調査で75.9%となっています。また、「言葉も意味も知らない」が前回食育調査で23.1%、今回調査で10.0%となっています。



### 【高等学校】

「言葉も意味もよく知っている」(36.8%)が最も高く、『理解している』は69.8%となっています。また、「言葉も意味も知らない」は10.2%となっています。

前回食育調査と比べると、『理解している』は前回食育調査で60.5%、今回調査で69.8%となっています。また、「言葉も意味も知らない」が前回食育調査で23.6%、今回調査で10.2%となっています。



### 4-3 知っている市の特産品

問 16 安城市の特産品であることを知っているものは何ですか。(〇はいくつでも)

#### 【小学校】

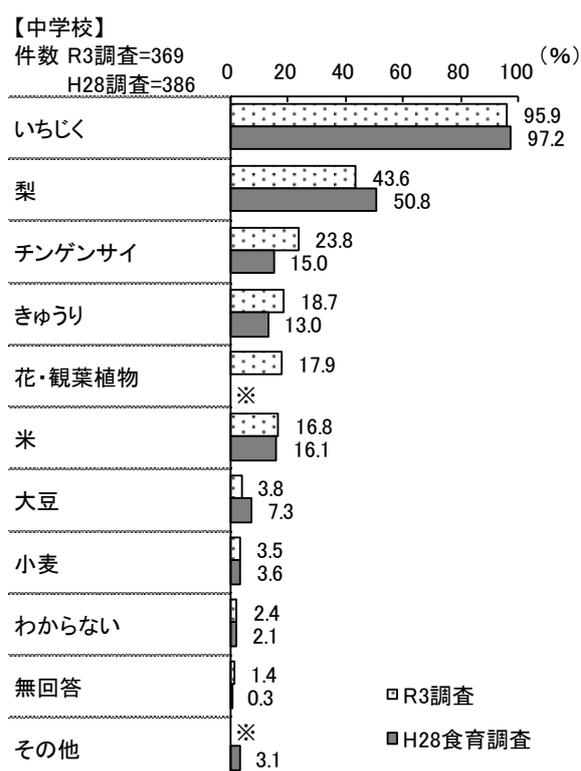
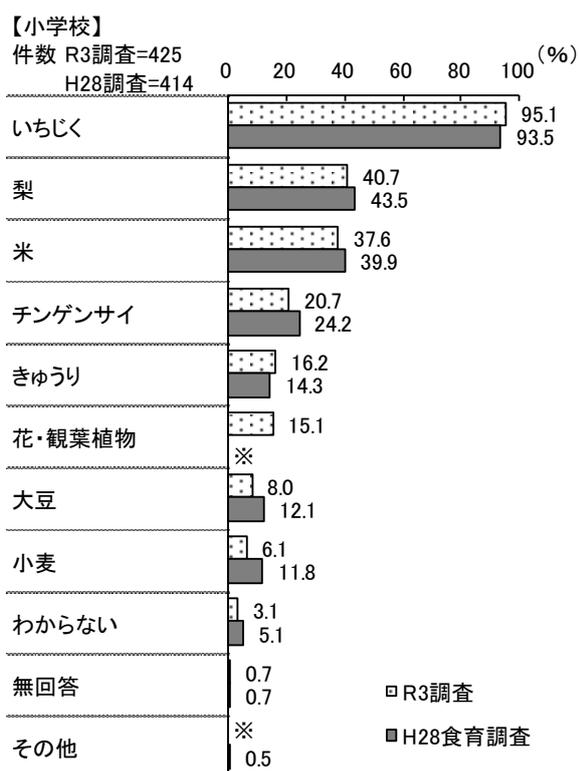
知っている市の特産品は、「いちじく」(95.1%)が最も高く、次いで「梨」(40.7%)、「米」(37.6%)、「チンゲンサイ」(20.7%)、「きゅうり」(16.2%)となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「いちじく」が9割以上で最も高くなっています。

#### 【中学校】

「いちじく」(95.9%)が最も高く、次いで「梨」(43.6%)、「チンゲンサイ」(23.8%)、「きゅうり」(18.7%)、「花・観葉植物」(17.9%)となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「いちじく」が9割以上で最も高くなっています。

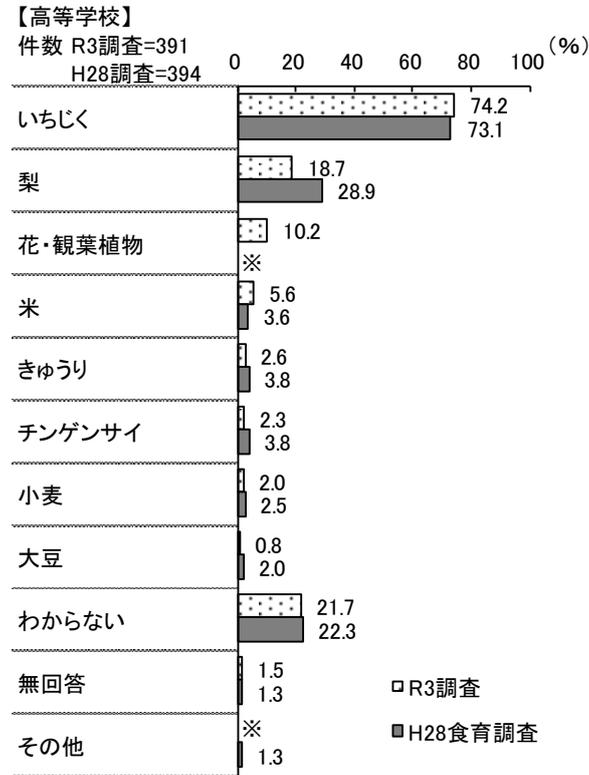


※「花・観葉植物」は R3 調査のみ、「その他」は H28 食育調査のみ

**【高等学校】**

「いちじく」(74.2%)が最も高く、次いで「梨」(18.7%)、「花・観葉植物」(10.2%)、「米」(5.6%)、「きゅうり」(2.6%)となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「いちじく」が7割以上で最も高くなっています。



※「花・観葉植物」は R3 調査のみ、「その他」は H28 食育調査のみ

## 5 環境について

### 5-1 食品ロス問題の認知度

問 17 あなたは、「食品ロス」が問題となっていることを知っていますか。（○は1つ）

#### 【小学校】

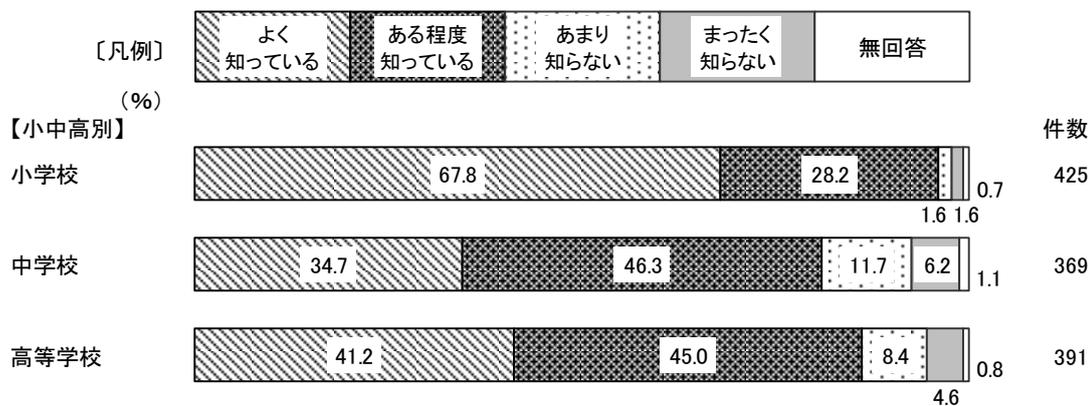
食品ロス問題の認知度は、「よく知っている」（67.8%）が最も高く、「ある程度知っている」（28.2%）と合わせた『知っている』は96.0%となっています。

#### 【中学校】

「ある程度知っている」（46.3%）が最も高く、『知っている』は81.0%となっています。

#### 【高等学校】

「ある程度知っている」（45.0%）が最も高く、『知っている』は86.2%となっています。



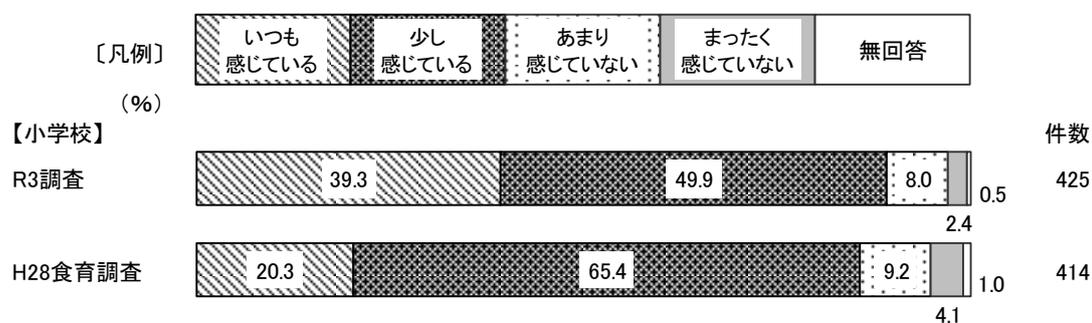
## 5-2 食べ残し等によるごみの発生について「もったいない」と感じること

問 18 食事を作るときや食べ残しでごみが発生していることに関して、日頃から「もったいない」と感じるがありますか。(○は1つ)

### 【小学校】

食べ残し等によるごみの発生について「もったいない」と感じることは、「少し感じている」(49.9%)が最も高く、「いつも感じている」(39.3%)と合わせた『感じている』は89.2%となっています。

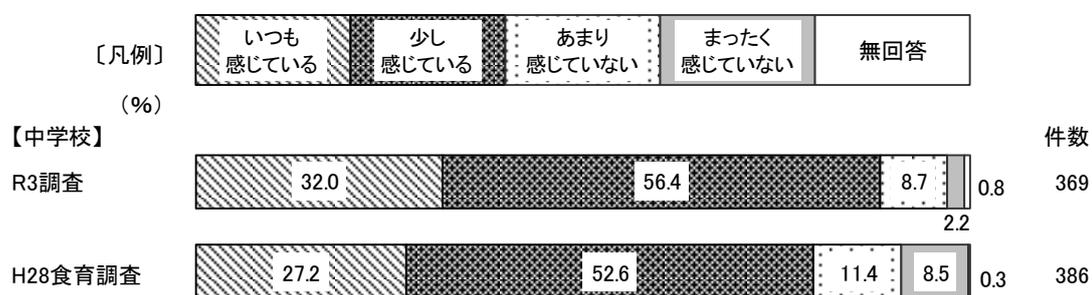
前回食育調査と比べると、いずれも「少し感じている」が最も高く、『感じている』は前回食育調査で85.7%、今回調査で89.2%となっています。



### 【中学校】

「少し感じている」(56.4%)が最も高く、『感じている』は88.4%となっています。

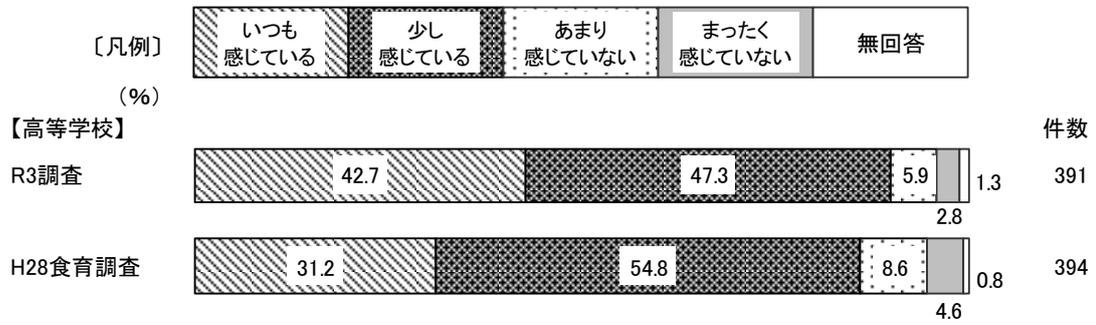
前回食育調査と比べると、いずれも「少し感じている」が最も高く、『感じている』は前回食育調査で79.8%、今回調査で88.4%となっています。



### 【高等学校】

「少し感じている」(47.3%)が最も高く、『感じている』は90.0%となっています。

前回食育調査と比べると、いずれも「少し感じている」が最も高く、『感じている』は前回食育調査で86.0%、今回調査で90.0%となっています。



## 6 郷土料理・伝統料理について

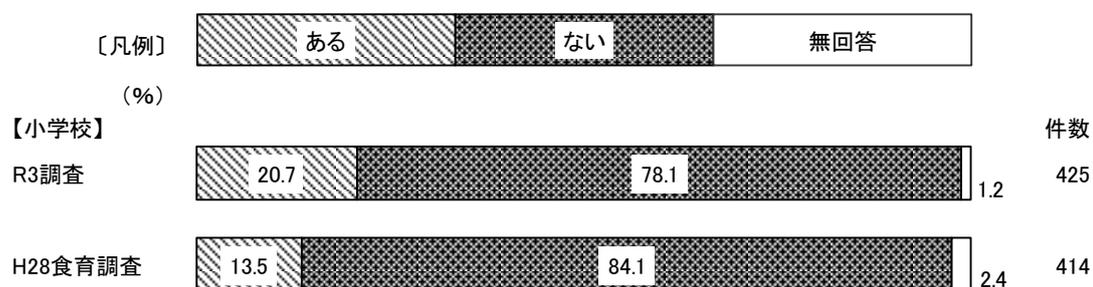
### 6-1 地域の郷土料理の認知度

問 19 地域の郷土料理（家庭料理）として、思い浮かぶものがありますか。（○は1つ）

#### 【小学校】

地域の郷土料理の認知度は、思い浮かぶものが「ある」が20.7%、「ない」が78.1%となっています。

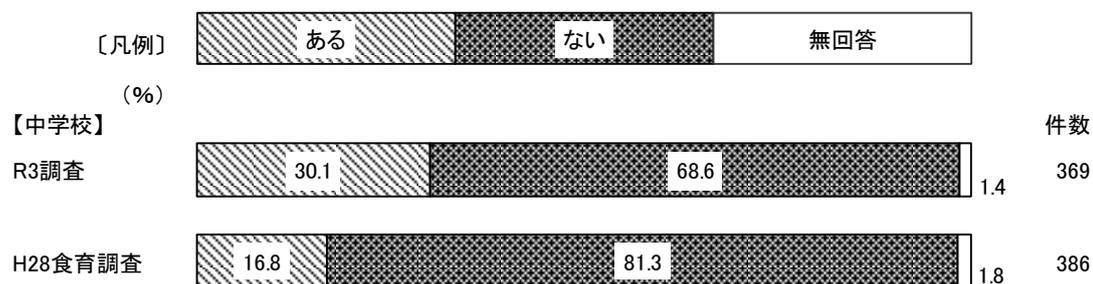
前回食育調査と比べると、「ある」は前回食育調査で13.5%、今回調査で20.7%となっています。



#### 【中学校】

思い浮かぶものが「ある」が30.1%、「ない」が68.6%となっています。

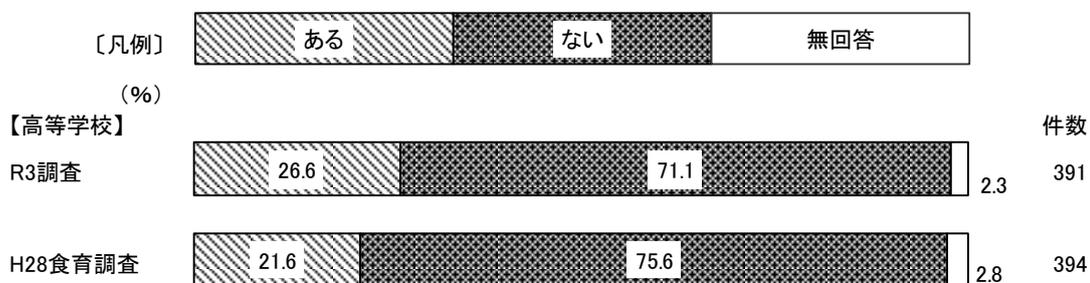
前回食育調査と比べると、「ある」は前回食育調査で16.8%、今回調査で30.1%となっています。



### 【高等学校】

思い浮かぶものが「ある」が26.6%、「ない」が71.1%となっています。

前回食育調査と比べると、「ある」は前回食育調査で21.6%、今回調査で26.6%となっています。



郷土料理（家庭料理）として思い浮かぶものの具体的な料理名には小学校・中学校・高等学校合わせて353件の回答があり、「味噌煮込みうどん」（73件）が最も多く、次いで「ひつまぶし」（21件）、「北京飯」（17件）、「五平餅」「味噌カツ」（ともに15件）、「ひきずり」（12件）等となっています。

順位	具体的料理名（上位10項目）	件数
1	味噌煮込みうどん	73
2	ひつまぶし	21
3	北京飯	17
4	五平餅	各15
	味噌カツ	
6	ひきずり	12
7	手羽先	10
8	きしめん	各8
	とりめし	
10	煮味噌	各6
	ゴーヤチャンプルー	

## 6-2 家で行っている伝統食を伴う伝統行事

問 20 家で、下にあるような食事を伴う伝統的な行事を行っていますか。行っているものを選んでください。(〇はいくつでも)

### 【小学校】

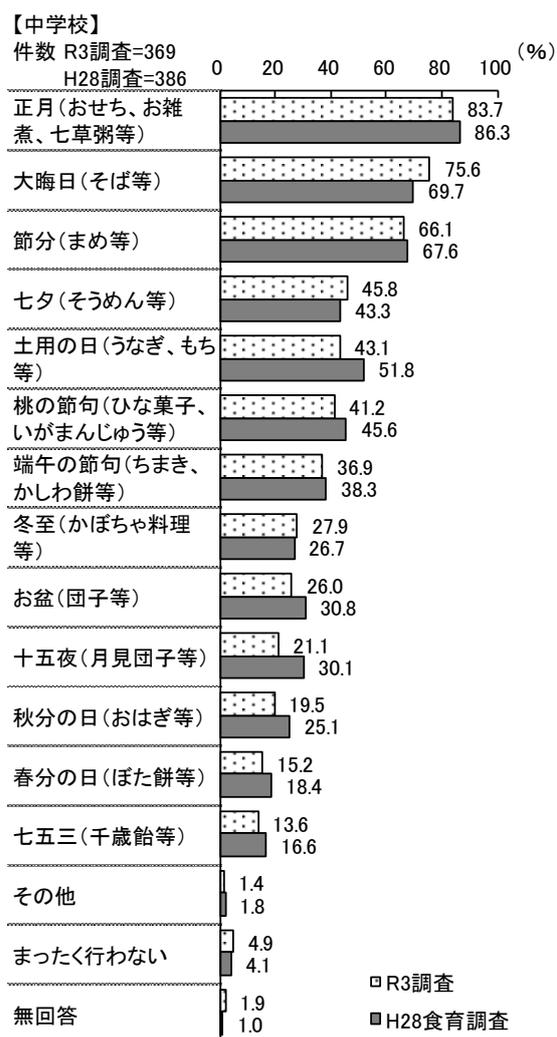
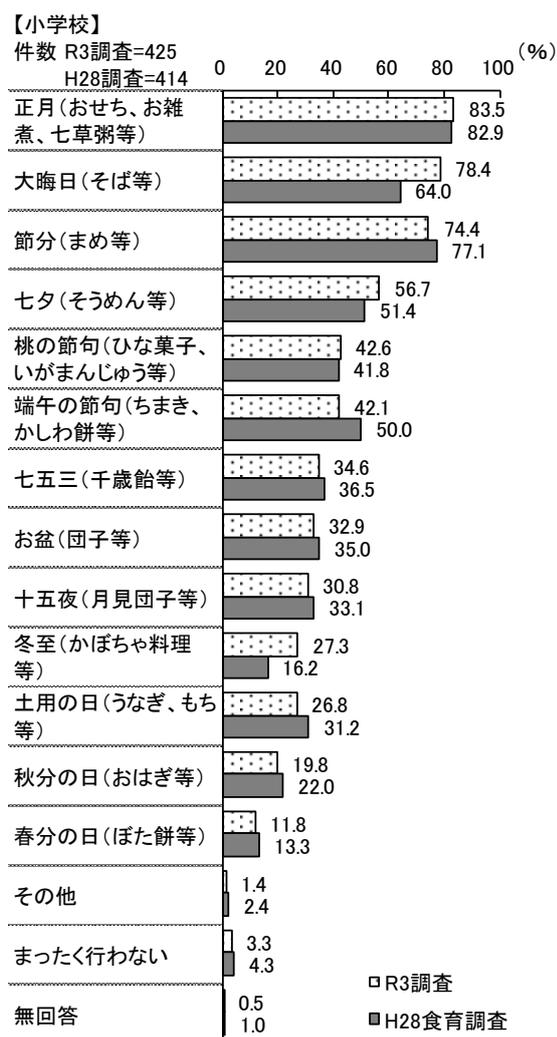
家で行っている伝統食を伴う伝統行事は、「正月(おせち、お雑煮、七草粥等)」(83.5%)が最も高く、次いで「大晦日(そば等)」(78.4%)、「節分(まめ等)」(74.4%)、「七夕(そうめん等)」(56.7%)、「桃の節句(ひな菓子、いがまんじゅう等)」(42.6%)となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。

### 【中学校】

「正月」(83.7%)が最も高く、次いで「大晦日」(75.6%)、「節分」(66.1%)、「七夕」(45.8%)、「土用の日(うなぎ、もち等)」(43.1%)となっています。

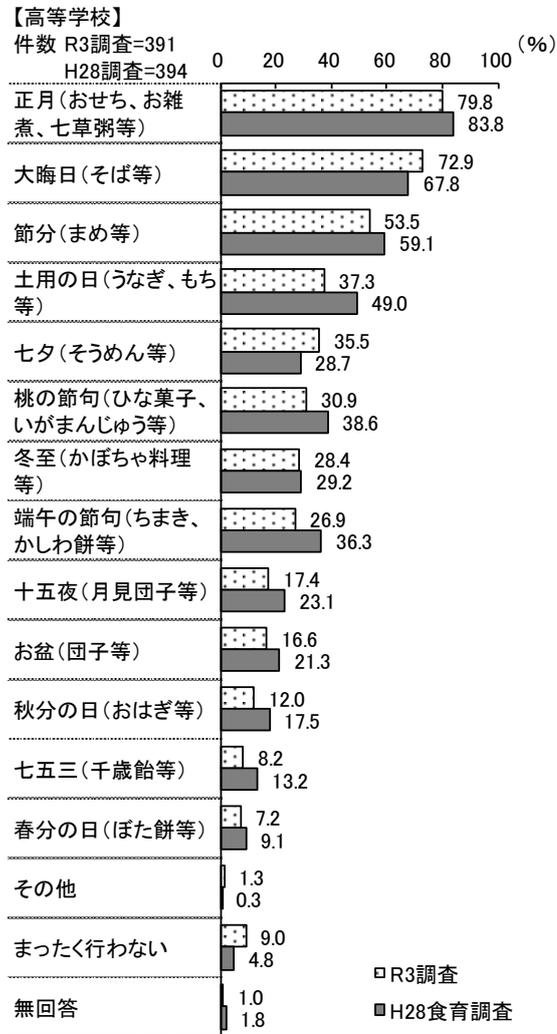
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



【高等学校】

「正月」(79.8%)が最も高く、次いで「大晦日」(72.9%)、「節分」(53.5%)、「土用の日」(37.3%)、「七夕」(35.5%)となっています。

前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



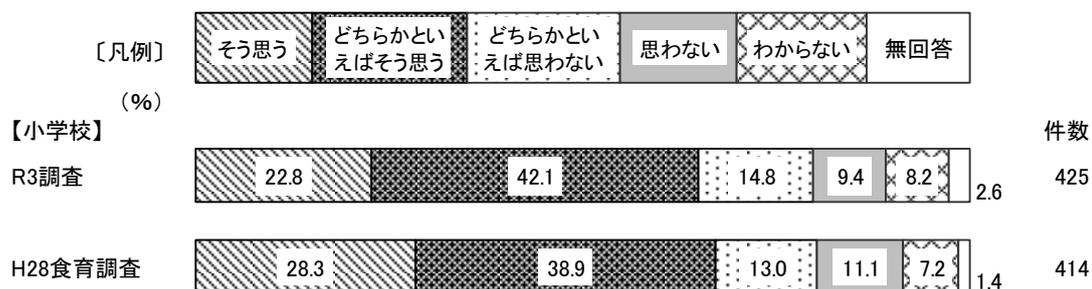
### 6-3 郷土料理・伝統食への関心

問 21 あなたは、郷土料理・伝統食についてもっと知りたいと思いますか。(○は1つ)

#### 【小学校】

郷土料理・伝統食への関心は、もっと知りたいと「どちらかといえばそう思う」(42.1%)が最も高く、「そう思う」(22.8%)と合わせた『関心がある』は64.9%となっています。また、「わからない」は8.2%となっています。

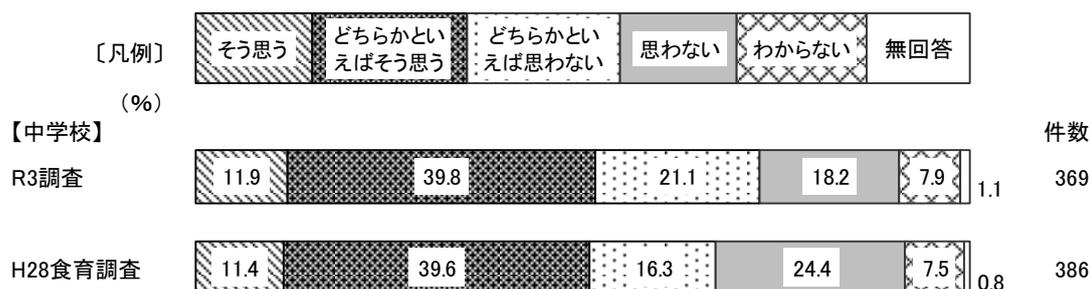
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



#### 【中学校】

「どちらかといえばそう思う」(39.8%)が最も高く、『関心がある』は51.7%となっています。また、「わからない」は7.9%となっています。

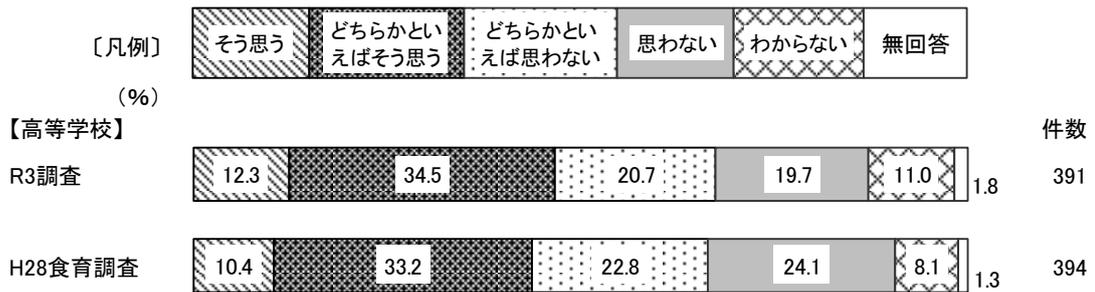
前回食育調査と比べると、大きな変化はみられませんでした。



**【高等学校】**

「どちらかといえばそう思う」（34.5%）が最も高く、『関心がある』は46.8%となっています。また、「わからない」は11.0%となっています。

前回食育調査と比べると、前回食育調査では『関心がある』（43.6%）より『関心がない』（「思わない」と「どちらかといえば思わない」の計）（46.9%）の方が高く、今回調査では『関心がある』（46.8%）が『関心がない』（40.4%）より高くなっています。



## 7 給食について

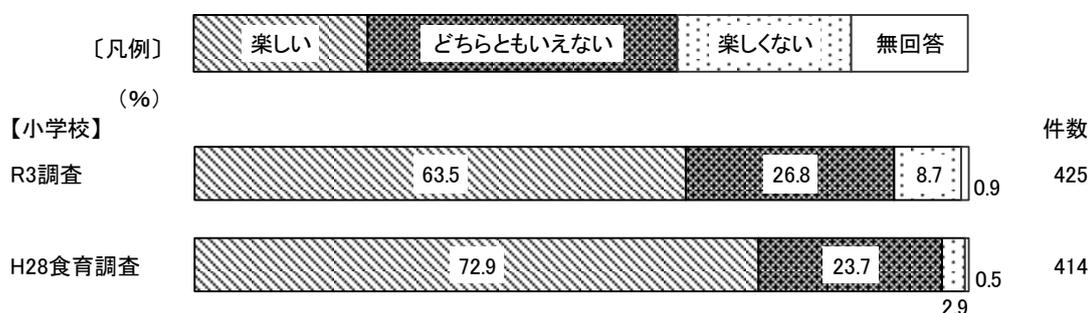
### 7-1 給食の時間は楽しいか

問 22 あなたにとって、給食の時間は楽しいですか。（○は1つ）

#### 【小学校】

給食の時間は楽しいかについては、「楽しい」が63.5%、「楽しくない」が8.7%となっています。

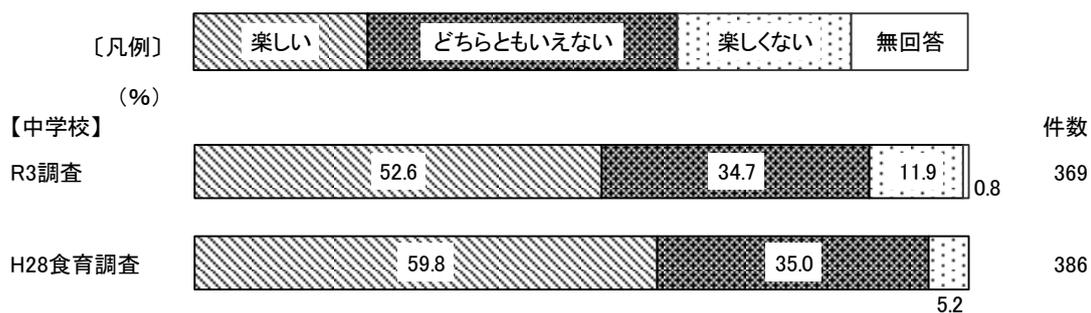
前回食育調査と比べると、「楽しい」は前回食育調査で72.9%、今回調査で63.5%となっています。



#### 【中学校】

「楽しい」が52.6%、「楽しくない」が11.9%となっています。

前回食育調査と比べると、「楽しい」は前回食育調査で59.8%、今回調査で52.6%となっています。



## 7-2 給食の時間が楽しい理由

(問 22 で「楽しい」に○をつけた方に)

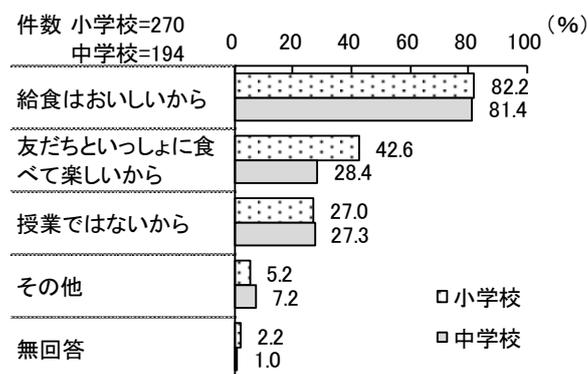
問 22-1 「楽しい」理由について選んでください。(○はいくつでも)

### 【小学校】

給食の時間が楽しい理由は、「給食はおいしいから」(82.2%)が最も高く、次いで「友だちといっしょに食べて楽しいから」(42.6%)、「授業ではないから」(27.0%)となっています。

### 【中学校】

「給食はおいしいから」(81.4%)が最も高く、次いで「友だちといっしょに食べて楽しいから」(28.4%)、「授業ではないから」(27.3%)となっています。



### 7-3 給食の時間が楽しくない理由

(問 22 で「楽しくない」に○をつけた方に)

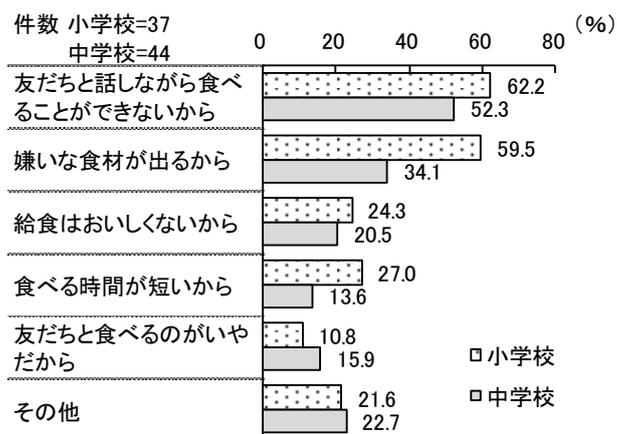
問 22-2 「楽しくない」理由について選んでください。(○はいくつでも)

#### 【小学校】

給食の時間が楽しくない理由は、「友だちと話しながら食べることができないから」(62.2%) が最も高く、次いで「嫌いな食材が出るから」(59.5%)、「食べる時間が短いから」(27.0%)、「給食はおいしくないから」(24.3%)、「友だちと食べるのがいやだから」(10.8%)となっています。

#### 【中学校】

「友だちと話しながら食べることができないから」(52.3%) が最も高く、次いで「嫌いな食材が出るから」(34.1%)、「給食はおいしくないから」(20.5%)、「友だちと食べるのがいやだから」(15.9%)、「食べる時間が短いから」(13.6%)となっています。



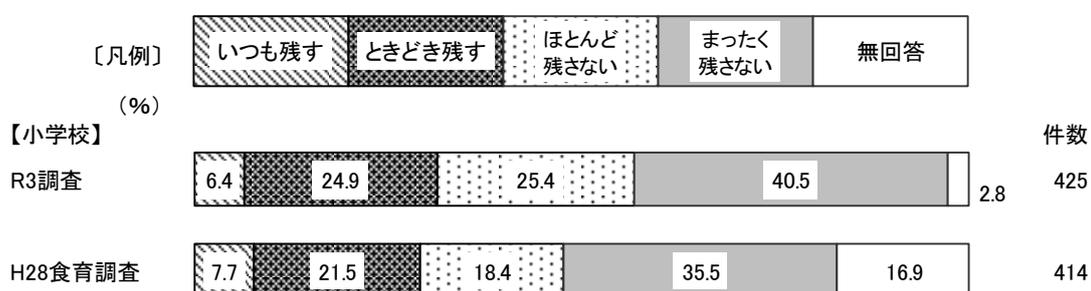
## 7-4 給食を残す頻度

問 23 あなたは、給食を残しますか。(○は1つ)

### 【小学校】

給食を残す頻度は、「まったく残さない」(40.5%)が最も高く、『残すことがある』(「いつも残す」、「ときどき残す」、「ほとんど残さない」の計)は56.7%となっています。

前回食育調査と比べると、『残すことがある』は前回食育調査で47.6%、今回調査で56.7%となっています。



### 【中学校】

「まったく残さない」(55.3%)が最も高く、『残すことがある』は43.9%となっています。

前回食育調査と比べると、『残すことがある』は前回食育調査で41.5%、今回調査で43.9%となっています。



## 7-5 給食を残す理由

(問 23 で「まったく残さない」以外のいずれかに○をつけた方に)

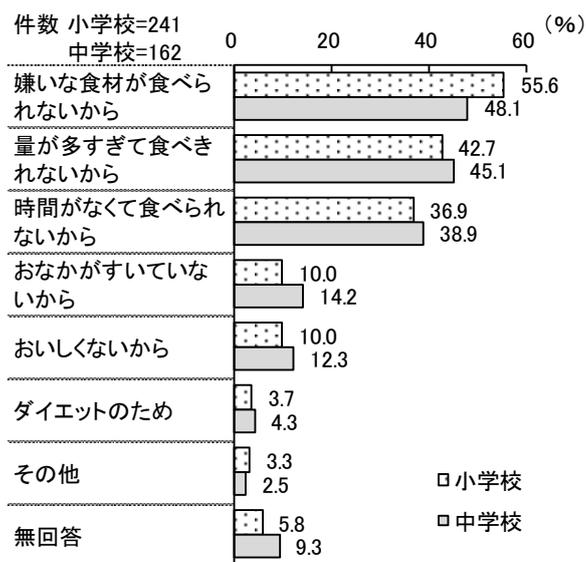
問 23-2 「残す」理由について選んでください。(○はいくつでも)

### 【小学校】

給食を残す理由は、「嫌いな食材が食べられないから」(55.6%)が最も高く、次いで「量が多すぎて食べきれないから」(42.7%)、「時間がなくて食べられないから」(36.9%)、「おなかがすいてないから」「おいしくないから」(ともに10.0%)となっています。

### 【中学校】

「嫌いな食材が食べられないから」(48.1%)が最も高く、次いで「量が多すぎて食べきれないから」(45.1%)、「時間がなくて食べられないから」(38.9%)、「おなかがすいてないから」(14.2%)、「おいしくないから」(12.3%)となっています。



## 7-6 給食に安城市産の米や野菜が使われていることの認知度

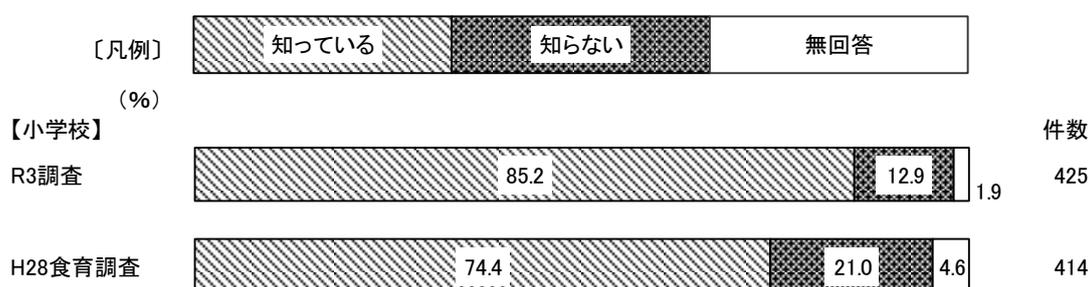
問 24 給食に安城市内で作られた米や野菜などが使われていることを知っていますか。

(○は1つ)

### 【小学校】

給食に安城市産の米や野菜が使われていることの認知度は、「知っている」が85.2%、「知らない」が12.9%となっています。

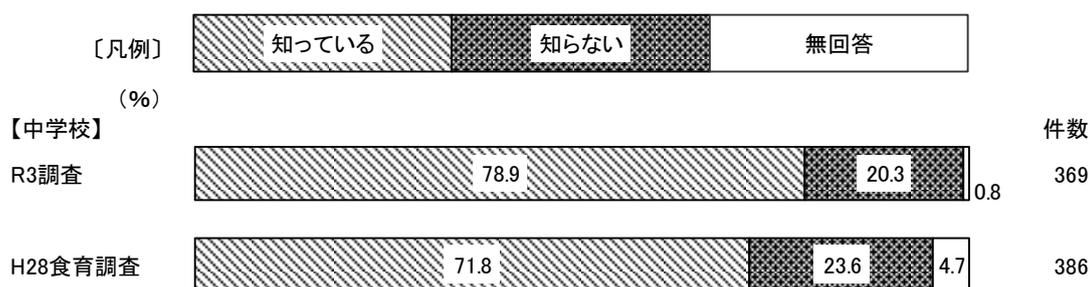
前回食育調査と比べると、「知っている」は前回食育調査で74.4%、今回調査で85.2%となっています。



### 【中学校】

「知っている」が78.9%、「知らない」が20.3%となっています。

前回食育調査と比べると、「知っている」は前回食育調査で71.8%、今回調査で78.9%となっています。



## 7-7 好きな給食の献立

問 25 あなたの好きな給食の献立を好きな順に3つ書いてください。（自由記述）

好きな給食の献立には 2,289 件の回答があり、「ビビンバ」（547 件）が最も多く、次いで「カレーライス」（247 件）、「ラーメン」（219 件）、「米粉パン」（105 件）、「いかフライのレモン煮」（78 件）等となっています。

順位	好きな給食の献立（上位 10 項目）	件数
1	ビビンバ	547
2	カレーライス	247
3	ラーメン	219
4	米粉パン	105
5	いかフライのレモン煮	78
6	わかめご飯	74
7	きしめん	65
8	ご飯（白米）	54
9	焼きそば	50
10	海藻サラダ	45

## 7-8 苦手な給食の献立

問 26 あなたの苦手な給食の献立を好きな順に3つ書いてください。（自由記述）

苦手な給食の献立には 1,661 件の回答があり、「米粉ししゃもフライの香味ソースかけ」（81 件）が最も多く、次いで「魚」（61 件）、「はんぺん」（53 件）、「牛乳」（47 件）、「海藻サラダ」（42 件）等となっています。

順位	苦手な給食の献立（上位 10 項目）	件数
1	米粉ししゃもフライの香味ソースかけ	81
2	魚	61
3	はんぺん	53
4	牛乳	47
5	海藻サラダ	42
6	きのこ	35
7	納豆	34
8	あさり	29
9	レバー	28
10	チーズ	27

## 8 その他

### 8-1 食育や農業に関する意見

問 27 最後に、食育や農業に関するあなたの意見を自由に記入してください。（自由記述）

食育や農業に関して、762 件のご意見をいただきました。  
内容別の件数は、下表のとおりです。

内容	件数
食品ロスを減らしたい、残さず食べたい	108
給食への要望（献立、時間等）	79
農家や給食への感謝	57
農業をしてみたい	54
食育について学びたい	28
食育・農業について学びたい	25
食育が大切だと思う	22
健康的な食生活が大切だと思う	21
農業体験をしてみたい	19
食育・農業について啓発すると良い	19
地産地消に取り組みたい	19
農業が大切だと思う	18
農業は大変	18
給食が美味しい、良い	18
健康的な食生活を送りたい	16
好き嫌いをなくしたい	14
郷土料理・伝統料理について学びたい	13
食育・農業について知れてよかった	12
農業について学びたい	12
農業人口の減少や農業の衰退が心配	10
農業人口を増やす対策をしてほしい	9
農業体験の機会を増やしてほしい	9
食育を学ぶ機会を増やしてほしい	8
食事のマナーや挨拶が大切だと思う	8
栄養について学びたい	7
食について学びたい	7
地産地消が大切だと思う	7
食事のマナーや挨拶をしっかりしたい	7

(次ページへつづく)

内容	件数
郷土料理・特産物をPRしてほしい	6
食育・農業の啓発や学習が大切だと思う	6
食育・農業が大切だと思う	6
農業体験が大切だと思う	4
農業が発展してほしい	4
米を増やしてほしい、たくさん食べてほしい	4
国産の食べ物を増やしてほしい	4
食べることが好き	4
野菜が美味しい	4
農業は楽しい	4
食事のマナーについて学びたい	3
食育・農業を啓発したい	3
その他	43
興味がない、わからない	23
合計	762